

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	順天堂	大学名	順天堂大学
研究プロジェクト名	骨格筋機能に着目した統合的な介護予防法開発プロジェクト		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

我が国では 2025 年に要介護者 700 万人、介護費用 21 兆円に達すると見込まれており、介護予防法の確立が急務である。要介護の原因は運動器機能の低下・脳卒中・認知症が主だが、画期的な一次予防策はほとんど無い。本学では医学と運動の融合研究基盤を形成し、融合点として骨格筋に着目、健常者からメタボリックシンドロームまで 30～40 歳台の 152 名を対象に、大腿筋生検サンプル解析や骨格筋機能（筋力・代謝能）を評価、脳 MRI、骨・軟骨機能、動脈硬化との関連を調査した。その結果、壮年期の健常者でも軽度の骨格筋機能低下が、介護リスクの初期変化と考えられる「動脈硬化進展・メタボリックシンドローム」「脳白質ネットワーク変性」「膝関節軟骨の摩耗」のすべてと相関し、壮年期からの骨格筋機能低下は要介護者を包括的に減らすための治療標的である可能性が考えられた。本結果をうけ、本プロジェクトでは介護予防研究発展のため新たなユニットを立ち上げ拠点化し、「運動器の一部」としてのみ捉えられがちな「骨格筋機能」を、心血管・脳・関節不全による介護リスクと関連する臓器ネットワークの中心であるという仮説を検証し、最終的に「壮年期からの骨格筋機能保持による集約的な介護予防」の方法論確立の基盤となるエビデンスを提示し、日本人の健康寿命の延長に役立てることを目的とする。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

本プロジェクトの基盤研究の目的は骨格筋機能と要介護疾患との関連性を詳細に解析することである。そのために、未病者を対象にインスリン抵抗性や筋力を精密に評価した既存のデータベースを原資とし、さらにその 3 年後に追跡調査を行い、骨格筋機能の経時的変化を評価しながら、骨格筋機能と「メタボリックシンドローム」「ロコモティブシンドローム」「脳機能障害」との関連に関して検討している。また、すでに 2 型糖尿病、心疾患患者、変形性膝関節症を有する患者や高齢者を対象とした横断研究、縦断研究を推進した。さらに、その結果、関連性が示された因子の因果関係などについては、基礎研究により検証を行った。その結果、以下のような成果が得られた。①BMI が 23～25kg/m² の非肥満者でも、メタボリックシンドロームのリスク因子を 1 つでも有していると骨格筋インスリン抵抗性を認める。②非肥満者の骨格筋インスリン抵抗性は動脈硬化症のリスクファクターと強い関連を認める。③非肥満者のインスリン抵抗性は軽度の脂肪蓄積の他、低体力、低生活活動量、高脂肪食と関連し、ヒトにおける介入試験や基礎実験により、それらの因果関係を確認するとともに、その事象にかかわる分子を同定しえた。④骨格筋サンプルや血清サンプルに対する網羅的な代謝産物の解析により、骨格筋インスリン抵抗性に関連する代謝産物が明らかとなり、バイオマーカーとしての有用性が示唆された。⑤骨格筋量や筋力の維持における、運動、高脂肪食、糖尿病、オートファジー、酸化ストレスの役割が明らかとなった。⑥壮年期における 3 年間の関節裂隙狭小化には、軟骨のみならず骨代謝も関連する可能性が示された。⑦従来関節軟骨の評価は困難であったが、MRI T2 マッピング法にてその評価が可能となり、本手法を用いて軟骨変性の新知見を見出した。⑧高齢者コホートにより、初期膝 OA でも筋力低下と膝関節の変化や身体活動能力低下が関連することが見出された。⑨拡散 MRI による脳の微細構造変化に関する解析方法の開発と検討を進め、骨格筋インスリン抵抗性、筋力の低下、最大酸素摂取量の低下、血圧の増加が脳白質変性と関連することが明らかとなってきた。⑩高解像度機能的 MRI 計測により、ヒトの視床下部の領域を区分けする手法を開発した。この手法により、個々の視床下部神経核の活動を評価することができると明らかにした。これらの結果は、筋力や骨格筋インスリン抵抗性で評価される骨格筋機能低下が心血管・脳・関節不全による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心である仮説を部分的に支持しており、今後そのネットワーク解析を進めるとともに、潜在するメカニズム解析やマーカー探索を推進する。

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
綿田 裕孝	大学院医学研究科・代謝内分 泌内科学・教授	「骨格筋機能低下」の原因と「臓器障害ネットワーク機構」の統合モデルの作成	研究全体の統括
田村 好史	大学院医学研究科・代謝内分 泌内科学	メタボリックシンドローム・糖尿病・動脈硬化予防における「骨格筋機能低下」の意義と原因の統括	メタボリックシンドローム予防グループの統括
河盛 隆造	大学院医学研究科・代謝内分 泌内科学・特任教授	骨格筋の代謝的な機能低下の原因とメカニズムの解明	メタボリックシンドローム・糖尿病予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
代田 浩之	大学院医学研究科・循環器内科学・教授	「骨格筋機能低下」から動脈硬化発症への進展メカニズムの解明	メタボリックシンドローム・動脈硬化症予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
島田 和典	大学院医学研究科・循環器内科学・准教授	「骨格筋機能低下」と心筋細胞内脂質蓄積連関の検討とメカニズムの解明	メタボリックシンドローム・動脈硬化症予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
内藤 久士	大学院・スポーツ健康科学研究科・教授	骨格筋の量的な骨格筋機能低下メカニズムの解明	メタボリックシンドローム・動脈硬化症予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
青木 茂樹	大学院医学研究科・放射線医学・教授	脳の形態・機能障害における「骨格筋機能低下」の意義と原因の統括	脳機能障害グループの統括
服部 信孝	大学院医学研究科・神経学・教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
本井 ゆみ子	大学院医学研究科・認知症診断・予防・治療学・先任准教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

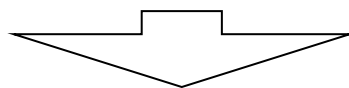
小西 清貴	大学院医学研究科・神経生理学・教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
宇賀 貴紀	大学院医学研究科・神経生理学・先任准教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
金子 和夫	大学院医学研究科・整形外科・運動器医学・教授	骨代謝機能低下における「骨格筋機能低下」の意義と原因の統括	ロコモティブ症候群予防グループの統括
石島 旨章	大学院医学研究科・整形外科・運動器医学・准教授	「骨格筋機能低下」と骨代謝機能低下連関の検討とメカニズムの解明	ロコモティブ症候群・運動器障害予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
上野 隆	大学院医学研究科・研究基盤センター・教授	「骨格筋機能低下」から疾患発症を結ぶバイオマーカーの探索	バイオマーカーグループの統括
三井田 孝	大学院医学研究科・臨床検査医学・教授	「骨格筋機能低下」から疾患発症を結ぶバイオマーカーの探索	「骨格筋機能低下」から「臓器障害ネットワーク機構」まで関わる液性因子の解明
平山 哲	大学院医学研究科・臨床検査医学・准教授	「骨格筋機能低下」から疾患発症を結ぶバイオマーカーの探索	「骨格筋機能低下」から「臓器障害ネットワーク機構」まで関わる液性因子の解明
(共同研究機関等)			
前田 士郎	理化学研究所・ゲノム医科学研究センター・内分泌・代謝疾患研究チーム・チームリーダー	データベースのバイオインフォマティクス解析	「骨格筋機能低下」から「臓器障害ネットワーク機構」のモデル作成
山内 敏正	東京大学大学院医学系研究科 統合的分子代謝疾患科学講座・特任准教授	myokineによる多臓器連関ネットワークの解明	メタボリックシンドローム・糖尿病予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
北澤 茂	大阪大学大学院・生命機能研究科・教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
岩坪 威	東京大学大学院医学系研究科 神経病理学分野・教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
宇川 義一	福島県立医大 神経内科 教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
データベースのバイオインフォマティクス解析	理化学研究所・ゲノム医科学研究センター・内分泌・代謝疾患研究チーム・チームリーダー	前田 士郎	「骨格筋機能低下」から「臓器障害ネットワーク機構」のモデル作成

(変更の時期:平成 26 年 8 月 1 日)



新

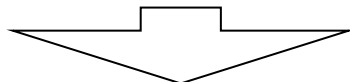
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
理化学研究所・ゲノム医科学研究センター・内分泌・代謝疾患研究チーム・チームリーダー	琉球大学 先進ゲノム検査医学講座・教授 理化学研究所・ゲノム医科学研究センター・内分泌・代謝疾患研究チーム・チームリーダー	前田 士郎	「骨格筋機能低下」から「臓器障害ネットワーク機構」のモデル作成

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下関連の検討とメカニズムの解明	大学院医学研究科 ・神経生理学・先任准教授	宇賀 貴紀	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明

(変更の時期:平成 28 年 7 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
順天堂大学大学院医学研究科 ・神経生理学・先任准教授	山梨大学大学院医学工学総合研究部 医学部 生理学講座統合生理学教室・教授	宇賀 貴紀	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

日本は今後、今まで経験したことのない超高齢化社会を迎え、2025年には「要介護者」が700万人、介護費用は21兆円に達すると見込まれている。これに伴う医療費の爆発的な増加と、労働人口の減少は、我が国の経済・社会に危機的影響を与えることが予想され、「要介護者」を減らす取り組みが急務となっている。この問題を打開するには介護対策をリハビリテーションによる三次予防から、一次予防へシフトさせることが重要であるが、介護の原因疾患は運動器機能の低下から脳卒中・認知症などの脳機能障害まで多岐に渡っており、集約した一次予防法は未だ提示されていない。そこで、我々はこれまで、ハイテクリサーチセンター整備事業の補助を受け医学とスポーツ・運動の融合研究基盤を形成し、コアスタディーとして健常者からメタボリックシンドロームまで30～50歳の152名を対象に、大腿四頭筋生検サンプル解析を含め骨格筋機能を「筋力・有酸素代謝能・糖脂質代謝能」に細分化し計測すると共に、脳MRI、骨・軟骨機能マーカー、動脈硬化等を測定した。得られたパラメーターからデータベースを構築し解析した結果、壮年期の無症状者でも軽度の「骨格筋機能低下」がメタボリックシンドロームの主因となっているだけでなく、介護リスクの初期変化と考えられる「脳白質ネットワーク変性」「膝関節軟骨の摩耗」「動脈硬化進展」と相関する可能性を見出した。このことは、壮年期からの骨格筋機能低下は要介護者を包括的に減らすための治療標的である可能性を示唆している。そこで、本プロジェクトでは5年間の探索的研究で得られたこれらの研究成果を原資とし、「運動器の一部」としてのみ捉えられがちな「骨格筋機能」低下が、「心血管・脳・関節」機能障害による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心として捉え、基礎・臨床研究を行う。これらの研究成果を統合し、「壮年期からの骨格筋機能保持による集約的な介護予防」の方法論確立の基盤となるエビデンスを提示し、日本人の健康寿命の延長に役立てることを目的とする(体制図参照)。

(2) 研究組織

本プロジェクトでは集約的な介護予防法を提示するために、骨格筋機能を中心に疾患群を統合的に研究する体制を構築している。具体的にはメタボリックシンドローム(代謝内分泌学、循環器内科学、運動生理学)、脳機能障害(放射線医学・神経学・神経生理学)、ロコモティブシンドローム(整形外科・運動器医学)の各疾患チームと、バイオマーカー(研究基盤センター、病態解析診断学)の研究分担者(16名)からなる基礎・臨床・専門分野の枠を越えた各研究者間の相互連携を図っている(体制図参照)。疾患別の結果については各領域代表が纏め、最終的に研究代表者(綿田)が全体を統括している。コアスタディーについて専属のコーディネーターを中心にPD・研究支援者が被験者のリクルート、測定、データマネジメントまで一括管理している他、若手研究者の底上げのために、本研究を実質的に進めるPD(8名)と研究支援者(1名)の研究チームに大学院生も加わり研究を推進している。さらに、同様の研究で極めて多くの実績のある理化学研究所、東京大学、大阪大学の研究協力者と連携し研究を推進している。

(3) 研究施設・設備等

1. 主な研究施設の面積及び使用者数

順天堂大学大学院医学研究科スポーツロジックセンター

研究施設内訳

順天堂大学湯島別館1階：面積140.32m²：使用者数10名

順天堂大学湯島別館2階：面積175.56m²：使用者数10名

順天堂大学9号館2階、5階、8階、11階：総面積379.69m²：使用者数105名

順天堂大学B棟8階：面積479.85m²：使用者数18名

順天堂大学1号館3階：面積9.8m²：使用者数20名

2. 研究装置及び利用時間

MRIシステム(AIRIS Vento)；利用時間数2240時間

ヒューマンカロリーメーターチャンバーシステム(FHC-20S)；利用時間数320時間

3. 研究設備及び利用時間

頸頭蓋磁気刺激装置(アグスキム200スクエア)；利用時間数150時間

リアルタイムPCRシステム(QuantStudio 7)；利用時間数422時間

二重エネルギーX線吸収測定装置(DiscoveryA型X線骨密度測定装置)；利用時間数1120時間

多用途筋機能評価運動装置(BDX-4)；利用時間数1080時間

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び＊を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度> (研究全体の統括: 綿田)

本プロジェクトの基盤研究の目的は骨格筋機能と要介護疾患との関連性を詳細に解析することである。そのために、未病者を対象にインスリン抵抗性や筋力を精密に評価した既存のデータベースを原資とし、さらにその3年後に追跡調査を行い、骨格筋機能の経時的変化を評価しながら、骨格筋機能と「メタボリックシンドローム」「ロコモティブシンドローム」「脳機能障害」との関連に関して検討している。また、すでに疾患として発症した2型糖尿病、心血管疾患患者、変形性膝関節症や高齢者を対象とした横断研究、縦断研究を推進した。さらに、関連性が示された因子の因果関係などについては、基礎研究などにより検証を行った。その結果、筋力や骨格筋インスリン抵抗性で評価される骨格筋機能低下が血管・脳・関節不全による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心である仮説を支持する結果が複数得られ、これまで研究は計画に沿って順調に進捗した。今後そのネットワーク解析を進めるとともに、潜在するメカニズム解析やマーカー探索を推進する。以下、申請書記載の「メタボリックシンドローム予防」「ロコモティブシンドローム予防」「脳機能障害予防」の3項目に分けて進捗状況と研究成果を報告する。

①「メタボリックシンドローム予防 (田村(統括者)、河盛、代田、島田、内藤、上野、三井田、平山)

骨格筋機能の低下の一つであるインスリン抵抗性は、2型糖尿病・メタボリックシンドローム・動脈硬化症進展の根本的原因として認識され、要介護疾患発症のリスクとなる。本戦略的研究基盤においては、インスリン抵抗性を精密に評価した既存のコアスタディー・データベースを原資とし、さらに3年後の追跡調査や、すでに疾患として発症した2型糖尿病、心血管疾患患者や高齢者を対象とした横断研究、縦断研究を進めた。その結果、筋インスリン抵抗性や筋力と運動、食事内容、炎症、血清脂質、異所性脂肪の関連性が明らかとなった(下記A)。さらに、ヒトや動物、細胞モデルを用いた介入研究を含むメカニズム解析を行い、種々の因果関係に関する多くの成果を得た(下記B)。

A. コアスタディー・データベースを中心とした解析

- 1) BMIが23~25kg/m²でメタボリックシンドローム構成因子を1つでも持っている骨格筋のインスリン抵抗性を認め、そのレベルは肥満メタボリックシンドロームと同等であった。骨格筋のインスリン抵抗性は内臓脂肪が多いこと、血中アディポネクチン濃度が低いことに加えて、体力が低い、生活活動量が低い、脂肪摂取量が多いなどの生活習慣に関連した因子が挙げられた(*15)。また、骨格筋生検サンプルや血清を用いた含有脂質や代謝産物の網羅的な解析から、幾つかの脂質(論文投稿準備中)やその構成要素でもあるglycerolが骨格筋インスリン抵抗性や動脈硬化症と関連することを解明した。さらに、骨格筋インスリン抵抗性は肝脂肪量や肝逸脱酵素の軽度上昇などと関連するという、肝筋連関を認めるとともに(*15, *24)、肝インスリン抵抗性は飲酒が惹起することを見出した(*16)。
- 2) 高感度CRPの上昇で評価される軽度の炎症反応は、骨格筋インスリン抵抗性と関連するとともに(*15, *24)、経皮的冠動脈形成術後の長期予後の規定因子であることを明らかとした(*10)。さらに、急性冠症候群患者において、TNF- α 、IL-6、IL-10といったよく知られた炎症性サイトカインのみならず(*8)、IL-23、IL-27、IL-33、IL-37等の新規サイトカインの血中濃度が増加していること(*7)。さらに極長鎖飽和脂肪酸であるヘキサコサノン酸が冠動脈疾患と関連すること(*3)、抗炎症作用を有する ω 3系脂肪酸が腹部大動脈瘤の最大径や増大に対して抑制的に作用する可能性を見出した(*19)。
- 3) ヒトにおけるMRS法による心筋細胞内脂質の非侵襲的測定系を国内で初めて樹立し、心筋内中性脂肪値が体力レベル、心機能と良く相関するマーカーとなりうること、高血圧性心疾患では肥大型心筋症の2倍脂質が蓄積し、心肥大を来す両疾患では大きく異なることを見出した(*11)。
- 4) コアスタディーの3年後フォローアップの結果から、骨格筋インスリン抵抗性が強いと耐糖能が増悪し、動脈硬化促進的に作用する可能性や、中性脂肪値が将来的な脂肪肝の発症予知因子である可能性を見出した(論文執筆中)。
- 5) コアスタディーは壮年期での介護リスクの初期変化を捉えることを主に目的としているが、それらの初期変化が高齢者における様々な要介護リスクに繋がっていくかは明らかではない。そこで、近隣住民を対象とした高齢者コホート研究を開始し(目標被験者数1,600)、コアスタディーと同様に、筋力・筋量・インスリン抵抗性を評価するとともに、脳及び膝関節MRI、認知機能などの測定を行っている。中間解析の結果、インスリン抵抗性や筋力が無症候性脳梗塞と関連する可能性を見出している。

B. コアスタディー・データベースで明らかとなった関連性などに関するメカニズム解析

- 1) 横断研究から高脂肪食や身体活動量がインスリン抵抗性と関連していたが、非肥満健康者に3日間高脂肪食を摂取させると、骨格筋細胞内脂質が蓄積し、インスリン感受性が低下すること(*5)、骨格筋生検サンプルの解析から、脂質蓄積の変化と脂質燃焼系遺伝子発現の変化が関連すること(*5)、動物モデルでの検討から不活動が酸化ストレスを起点とした細胞内脂質の組成変化とインスリン抵抗性の発生に關与する可能性を見出した(*25, *26, *32)。
- 2) 横断的検討から骨格筋細胞内脂質が蓄積していても、最大酸素摂取量とインスリン感受性が高い者がおり(アスリートパラドックス)、骨格筋生検サンプルの解析から脂肪酸輸送担体であるFABPpmが鍵分子の一つである可能性が明らかとした(*1)。また、低強度及び高強度の有酸素運動によるランダ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

ム化比較試験からも、運動強度差が骨格筋細胞内脂質に異なった影響を及ぼすことを見出した(*22)。

- 3) 骨格筋量や筋力の維持は、ADL の維持のみならず、動脈硬化予防にも重要である可能性が示唆されたが、それらの維持機構について以下のことを見出した。骨格筋では絶食によるオートファジー誘導により蛋白分解が亢進するが、それが運動により抑制される(*6)。骨格筋におけるアンジオテンシン II による酸化ストレスは骨格筋萎縮をもたらすことが知られているが、そのメカニズムに NAD(P)H オキシダーゼ 4 とユビキチンプロテアソーム系の亢進が関与する(*33, *34)。Heat shock protein 72 は運動や骨格筋の加温により発現が増加するが、その下流で骨格筋のインスリン感受性や蛋白分解調節に寄与している(*17)。糖尿病モデルマウスや高脂肪食負荷で筋力低下や持続的能力の低下を認め、そのメカニズムとして骨格筋線維組成変化や骨格筋細胞におけるカルシウムフラックスの変化が関与するが、運動がそれらを改善する(*18, *30, *31)。拡張型心筋症モデルマウスにおいて、自発的な運動が一部の骨格筋量を増加させ、心機能や予後を改善する(*23)。
- 4) 横断研究から炎症と骨格筋インスリン抵抗性や血管疾患の関連性を見出しているが、炎症が促進される IkBNS ノックアウトマウスと LDL 受容体ノックアウトマウスを交配すると IL-6 産生が亢進し、動脈硬化促進的に作用することを見出した(*12)。一方で IL-6 は骨格筋から分泌されるマイオカインとしても知られており、IL-6 を中和抗体によりブロックすると運動によるインスリン感受性亢進が抑制されることも見出した(*20)。また、ヒトにおいて、 ω 3 系脂肪酸が腹部大動脈瘤の増大に抑制的に働くことが明らかとなったが、動物モデルにおいても EPA の投与がマクロファージを介した炎症の抑制により、腹部大動脈瘤の増大に対して抑制的に作用することを見出した(*21)。

②「ロコモティブシンドローム予防」(金子(統括者)、石島)

超高齢社会にある本邦では、高齢者の運動器疾患は、介護を要する原因の約 1/4 を占め、脳血管疾患を越え最も高い割合を占める。運動器疾患の共通点は、臓器の機能障害程度が早期から症状を有する(発症)ことである。その最も重要な臨床症状は動作時の疼痛であり、これは移動能力障害を招き介護リスクを高める。このような観点から、本プロジェクトでは、早期膝変形性関節症(OA) (下記 A)及び疼痛(下記 B)の病態解明に取り組んできた。その結果、関節軟骨の変性と摩耗が、従来の想定より早期に壮年期から認められること、50 歳を契機に発症頻度が急激に高まること、発症には骨格筋、特に膝周囲筋の筋力低下が関連することなどが明らかとなってきた。

A. 膝 OA の早期の病態

- 1) コアスタディーデータベースを中心とした解析により、膝 OA のない 40 歳代前半の男性の 3 年間にわたる観察研究において、膝関節軟骨の摩耗を示唆する膝関節裂隙狭小化と骨及び軟骨代謝の関連を検討した。軟骨分解と合成のバイオマーカーを用いて、無症候性に進む 3 年後の膝関節裂隙狭小化のリスクが、単に軟骨分解のみが亢進するのではなく、合成と分解のバランスによって示されることを明らかにした(論文執筆中)。さらに、無症候性に進む 3 年後の膝関節裂隙狭小化と骨代謝との関連も検討した。対象者の 14% が 3 年後に膝関節裂隙が狭小化を認め(狭小化群)、骨吸収マーカー上位 3 分位では、そのリスクが有意に高かった(オッズ比:10.5)。以上より、壮年期の無症候性の関節裂隙狭小化には、軟骨のみならず骨代謝も関連する可能性が示唆された(論文執筆中)。
- 2) 初期膝 OA 患者を対象に、関節軟骨の 2 型コラーゲンの配向異常を示す MRI T2 マッピング法を用いた解析を行い、膝 OA の初期病変としての軟骨変性は、大腿骨遠位側の軟骨が、相対する脛骨側の軟骨より先に進行していることを明らかにした(*4)。
- 3) マウスを用いた膝 OA 病態研究では、関節軟骨辺縁に存在する滑膜間葉系細胞が軟骨に分化し骨棘を形成する過程において、ヘパラン硫酸プロテオグリカンのパルカンが必須の分子であるが(Matrix Biology, 2012)、パルカンが欠損したマウスの膝関節の滑膜からの初代滑膜培養細胞を *in vitro* にて軟骨分化誘導しても、軟骨分化のマスター遺伝子である Sox9 と 2 型コラーゲンの発現が有意に阻害されることを示した(*13)。

B. 膝 OA の疼痛の病態

- 1) 膝 OA の疼痛と関連する病態についての解析を進め、滑膜炎の程度と疼痛が関連することを明らかにしてきたが(Clin Rheum 2009, Int Orthop 2010)、末期では、MRI により評価した関節軟骨の欠損程度でなく、軟骨下骨病変と関連することを明らかにした(*9)。
- 2) 本邦の大規模コホート研究から、70 歳女性では約 70% が初期膝 OA を認めるなど、超高齢社会では高齢者の少なくとも半数以上が、初期膝 OA を呈することがすでに明らかである。半数以上が無症候性ながらも初期膝 OA を呈する高齢者を対象としたコホート研究を開始し、MRI を用いた膝 OA の病態と運動機能との関連を検討したが、単純 X 線では同程度の初期膝 OA でも、筋力低下と身体活動能力低下は関連すること、そして半月内側半月板逸脱の程度が ADL や運動機能そして筋力低下と関連することを明らかにした(国際関節症学会 2017 発表予定)。

③「脳機能障害予防」(青木(統括者)、服部、本井、小西、宇賀)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

骨格筋機能低下による脳機能障害を多角的に検討するために、構造 MRI (VBM; Voxel Based Morphometry)、白質走行を描出する拡散テンソル像に加え、本邦ではほとんど撮像例がない diffusional kurtosis imaging (DKI)法による撮像、経頭蓋磁気刺激法による大脳可塑性の変化 (rTMS) の計測、視床下部の高解像度機能的 MRI による代謝調節機構のイメージング、脳波による大脳半球間伝導時間 (IHTT) の測定法の開発及び解析を行った。また、タウトランスジェニックマウスを用いた運動介入による認知機能改善を担う分子機構解析 (服部) を行った。

- 1) コアスタディーデータベースを中心とした解析により、メタボリックシンドローム日本人中年男性では拡散テンソル像で白質の変性を疑う所見が得られたが (Diabetes Care 2013)、骨格筋インスリン抵抗性が強い人ほど変性の程度が強いことが明らかとなってきた (論文執筆中)。さらに、拡散 MRI による in vivo の脳の微細構造変化の解析方法の開発と検討を進め、血圧の増加(*2)や、筋力や体力レベル (最大酸素摂取量) の低下が大脳白質変性と関連する可能性が明らかとなってきた。さらに、メタボリック症候群日本人中年男性の認知機能検査を行ったところ、メタボリックシンドロームでは空間認知機能、記憶障害が正常群より低下していることを見出した。
- 2) 骨格筋機能低下と脳萎縮の関連を調査するために、高齢者コホート研究で撮影した 0.3T の 3DT1 強調像強調 MRI による脳の局所の体積変化の定量化を行い、画像を数値化することにより、多変量解析が可能なデータベースの構築を行っている。また、0.3T と 3T MRI の比較により、0.3T の膨大なデータを日常臨床で使われている 3TMR と対応可能として、0.3T の知見をより一般的な知見とすることの検討を進めている。
- 3) 高解像度機能的 MRI 計測では、ヒトの視床下部を高解像度の fMRI で撮像し、領域を区分けする手法を開発し、食後のインスリン分泌と関連する部位を特定しつつある (*27, *28, *29)。
- 4) rTMS による大脳可塑性計測では、肥満のある被験者のコントロールとしての正常被験者について、可塑性変化の計測および刺激効果の空間的広がり画像的評価を行った。
- 5) 運動介入による認知機能改善分子機構解析では、運動が脳に及ぼす影響を調べるために6ヶ月間の自発的ホイール運動と強制的トレッドミル運動をタウトランスジェニックマウスに負荷した。ホイール運動群では学習機能が運動無し群より改善したが、トレッドミル群では変化なかった。炎症性サイトカインやタウ蛋白リン酸化はホイール群で低く、トレッドミル群では増加していた。以上の結果から、自発的ホイール運動が脳機能保護効果を示すことがわかった。
- 6) 4 週間の短期間の強制的トレッドミル運動をタウトランスジェニックマウスに負荷すると脳内ではかえって、酸化ストレス、タウ蛋白不溶性、炎症性サイトカインが増加し悪影響を及ぼすことがわかった (*14)。
- 7) 脳波による IHTT 測定 (宇賀、北澤グループ) では、視覚 (顔) 刺激による脳波の N170 成分を用いることにより、ノイズの影響を受けにくい IHTT 測定手法の開発を行った。

<特に優れた研究成果>

- 1) 非肥満者ではインスリン抵抗性はあまり認めないと考えられてきたが、BMI が 23~25kg/m² でメタボリックシンドロームの構成因子を 1 つでも有していると骨格筋のインスリン抵抗性を認め、そのレベルは肥満メタボリックシンドロームと同等であることや、それに影響を与える生活習慣や血清、骨格筋の代謝産物などが明らかとしてきた。本研究成果はメディア (新聞掲載 *4~*23) でも多く取り上げられた。
- 2) 関節軟骨の変性と摩耗が膝 OA の病態の主座だが、従来関節軟骨の評価は困難であった。本研究により、MRI T2 マッピング法にて軟骨変性の新知見を本領域の主要雑誌のひとつに報告した。
- 3) 拡散 MRI による in vivo の脳の微細構造変化の解析方法の開発と検討を進め、骨格筋インスリン抵抗性、筋力の低下、最大酸素摂取量の低下、血圧の増加が大脳白質変性と関連することを明らかとしてきた。また、運動介入による認知機能改善分子機構解析では、短期トレッドミル運動の効果はかえってストレスになっていることを見出した。
- 4) 高解像度機能的 MRI 計測により、ヒトの視床下部を 1.25 mm の高解像度 fMRI で撮像し、領域を区分けする手法を開発し、個々の視床下部神経核の位置を同定した。

<問題点とその克服方法>

- 1) コアスタディーは壮年期での介護リスクの初期変化を捉えることを主に目的としているが、それらの初期変化が高齢者における要介護リスクに繋がっていくかは明らかではない。そこで、得られた様々な介護リスク因子が高齢者でも同様にリスクとなりえるかなどを検証するために、近隣住民を対象とした高齢者のコホート研究を開始した (目標被験者数 1,600)。コアスタディーと同様に、筋力・筋量・インスリン抵抗性を評価するとともに、脳及び膝関節 MRI、認知機能などの測定を行い、前向きに観察する予定としている。
- 2) データベースの解析は代謝血管障害に関する研究から着手され多くの成果を得た。今後、脳機能障害やロコモティブシンドローム予防との連携をさらに深めて、骨格筋機能を中心とした介護予防の観点から解析と論文化を進めて行く。
- 3) 超高齢社会の本邦では、80 歳以上の女性の 8 割近くが初期膝 OA を呈するため、早期の病態解明と

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

同時に、初期膝 OA からの進行抑制と、初期膝 OA の中でも高齢者の ADL 低下に影響を与える病態解明も重要である。そのため、早期膝 OA の病態解析とともに、高齢者のコホートやコアスタディーデータベースを用いてこの現実的な課題克服も進める。

- 4) rTMS による大脳可塑性計測では、30 分という連続刺激期間において刺激部位が安定的にフォーカスすることが重要であるので、ナビゲーションシステムを使用して、刺激期間を通してオンラインでモニターし、刺激部位の安定化を図る。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む。)>

- 1) 血清のリピドーム・メタボローム解析により、様々な代謝産物が骨格筋代謝や動脈硬化などと関連することが明らかとなってきたが、本研究成果を発展させ、骨格筋代謝や動脈硬化症を予測するバイオマーカー開発や、因果関係を in vitro, in vivo 実験により検証することにより新たな治療標的の確立に結び付くことが期待される。
- 2) コアスタディーデータベースを中心とした解析による初期膝 OA の病態及び初期から末期に至る膝 OA 疼痛と病態の関連についての研究を進めてきたことで、現在世界的に関心が高まっている発症前の膝 OA、いわゆる「早期膝 OA の病態」について、国内のみならず世界的にも最新の知見を発信できる可能性がでてきた。
- 3) rTMS による大脳可塑性計測では、可塑性の変化を計測する技術を標準化すれば、骨格筋機能低下や肥満被験者のみならず、認知症(予備軍)などの脳疾患への応用ができる可能性がある。高解像度機能的 MRI 計測では、糖尿病のみならず視床下部に関連する肥満や代謝内分泌疾患の研究に応用可能である。

<今後の研究方針>

インスリン抵抗性や筋力といった骨格筋機能が、「血管・脳・関節」の介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心として存在する可能性や、骨格筋機能を低下させる生活習慣因子が明らかとなってきた。今後、データベース解析を引き続き行い、骨格筋機能低下の病態的意義についてさらに検討すると同時に、得られた事象の因果関係について検証を行う。具体的には、得られた骨格筋機能を低下させる生活習慣を改善するような介入を行うことにより、骨格筋機能や要介護関連疾患が改善されるかを検証する。さらに、高齢者コホートも確立し、コアスタディーで得られた成果との整合性や意義について、さらに検証する。

<今後期待される研究成果>

骨格筋量・筋力、骨格筋インスリン抵抗性と介護疾患の関連性について、コアスタディーだけでなく、高齢者のコホートでも同様の検証を進めることにより、より精度の高い骨格筋を中心とした臓器障害ネットワークの解明や、その背景にある生活習慣や潜在するメカニズムが明らかとなることが期待される。

<自己評価の実施結果及び対応状況>

綿田研究代表の統括のもとで運営委員 16 名(外部運営委員 2 名を含む)の体制で研究の進捗状況を常に検討している。本プロジェクトに参加する研究者すべてに、毎年の研究成果発表会、成果報告書の提出を義務づけており、プロジェクトに参加していない研究者を含む複数の評価者が申請書と報告書をもとに実績を評価し、予算配分額などに反映させている。さらに、プロジェクトとしての相乗効果を生み出し、かつ、高い費用対効果を得られるように、プロジェクト間、プロジェクト内で共同で行うコアスタディーを設定し、予算を多く充てるなど配分を適切に設定した。研究発表の場では、他の研究者から客観的な評価を受け、新たな共同研究を開始するなどしてプロジェクトの修正に役立てている。また、国際スポーツロジ学会ではすべての研究者が発表し、内部評価とともに、外部の学会員からの意見も頂き、プロジェクトに反映させている。

<外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況>

外部評価は阿部修(東京大学)、中田研(大阪大学)、藤井宣晴(首都大学東京)の 3 名に委嘱し評価を得ている。外部評価委員からの中間評価として、本事業が順調に進んでおり、骨格筋機能を血管・脳・関節不全による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの一部であるという仮説の検証がある程度確認されてきていると評価を受けた。その一方で、今後の研究成果が期待される項目として、1) 分子生物学的な検証、2) 前向き介入研究、などを行うことによりメカニズム解析、因果関係の検証に繋げることが挙げられた。これらの項目については、概ね今後の研究方針に組み込まれていたが、今後、より重点的に研究を進めることとした。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) インスリン抵抗性 (2) 筋力 (3) 運動
 (4) メタボリックシンドローム (5) ロコモティブシンドローム (6) 認知機能障害
 (7) 動脈硬化症 (8) 臓器障害ネットワーク

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

(英文原著) 11(4)で引用されたものを抜粋

1. *Kawaguchi M, Tamura Y, Kakehi S, Takeno K, Sakurai Y, Watanabe T, Funayama T, Sato F, Ikeda S, Ogura Y, Saga N, Naito H, Fujitani Y, Kanazawa A, Kawamori R, Watada H
Association between expression of FABPpm in skeletal muscle and insulin sensitivity in intramyocellular-lipid-accumulated non-obese men
J Clin Endocrinol Metab. 99(9): 3343-52. 2014.
2. *Shimoji K, Uka T, Tamura Y, Yoshida M, Kamagata K, Hori M, Motoi Y, Watada H, Kawamori R, Aoki S
Diffusional kurtosis imaging analysis in patients with hypertension
Jpn J Radiol, 32: 98-104, 2014
3. *Miyazaki T, Shimada K, Hki M, Kume A, Kitamura Y, Oshida K, Yanagisawa N, Kiyanagi T, Matsumori R, Daida H.
High hexacosanoic acid levels are associated with coronary artery disease.
Atherosclerosis. 223:429-433;2014.
4. *Hada S, Kaneko H, Sadatsuki R, Liu L, Futami I, Kinoshita M, Yusu A, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kazuo K, Ishijima M.
The degeneration and destruction of femoral articular cartilage shows a greater degree of deterioration than that of the tibial and patellar articular cartilage in early stage knee osteoarthritis: A cross-sectional study
Osteoarthritis Cartilage, 22, 1583-9, 2014
5. *S. Kakehi, Y. Tamura, K. Takeno, Y. Sakurai, M. Kawaguchi, T. Watanabe, T. Funayama, F. Sato, S. Ikeda, A. Kanazawa, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.
Increased intramyocellular lipid/impaired insulin sensitivity is associated with altered lipid metabolic genes in muscle of high responders to a high fat diet.
Am J Physiol Endocrinol Metab, 2015; 310 (1): E32-40
6. *Zheng DM, Bian Z, Furuya N, Oliva Trejo JA, Takeda-Ezaki M, Takahashi K, Hiraoka Y, Mineki R, Taka H, Ikeda S, Komatsu M, Fujimura T, Ueno T, Ezaki J
A treadmill exercise reactivates the signaling of the mammalian target of rapamycin (mTor) in the skeletal muscles of starved mice.
Biochem Biophys Res Commun, 2015 Jan 2;456(1):519-26.
7. *Nishitani-Yokoyama M, Miyauchi K, Shimada K, Miyazaki T, Ogita M, Okazaki S, Shioya M, Koba S, Tsujita H, Kobayashi Y, Daida H.
Effects of phase II comprehensive cardiac rehabilitation on coronary plaque volume after acute coronary syndrome.
Int Heart J. 56:597-604.2015
8. *Alshahi H, Shimada K, Miyauchi K, Yoshihara T, Sai E, Shiozawa T, Naito R, Aikawa T, Ouchi S, Kadoguchi T, Miyazaki T, Daida H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Elevated Circulating Levels of Inflammatory Markers in Patients with Acute Coronary Syndrome.
International Journal of Vascular Medicine, Volume 2015 (2015), Article ID 805375, 8 pages

9. *Yusup A, Kaneko H, Liu L, Ning L, Sadatsuki R, Hada S, Kamagata K, Kinoshita M, Futami I, Shimura Y, Tsuchiya M, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Aoki S, Kaneko K, Ishijima M.
Bone marrow lesions, subchondral bone cysts and subchondral bone attrition are associated with histological synovitis in patients with end-stage knee osteoarthritis: a cross-sectional study.
Osteoarthritis Cartilage. 2015 Nov;23(11):1858-64.
10. *Wada, H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, Daida H.
Preprocedural high-sensitivity C-reactive protein predicts long-term outcomes in patients undergoing percutaneous coronary intervention.
Circ J. 90-95:81:2017.
11. *Sai E, Shimada K, Yokoyama T, Hiki M, Sato S, Hamasaki N, Maruyama M, Morimoto R, Miyazaki T, Fujimoto S, Tamura Y, Aoki S, Watada H, Kawamori R, Daida H.
Myocardial Triglyceride Content in Patients with Left Ventricular Hypertrophy: Comparison between Hypertensive Heart Disease and Hypertrophic Cardiomyopathy.
Heart Vessels. 2017 Feb;32(2):166-174.
12. *Akita K, Isoda K, Okabayashi Y, Shimada K, Daida H
Lack of IkBNS accelerates atherosclerosis in LDL receptor-deficient mice via increased interleukin-6 production
Int J Cardiol, 2016; 211:61-63
13. *Sadatsuki R, Kaneko H, Futami I, Kinoshita M, Nonaka R, Culley KL, Otero M, Hada S, Goldring MB, Yamada Y, Kaneko K, Arikawa-Hirasawa E, Ishijima M
Perlecan is required for the chondrogenic differentiation of synovial mesenchymal cells through regulation of Sox9 gene expression
J Orthop Res, 2017 Apr;35(4):837-846
14. *Elahi M, Motoi Y, Matsumoto S, Hasan Z, Ishiguro K, Hattori N
Short-term treadmill exercise increased tau insolubility and neuroinflammation in tauopathy model mice
Neurosci. Lett. 610 (2016)207-212
15. *Takeno K, Tamura Y, Kawaguchi M, Kakehi S, Watanabe T, Funayama T, Furukawa Y, Kaga H, Yamamoto R, Kim M, Nishitani-Yokoyama M, Shimada K, Daida H, Aoki S, Taka H, Fujimura T, Sawada S, Giacca A, Kanazawa A, Fujitani Y, Kawamori R, Watada H.
Relation between insulin sensitivity and metabolic abnormalities in Japanese men with BMI of 23–25 kg/m².
J Clin Endocrinol Metab, 2016; 101(10): 3676-3684
16. *Funayama T, Tamura Y, Takeno K, Kawaguchi M, Kakehi S, Watanabe T, Furukawa Y, Kaga H, Yamamoto R, Kanazawa A, Fujitani Y, Kawamori R, Watada H.
Effects of alcohol abstinence on glucose metabolism in Japanese men with elevated fasting glucose: A pilot study.
Sci Rep, 2017; 7: 40277
17. *Tsuzuki T, Kobayashi H, Yoshihara T, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Naito H.
Attenuation of exercise-induced heat shock protein 72 expression blunts improvements in whole-body insulin resistance in rats with type 2 diabetes.
Cell Stress Chaperones. 2017 Mar;22(2):263-269

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

18. *Eshima H., Tamura Y., Kakehi S., Kurebayashi N., Murayama T., Nakamura K., Kakigi R., Okada T., Sakurai T., Kawamori R. and Watada H. Long-term, but not short-term high-fat diet induces fiber composition changes and impaired contractile force in mouse fast-twitch skeletal muscle.
Physiol Rep. 2017;5(7).
19. *Aikawa T, Miyazaki T, Shimada K. Sugita Y, Shimizu M, Ouchi S, Kadoguchi T, Yokoyama Y, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Al Shahi H, Dohi S, Amano A, Daida H.
Low Serum Levels of EPA are Associated with the Size and Growth Rate of Abdominal Aortic Aneurysm.
J Atheroscler Thromb. 2017, in press
20. *Ikeda S, Tamura Y., Kakehi S, Sanada H, Kawamori R., Watada H.
Exercise-induced increase in IL-6 level enhances GLUT4 expression and insulin sensitivity in mouse skeletal muscle.
Biochem Biophys Res Commun, 2016; 473(4): 947-52
21. *Yoshihara T, Shimada K., Fukao K, Sai E, Sato-Okabayashi Y, Matsumori R, Shiozawa T, Alshahi H, Miyazaki T, Tada N, Daida H.
Omega 3 polyunsaturated fatty acids suppress the development of aortic aneurysms through the inhibition of macrophage-mediated inflammation.
Circ J. 79:1470-1478:2015

(その他の業績)

【英文原著 2014 年】

1. Katakami N, Kaneto H, Matsuoka TA, Takahara M, Osonoi T, Saitou M, Kawai K, Ishibashi F, Kashiwagi A, Kawamori R., Shimomura I, Yamasaki Y
Accumulation of oxidative stress-related gene polymorphisms and the risk of coronary heart disease events in patients with type 2 diabetes - An 8-year prospective study
Atherosclerosis, 235: 408-414, 2014
2. Yamamoto E, Uchida T, Abe H, Taka H, Fujimura T, Komiya K, Hara A, Ogihara T, Fujitani Y, Ueno T., Takeda S, Watada H.
Increased expression of ERp57/GRP58 is protective against pancreatic beta cell death caused by autophagic failure
Biochem Biophys Res Commun, 453: 19-24, 2014
3. Inagaki N, Ueki K, Tanizawa Y, Watada H., Nakamura J, Yamada Y, Shimomura I, Nishimura R, Yamazaki T, Kadowaki T
Protocol for a large-scale prospective observational study with alogliptin in patients with type 2 diabetes: J-BRAND Registry
BMJ Open, 4: e004760, 2014
4. Kaku K, Watada H., Iwamoto Y, Utsunomiya K, Terauchi Y, Tobe K, Tanizawa Y, Araki E, Ueda M, Suganami H, Watanabe D
Efficacy and safety of monotherapy with the novel sodium/glucose cotransporter-2 inhibitor tofogliflozin in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: a combined Phase 2 and 3 randomized, placebo-controlled, double-blind, parallel-group comparative study
Cardiovasc Diabetol, 13: 65, 2014
5. Sawada N, Jiang A, Takizawa F, Safdar A, Manika A, Tesmenitsky Y, Kang KT, Bischoff J, Kalwa H, Sartoretto JL, Kamei Y, Benjamin LE, Watada H., Ogawa Y, Higashikuni Y, Kessinger CW, Jaffer FA, Michel T, Sata M, Croce K, Tanaka R, Arany Z
Endothelial PGC-1alpha mediates vascular dysfunction in diabetes
Cell Metab, 19: 246-258, 2014
6. Osonoi Y, Mita T, Osonoi T, Saito M, Tamasawa A, Nakayama S, Someya Y, Ishida H,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Kanazawa A, Gosho M, Fujitani Y, Watada H
Morningness-eveningness questionnaire score and metabolic parameters in patients with type 2 diabetes mellitus
Chronobiol Int, 31: 1017-1023, 2014
7. Ogawa H, Matsui K, Saito Y, Sugiyama S, Jinnouchi H, Sugawara M, Masuda I, Mori H, Waki M, Yoshiyama M, Watada H
Differences between rosuvastatin and atorvastatin in lipid-lowering action and effect on glucose metabolism in Japanese hypercholesterolemic patients with concurrent diabetes
Circ J, 78: 2512-2515, 2014
 8. Miyatsuka T, Matsuoka TA, Sasaki S, Kubo F, Shimomura I, Watada H, German MS, Hara M
Chronological analysis with Fluorescent Timer reveals unique features of newly generated beta cells
Diabetes, 63: 3388-3393, 2014
 9. Sato J, Kanazawa A, Ikeda F, Yoshihara T, Goto H, Abe H, Komiya K, Kawaguchi M, Shimizu T, Ogihara T, Tamura Y, Sakurai Y, Yamamoto R, Mita T, Fujitani Y, Fukuda H, Nomoto K, Takahashi T, Asahara T, Hirose T, Nagata S, Yamashiro Y, Watada H
Gut dysbiosis and detection of "live gut bacteria" in blood of Japanese patients with type 2 diabetes
Diabetes Care, 37: 2343-2350, 2014
 10. Weng J, Soegondo S, Schnell O, Sheu WH, Grzeszczak W, Watada H, Yamamoto N, Kalra S
Efficacy of acarbose in different geographical regions of the world: analysis of a real-life database
Diabetes Metab Res Rev, 31: 155-167, 2014
 11. Sanke H, Mita T, Yoshii H, Yokota A, Yamashiro K, Ingaki N, Onuma T, Someya Y, Komiya K, Tamura Y, Shimizu T, Ohmura C, Kanazawa A, Fujitani Y, Watada H
Relationship between olfactory dysfunction and cognitive impairment in elderly patients with type 2 diabetes mellitus
Diabetes Res Clin Pract, 106: 465-473, 2014
 12. Sato F, Mita T, Yamamoto R, Hirose T, Ito C, Tamura Y, Yokota A, Someya Y, Uchida T, Uchino H, Kawamori R, Gosho M, Kanazawa A, Watada H
Reliability and validity of the Japanese version of the Diabetes Quality-Of-Life questionnaire for Japanese patients with type 2 diabetes mellitus
Diabetol Int, 5: 21-29, 2014
 13. Shigihara N, Uchida T, Yorifuji T, Toyofuku Y, Tamaki M, Fujitani Y, Watada H
Olmesartan and telmisartan comparably preserve pancreatic beta-cell mass with reduction of oxidative stress in db/db mice
Diabetol Int, 5: 62-68, 2014
 14. Mita T, Katakami N, Shiraiwa T, Yoshii H, Onuma T, Kuribayashi N, Osonoi T, Kaneto H, Kosugi K, Umayahara Y, Yamamoto T, Matsumoto K, Yokoyama H, Tsugawa M, Gosho M, Shimomura I, Watada H
Rationale, design, and baseline characteristics of a clinical trial for prevention of atherosclerosis in patients with insulin-treated type 2 diabetes mellitus using DPP-4 inhibitor: the Sitagliptin Preventive study of Intima-media thickness Evaluation (SPIKE)
Diabetol Metab Syndr, 6: 35, 2014
 15. Uchida T, Goto H, Kasai T, Komiya K, Takeno K, Abe H, Shigihara N, Sato J, Honda A, Mita T, Kanazawa A, Fujitani Y, Watada H
Therapeutic effectiveness of potassium iodine in drug-naive patients with Graves' disease: a single-center experience

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Endocrine, 47: 506-511, 2014

16. Yasunari E, Mita T, Osonoi Y, Azuma K, Goto H, Ohmura C, Kanazawa A, Kawamori R, Fujitani Y, Watada H
Repetitive hypoglycemia increases circulating adrenaline level with resultant worsening of intimal thickening after vascular injury in male Goto-Kakizaki rat carotid artery
Endocrinology, 155: 2244-2253, 2014
17. Tanizawa Y, Kaku K, Araki E, Tobe K, Terauchi Y, Utsunomiya K, Iwamoto Y, Watada H, Ohtsuka W, Watanabe D, Suganami H
Long-term safety and efficacy of tofogliflozin, a selective inhibitor of sodium-glucose cotransporter 2, as monotherapy or in combination with other oral antidiabetic agents in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: multicenter, open-label, randomized controlled trials
Expert Opin Pharmacother, 15: 749-766, 2014
18. Hara K, Fujita H, Johnson TA, Yamauchi T, Yasuda K, Horikoshi M, Peng C, Hu C, Ma RC, Imamura M, Iwata M, Tsunoda T, Morizono T, Shojima N, So WY, Leung TF, Kwan P, Zhang R, Wang J, Yu W, Maegawa H, Hirose H, Kaku K, Ito C, Watada H, Tanaka Y, Tobe K, Kashiwagi A, Kawamori R, Jia W, Chan JC, Teo YY, Shyong TE, Kamatani N, Kubo M, Maeda S, Kadowaki T
Genome-wide association study identifies three novel loci for type 2 diabetes
Hum Mol Genet, 23: 239-246, 2014
19. Yokoi H, Nohara R, Daida H, Hata M, Kaku K, Kawamori R, Kishimoto J, Kurabayashi M, Masuda I, Sakuma I, Yamazaki T, Yoshida M
Change in carotid intima-media thickness in a high-risk group of patients by intensive lipid-lowering therapy with rosuvastatin
Int Heart J, 55: 146-152, 2014
20. Uchida T, Kasai T, Takagi A, Sekita G, Komiya K, Takeno K, Shigihara N, Shimada K, Miyauchi K, Fujitani Y, Daida H, Watada H
Prevalence of amiodarone-induced thyrotoxicosis and associated risk factors in Japanese patients
Int J Endocrinol, 2014: 534904, 2014
21. Inami Y, Hamada C, Seto T, Hotta Y, Aruga S, Inuma J, Azuma K, Io H, Kaneko K, Watada H, Tomino Y
Effect of AST-120 on Endothelial Dysfunction in Adenine-Induced Uremic Rats
Int J Nephrol, 2014: 164125, 2014
22. Daida H, Nohara R, Hata M, Kaku K, Kawamori R, Kishimoto J, Kurabayashi M, Masuda I, Sakuma I, Yamazaki T, Yokoi H, Yoshida M
Can intensive lipid-lowering therapy improve the carotid intima-media thickness in Japanese subjects under primary prevention for cardiovascular disease?: The JART and JART extension subanalysis
J Atheroscler Thromb, 21: 739-754, 2014
23. Teramoto T, Kawamori R, Miyazaki S, Teramukai S, Sato Y, Okuda Y, Shirayama M
Lipid and blood pressure control for the prevention of cardiovascular disease in hypertensive patients: A subanalysis of the OMEGA study
J Atheroscler Thromb, 22: 62-75, 2014
24. Yoshii H, Onuma T, Yamazaki T, Watada H, Matsuhisa M, Matsumoto M, Kitagawa K, Kitakaze M, Yamasaki Y, Kawamori R
Effects of pioglitazone on macrovascular events in patients with type 2 diabetes mellitus at high risk of stroke: The PROFIT-J Study
J Atheroscler Thromb, 21: 563-573, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

25. Shigihara N, Fukunaka A, Hara A, Komiya K, Honda A, Uchida T, Abe H, Toyofuku Y, Tamaki M, Ogihara T, Miyatsuka T, Hiddinga HJ, Sakagashira S, Koike M, Uchiyama Y, Yoshimori T, Eberhardt NL, Fujitani Y, Watada H
Human IAPP-induced pancreatic beta cell toxicity and its regulation by autophagy
J Clin Invest, 124: 3634-3644, 2014
26. Uchida T, Shigihara N, Takeno K, Komiya K, Goto H, Abe H, Sato J, Honda A, Fujitani Y, Watada H
Characteristics of patients with graves disease and intrathyroid hypovascularity compared to painless thyroiditis
J Ultrasound Med, 33: 1791-1796, 2014
27. Kawamori R, Kaku K, Hanafusa T, Oikawa T, Kageyama S, Hotta N
Effect of combination therapy with repaglinide and metformin hydrochloride on glycemic control in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus
Journal of Diabetes Investigation, 5: 72-79, 2014
28. Kudo-Fujimaki K, Hirose T, Yoshihara T, Sato F, Someya Y, Ohmura C, Kanazawa A, Fujitani Y, Watada H
Efficacy and safety of nateglinide plus vildagliptin combination therapy compared with switching to vildagliptin in type 2 diabetes patients inadequately controlled with nateglinide
Journal of Diabetes Investigation, 5: 400-409, 2014
29. Furuya N, Ikeda S, Sato S, Soma S, Ezaki J, Oliva Trejo JA, Takeda-Ezaki M, 1 Fujimura T, Arikawa-Hirasawa E, Tada N, Komatsu M, Tanaka K, Kominami E, Hattori N, Ueno T
PARKIN-mediated mitochondrial clearance contributes to the proteasome activation during slow-twitch muscle atrophy via NFE2L1 nuclear translocation.
Autophagy 10: 631-641, 2014
30. Maruyama Y, Sou YS, Kageyama S, Takahashi T, Ueno T, Tanaka K, Komatsu M, Ichimura Y
LC3B is indispensable for selective autophagy of p62 but not basal autophagy.
Biochem Biophys Res Commun. 2014 Mar 28;446(1):309-15.
31. Yoshihara N, Takagi A, Ueno T, Ikeda S
Inverse correlation between LC3 and p62 expression in the progression of cutaneous squamous cell carcinoma.
J Dermatol. 2014 Apr;41(4):311-5.
32. Oliva Trejo JA, Asanuma K, Kim EH, Takagi-Akiba M, Nonaka K, Hidaka T, Komatsu M, Tada N, Ueno T, Tomino Y
Transient increase in proteinuria, poly-ubiquitylated proteins and ER stress markers in podocyte-specific autophagy-deficient mice following unilateral nephrectomy.
Biochem Biophys Res Commun. 446: 1190-1196, 2014
33. Akiyama T, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Nguyen TT, Ushio H, Fujimura T, Ueno T, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S
The human cathelicidin LL-37 host defense peptide upregulates tight junction-related proteins and increases human epidermal keratinocyte barrier function.
J Innate Immun. 6: 739-53, 2014.
34. Tanida I, Ueno T, Uchiyama Y:
A super-ecliptic, pHluorin-mKate2, tandem fluorescent protein-tagged human LC3 for the monitoring of mammalian autophagy.
PLoS One. 9:e110600, 2014.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

35. Watanabe T, Hanajima R, Shirota Y, Ohminami S, Tsutsumi R, Terao Y, Ugawa Y, Hirose S, Miyashita Y, Konishi S, Kunimatsu A, Ohtomo K.
Bidirectional effects on inter-hemispheric resting-state functional connectivity induced by excitatory and inhibitory repetitive transcranial magnetic stimulation.
Human Brain Mapping, 35, 1896-1905, 2014
36. Watanabe T, Kan S, Koike T, Misaki M, Konishi S, Miyauchi S, Miyashita Y, Masuda N.
Network-dependent modulation of brain activity during sleep.
Neuroimage, 98, 1-10, 2014
37. Hirose S, Jimura K, Kunimatsu A, Abe O, Ohtomo K, Miyashita Y, Konishi S.
Changes in cerebro-cerebellar interaction during response inhibition after performance improvement.
Neuroimage, 99, 142-148, 2014
38. Jimura K, Hirose S, Kunimatsu A, Ohtomo K, Koike Y, Konishi S.
Late development of brain-behavior correlations during response inhibition.
Neuroscience, 274, 383-392, 2014
39. Katsura M, Hirose S, Sasaki H, Mori H, Kunimatsu A, Ohtomo K, Jimura K. Konishi S.
Decreased fronto-temporal interaction during fixation after memory retrieval.
PLoS ONE, 9, e110798, 2014
40. Kumano H, Uka T.
Visual impairment by surrounding noise is due to interactions among stimuli in the higher-order visual cortex.
J Neurophysiol 112: 620-630, 2014.
41. Nakahara K, Ueda M, Yamada K, Koide T, Yoshimochi G, Funayama M, Kim JH, Yamakawa S, Mori A, Misumi Y, Uyama E, Hattori N, Ando Y.
Juvenile-onset parkinsonism with digenic parkin and PINK1 mutations treated with subthalamic nucleus stimulation at 45 years after disease onset.
J Neurol Sci. 345:276-7. 2014
42. Maraschi A, Ciammola A, Folci A, Sassone F, Ronzitti G, Cappelletti G, Silani V, Sato S, Hattori N, Mazzanti M, Chiergatti E, Mulle C, Passafaro M, Sassone J.
Parkin regulates kainate receptors by interacting with the GluK2 subunit.
Nat Commun. 5:5182. 2014
43. Shimada Y, Tanaka R, Shimura H, Yamashiro K, Urabe T, Hattori N.
Phosphorylation enhances recombinant HSP27 neuroprotection against focal cerebral ischemia in mice.
Neuroscience. 278:113-21. 2014
44. Shiba-Fukushima K, Inoshita T, Hattori N, Imai Y.
PINK1-mediated phosphorylation of Parkin boosts Parkin activity in Drosophila.
PLoS Genet. 10:e1004391. 2014
45. Shiba-Fukushima K, Arano T, Matsumoto G, Inoshita T, Yoshida S, Ishihama Y, Ryu KY, Nukina N, Hattori N, Imai Y.
Phosphorylation of mitochondrial polyubiquitin by PINK1 promotes Parkin mitochondrial tethering.
PLoS Genet. 10:e1004861. 2014
46. Mizuno Y, Nomoto M, Hasegawa K, Hattori N, Kondo T, Murata M, Takeuchi M, Takahashi M, Tomida T; Rotigotine Trial Group.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Rotigotine vs ropinirole in advanced stage Parkinson's disease: A double-blind study.
"Parkinsonism Relat Disord. 2014 Oct 12;20(12):1388-1393.
47. Miyazaki H, Oyama F, Inoue R, Aosaki T, Abe T, Kiyonari H, Kino Y, Kurosawa M, Shimizu J, Ogiwara I, Yamakawa K, Koshimizu Y, Fujiyama F, Kaneko T, Shimizu H, Nagatomo K, Yamada K, Shimogori T, Hattori N, Miura M, Nukina N.
Singular localization of sodium channel $\beta 4$ subunit in unmyelinated fibres and its role in the striatum.
Nat Commun. 2014 Nov 21;5:5525.
 48. Shiba-Fukushima K, Inoshita T, Hattori N, Imai Y.
Lysine 63-linked Polyubiquitination Is Dispensable for Parkin-mediated Mitophagy.
J Biol Chem. 2014 Nov 28;289(48):33131-6.
 49. Kashiwara K, Kondo T, Mizuno Y, Kikuchi S, Kuno S, Hasegawa K, Hattori N, Mochizuki H, Mori H, Murata M, Nomoto M, Takahashi R, Takeda A, Tsuboi Y, Ugawa Y, Yamanmoto M, Yokochi F, Yoshii F, Stebbins GT, Tilley BC, Luo S, Wang L, LaPelle NR, Goetz CG;MDS-UPDRS Japanese Validation Study Group.
Official Japanese Version of the Movement Disorder Society-Unified Parkinson's Disease Rating Scale: validation against the original English version.
Mov Disord Clin Pract (Hoboken). 2014 Sep 1;1(3):200-212.
 50. Kurita N, Ueno Y, Watanabe M, Miyamoto N, Shimura H, Nonaka S, Tsutsumi S, Yasumoto Y, Hattori N, Urabe T.
Three cases of cervicocephalic artery dissection in an amusement park.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Nov-Dec;23(10):e467-71.
 51. Kuroki T, Yamashiro K, Tanaka R, Hirano K, Shimada Y, Hattori N.
Vertebral artery dissection in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Nov-Dec;23(10):e441-3.
 52. Amo T, Saiki S, Sawayama T, Sato S, Hattori N.
Detailed analysis of mitochondrial respiratory chain defects caused by loss of PINK1.
Neurosci Lett. 2014 Sep 19;580:37-40.
 53. Mitome-Mishima Y, Miyamoto N, Tanaka R, Shimosawa T, Oishi H, Arai H, Hattori N, Urabe T.
Adrenomedullin deficiency and aging exacerbate ischemic white matter injury after prolonged cerebral hypoperfusion in mice.
Biomed Res Int. 2014;2014:861632.
 54. Fukae J, Fukaya C, Oshima H, Ishii K, Tsuboi Y, Katayama Y, Hattori N.
[Successful treatment with bilateral deep brain stimulation of the subthalamic nucleus for benign tremulous parkinsonism].
Rinsho Shinkeigaku. 2014;54(6):511-4.Japanese.
 55. Hatano T, Funayama M, Kubo S, Mata IF, Oji Y, Mori A, Zabetian CP, Waldherr SM, Yoshino H, Oyama G, Shimo Y, Fujimoto K, Oshima H, Kunii Y, Yabe H, Mizuno Y, Hattori N.
Identification of a Japanese family with LRRK2 p.R1441G-related Parkinson's disease.
Neurobiol Aging. 2014 Nov;35(11):2656.e17-23.
 56. Fujimaki T, Saiki S, Tashiro E, Yamada D, Kitagawa M, Hattori N, Imoto M.
Identification of licopyranocoumarin and glycyrrurol from herbal medicines as neuroprotective compounds for Parkinson's disease.
PLoS One. 2014 Jun 24;9(6):e100395.
 57. Ueno Y, Okuzumi A, Watanabe M, Tanaka Y, Shimada Y, Yamashiro K, Tanaka R, Hattori

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- N, Urabe T.
Cerebral small artery diseases may be associated with aortic arch calcification in stroke patients.
J Atheroscler Thromb. 2014;21(10):1011-21.
58. Hattori N, Saiki S, Imai Y.
Regulation by mitophagy.
Int J Biochem Cell Biol.2014 Aug;53:147-50.
59. Hattori N.
REST as a new therapeutic target for neurodegenerative disorders.
Mov Disord. 2014 Jun;29(7):869.
60. Nishioka K, Tanaka R, Tsutsumi S, Yamashiro K, Nakahara M, Shimura H, Hattori N, Urabe T.
Cerebral dural sinus thrombosis associated with adenomyosis: a case report.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Aug;23(7):1985-7.
61. Hattori N, Nomoto M; 6500-004 Study Group.
Sustained efficacy of apomorphine in Japanese patients with advanced Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2014 Aug;20(8):819-23.
62. Fukae J, Ishikawa K, Hatano T, Yoritaka A, Takanashi M, Shimo Y, Tsugawa J, Tsuboi Y, Hattori N.
Serum uric acid concentration is linked to wearing-off fluctuation in Japanese Parkinson's disease patients.
J Parkinsons Dis. 2014;4(3):499-505.
63. Okuzumi A, Hatano T, Nakahara T, Yokoyama K, Hattori N.
Ophthalmic nerve hypertrophy in chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy.
Neurology. 2014 Apr 29;82(17):1566-7.
64. Nishioka K, Tanaka R, Shimura H, Hirano K, Hatano T, Miyakawa K, Arai H, Hattori N, Urabe T.
Quantitative evaluation of electroconvulsive therapy for Parkinson's disease with refractory psychiatric symptoms.
J Neural Transm. 2014 Nov;121(11):1405-10.
65. Noda K, Hattori N, Okuma Y.
Primary central nervous system lymphoma presenting as choreoathetosis.
BMJ Case Rep. 2014 Apr 16;2014. pii: bcr2013203353.
66. Motoi Y, Shimada K, Ishiguro K, Hattori N.
Lithium and Autophagy.
ACS Chem Neurosci. 2014 Jun 18;5(6):434-42.
67. Hori M, Yoshida M, Yokoyama K, Kamagata K, Kumagai F, Fukunaga I, Kamiya K, Suzuki M, Masutani Y, Hamasaki N, Suzuki Y, Kyogoku S, Hattori N, Aoki S.
Multiple sclerosis: Benefits of q-space imaging in evaluation of normal-appearing and periplaque white matter.
Magn Reson Imaging. 2014 Jul;32(6):625-9.
68. Ishikawa K, Saiki S, Furuya N, Yamada D, Imamichi Y, Li Y, Kawajiri S, Sasaki H, Koike M, Tsuboi Y, Hattori N.
P150glued-associated disorders are caused by activation of intrinsic apoptotic pathway.
PLoS One. 2014 Apr 10;9(4):e94645.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

69. Yamanaka T, Wong HK, Tosaki A, Bauer PO, Wada K, Kurosawa M, Shimogori T, Hattori N, Nukina N.
Large-scale RNA interference screening in mammalian cells identifies novel regulators of mutant huntingtin aggregation.
PLoS One. 2014 Apr 4;9(4):e93891.
70. Nishioka K, Funayama M, Vilariño-Güell C, Ogaki K, Li Y, Sasaki R, Kokubo Y, Kuzuhara S, Kachergus JM, Cobb SA, Takahashi H, Mizuno Y, Farrer MJ, Ross OA, Hattori N.
EIF4G1 gene mutations are not a common cause of Parkinson's disease in the Japanese population.
Parkinsonism Relat Disord. 2014 Jun;20(6):659-61.
71. Ishikawa K, Motoi Y, Mizuno Y, Kubo S, Hattori N.
Effects of donepezil dose escalation in Parkinson's patients with dementia receiving long-term donepezil treatment: an exploratory study.
Psychogeriatrics. 2014 Jun;14(2):93-100.
72. Yamanaka T, Tosaki A, Kurosawa M, Matsumoto G, Koike M, Uchiyama Y, Maity SN, Shimogori T, Hattori N, Nukina N.
NF-Y inactivation causes atypical neurodegeneration characterized by ubiquitin and p62 accumulation and endoplasmic reticulum disorganization.
Nat Commun. 2014 Feb 25;5:3354.
73. Yamashita C, Tomiyama H, Funayama M, Inamizu S, Ando M, Li Y, Yoshino H, Araki T, Ichikawa T, Ehara Y, Ishikawa K, Mizusawa H, Hattori N.
Evaluation of polyglutamine repeats in autosomal dominant Parkinson's disease.
Neurobiol Aging. 2014 Jul;35(7):1779.e17-21.
74. Oyama G, Umemura A, Shimo Y, Nishikawa N, Nakajima A, Jo T, Nakajima M, Ishii H, Yamada D, Takanashi M, Arai H, Nanba E, Hattori N.
Posterior Subthalamic Area Deep Brain Stimulation for Fragile X-Associated Tremor/Ataxia Syndrome.
Neuromodulation. 2014 Dec;17(8):721-3.
75. Yamashiro K, Tanaka R, Tanaka Y, Miyamoto N, Shimada Y, Ueno Y, Urabe T, Hattori N.
Visceral fat accumulation is associated with cerebral small vessel disease.
Eur J Neurol. 2014 Apr;21(4):667-73.
76. Kamagata K, Tomiyama H, Hatano T, Motoi Y, Abe O, Shimoji K, Kamiya K, Suzuki M, Hori M, Yoshida M, Hattori N, Aoki S.
A preliminary diffusional kurtosis imaging study of Parkinson disease: comparison with conventional diffusion tensor imaging.
Neuroradiology. 2014 Mar;56(3):251-8.
77. Furuya N, Ikeda S, Sato S, Soma S, Ezaki J, Oliva Trejo JA, Takeda-Ezaki M, Fujimura T, Arikawa-Hirasawa E, Tada N, Komatsu M, Tanaka K, Kominami E, Hattori N, Ueno T.
PARK2/Parkin-mediated mitochondrial clearance contributes to proteasome activation during slow-twitch muscle atrophy via NFE2L1 nuclear translocation.
Autophagy. 2014 Apr;10(4):631-41.
78. Kerever A, Mercier F, Nonaka R, de Vega S, Oda Y, Zalc B, Okada Y, Hattori N, Yamada Y, Arikawa-Hirasawa E.
Perlecan is required for FGF-2 signaling in the neural stem cell niche.
Stem Cell Res. 2014 Mar;12(2):492-505.
79. Hattori N.
Cerebral organoids model human brain development and microcephaly.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Mov Disord. 2014 Feb;29(2):185.

80. Mori A, Ueno Y, Kuroki T, Hoshino Y, Shimura H, Sekiguchi Y, Noguchi M, Hamada Y, Kusunoki S, Hattori N, Urabe T.
Motor-dominant polyneuropathy due to IgM monoclonal antibody against disialosyl gangliosides in a patient with mantle cell lymphoma.
J Neurol Sci. 2014 Feb 15;337(1-2):215-8.
81. Shen Q, Yamano K, Head BP, Kawajiri S, Cheung JT, Wang C, Cho JH, Hattori N, Youle RJ, van der Bliek AM.
Mutations in Fis1 disrupt orderly disposal of defective mitochondria.
Mol Biol Cell. 2014 Jan;25(1):145-59.
82. Hatano T, Hattori N, Kawanabe T, Terayama Y, Suzuki N, Iwasaki Y, Fujioka T; Yokukansan Parkinson's Disease Study Group.
An exploratory study of the efficacy and safety of yokukansan for neuropsychiatric symptoms in patients with Parkinson's disease.
J Neural Transm. 2014;121(3):275-81.
83. Li Y, Sekine T, Funayama M, Li L, Yoshino H, Nishioka K, Tomiyama H, Hattori N.
Clinicogenetic study of GBA mutations in patients with familial Parkinson's disease.
Neurobiol Aging. 2014 Apr;35(4):935.e3-8.
84. Ueno Y, Yamashiro K, Tanaka Y, Watanabe M, Shimada Y, Kuroki T, Miyamoto N, Daimon M, Tanaka R, Miyauchi K, Daida H, Hattori N, Urabe T.
Rationale and design of the EPISTEME trial: efficacy of post-stroke intensive rosuvastatin treatment for aortogenic embolic stroke.
Cardiovasc Drugs Ther. 2014 Feb;28(1):79-85.
85. Funabe S, Tanaka R, Hayashi A, Yamashiro K, Shimura H, Hattori N.
Reversible dropped head syndrome after hemispheric striatal infarction.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Apr;23(4):785-7.
86. Tomizawa Y, Tanaka R, Sekiguchi K, Oji Y, Tanaka Y, Yamashiro K, Hattori N.
Cerebral infarction in a case of Parry-Romberg syndrome.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Feb;23(2):393-4.
87. Shimo Y, Natori S, Oyama G, Nakajima M, Ishii H, Arai H, Hattori N.
Subthalamic deep brain stimulation for a Parkinson's disease patient with duplication of SNCA.
Neuromodulation. 2014 Jan;17(1):102-3.
88. Hongo H, Tanaka Y, Shimada Y, Tanaka R, Hattori N, Urabe T.
Dermatome sensory manifestations in lateral medullary infarction.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Jan;23(1):182-3.
89. Ogita M, Miyauchi K, Jiang M, Kasai T, Tsuboi S, Naito R, Konishi H, Dohi T, Yokoyama T, Okazaki S, Shimada K, Bujo H, Daida H.
Circulating soluble LR11, a novel marker of smooth muscle cell proliferation, is enhanced after coronary stenting in response to vascular injury.
Atherosclerosis. 237:374-378;2014.
90. Isoda K, Akita K, Isobe S, Niida T, Adachi T, Iwakura Y, Daida H.
Interleukin-1 receptor antagonist originating from bone marrow-derived cells and non-bone marrow-derived cells helps to suppress arterial inflammation and reduce neointimal formation after injury.
J Atheroscler Thromb. 2014;21(11):1208-18.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

91. Naito R, Miyazaki T, Kajino K, Daida H.
Fulminant pneumococcal infection.
BMJ Case Rep. 2014 Aug 22;2014. pii: bcr2014205907.
92. Dai Y, Konishi H, Takagi A, Miyauchi K, Daida H.
Red cell distribution width predicts short- and long-term outcomes of acute congestive heart failure more effectively than hemoglobin.
Exp Ther Med. 2014 Aug;8(2):600-606.
93. Odagiri F, Inoue H, Sugihara M, Suzuki T, Murayama T, Shioya T, Konishi M, Nakazato Y, Daida H, Sakurai T, Morimoto S, Kurebayashi N.
Effects of candesartan on electrical remodeling in the hearts of inherited dilated cardiomyopathy model mice.
PLoS One. 2014 Jul 7;9(7):e101838.
94. Sekimoto Y, Nishizaki Y, Sesoko M, Sai E, Yamashita H, Yamagami S, Daida H.
Syncope due to paroxysmal complete atrioventricular block in a patient with aortic valve stenosis.
Intern Med. 2014;53(12):1347-9.
95. Fujimoto S, Kondo T, Kodama T, Fujisawa Y, Groarke J, Kumamaru KK, Takamura K, Matsunaga E, Miyauchi K, Daida H, Rybicki FJ.
A novel method for non-invasive plaque morphology analysis by coronary computed tomography angiography.
Int J Cardiovasc Imaging. 2014 Oct;30(7):1373-82.
96. Someya Y, Kawai S, Kohmura Y, Aoki K, Daida H.
Cardiorespiratory fitness and the incidence of type 2 diabetes: a cohort study of Japanese male athletes.
BMC Public Health. 2014 May 23;14:493.
97. Saito M, Ueshima K, Saito M, Iwasaka T, Daida H, Kohzuki M, Makita S, Adachi H, Yokoi H, Omiya K, Mikouchi H, Yokoyama H, Goto Y; Japanese Cardiac Rehabilitation Survey Investigators.
Safety of exercise-based cardiac rehabilitation and exercise testing for cardiac patients in Japan: a nationwide survey.
Circ J. 2014;78(7):1646-53.
98. Nishizaki Y, Daida H.
The relationship between high red blood cell distribution width and low coronary flow reserve in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy.
Anadolu Kardiyol Derg. 2014 Jun;14(4):349-50.
99. Sasaki S, Daimon M, Kawata T, Miyazaki S, Ichikawa R, Maruyama M, Chiang SJ, Mahara K, Watanabe H, Sumiyoshi T, Tomoike H, Daida H.
Factors responsible for elevated plasma B-type natriuretic peptide levels in severe aortic stenosis: comparison between elderly and younger patients.
J Cardiol. 2014 Dec;64(6):476-81.
100. Teramoto T, Sasaki J, Ishibashi S, Birou S, Daida H, Dohi S, Egusa G, Hiro T, Hirobe K, Iida M, Kihara S, Kinoshita M, Maruyama C, Ohta T, Okamura T, Yamashita S, Yokode M, Yokote K; Japan Atherosclerosis Society Committee for Epidemiology and Clinical Management of Atherosclerosis.
Statements
J Atheroscler Thromb. 2014;21(4):299-303.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

101. Maruyama M, Daimon M, Kawata T, Kasai T, Ichikawa R, Miyazaki S, Ohmura H, Yamamoto T, Amano A, Daida H.
Early hemodynamic performance of the trifecta bioprosthetic valve in patients with aortic valve disease.
Circ J. 2014;78(6):1372-8
102. Masuda H, Miyazaki T, Shimada K, Tamura N, Matsudaira R, Yoshihara T, Ohsaka H, Sai E, Matsumori R, Fukao K, Hiki M, Kume A, Kiyanagi T, Takasaki Y, Daida H.
Disease duration and severity impacts on long-term cardiovascular events in Japanese patients with rheumatoid arthritis.
J Cardiol. 64:366-370;2014.
103. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Katoh Y, Okai I, Tamura H, Okazaki S, Daida H.
Long-term prognosis and clinical characteristics of young adults (≤ 40 years old) who underwent percutaneous coronary intervention.
J Cardiol. 2014 Sep;64(3):171-4.
104. Miyazaki T, Hiki M, Shimada K, Kume A, Kiyanagi T, Sumiyoshi K, Daida H.
The high molecular weight adiponectin level is associated with the atherogenic lipoprotein profiles in healthy Japanese males.
J Atheroscler Thromb. 21:672-9;2014.
105. Ito T, Sato K, Maekawa H, Sakurada M, Orita H, Shimada K, Daida H, Wada R, Abe M, Hino O, Kajiyama Y.
Elevated levels of serum fatty acid synthase in patients with gastric carcinoma.
Oncol Lett. 7:616-620;2014.
106. Daida H, Teramoto T, Kitagawa Y, Matsushita Y, Sugihara M.
The relationship between low-density lipoprotein cholesterol levels and the incidence of cardiovascular disease in high-risk patients treated with pravastatin: main results of the APPROACH-J study.
Int Heart J. 2014;55(1):39-47.
107. Teramoto T, Sasaki J, Ishibashi S, Birou S, Daida H, Dohi S, Egusa G, Hiro T, Hirobe K, Iida M, Kihara S, Kinoshita M, Maruyama C, Ohta T, Okamura T, Yamashita S, Yokode M, Yokote K. Japan Atherosclerosis Society Committee for Epidemiology and Clinical Management of Atherosclerosis.
Diagnosis of atherosclerosis. Executive Summary of the Japan Atherosclerosis Society (JAS) Guidelines for the Diagnosis and Prevention of Atherosclerotic Cardiovascular Diseases in Japan—2012 Version.
J Atheroscler Thromb. 2014;21(4):296-8.
108. Teramoto T, Sasaki J, Ishibashi S, Birou S, Daida H, Dohi S, Egusa G, Hiro T, Hirobe K, Iida M, Kihara S, Kinoshita M, Maruyama C, Ohta T, Okamura T, Yamashita S, Yokode M, Yokote K; Japan Atherosclerosis Society Committee for Epidemiology and Clinical Management of Atherosclerosis.
Women. Executive Summary of the Japan Atherosclerosis Society (JAS) Guidelines for the Diagnosis and Prevention of Atherosclerotic Cardiovascular Diseases in Japan—2012 Version.
J Atheroscler Thromb. 2014;21(4):291-5.
109. Nishizaki Y, Shimada K, Tani S, Ogawa T, Ando J, Takahashi M, Yamamoto M, Shinozaki T, Miyauchi K, Nagao K, Hirayama A, Yoshimura M, Komuro I, Nagai R, Daida H.
Significance of Imbalance in the Ratio of Serum n-3 to n-6 Polyunsaturated Fatty Acids in Patients with Acute Coronary Syndrome
Am J Cardiol. 113:441-445;2014.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

110. Shinji Yokoyama, Hirotsugu Ueshima, Takashi Miida, Masakazu Nakamura, Koki Takata, Tatsuyuki Fukukawa, Takaaki Goto, Mariko Harada-Shiba, Michitaka Sano, Kiminori Kato, Kazuhiro Matsuda
High-density lipoprotein levels have markedly increased over the past twenty years in Japan
J Atheroscler Thromb Vol. 21 No. 2: 151-160, 2014
111. Y Tabe, L Jin, M Konopleva, M Shikami, S Kimura, M Andreeff, M Raffeld, T Miida
IA PI3K inhibition inhibits cell growth and proliferation in mantle cell lymphoma.
Acta Haematol Vol. 131 No. 1: 59-69, 2014
112. Takashi Miida, Kunihiro Nishimura, Tomonori Okamura, Satoshi Hirayama, Hirotoshi Ohmura, Hiroshi Yoshida, Yoh Miyashita, Masumi Ai, Akira Tanaka, Hiroyuki Sumino, Masami Murakami, Ikuo Inoue, Yuza Kayamori, Masakazu Nakamura, Tsutomu Nobori, Yukihisa Miyazawa, Tamio Teramoto, Shinji Yokoyama
Validation of homogeneous assays for HDL-cholesterol using fresh samples from healthy and diseased subjects.
Atherosclerosis Vol. 233 No. 1: 253-259, 2014
113. Satoshi Yamaguchi, Bo Zhang, Takeshi Tomonaga, Utako Seino, Akiko Kanagawa, Hironori Nagasaka, Akira Suzuki, Takashi Miida
Sohsuke Yamada, Yasuyuki Sasaguri, Takefumi Doi, Keijiro Saku, Mitsuyo Okazaki, Yoshihiro Tochino, Ken-ichi Hirano
Selective evaluation of high density lipoprotein from mouse small intestines by an in situ perfusion technique.
J Lipid Res Vol. 55 No. 5: 905-918, 2014
114. Hiromichi Shoji, Yayoi Murano, Mari Mori, Nobuaki Matsunaga, Natsuki Ohkawa, Hiroki Suganuma, Mitsuru Ikeno, Ken Hisata, Satoshi Hirayama, Tsuyoshi Ueno, Takashi Miida, Toshiaki Shimizu
Lipid profile and atherogenic indices soon after birth in Japanese preterm infants.
Acta Paediatr Vol. 103 No. 1, 22-26, 2014
115. Idei Mayumi, Hirayama Satoshi, Miyake Noriko, Kon Mika, Horiuchi Yuki, Ueno Tsuyoshi, Miyake Kazunori, Satoh Naotake, Yoshii Hidenori, Yamashiro Keiko, Onuma Tomio, Miida Takashi
Mean postprandial triglyceride concentration is an independent risk factor for carotid atherosclerosis in patients with type 2 diabetes.
Clin Chim Acta 430: 134-139, 2014
116. Nagasaka Hironori, Tsukahara Hirokazu, Okano Yoshiyuki, Hirano Ken-ichi, Sakurai Toshiro, Hui Shu-Ping, Ohura Toshiro, Usui Hiromi, Yorifuji Tohru, Hirayama Satoshi, Ohtake Akira, Miida Takashi
Changes of lipoproteins in phenylalanine hydroxylase-deficient children during the first year of life.
Clin Chim Acta 433: 1-4, 2014
117. Nishioka Emiko, Yokoyama Kazuhito, Matsukawa Takehisa, Vigeh Mohsen, Hirayama Satoshi, Ueno Tsuyoshi, Miida Takashi, Makino Shintaro, Takeda Satoru
Evidence that birth weight is decreased by maternal lead levels below 5µg/dl in male newborns
Reprod Toxicol 47: 21-26, 2014
118. Naho Ikeda, Hiromichi Shoji, Yayoi Murano, Mari Mori, Nobuaki Matsunaga, Hiroki Suganuma, Mitsuru Ikeno, Ken Hisata, Satoshi Hirayama, Tsuyoshi Ueno, Takashi Miida, Toshiaki Shimizu
Effects of breastfeeding on the risk factors for metabolic syndrome in preterm infants
J Dev Orig Health Dis Vol. 5 No. 6: 459-464, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

119. Nobumasa Ohara, Osamu Hanyu, Satoshi Hirayama, Osamu Nakagawa, Yoshifusa Aizawa, Seiki Ito, Hirosato Sone
Hypertension increases urinary excretion of immunoglobulin G, ceruloplasmin and transferrin in normoalbuminuric patients with type 2 diabetes mellitus
Journal of Hypertension, 2014; 32: 432-438
120. Ishijima M, Nakamura T, Shimizu K, Hayashi K, Kikuchi H, Soen S, Omori G, Yamashita T, Uchio Y, Chiba J, Ideno Y, Kubota M, Kurosawa H, Kaneko K, for the Research Group of Cartilage Metabolism
Intra-articular hyaluronic acid injection versus oral non-steroidal anti-inflammatory drug for the treatment of knee osteoarthritis: -a multicenter, randomized, open-label, non-inferiority trial
Arthritis Res Ther, 16, R18, 2014
121. Liu L, Ishijima M, Kaneko H, Futami I, Kurosawa H, Kawasaki T, Kubota M, Yusup A, Sadatsuki R, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K
Disability for daily living is a predictor for joint replacement in patients with end-stage knee osteoarthritis
J Bone Miner Metab, 32, 192-99, 2014
122. Saita Y, Ishijima M, Mogami A, Baba T, Nagao M, Sakai K, Homma Y, Kato R, Miyagawa K, Nagura N, Wada T, Liu L, Obayashi O, Gen H, Kajihara H, Nozawa M, Shitoto K, Kaneko K.
The incidence of and risk factors for developing atypical femoral fractures in Japan
J Bone Miner Metab, Epub 2014 May 23
123. Saita Y, Ishijima M, Mogami A, Baba T, Nagao M, Sakai K, Homma Y, Kato R, Miyagawa K, Nagura N, Wada T, Liu L, Obayashi O, Gen H, Kajihara H, Nozawa M, Shitoto K, Kaneko K
The fracture sites of atypical femoral fractures are associated with the weight-bearing lower limb alignment
Bone, 66, 105-110, 2014
124. Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Kakigi R, Sugiura T, Powers SK, Naito H.
Heat stress protects against mechanical ventilation-induced diaphragmatic atrophy.
J Appl Physiol. 117(5): 518-24, 2014.
125. Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Miura S, Naito H.
Whey peptide ingestion suppresses body fat accumulation in senescence-accelerated mouse prone 6 (SAMP6).
Eur J Nutr. 2014. [Epub ahead of print]
126. Kakigi R, Yoshihara T, Ozaki H, Ogura Y, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Naito H
Whey protein intake after resistance exercise activates mTOR signaling in a dose-dependent manner in human skeletal muscle.
European Journal of Applied Physiology. 114(4): 735-42, 2014
127. Ozaki H, Kakigi R, Kobayashi H, Loenneke JP, Abe T, Naito H.
Effects of walking combined with restricted leg blood flow on mTOR and MAPK signalling in young men.
Acta Physiologica. 211(1): 97-106, 2014
128. Sakamoto A, Naito H, Chow CM.
Hyperventilation as a strategy for improved repeated sprint performance.
J Strength Cond Res. 28 (4): 1119-26 (2014).
129. Akaike K, Kurisaki-Arakawa A, Hara K, Suehara Y, Takagi T, Mitani K, Kaneko K, Yao T,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Saito T.

Distinct clinicopathological features of NAB2-STAT6 fusion gene variants in solitary fibrous tumor with emphasis on the acquisition of highly malignant potential.

Hum Pathol, Epub 2014 Dec 10.

130. Akaike K, Suehara Y, Takagi T, Kaneko K, Saito T
An eggshell-like mineralized recurrent lesion in the popliteal region after treatment of giant cell tumor of the bone with denosumab.
Skeletal Radiology, 2014; 43: 1767-1772
131. Asahina M, Saito T, Arakawa A, Suehara Y, Takagi T, Hisasue S, Kaneko K, Horie S, Yao T.
A case of primary spindle cell variant of embryonal rhabdomyosarcoma of the prostate.
International journal of clinical and experimental pathology
Int J Clin Exp Pathol, 2014; 7(8): 5181-5
132. Baba T, Futamura K, Aoki K, Homma Y, Shitoto K, Kaneko K
Combination of multi- osteosynthesis devices for femoral trochanteric fracture of giantism
Eur Orthop Trauma, 2014; 5: 367-369
133. Baba T, Homma Y, Takazawa N, Kobayashi H, Matsumoto M, Aritomi K, Yuasa T, Kaneko K
Is urinary incontinence the hidden secret complications after total hip arthroplasty?
Eur J Orthop Surg Trauma, 2014; 24: 1455-60
134. Futamura K, Baba T, Kudo T, Homma Y, Yuichiro M, Shitoto K, Kaneko K.
Fixation for the open proximal tibia fracture approached by posteromedian for gastrocnemius flap combined with anterolateral approach.
Eur Orthop Traumatol., 2014 (Epub ahead of print)
135. Homma Y, Kaneko K, Hernigou P
Supercharging allografts with mesenchymal stem cells in operating room during hip revision.
Int orthop, 2014; 38: 2033-44
136. Igeta Y, Naito K, Sugiyama Y, Kaneko K, Obayashi O
Pulmonary thromboembolism after operation for bilateral open distal radius fractures: a case report.
BMC Research Notes, 2014; 7: 36
137. Kawasaki T, Maki N, Shimizu K, Ota C, Urayama S, Moriya S, Kaketa T, Kobayashi H, Kaneko K.
Do stingers affect scapular kinematics in rugby players?
J Shoulder Elbow Surg, 2014; 23: e293-e299
138. Kawasaki T, Ota C, Urayama S, Maki N, Nagayama M, Kaketa T, Takazawa Y, Kaneko K.
Incidence of and risk factors for traumatic anterior shoulder dislocation. An epidemiologic study in high school rugby players.
J Shoulder Elbow Surg, 2014; 23: 1624-1630
139. Kubota M, Ikeda H, Takazawa Y, Ishijima M, Saita Y, Kaneko H, Kim SG, Kurosawa H, Kaneko K
Preoperative assessments completed for anterior cruciate ligament reconstructions with remnant preservation.
J Orthopaedics 2014
140. Kubota M, Ryuichi Ohno, Ishijima M, Hanyu R, Sakai K, Sugawara Y, Ochi H, Mukasa F, Kaneko K
Minimally invasive endoscopic decompression of the intermetatarsal nerve for Morton's

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

neuroma.

J Orthopaedics, 2014; 64: 1-4

141. Kurisaki-Arakawa A, Akaike K, Tomomasa R, Arakawa A, Suehara Y, Takagi T, Kaneko K, Yao T, Saito T.
A case of low-grade fibromyxoid sarcoma with unusual central necrosis in a 77-year-old man confirmed by FUS-CREB3L2 gene fusion.
International Journal of Surgery Case Reports, 2014; 5(12): 1123-1127
142. Kurisaki-Arakawa A, Suehara Y, Arakawa A, Takagi T, Takahashi M, Mitani K, Kaneko K, Yao T, Saito T.
Deeply located low-grade fibromyxoid sarcoma with FUS-CREB3L2 gene fusion in a 5-year-old boy with review of literature
Diagn Pathol, 2014; 9(1): 163
143. Maezawa K, Nozawa M, Yuasa T, Aritomi K, Ogawa S, Maruyama Y, Kaneko K.
Mid-term clinical results of total hip arthroplasty using a Wagner standard cup for dysplastic hip.
Journal of Orthopaedics, 2014; 11: 170-173
144. Maruyama Y, Osawa A, Mamiya Y, Kaneko K
Marked varus deformity due to insufficiency fracture of the proximal tibia treated by open-wedge high tibial osteotomy: A case report
Eur Orthop Traumatol, 2014 (Epub ahead of print)
145. Matsuo T, Watari T, Naito K, Mogami A, Kaneko K, Obayashi O
Percutaneous cerclage wiring for the surgical treatment of displaced patella fractures.
Strat Traum Limb Recon, 2014; 9: 19-23
146. Morikawa D, Itoigawa Y, Nojiri H, Sano H, Itoi E, Saijo Y, Kaneko K, Shimizu T.
Contribution of oxidative stress to the degeneration of rotator cuff entheses.
J Shoulder Elbow Surg, 2014; 23(5): 628-35
147. Mukaihara K, Kubota D, Yoshida A, Asano, Suehara Y, Kaneko K, Kawai A, Kondo T.
Proteomic Profile of Epithelioid Sarcoma.
J Proteomics Bioinform, 2014; 7(7): 158-165
148. Naito K, Sugiyama Y, Igeta Y, Kaneko K, Obayashi O.
Irreducible dislocation of the thumb interphalangeal joint due to displaced flexor pollicis longus tendon: case report and new reduction technique.
Arch Orthop Traum Surg, 2014; 134: 1175-1178
149. Ochi H, Ohno R, Kubota M, Hanyu R, Sakai K, Sugawara Y, Mukasa F, Kaneko K:
Case report: The operation for the lumbar disk herniation just after cesarean delivery in the third trimester of pregnancy.
Int J Surg Case Rep, 2014; 5: 1178–1182
150. Okubo T, Saito T, Takagi T, Suehara Y, Kaneko K
Desmoplastic fibroma of the rib with cystic change: a case report and literature review
Skeletal Radiol, 2014; 43: 703-8
151. Okubo T, Suehara Y, Kawasaki T, Akaike K, Toda M, Okubo N, Kubota D, Mukaihara K, Kim Y, Kaketa T, Homma Y, Shimanouchi N, Saito T, Takagi T and Kaneko K.
An Outpatient-based Survey about the Recognition of Locomotive Syndrome and the Results of the Loco-check at a University Hospital in Tokyo
British Journal of Medicine & Medical Research, 2014; 4: 3255-3268
152. Sugiyama Y, Naito K, Igeta Y, Kaneko K, Obayashi O.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Ulnar para-metacarpal flap for recurrence of the Dupuytren's disease with skin ulcer: A case report.
J Orthop Cas Rep, 2014; 4: 60-63

153. Sugiyama Y, Naito K, Igeta Y, Obata H, Kaneko K, Obayashi O.
Treatment strategy for distal radius fractures with ipsilateral arteriovenous shunts.
J Hand Surg Am, 2014; 39: 2265-2268
154. Toda M, Suehara Y, Akaike K, Okubo T, Kubota D, Mukaihara K, Kaneko K, Yao T, Takagi T, Saito T.
Giant-cell tumor of bone arising in the anterior rib with a positive expression of GPX-1: a case report and review of the literature.
Int Canc Conf J, 2014; 3: 178-182
155. Yuasa T, Yamakawa J, Maezawa K, Kaneko K.
Prospective study on antimicrobial prophylaxis in total hip arthroplasty
Eur J Orthop Surg Traumatol, Sep 21, 2014.

【英文原著 2015 年】

1. Emiko Nishioka, Satoshi Hirayama, Tsuyoshi Ueno, Takehisa Matsukawa, Mohsen Vigh, Kazuhito Yokoyama, Shintaro Makino, Satoru Takeda, Takashi Miida
Relationship between maternal thyroid-stimulating hormone (TSH) elevation during pregnancy and low birth weight: a longitudinal study of apparently healthy urban Japanese women at very low risk
Early Human Development, 2015 Mar;91(3):181-5.
2. Nagasaka H, Hirayama S, Takuwa M, Nakacho M, Yorifuji T, Kondou H, Miida T.
ApoE4 determines the reduction in LDL-C after GH replacement therapy in children with an idiopathic GH deficiency.
J Clin Endocrinol Metab, 2015 Sep;100(9):3494-501.
3. Nishioka E, Hirayama S, Ueno T, Matsukawa T, Vigh M, Makino S, Takeda S, Yokoyama K, Miida T.
High maternal TSH concentration in late pregnancy is an independent predictor of a low birth weight infant.
Early Hum Dev, 2015; 91(3): 181-185
4. Ashihara E, Munaka T, Kimura S, Nakagawa S, Nakagawa Y, Kanai M, Hirai H, Abe H, Miida T, Yamato S, Shoji S, Maekawa T.
Isopentenyl pyrophosphate secreted from zoledronate-stimulated myeloma cells, activates the chemotaxis of $\gamma\delta$ T cells.
Biochem Biophys Res Commun, 2015 Aug 7;463(4):650-5.
5. Tabe Y, Yamamoto T, Maenou I, Nakai R, Idei M, Horii T, Miida T, Ohsaka A.
Performance evaluation of the digital cell imaging analyzer DI-60 integrated into the fully automated Sysmex XN hematology analyser system.
Clin Chem Lab Med, 2015 Feb;53(2):281-9.
6. Tabe Y, Kojima K, Yamamoto S, Sekihara K, Matsushita H, Davis RE, Wang Z, Ma W, Ishizawa J, Kazuno S, Kauffman M, Shacham S, Fujimura T, Ueno T, Miida T, Andreeff M.
Ribosomal biogenesis and translational flux inhibition by the selective inhibitor of nuclear export (SINE) XPO1 antagonist KPT-185.
PLoS One, 2015 ; 10(9): e0137210
7. Mukaida H, Matsushita S, Inotani T, Futaki S, Takano A, Watanabe M, Morita T, Miida T, Amano A.
Peripheral circulation evaluation with Near-Infrared Spectroscopy in skeletal muscle

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- during cardiopulmonary bypass.
Perfusion, 2015 Nov;30(8):653-9.
8. E. Sai, K. Shimada, T. Yokoyama, S. Sato, Y. Nishizaki, T. Miyazaki, M. Hiki, Y. Tamura, S. Aoki, H. Watada, R. Kawamori, H. Daida.
Evaluation of myocardial triglyceride accumulation assessed on 1H-magnetic resonance spectroscopy in apparently healthy Japanese subjects.
Intern Med, 2015; 54 (4): 367-373
 9. T. Watanabe, Y. Tamura, S. Kakehi, T. Funayama, K. Takeno, M. Kawaguchi, L. Yamamoto, F. Sato, S. Ikeda, H. Taka, T. Fujimura, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.
Effects of sitagliptin on ectopic fat contents and glucose metabolism in type 2 diabetic patients with fatty liver: A pilot study.
Journal of Diabetes Investigation, 2015; 6 (2): 164-172
 10. R. Matsuba, K. Sakai, M. Imamura, Y. Tanaka, M. Iwata, H. Hirose, K. Kaku, H. Maegawa, H. Watada, K. Tobe, A. Kashiwagi, R. Kawamori, S. Maeda.
Replication Study in a Japanese Population to Evaluate the Association between 10 SNP Loci, Identified in European Genome-Wide Association Studies, and Type 2 Diabetes.
PLoS One, 2015 May 7;10(5):e0126363.
 11. S. Arakawa, T. Watanabe, H. Sone, Y. Tamura, M. Kobayashi, R. Kawamori, Y. Atsumi, Y. Oshida, S. Tanaka, S. Suzuki, S. Makita, I. Ohsawa, Y. Sato.
The factors that affect exercise therapy for patients with type 2 diabetes in Japan: a nationwide survey.
Diabetol Int, 2015; 6 (1): 19-25
 12. Y. Tosaka, A. Kanazawa, F. Ikeda, M. Iida, J. Sato, K. Matsumoto, T. Uchida, Y. Tamura, T. Ogihara, T. Mita, T. Shimizu, H. Goto, C. Ohmura, Y. Fujitani, H. Watada.
Switching from Twice-Daily Basal Insulin Injections to Once-Daily Insulin Degludec Injection for Basal-Bolus Insulin Regimen in Japanese Patients with Type 1 Diabetes: A Pilot Study.
Int J Endocrinol, 2015; 2015: 176261
 13. P. D. Home, M. P. Dain, N. Freemantle, R. Kawamori, M. Pfohl, S. Brette, V. Pilorget, W. A. Scherbaum, G. Vespasiani, M. Vincent, B. Balkau
Four-year evolution of insulin regimens, glycaemic control, hypoglycaemia and body weight after starting insulin therapy in type 2 diabetes across three continents.
Diabetes Res Clin Pract, 2015 May;108(2):350-9.
 14. S. Teramukai, Y. Okuda, S. Miyazaki, R. Kawamori, M. Shirayama, T. Teramoto.
Dynamic prediction model and risk assessment chart for cardiovascular disease based on on-treatment blood pressure and baseline risk factors.
Hypertens Res, 2016 Feb;39(2):113-8.
 15. H. Iida, T. Ogihara, M. Min, A. Hara, Y. Kim, K. Fujimaki, M. Tamaki, Y. Fujitani, H. Kim, H. Watada.
Expression mechanism of tryptophan hydroxylase 1 in mouse islets during pregnancy.
Journal of molecular endocrinology, 2015 Aug;55(1):41-53.
 16. H. Ohmura, T. Mita, Y. Taneda, M. Sugawara, H. Funayama, J. Matsuoka, H. Watada, H. Daida.
Efficacy and Safety of Sitagliptin in Japanese Patients With Type 2 Diabetes.
J Clin Med Res, 2015 Apr; 7(4): 211-219.
 17. M. Tanimoto, A. Kanazawa, T. Hirose, T. Yoshihara, S. Kobayashi-Kimura, R. Nakanishi, Y. Tosaka, R. Sasaki-Omote, K. Kudo-Fujimaki, K. Komiya, F. Ikeda, Y. Someya, T. Mita, Y. Fujitani, H. Watada.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Comparison of sitagliptin with nateglinide on postprandial glucose and related hormones in drug-naïve Japanese patients with type 2 diabetes mellitus : A pilot study.
J Diabetes Investig, 2015 Sep; 6(5): 560–566
18. S. Sasaki, T. Miyatsuka, T. Matsuoka, M. Takahara, Y. Yamamoto, T. Yasuda, H. Kaneto, Y. Fujitani, M. German, H. Akiyama, H. Watada, I. Shimomura.
Activation of GLP-1 and gastrin signalling induces in vivo reprogramming of pancreatic exocrine cells into beta cells in mice.
Diabetologia, 2015 Nov; 58(11): 2582–91.
 19. Y. Osonoi, T. Mita, T. Osonoi, M. Saito, A. Tamasawa, S. Nakayama, Y. Someya, H. Ishida, A. Kanazawa, M. Gosho, Y. Fujitani, H. Watada.
Poor sleep quality is associated with increased arterial stiffness in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.
BMC Endocr Disord, 2015 Jun 18; 15:29.
 20. K. Nakajima, T. Mita, Y. Osonoi, K. Azuma, T. Takasu, Y. Fujitani, H. Watada.
Effect of Repetitive Glucose Spike and Hypoglycaemia on Atherosclerosis and Death Rate in Apo E-Deficient Mice.
Int J Endocrinol, 2015; 2015, 406394
 21. T. Kawata, M. Daimon, S. Miyazaki, R. Ichikawa, M. Maruyama, S. Chiang, C. Ito, F. Sato, H. Watada, H. Daida.
Coronary microvascular function is independently associated with left ventricular filling pressure in patients with type 2 diabetes mellitus.
Cardiovasc Diabetol, 2015 Aug 5; 14:98.
 22. K. Fujimaki, T. Ogihara, D. Morris, H. Oda, H. Iida, Y. Fujitani, R. Mirmira, C. Evans-Molina, H. Watada.
SET7/9 Enzyme Regulates Cytokine-induced Expression of Inducible Nitric-oxide Synthase through Methylation of Lysine 4 at Histone 3 in the Islet β Cell.
J Biol Chem, 2015 Jul 3; 290(27): 16607–16618.
 23. M. Enomoto, H. Yoshii, T. Mita, H. Sanke, A. Yokota, K. Yamashiro, N. Inagaki, M. Gosho, C. Ohmura, K. Kudo, H. Watada, T. Onuma.
Relationship between dietary pattern and cognitive function in elderly patients with type 2 diabetes mellitus.
J Int Med Res, 2015 Aug; 43(4): 506–17.
 24. J. Weng, S. Soegondo, O. Schnell, W. Sheu, W. Grzeszczak, H. Watada, N. Yamamoto, S. Kalra.
Efficacy of acarbose in different geographical regions of the world: analysis of a real-life database.
Diabetes Metab Res Rev, 2015 Feb; 31(2): 155–67.
 25. Yoshihara N, Ueno T, Takagi A, Trejo JA, Haruna K, Suga Y, Komatsu M, Tanaka K, Ikeda S
The significant role of autophagy in the granular layer in normal skin differentiation and hair growth.
Arch Dermatol Res, 2015 Mar; 307(2): 159–69.
 26. Ylä-Anttila P, Mikkonen E, Happonen KE, Holland P, Ueno T, Simonsen A, Eskelinen EL
RAB24 facilitates clearance of autophagic compartments during basal conditions.
Autophagy, 2015; 11(10): 1833–48.
 27. Takagi M, Uno H, Nishi R, Sugimoto M, Hasegawa S, Piao J, Ihara N, Kanai S, Kakehi S, Tamura Y, Suganami T, Kamei Y, Shimizu T, Yasuda A, Ogawa Y, Mizutani S.
ATM Regulates Adipocyte Differentiation and Contributes to Glucose Homeostasis.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Cell Rep. 2015 Feb 11. pii: S2211-1247(15)00052-2.

28. Kamagata K, Shimoji K, Hori M, Nishikori A, Tsuruta K, Yoshida M, Kamiya K, Irie R, Suzuki M, Kyogoku S, Suzuki Y, Sato N, Aoki S
Intersite Reliability of Diffusion Tensor Imaging on Two 3T Scanners.
Magn Reson Med Sci. 2015;14(3):227-33.
29. Irie R, Suzuki M, Yamamoto M, Takano N, Suga Y, Hori M, Kamagata K, Takayama M, Yoshida M, Sato S, Hamasaki N, Oishi H, Aoki S
Assessing Blood Flow in an Intracranial Stent: A Feasibility Study of MR Angiography Using a Silent Scan after Stent-Assisted Coil Embolization for Anterior Circulation Aneurysms.
AJNR Am J Neuroradiol. 2015 May;36(5):967-70.
30. Goto M, Abe O, Aoki S, Hayashi N, Miyati T, Takao H, Matsuda H, Yamashita F, Iwatsubo T, Mori H, Kunimatsu A, Ino K, Yano K, Ohtomo K
Influence of Parameter Settings in Voxel-based Morphometry 8. Using DARTEL and Region-of-interest on Reproducibility in Gray Matter Volumetry.
Methods Inf Med. 2015;54(2):171-8.
31. Goto M, Abe O, Aoki S, Hayashi N, Ohtsu H, Takao H, Miyati T, Matsuda H, Yamashita F, Iwatsubo T, Mori H, Kunimatsu A, Ino K, Yano K, Ohtomo K.
Longitudinal gray-matter volume change in the default-mode network: utility of volume standardized with global gray-matter volume for Alzheimer's disease: a preliminary study.
Radiol Phys Technol. 2015 Jan;8(1):64-72.
32. Katagiri N, Pantelis C, Nemoto T, Zalesky A, Hori M, Shimoji K, Saito J, Ito S, Dwyer DB, Fukunaga I, Morita K, Tsujino N, Yamaguchi T, Shiraga N, Aoki S, Mizuno M
A longitudinal study investigating sub-threshold symptoms and white matter changes in individuals with an 'at risk mental state' (ARMS).
Schizophr Res. 2015 Mar;162(1-3):7-13.
33. Kerever A, Kamagata K, Yokosawa S, Otake Y, Ochi H, Yamada T, Hori M, Kamiya K, Nishikori A, Aoki S, Arikawa-Hirasawa E
See-through Brains and Diffusion Tensor MRI Clarified Fiber Connections: A Preliminary Microstructural Study in a Mouse with Callosal Agenesis.
Magn Reson Med Sci. 2015;14(2):159-62.
34. Runge VM, Aoki S, Bradley WG, Jr., Chang KH, Essig M, Ma L, Ross JS, Valavanis A
Magnetic Resonance Imaging and Computed Tomography of the Brain-50 Years of Innovation, With a Focus on the Future.
Invest Radiol. 2015 Sep;50(9):551-6.
35. Tachibana Y, Obata T, Yoshida M, Hori M, Kamagata K, Suzuki M, Fukunaga I, Kamiya K, Yokoyama K, Hattori N, Inoue T, Aoki S
Analysis of normal-appearing white matter of multiple sclerosis by tensor-based two-compartment model of water diffusion.
Eur Radiol. 2015 Jun;25(6):1701-7.
36. Fusegi K, Yoritaka A, Hattori N, Mori H.
Automatic behavior in Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2015 Jan;21(1):84-5.
37. Ueno S, Miyamoto N, Shimura H, Ueno Y, Watanabe M, Hayashi A, Hattori N, Urabe T.
Successful immune moderation treatment for progressive encephalomyelitis with rigidity and myoclonus.
Intern Med. 2015;54(2):219-21.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

38. Shimo Y, Nishina K, Hatano T, Hattori N.
Sensory tricks for isolated speech-induced lingual dystonia.
BMJ Case Rep. 2015 Mar 5;2015. pii:bcr2014208272.
39. Nishikawa N, Shimo Y, Wada M, Hattori N, Kitazawa S.
Effects of aging and idiopathic Parkinson's disease on tactile temporal order judgment.
PLoS One. 2015 Mar 11;10(3):e0118331.
40. Noda K, Hattori N, Okuma Y.
Hemiballism with leg predominance caused by contralateral subthalamic haemorrhage.
BMJ Case Rep. 2015 Apr 9;2015. pii:bcr2014208525.
41. Kawajiri S, Noda K, Ikeda A, Koinuma T, Tomizawa Y, Hattori N, Okuma Y.
Low dose of clonazepam is effective in the treatment of painless legs and moving toes syndrome: a case report.
Case Rep Neurol. 2015 Mar 21;7(1):59-62.
42. Kino Y, Washizu C, Kurosawa M, Yamada M, Miyazaki H, Akagi T, Hashikawa T, Doi H, Takumi T, Hicks GG, Hattori N, Shimogori T, Nukina N.
FUS/TLS deficiency causes behavioral and pathological abnormalities distinct from amyotrophic lateral sclerosis.
Acta Neuropathol Commun. 2015 Apr 25;3:24.
43. Ueno S, Sekimoto-Tsuboi S, Ishiguro Y, Koinuma T, Eguchi H, Machida Y, Hattori N, Miwa H.
Good's syndrome with opportunistic infection of the central nervous system: a case report.
BMC Neurol. 2015 Aug 25;15:150.
44. Tomizawa Y, Okuzumi A, Shiotsuki H, Noda K, Hattori N, Okuma Y.
A Patient with the GLA p.E66Q Mutation Exhibiting Vascular Parkinsonism and Bilateral Pulvinar Lesions.
Intern Med. 2015;54(19):2503-6.
45. Ueno S, Tsuboi S, Fujimaki M, Eguchi H, Machida Y, Hattori N, Miwa H.
Acute psychosis as an initial manifestation of hypothyroidism: a case report.
J Med Case Rep. 2015 Nov 17;9:264.
46. Tomizawa Y, Hoshino Y, Sasaki F, Kurita N, Kawajiri S, Noda K, Hattori N, Amemura-Maekawa J, Kura F, Okuma Y.
Diagnostic Utility of Splenic Lesions in a Case of Legionnaires' Disease due to Legionella pneumophila Serogroup 2.
Intern Med. 2015;54(23):3079-82.
47. Tanaka R, Yamashiro K, Okuma Y, Shimura H, Nakamura S, Ueno Y, Tanaka Y, Miyamoto N, Tomizawa Y, Nakahara T, Furukawa Y, Watada H, Kawamori R, Hattori N, Urabe T.
Effects of Pioglitazone for Secondary Stroke Prevention in Patients with Impaired Glucose Tolerance and Newly Diagnosed Diabetes: The J-SPIRIT Study.
J Atheroscler Thromb. 2015 Dec 1;22(12):1305-16.
48. Kino Y, Washizu C, Kurosawa M, Oma Y, Hattori N, Ishiura S, Nukina N.
Nuclear localization of MBNL1: splicing-mediated autoregulation and repression of repeat-derived aberrant proteins.
Hum Mol Genet. 2015 Feb 1;24(3):740-56.
49. Tanaka Y, Ueno Y, Shimada Y, Yamashiro K, Tanaka R, Urabe T, Hattori N.
Paradoxical brain embolism associated with Kimura disease mimics watershed infarction.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2015 Feb;24(2):e55-7

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

50. Kurosawa M, Matsumoto G, Kino Y, Okuno M, Kurosawa-Yamada M, Washizu C, Taniguchi H, Nakaso K, Yanagawa T, Warabi E, Shimogori T, Sakurai T, Hattori N, Nukina N.
Depletion of p62 reduces nuclear inclusions and paradoxically ameliorates disease phenotypes in Huntington's model mice.
Hum Mol Genet. 2015 Feb 15;24(4):1092-105
51. Yamashiro K, Funabe S, Tanaka R, Fukumura Y, Takanashi M, Yao T, Hattori N.
Primary aortic sarcoma: a rare but critical cause of stroke. Neurology. 2015 Feb 17;84(7):755-6.
52. Asano T, Koike M, Sakata S, Takeda Y, Nakagawa T, Hatano T, Ohashi S, Funayama M, Yoshimi K, Asanuma M, Toyokuni S, Mochizuki H, Uchiyama Y, Hattori N, Iwai K.
Possible involvement of iron-induced oxidative insults in neurodegeneration.
Neurosci Lett. 2015 Feb 19;588:29-35.
53. Funayama M, Ohe K, Amo T, Furuya N, Yamaguchi J, Saiki S, Li Y, Ogaki K, Ando M, Yoshino H, Tomiyama H, Nishioka K, Hasegawa K, Saiki H, Satake W, Mogushi K, Sasaki R, Kokubo Y, Kuzuhara S, Toda T, Mizuno Y, Uchiyama Y, Ohno K, Hattori N.
CHCHD2 mutations in autosomal dominant late-onset Parkinson's disease: a genome-wide linkage and sequencing study.
Lancet Neurol. 2015 Mar;14(3):274-82.
54. Ueno Y, Koike M, Shimada Y, Shimura H, Hira K, Tanaka R, Uchiyama Y, Hattori N, Urabe T.
L-carnitine enhances axonal plasticity and improves white-matter lesions after chronic hypoperfusion in rat brain.
J Cereb Blood Flow Metab. 2015 Mar;35(3):382-91.
55. Matsuo H, Tomiyama H, Satake W, Chiba T, Onoue H, Kawamura Y, Nakayama A, Shimizu S, Sakiyama M, Funayama M, Nishioka K, Shimizu T, Kaida K, Kamakura K, Toda T, Hattori N, Shinomiya N.
ABCG2 variant has opposing effects on onset ages of Parkinson's disease and gout.
Ann Clin Transl Neurol. 2015 Mar;2(3):302-6.
56. Yatomi Y, Tanaka R, Shimada Y, Yamashiro K, Liu M, Mitome-Mishima Y, Miyamoto N, Ueno Y, Urabe T, Hattori N.
Type 2 diabetes reduces the proliferation and survival of oligodendrocyte progenitor cells in ischemic white matter lesions.
Neuroscience. 2015 Mar 19;289:214-23.
57. Ueno Y, Yamashiro K, Tanaka Y, Watanabe M, Miyamoto N, Shimada Y, Kuroki T, Tanaka R, Miyauchi K, Daida H, Hattori N, Urabe T.
Rosuvastatin may stabilize atherosclerotic aortic plaque: transesophageal echocardiographic study in the EPISTEME trial.
Atherosclerosis. 2015 Apr;239(2):476-82.
58. Urabe T, Mitome-Mishima Y, Miyamoto N, Tanaka R, Shimosawa T, Oishi H, Arai H, Hattori N.
Adrenomedullin provide protective effects against aging and ischemic white matter injury in mice brain
Int J Stroke 2015, 10:199
59. Mitsui J, Matsukawa T, Sasaki H, Yabe I, Matsushima M, Dürr A, Brice A, Takashima H, Kikuchi A, Aoki M, Ishiura H, Yasuda T, Date H, Ahsan B, Iwata A, Goto J, Ichikawa Y, Nakahara Y, Momose Y, Takahashi Y, Hara K, Kakita A, Yamada M, Takahashi H, Onodera O, Nishizawa M, Watanabe H, Ito M, Sobue G, Ishikawa K, Mizusawa H, Kanai K, Hattori T, Kuwabara S, Arai K, Koyano S, Kuroiwa Y, Hasegawa K, Yuasa T, Yasui K, Nakashima

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- K, Ito H, Izumi Y, Kaji R, Kato T, Kusunoki S, Osaki Y, Horiuchi M, Kondo T, Murayama S, Hattori N, Yamamoto M, Murata M, Satake W, Toda T, Filla A, Klockgether T, Wüllner U, Nicholson G, Gilman S, Tanner CM, Kukull WA, Stern MB, Lee VM, Trojanowski JQ, Masliah E, Low PA, Sandroni P, Ozelius LJ, Foroud T, Tsuji S.
Variants associated with Gaucher disease in multiple system atrophy.
Ann Clin Transl Neurol. 2015 Apr;2(4):417-26.
60. Nishioka K, Oyama G, Yoshino H, Li Y, Matsushima T, Takeuchi C, Mochizuki Y, Mori-Yoshimura M, Murata M, Yamasita C, Nakamura N, Konishi Y, Ohi K, Ichikawa K, Terada T, Obi T, Funayama M, Saiki S, Hattori N.
High frequency of beta-propeller protein-associated neurodegeneration (BPAN) among patients with intellectual disability and young-onset parkinsonism.
Neurobiol Aging. 2015 May;36(5):2004.e9-2004.e15.
61. Kobayashi M, Tanaka R, Yamashiro K, Ueno Y, Kato E, Miura S, Daida H, Hattori N.
Pre-existing Mobile Cardiac Thrombus and the Risk of Early Recurrent Embolism after Intravenous Thrombolysis: A Case Report.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2015 Jun;24(6):e161-3.
62. Shimo Y, Nakajima A, Hattori N.
Dopamine agonist withdrawal syndrome in a patient with restless legs syndrome without impulse control disorder or drug abuse.
Neurol Sci. 2015 Jun;36(6):1021-3.
63. Fuse A, Furuya N, Kakuta S, Inose A, Sato M, Koike M, Saiki S, Hattori N.
VPS29-VPS35 intermediate of retromer is stable and may be involved in the retromer complex assembly process.
FEBS Lett. 2015 Jun 4;589(13):1430-6.
64. Funayama M, Hattori N.
CHCHD2 and Parkinson's disease--authors' reply.
Lancet Neurol. 2015 Jul;14(7):682-3.
65. Fujimaki M, Kawajiri S, Ichikawa K, Tomizawa Y, Nakazato T, Noda K, Hattori N, Koike M, Okuma Y.
Lymphomatoid Granulomatosis with Central Nervous System Involvement Successfully Treated with Cyclophosphamide, High-dose Cytarabine, Dexamethasone, Etoposide, and Rituximab (CHASER therapy) Followed by Brain Irradiation: A Case Study.
CNS Neurosci Ther. 2015 Jul;21(7):610-2.
66. Vaikath NN, Majbour NK, Paleologou KE, Ardah MT, van Dam E, van de Berg WD, Forrest SL, Parkkinen L, Gai WP, Hattori N, Takanashi M, Lee SJ, Mann DM, Imai Y, Halliday GM, Li JY, El-Agnaf OM.
Generation and characterization of novel conformation-specific monoclonal antibodies for α -synuclein pathology.
Neurobiol Dis. 2015 Jul;79:81-99.
67. Takahashi M, Ikeda J, Tomida T, Hirata K, Hattori N, Inoue Y.
Daytime symptoms of restless legs syndrome--clinical characteristics and rotigotine effectiveness.
Sleep Med. 2015 Jul;16(7):871-6.
68. Fukae J, Higuchi MA, Yanamoto S, Fukuhara K, Tsugawa J, Ouma S, Hatano T, Yoritaka A, Okuma Y, Kashihara K, Hattori N, Tsuboi Y.
Utility of the Japanese version of the 9-item Wearing-off Questionnaire.
Clin Neurol Neurosurg. 2015 Jul;134:110-5.
69. Matsumoto G, Shimogori T, Hattori N, Nukina N.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- TBK1 controls autophagosomal engulfment of polyubiquitinated mitochondria through p62/SQSTM1 phosphorylation
Hum Mol Genet. 2015 Aug 1;24(15):4429-42.
70. Yoritaka A, Kawajiri S, Yamamoto Y, Nakahara T, Ando M, Hashimoto K, Nagase M, Saito Y, Hattori N.
Randomized, double-blind, placebo-controlled pilot trial of reduced coenzyme Q10 for Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2015 Aug;21(8):911-6.
 71. Yamashiro K, Tanaka R, Hoshino Y, Hatano T, Nishioka K, Hattori N.
The prevalence and risk factors of cerebral microbleeds in patients with Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2015 Sep;21(9):1076-81.
 72. Noda K, Kawajiri S, Tomizawa Y, Hattori N, Okuma Y.
Pisa syndrome in progressive supranuclear palsy: A case report.
Parkinsonism Relat Disord. 2015 Sep;21(9):1115-6.
 73. Imai Y, Kobayashi Y, Inoshita T, Meng H, Arano T, Uemura K, Asano T, Yoshimi K, Zhang CL, Matsumoto G, Ohtsuka T, Kageyama R, Kiyonari H, Shioi G, Nukina N, Hattori N, Takahashi R.
The Parkinson's Disease-Associated Protein Kinase LRRK2 Modulates Notch Signaling through the Endosomal Pathway.
PLoS Genet. 2015 Sep 10;11(9):e1005503.
 74. Bhidayasiri R, Jitkrisadikul O, Boonrod N, Sringean J, Calne SM, Hattori N, Hayashi A.
What is the evidence to support home environmental adaptation in Parkinson's disease? A call for multidisciplinary interventions.
Parkinsonism Relat Disord. 2015 Oct;21(10):1127-32.
 75. Noda K, Nakajima S, Sasaki F, Ito Y, Kawajiri S, Tomizawa Y, Hattori N, Yamamoto T, Okuma Y.
Middle Cerebral Artery Occlusion Presenting as Upper Limb Monochorea.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2015 Oct;24(10):e291-3.
 76. Wang, Lisa; Aasly, Jan O.; Annesi, Grazia; Bardien, Soraya; Bozi, Maria; Brice, Alexis; Carr, Jonathan; Chung, Sun J.; Clarke, Carl; Crosiers, David; Deuschlaender, Angela; Eckstein, Gertrud; Farrer, Matthew J.; Goldwurm, Stefano; Garraux, Gaetan; Hadjigeorgiou, Georgios M.; Hicks, Andrew A.; Hattori, Nobutaka; Klein, Christine; Jeon, Beom; Kim, Yun J.; Lesage, Suzanne; Lin, Juei-Jueng; Lynch, Timothy; Lichtner, Peter; Lang, Anthony E.; Mok, Vincent; Jasinska-Myga, Barbara; Mellick, George D.; Morrison, Karen E.; Opala, Grzegorz; Pihlstrom, Lasse; Pramstaller, Peter P.; Park, Sung S.; Quattrone, Aldo; Rogaeva, Ekaterina; Ross, Owen A.; Stefanis, Leonidas; Stockton, Joanne D.; Silburn, Peter A.; Theuns, Jessie; Tan, Eng K.; Tomiyama, Hiroyuki; Toft, Mathias; Van Broeckhoven, Christine; Uitti, Ryan J.; Wirdefeldt, Karin; Wszolek, Zbigniew; Xiromerisiou, Georgia; Yueh, Kuo-Chu; Zhao, Yi; Gasser, Thomas; Maraganore, Demetrius M.; Krueger, Rejko; Sharma, Manu
Large-scale assessment of polyglutamine repeat expansions in Parkinson disease.
Neurology. 2015 Oct 13;85(15):1283-92.
 77. Nomoto M, Kubo S, Nagai M, Yamada T, Tamaoka A, Tsuboi Y, Hattori N; PD Study Group.
A Randomized Controlled Trial of Subcutaneous Apomorphine for Parkinson Disease: A Repeat Dose and Pharmacokinetic Study.
Clin Neuropharmacol. 2015 Nov-Dec;38(6):241-7.
 78. Bhidayasiri R, Hattori N, Jeon B, Chen RS, Lee MK, Bajwa JA, Mok VC, Zhang B, Syamsudin T, Tan LC, Jamora RD, Pisarnpong A, Poewe W.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Asian perspectives on the recognition and management of levodopa 'wearing-off' in Parkinson's disease.
Expert Rev Neurother. 2015;15(11):1285-97.
79. Matsumoto SE, Motoi Y, Ishiguro K, Tabira T, Kametani F, Hasegawa M, Hattori N.
The twenty-four KDa C-terminal tau fragment increases with aging in tauopathy mice: implications of prion-like properties.
Hum Mol Genet. 2015 Nov 15;24(22):6403-16.
80. Noda K, Tosaka Y, Ishiguro Y, Kawajiri S, Tomizawa Y, Hattori N, Okuma Y.
Delayed chorea after recovery from severe akinetic-rigid parkinsonism caused by extrapontine myelinolysis
J Neurol Sci. 2015 Nov 15;358(1-2):498-500.
81. Ogaki K, Koga S, Heckman MG, Fiesel FC, Ando M, Labbé C, Lorenzo-Betancor O, Moussaud-Lamodière EL, Soto-Ortolaza AI, Walton RL, Strongosky AJ, Uitti RJ, McCarthy A, Lynch T, Siuda J, Opala G, Rudzinska M, Krygowska-Wajs A, Barcikowska M, Czyzewski K, Puschmann A, Nishioka K, Funayama M, Hattori N, Parisi JE, Petersen RC, Graff-Radford NR, Boeve BF, Springer W, Wszolek ZK, Dickson DW, Ross OA.
Mitochondrial targeting sequence variants of the CHCHD2 gene are a risk for Lewy body disorders.
Neurology. 2015 Dec 8;85(23):2016-25.
82. Hatano T, Kurita N, Kobayashi M, Hattori N.
Teaching Video NeuroImages: Re-emergent jaw tremor in Parkinson disease.
Neurology. 2015 Dec 8;85(23):e181.
83. Ueno Y, Tanaka R, Yamashiro K, Shimada Y, Kuroki T, Hira K, Urabe T, Hattori N.
Impact of BNP on cryptogenic stroke without potential embolic sources on transesophageal echocardiography.
J Neurol Sci. 2015 Dec 15;359(1-2):287-92.
84. Sai E, Shimada K, Yokoyama T, Sato S, Nishizaki Y, Miyazaki T, Hiki M, Tamura Y, Aoki S, Watada H, Kawamori R, Daida H.
Evaluation of myocardial triglyceride accumulation assessed by 1H-magnetic resonance spectroscopy in apparently healthy Japanese subjects.
Intern Med. 54:367-373;2015
85. Akita K, Isoda K, Shimada K, Daida H.
Dipeptidyl-peptidase-4 inhibitor, alogliptin, attenuates arterial inflammation and neointimal formation after injury in low-density lipoprotein (LDL) receptor-deficient mice.
J Am Heart Assoc. 4:e001469;2015.
86. Sakamoto A, Naito H, Chow CM.
Hyperventilation-induced respiratory alkalosis falls short of countering fatigue during repeated maximal isokinetic contractions.
Eur J of Appl Physiol., 2015; 115 (7), 1453-1465
87. Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Tsuzuki T, Sugiura T, Powers SK, Naito H.
Repeated exposure to heat stress results in a diaphragm phenotype that resists ventilator-induced diaphragm dysfunction.
J Appl Physiol (1985)., 2015; 119(9):1023-1031
88. Yoshihara T, Sugiura T, Yamamoto Y, Shibaguchi T, Kakigi R, Naito H.
The response of apoptotic and proteolytic systems to repeated heat stress in atrophied rat skeletal muscle.
Physiol Rep., 2015; 3(10): e12597

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

89. Kitada T, Machida S, Naito H.
Influence of muscle fibre composition on muscle oxygenation during maximal running.
BMJ Open Sport Exerc Med., 2015; 1: e000062
90. Ishihara Y, Naito H, Ozaki H, Yoshimura M.
Aerobic Fitness Relation to Match Performance of Japanese Soccer Referees.
Football Science, 2015; 12: 91-97
91. Natsume T, Ozaki H, Saito AI, Abe T, Naito H.
Effects of Electrostimulation with Blood Flow Restriction on Muscle Size and Strength.
Med Sci Sports Exerc., 2015; 47(12): 2621-7
92. Fuku N, He ZH, Sanchis-Gomar F, Pareja-Galeano H, Tian Y, Arai Y, Abe Y, Murakami H, Miyachi M, Zempo H, Naito H, Yvert T, Verde Z, Venturini L, Fiuza-Luces C, Santos-Lozano A, Rodriguez-Romo G, Ricevuti G, Hirose N, Emanuele E, Garatachea N, Lucia A.
Exceptional longevity and muscle and fitness related genotypes: a functional in vitro analysis and case-control association replication study with SNPs THRH rs7832552, IL6 rs1800795, and ACSL1 rs6552828.
Front Aging Neurosci., 2015; 4(7): 59
93. Abulaiti A, Kamagata K, Motoi Y, Hori M, Hattori N, Aoki S.
Nigrostriatal degeneration in Parkinson Disease: Evaluation by diffusion tensor tract-specific analysis
Open Journal of Radiology, 2015;5,199
94. Akita K, Isoda K, Shimada K, Daida H
Dipeptidyl-peptidase-4 inhibitor, alogliptin, attenuates arterial inflammation and neointimal formation after injury in low-density lipoprotein (LDL) receptor-deficient mice.
J Am Heart Assoc, 2015; 4: e001469
95. Naito R, Miyauchi K, Ogita M, Tsuboi S, Konishi H, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Clinical outcomes following percutaneous coronary intervention before and after introduction of drug-eluting stent
Cardiovasc Interv Ther, 2015; 30: 338-46
96. Konishi H, Miyauchi K, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Impact of the HAS-BLED Score on Long-Term Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention
Am J Cardiol, 2015; 116: 527-531
97. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Sai E, Fukushima Y, Katoh Y, Okai I, Tamura H, Okazaki S, Daida H.
Impact of lipoprotein(a) as residual risk on long-term outcomes in patients after percutaneous coronary intervention.
Am J Cardiol. 2015; 115: 157-160.
98. Ogita M, Miyauchi K, Kasai T, Doi S, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Daida H.
Impact of preprocedural high-sensitive C-reactive protein levels on long-term clinical outcomes of patients with stable coronary artery disease and chronic kidney disease who were treated with drug-eluting stents.
J Cardiol. 2015; 66: 15-21.
99. Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Konishi H, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Suwa S, Daida H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Impact of combined C-reactive protein and high-density lipoprotein cholesterol levels on long-term outcomes in patients with coronary artery disease after a first percutaneous coronary intervention
Am J Cardiol. 2015; 116: 999-1002.

100.Naito R, Miyauchi K, Ogita M, Tsuboi S, Konishi H, Okai I, Tamura H, Kasai T, Okazaki S, Daida H.
Comparison of long-term clinical outcomes between sirolimus- and paclitaxel-eluting stents in real-world clinical practice.
Heart Vessels. 2015; 30: 746-751.

101.Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Temporal trends in the Clinical Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention from 1984 to 2010 -Report from the Juntendo PCI Registry-
Circ J. 2015; 80: 93-100.

102.Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Gender difference in long-term clinical outcomes following percutaneous coronary intervention during 1984 – 2008.
Atherosclerosis. 2015; 247: 105-110.

103.Fujimoto S, Kondo T, Takamura K, Kawaguchi Y, Matsumori R, Hiki M, Miyauchi K, Daida H.
Plaque Characteristics of Consecutive 31 Cases Which Cause Acute Myocardial Infarction on Coronary Computed Tomography Angiography.
J Jpn Coron Assoc 2015; 21: 287- 295

104.Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Okazaki S, Daida H.
Early Definite Stent Thrombosis with Everolimus-eluting Stents.
Clinical Case Reports 2015; 3: 854

105.Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Gender difference in long-term clinical outcomes following percutaneous coronary intervention during 1984 - 2008
Atherosclerosis, 2015; 247: 105

106.Mizuno A, Miyauchi K, Nishizaki Y, Yamazoe M, Komatsu I, Asano T, Mitsuhashi H, Nishi Y, Niwa K, Daida H
Impact of the augmentation time ratio on direct measurement of central aortic pressure in the presence of coronary artery disease
Hypertens Res, 2015; 38: 684-9

107.Dai Y, Takagi A, Konishi H, Miyazaki T, Masuda H, Shimada K, Miyauchi K, Daida H.
Long-term outcomes of rotational atherectomy in coronary bifurcation lesions.
Exp Ther Med. 2015 Dec;10(6):2375-2383. Epub 2015 Oct 19.

108.Kobayashi K, Nojiri H, Saita Y, Morikawa D, Ozawa Y, Watanabe K, Koike M, Asou Y, Shirasawa T, Yokote K, Kaneko K, Shimizu T
Mitochondrial superoxide in osteocytes perturbs canalicular networks in the setting of age-related osteoporosis.
Sci Rep. 2015 Mar 16;5:9148.

109.Maruyama Y, Osawa A, Mamiya Y, Kaneko K
Marked varus deformity due to insufficiency fracture of the proximal tibia treated by open-wedge high tibial osteotomy: A case report.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Eur Orthop Traumatol, 6:281-285, 2015

110. Maezawa K, Nozawa M, Yuasa T, Maruyama Y, Kaneko K.
Liner dissociation due to locking mechanism failure in metal-on-metal total hip arthroplasty using an APR cup.
Minerva Orthopeda e traumatologica 66: 151-152, 2015
111. Yuasa T, Yamakawa J, Maezawa K, Kaneko K.
Prospective study on antimicrobial prophylaxis in total hip arthroplasty.
Eur J Orthop Surg Traumatol 25: 1057-60, 2015
112. Baba T, Homma Y, Momomura R, Kobayashi H, Matsumoto M, Futamura K, Mogami A, Kanda A, Morohashi I, Kaneko K.
New classification focusing on implant designs useful for setting therapeutic strategy for periprosthetic femoral fracture
Int Ortopaedics 2015; 39: 1-5
113. Baba T, Homma Y, Ochi H, Kobayashi H, Matsumoto M, Sakamoto Y, Kuwahara H, Maeda K, Kaneko K.
Higher reliability and validity of Baba classification with CT imaging and implant information for the periprosthetic femoral fractures
Int Ortopaedics 2015;39(9):1695-1699
114. Baba T, Homma Y, Morohashi I, Maruyama Y, Shitoto K, Kaneko K
Is internal fixation using a reversed condylar locking plate useful for treating Vancouver type B1 periprosthetic femoral fractures?
Eur Orthop Traumatol 2015; 6(3), 137-143
115. Homma Y, Baba T, Ishii S, Matsumoto M, Kaneko K.
Avulsion fracture of the lesser trochanter in a skeletally immature freestyle footballer
J Pediatric Orthop B 2015;24(4):304-307
116. Homma Y, Baba T, Goto K, Maruyama Y, Kaneko K
Epidermolysis bullosa acquisita of MRSA skin carrier: A case of successful total hip arthroplasty
Hip International 2015: 25(3):282-285
117. Matsumoto M, Baba T, Homma Y, Kobayashi H, Ochi H, Yuasa T, Kaneko K.
Validation study of the Forgotten Joint Score-12 as a universal patient-reported outcome measure.
Euro J Orthop Surg Trauma 2015;25(7):1141-1145
118. Akaike K, Suehara Y, Takagi T, Kaneko K, Yamashita A, Yao T, Saito T.
Case Report Spindle cell lipoma of the wrist, occurring in a distinctly rare location: a case report with review of literature
International Journal of Clinical and Experimental Pathology, 2015, 8(3), 3299
119. Akaike K, Kurisaki-Arakawa A, Hara K, Suehara Y, Takagi T, Mitani K, Kaneko K, Yao T, Saito T
Distinct clinicopathological features of NAB2-STAT6 fusion gene variants in solitary fibrous tumor with emphasis on the acquisition of highly malignant potential
Human pathology, 2015, 46(3), 347-356
120. Akaike K, Toda-Ishii M, Suehara Y, Mukaihara K, Kubota D, Mitani K, Takagi T, Kaneko K, Yao T, Saito T.
TERT promoter mutations are a rare event in gastrointestinal stromal tumors
SpringerPlus, 2015, 4(1), 1-8

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

121. Keisuke Akaike · Yoshiyuki Suehara · Tatsuya Takagi · Kazuo Kaneko · Atsushi Yamashita · Takashi Yao · Tsuyoshi Saito
Spindle cell lipoma of the wrist, occurring in a distinctly rare location: A case report with review of literature
International journal of clinical and experimental pathology 03/2015; 8(3):3299-3303
122. Naito K, Furuya H, Han C, Orita H, Sato K, Kaneko K, Obayashi O.
Gastric cancer with metastases to the scaphoid: a case report.
J Orthop Sci. 20: 213-216. 2015.
123. Midori Ishii, Yongji Kim, Yoshiyuki Suehara, Takayuki Kawasaki, Joe Matsuoka, Keisuke Akaike, Kenta Mukaiharu, Daisuke Kubota, Taketo Okubo, Tsuyoshi Saito, Tatsuya Takagi and Kazuo Kaneko
The Recognition of Locomotive Syndrome in 2014: A Cross-Sectional Study in the Orthopaedic Outpatients in Tokyo
British Journal of Medicine and Medical Research, 2015: 6(6): 606-616.
124. Midori Toda-Ishii, Keisuke Akaike, Aiko Kurisaki-Arakawa, Atsushi Arakawa, Kenta Mukaiharu, Yoshiyuki Suehara, Tatsuya Takagi, Kazuo Kaneko, Takashi Yao, Tsuyoshi Saito
Sarcomatous transformation of EGFR and TP53 mutation-positive metastatic adenocarcinoma of the lungs, masquerading as a primary pleomorphic sarcoma of the proximal femur
Int J Clin Exp Pathol. 2015; 8(3): 3270–3278.
125. Takagi T, Katagiri H, Kim Y, Suehara Y, Kubota D, Akaike K, Ishii M, Mukaiharu K, Okubo T, Murata H, Takahashi M, Kaneko K, Saito T
Skeletal Metastasis of Unknown Primary Origin at the Initial Visit: A Retrospective Analysis of 286 Cases.
PLoS One. 2015 Jun 26;10(6):e0129428. eCollection 2015.
126. Yukiko Homma ,Yusuke Hirasawa ,Satoko Ishii ,Shigaku Ikeda ,Keisuke Akaike ,Yoshiyuki Suehara , Tatsuya Takagi ,Kazuo Kaneko ,Atsushi Arakawa , Tsuyoshi Saito
A case of myxoid liposarcoma
01/2015; 29(3):285-288. DOI:10.5227/skincancer.29.285
127. Takazawa Y, Ikeda H, Saita Y, Ishijima M, Nagayama M, Kaneko H, Kobayashi Y, Hada S, Sadatsuki R, Kaneko K.
Case series: Revision anterior cruciate ligament reconstructions using patellar tendon autografts.
Knee. 2015 Dec;22(6):569-73.
128. Saita Y, Ishijima M, Mogami A, Kubota M, Baba T, Kaketa T, Nagao M, Sakamoto Y, Sakai K, Homma Y, Kato R, Nagura N, Miyagawa K, Wada T, Liu L, Matsuoka J, Obayashi O, Shitoto K, Nozawa M, Kajihara H, Gen H, Kaneko K.
The incidence of and risk factors for developing atypical femoral fractures in Japan.
J Bone Miner Metab. 2015 May;33(3):311-8.
129. Koike M, Nojiri H, Ozawa Y, Watanabe K, Muramatsu Y, Kaneko H, Morikawa D, Kobayashi K, Saita Y, Sasho T, Shirasawa T, Yokote K, Kaneko K, Shimizu T.
Mechanical overloading causes mitochondrial superoxide and SOD2 imbalance in chondrocytes resulting in cartilage degeneration.
Sci Rep. 2015 Jun 25;5:11722.
130. Yuasa T, Maezawa K, Taniguchi Y, Aritomi K, Kaneko K.
Atypical subtrochanteric femoral fracture below an arthritic hip: A case report
JBJS case connect 2015;5 e1.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

131. Yuasa T, Maezawa K, Nozawa M, Kaneko K.
Total hip arthroplasty after previous rotational acetabular osteotomy.
Eur J Orthop Surg Traumatol. 25;1057-1060,2015.
 132. Yuasa T, Maeda K, Kaneko K, Yoshikata K.
Total hip arthroplasty after treatment of an atypical subtrocantetric femoral fracture in a patient with pycnodysostosis.
Case Report Orthopaedics. Vol 2015;731910, 2015.
 133. Itoigawa Y, Suzuki O, Sano H, Anada T, Handa T, Hatta T, Kuwahara Y, Takahashi A, Ezoe Y, Kaneko K, Itoi E.
The role of an octacalcium phosphate in the re-formation of infraspinatus tendon insertion.
J Shoulder Elbow Surg. 2015 Jul;24(7):175-84.
 134. Ichihara S, Facca S, Liverneaux P, Inada Y, Takigawa T, Kaneko K, Nakamura T.
Mechanical properties of a bioabsorbable nerve guide tube for long nerve defects.
Chir Main. 2015 Sep;34(4):186-92.
 135. Yasuhiro Homma · Tomonori Baba · Hideo Kobayashi · Colin G Murphy · Kazuo Kaneko
The importance of the soft tissue stabilizers of the hip: Three cases of rapid onset osteoarthritis following hip arthroscopy
J Orthop Sci. 2015 Dec 20.
 136. Watanabe T, Hanajima R, Shirota Y, Tsutsumi R, Shimizu T, Hayashi T, Terao Y, Ugawa Y, Katsura M, Kunimatsu A, Ohtomo K, Hirose S, Miyashita Y, Konishi S.
Effects of rTMS over presupplementary motor area on fronto-basal-ganglia network activity during stop-signal task
Journal of Neuroscience, 35, 4813-4823, 2015
- 【英文原著 2016 年】
1. Konishi H, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Impact of Lipoprotein(a) on Long-term Outcomes in Patients With Diabetes Mellitus Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention
Am J Cardiol, 2016; 118(12): 1781-85
 2. Jiang L, Konishi H, Nurwidya F, Satoh K, Takahashi F, Ebinuma H, Fujimura K, Takasu K, Jiang M, Shimokawa H, Bujo H, Daida H.
Deletion of LR11 Attenuates Hypoxia-Induced Pulmonary Arterial Smooth Muscle Cell Proliferation With Medial Thickening in Mice.
Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2016 Sep;36(9):1972-9.
 3. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Gender difference in long-term clinical outcomes following percutaneous coronary intervention during 1984-2008
Atherosclerosis, 2016; 247:105-110
 4. Ogita M, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Wada H, Naito R, Konishi H, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Yanagisawa N, Shimada K, Suwa S, Jiang M, Bujo H, Daida H.
Prognostic impact of circulating soluble LR11 on long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease.
Atherosclerosis. 2016; 244: 216-221.
 5. Nishizaki Y, Shimada K, Tani S, Ogawa T, Ando J, Takahashi M, Yamamoto M, Shinozaki T, Miyazaki T, Miyauchi K, Nagao K, Hirayama A, Yoshimura M, Komuro I, Nagai R, Daida H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Association between the docosahexaenoic acid to arachidonic acid ratio and acute coronary syndrome: a multicenter observational study.
BMC Cardiovasc Disord. 16:143;2016.

6. Takahashi S, Shimada K, Miyauchi K, Miyazaki T, Sai E, Ogita M, Tsuboi S, Tamura H, Okazaki S, Shiozawa T, Ouchi S, Aikawa T, Kadoguchi T, Al Shahi H, Yoshihara T, Hiki M, Isoda K, Daida H.
Low and exacerbated levels of 1,5-anhydroglucitol are associated with cardiovascular events in patients after first-time elective percutaneous coronary intervention.
Cardiovasc Diabetol. 15:145;2016.
7. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Konishi H, Shitara J, Kunimoto M, Sonoda T, Iso T, Ebina H, Aoki E, Kitamura K, Tamura H, Suwa S, Daida H
Contemporary sex differences among patients with acute coronary syndrome treated by emergency percutaneous coronary intervention.
Cardiovasc Interv Ther. 2016 Aug 8
8. Konishi H, Miyauchi K, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Impact of stent length on clinical outcomes of first-generation and new-generation drug-eluting stents.
Cardiovasc Interv Ther. 2016; 31: 114-121.
9. Yatsu S, Kasai T, Suda S, Matsumoto H, Shiroshita N, Kato M, Kawana F, Murata A, Kato T, Hiki M, Daida H.
Impact of periodic leg movements during sleep in hospitalized patients following acute decompensated heart failure on clinical outcomes.
Circ J. 2016 In press
10. Noguchi K, Sakakibara M, Asakawa N, Tokuda Y, Kamiya K, Yoshitani T, Oba K, Miyauchi K, Nishizaki Y, Ogawa H, Yokoi H, Matsumoto M, Kitakaze M, Kimura T, Matsubara T, Ikari Y, Kimura K, Origasa H, Isshiki T, Morino Y, Daida H, Tsutsui H; PACIFIC investigators..
Higher Hemoglobin A1c After Discharge Is an Independent Predictor of Adverse Outcomes in Patients With Acute Coronary Syndrome - Findings From the PACIFIC Registry.
Circ J. 2016 Jun 24;80(7):1607-14
11. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Temporal Trends in Clinical Outcome After Percutaneous Coronary Intervention 1984-2010 - Report From the Juntendo PCI Registry.
Circ J. 2016;80(1):93-100.
12. Shibayama K, Daimon M, Watanabe H, Kawata T, Miyazaki S, Morimoto-Ichikawa R, Maruyama M, Chiang SJ, Miyauchi K, Daida H
Significance of Coronary Artery Disease and Left Ventricular Afterload in Unoperated Asymptomatic Aortic Stenosis.
Circ J. 2016;80(2):519-25
13. Tadaki S, Sakata Y, Miura Y, Miyata S, Asakura M, Shimada K, Yamamoto T, Fukumoto Y, Kadokami T, Yasuda S, Miura T, Ando S, Yano M, Kitakaze M, Daida H, Shimokawa H.
Prognostic Impacts of Metabolic Syndrome in Patients with Chronic Heart Failure -A Multicenter Prospective Cohort Study-.
Circ J. 80:677-688;2016
14. Uchida T, Suzuki R, Kasai T, Onose H, Komiya K, Goto H, Takeno K, Ishii S, Sato J, Honda A, Kawano Y, Himuro M, Yamada E, Yamada T, Watada H.
Cutoff value of thyroid uptake of 99mTc-pertechnetate to discriminate between Graves'

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

disease and painless thyroiditis: a single center retrospective study.
Endocr J. 2016; 63: 143-149.

15. Takamura K, Kondo T, Fujimoto S, Hiki M, Matsumori R, Kawaguchi Y, Amanuma M, Takase S, Daida H
Incremental predictive value for obstructive coronary artery disease by combination of Duke Clinical Score and Agatston score. Eur Heart J Cardiovasc Imaging.
Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2016;17:550-6
16. Shimizu M, Miyazaki T, Takagi A, Kasai T, Hayashi H, Hiki M, Takahashi S, Aikawa T, Ouchi S, Suda S, Kato T, Murata A, Yatsu S, Sugita Y, Shimada K, Miyauchi K, Daida H.
Low circulating coenzyme Q10 during acute phase is associated with inflammation, malnutrition, and in hospital mortality in patients admitted to the coronary care unit
Heart Vessels. 2016 in press
17. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kajimoto K, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Yamamoto T, Amano A, Daida H.
Comparing mortality between coronary artery bypass grafting and percutaneous coronary intervention with drug-eluting stents in elderly with diabetes and multivessel coronary disease.
Heart Vessels. 2016; 31: 1424-1429.
18. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Nishizaki Y, Okai I, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Long-term effect of β -blocker in ST-segment elevation myocardial infarction in patients with preserved left ventricular systolic function: a propensity analysis.
Heart Vessels. 2016; 31: 441-448.
19. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Impact of gender difference on long-term outcomes of percutaneous coronary intervention for coronary artery disease in patients under statin treatment.
Heart Vessels. 2017 Jan;32(1):16-21.
20. Sai E, Shimada K, Miyauchi K, Masaki Y, Kojima T, Miyazaki T, Kurata T, Ogita M, Tsuboi S, Yoshihara T, Miyazaki T, Ohsaka A, Daida H.
Increased cystatin-C levels as a risk factor of cardiovascular events in patients with preserved estimated glomerular filtration rate after elective percutaneous coronary intervention with drug-eluting stents.
Heart Vessels. 31: 694-701;2016.
21. Tamura H, Miyauchi K, Dohi T, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okai I, Katoh Y, Miyazaki T, Naito R, Konishi H, Yokoyama K, Okazaki S, Isoda K, Kurata T, Daida H.
Comparison of Clinical and Angiographic Outcomes After Bare Metal Stents and Drug-Eluting Stents Following Rotational Atherectomy.
Int Heart J. 2016; 57: 150-157.
22. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Suwa S, Yamano M, Daida H.
Case report: Fulminant myocarditis associated with overwhelming pneumococcal infection.
Int J Cardiol. 2016 Nov 15;223:706-707
23. Konishi H, Miyauchi K, Tsuboi S, Naito R, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Plasma lipoprotein(a) predicts major cardiovascular events in patients with chronic kidney disease who undergo percutaneous coronary intervention.
Int J Cardiol. 2016; 205: 50-53.
24. Onda T, Inoue K, Suwa S, Nishizaki Y, Kasai T, Kimura Y, Fukuda K, Okai I, Fujiwara Y,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Matsuoka J, Sumiyoshi M, Daida H.
Reevaluation of cardiac risk scores and multiple biomarkers for the prediction of first major cardiovascular events and death in the drug-eluting stent era.
Int J Cardiol. 2016; 219: 180-185.
25. Naito R, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Combined Effect of Body mass index and Renal Function on Long-term Clinical Outcomes in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention.
J Am Geriatr Soc. 2016; 64: e39-41.
26. Naito R, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Temporal Trends in Clinical Outcome Following Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Renal Insufficiency
J Atheroscler Thromb, 2016; 23(9):1080-88
27. Naito R, Miyauchi K, Daida H, Morimoto T, Hiro T, Kimura T, Nakagawa Y, Yamagishi M, Ozaki Y, Matsuzaki M; JAPAN-ACS Investigators
Impact of Total Risk Management on Coronary Plaque Regression in Diabetic Patients with Acute Coronary Syndrome.
J Atheroscler Thromb. 2016 Aug 1;23(8):922-31
28. Naito R, Miyauchi K, Daida H.
Racial Differences in the Cholesterol-Lowering Effect of Statin.
J Atheroscler Thromb. 2016 Oct 12
29. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Appropriate level of low density lipoprotein cholesterol for secondary prevention of coronary artery disease.
J Atheroscler Thromb. 2016; 23: 413-421.
30. Kattel S, Kasai T, Matsumoto H, Yatsu S, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Takagi A, Daida H.
Association between elevated blood glucose level on admission and long-term mortality in patients with acute decompensated heart failure.
J Cardiol. 2016 Aug 20.
31. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Daida H.
Adequate time in therapeutic INR range using triple antithrombotic therapy is not associated with long-term cardiovascular events and major bleeding complications after drug-eluting stent implantation
J Cardiol. 2016 Mar 25. pii: S0914-5087
32. Chiang SJ, Daimon M, Miyazaki S, Kawata T, Morimoto-Ichikawa R, Maruyama M, Ohmura H, Miyauchi K, Lee SL, Daida H.
When and how aortic stenosis is first diagnosed: A single-center observational study.
J Cardiol. 2016 Oct;68(4):324-8.
33. Kuramitsu S, Miyauchi K, Yokoi H, Suwa S, Nishizaki Y, Yokoyama T, Nojiri S, Iwabuchi M, Shirai S, Ando K, Okazaki S, Tamura H, Watada H, Daida H.
Effect of sitagliptin on plaque changes in coronary artery following acute coronary syndrome in diabetic patients: The ESPECIAL-ACS study.
J Cardiol. 2016 Sep 15. pii: S0914-5087(16)30194-0.
34. Hassan A, Dohi T, Miyauchi K, Ogita M, Kurano M, Ohkawa R, Nakamura K, Tamura H,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Isoda K, Okazaki S, Yatomi Y, Daida H
Prognostic impact of homocysteine levels and homocysteine thiolactonase activity on long-term clinical outcomes in patients undergoing percutaneous coronary intervention. J Cardiol. 2016 Sep 27. pii: S0914-5087(16)30207-6
35. Fujimoto S, Kondo T, Takamura K, Baber U, Shinozaki T, Nishizaki Y, Kawaguchi Y, Matsumori R, Hiki M, Miyauchi K, Daida H, Hecht H, Stone GW, Narula J
Incremental prognostic value of coronary computed tomographic angiography high-risk plaque characteristics in newly symptomatic patients. J Cardiol. 2016;67:538-44
36. Hirose K, Daimon M, Miyazaki S, Chiang SJ, Morimoto-Ichikawa R, Maruyama M, Kawata T, Ohmura H, Daida H
Estrogen variation during the menstrual cycle does not influence left ventricular diastolic function and untwisting rate in premenopausal women. J Cardiol. 2017 Jan;69(1):389-393
37. Sukmawati D, Tanaka R, Ito-Hirano R, Fujimura S, Hayashi A, Itoh S, Mizuno H, Daida H.
The role of Notch signaling in diabetic endothelial progenitor cells dysfunction. J Diabetes Complications. 2016;30(1):12-20.
38. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Hayashi H, Tabuchi H, Komatsu S, Miyazaki T, Miyauchi K, Shitara J, Yoshihara T, Sai E, Shiozaki M, Fukao K, Fukushima Y, Yamagami S, Suwa S, Katoh Y, Fujiwara Y, Ikeda H, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H.
Watching National team matches in World Cup Soccer 2014 on television was associated with increasing frequency of premature ventricular contractions. J Heart Cardiol. 2:1- 5;2016.
39. Takahashi S, Katada J, Daida H, Kitamura F, Yokoyama K.
Effects of mineralocorticoid receptor antagonists in patients with hypertension and diabetes mellitus: a systematic review and meta-analysis. J Hum Hypertens. 2016 Sep;30(9):534-42.
40. Ogita M, Miyauchi K, Onishi A, Tsuboi S, Wada H, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Kojima Y, Schwartz RS, Daida H.
Development of Accelerated Coronary Atherosclerosis Model Using Low Density Lipoprotein Receptor Knock-Out Swine with Balloon Injury. PLoS One. 2016 Sep 15;11(9):e0163055
41. Ogita M, Miyauchi K, Onishi A, Tsuboi S, Wada H, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Kojima Y, Schwartz R, Daida H.
Accelerated coronary atherosclerotic model in a novel low density lipoprotein receptor knock-out swine. PLoS One. 2016; 11: e0163055.
42. Ueno T, Hirayama S, Sugihara M, Miida T
The bromocresol green assay, but not the modified bromocresol purple assay, overestimates the serum albumin concentration in nephrotic syndrome through reaction with α 2-macroglobulin. Ann Clin Biochem, 2016; 53: 97-105
43. Tabe Y, Hatanaka Y, Nakashiro M, Sekihara K, Yamamoto S, Matsushita H, Kazuno S, Fujimura T, Ikegami T, Nakanaga K, Matsumoto H, Ueno T, Aoki J, Yokomizo T, Konopleva M, Andreeff M, Miida T, Iwabuchi K, Sasai K.
Integrative genomic and proteomic analyses identifies glycerol-3-phosphate acyltransferase as a target of low-dose ionizing radiation in EBV infected-B cells. Int J Radiat Biol. 2016;92(1):24-34.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

44. Horiuchi Y, Tabe Y, Kasuga K, Maenou I, Idei M, Horii T, Miida T, Ohsaka A.
The efficacy of an internet-based e-learning system using the CellaVision competency software for continuing professional development.
Clin Chem Lab Med. 2016 Apr;54(4):e127-31.
45. Hayashi K, Tabe Y, Miida T.
Impact of clotting condition on the measurement of circulating microRNAs in serum.
Clin Lab. 2016;62(3):471-5.
46. Idei M, Tabe Y, Hamada C, Miyake K, Takemura H, Io H, Wakita M, Horii T, Tomino Y, Ohsaka A, Miida T.
Pancreatic lipase activity in overnight effluent predicts high transport status in peritoneal dialysis patients.
Clin Chim Acta. 2016 Nov 1;462:65-70.
47. Nagasaka H, Komatsu H, Inui A, Nakacho M, Morioka I, Tsukahara H, Kaji S, Hirayama S, Miida T, Kondou H, Ihara K, Yagi M, Kizaki Z, Bessho K, Kodama T, Iijima K, Saheki T, Yorifuji T, Honda A.
Circulating tricarboxylic acid cycle metabolite levels in citrin-deficient children with metabolic adaptation, with and without sodium pyruvate treatment.
Mol Genet Metab. 2017 Mar;120(3):207-212.
48. Suzuki L, Hirayama S, Fukui M, Sasaki M, Hiroi S, Ayaori M, Terai S, Tozuka M, Watada H, Miida T.
Lipoprotein-X in cholestatic patients causes xanthomas and promotes foam cell formation in human macrophages.
J Clin Lipidol, (in press)
49. Nakagawa T, Hirayama S, Watanabe T, Yokomura M, Kohno M, Sato T, Bujo H, Sato A, Murata M, Miida T.
Triglyceride concentrations should be measured after elimination of free glycerol to exclude interindividual variations due to adiposity and fasting status.
Clin Chem Lab Med, (in press)
50. Nagao Y, Hirayama S, Kon M, Sasamoto K, Sugihara M, Hirayama A, Isshiki M, Seino U, Miyazaki O, Miida T.
Current smokers with hyperlipidemia lack elevated pre β 1-HDL concentrations.
J Clin Lipidol, (in press)
51. Shoji H, Ikeda N, Kojima C, Kitamura T, Sukanuma H, Hisata K, Hirayama S, Ueno T, Miida T, Shimizu T.
Relationship between copper and lipids and atherogenic indices soon after birth in Japanese preterm infants of 32–35 weeks.
J Dev Orig Health Dis, (in press)
52. Tabe Y, Yamamoto S, Saitoh K, Sekihara K, Monma N, Ikeo K, Mogushi K, Shikami M, Ruvolo VR, Ishizawa J, Hail N, Kazuno S, Igarashi M, Matsushita H, Yamanaka Y, Arai H, Nagaoka I, Miida T, Hayashizaki Y, Konopleva M, Andreeff M.
Bone Marrow Adipocytes Facilitate Fatty Acid Oxidation Activating AMPK and a Transcriptional Network Supporting Survival of Acute Monocytic Leukemia
Cancer Research, (in press)
53. Miida T, Nishimura K, Hirayama S, Miyamoto Y, Nakamura M, Masuda D, Yamashita S, Ushiyama M, Komori T, Fujita N, Yokoyama S, Teramoto T.
Homogeneous assays for LDL-C and HDL-C are reliable in both the postprandial and fasting state.
J Atheroscler Thromb, (in press)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

54. Sekihara K, Saitoh K, Yamamoto S, Kikkawa M, Kazuno S, Taka H, Kaga N, Arai H, Miida T, Andreeff M, Konopleva M, Tabe Y.
Targeting mantle cell lymphoma metabolism and survival through simultaneous blockade of mTOR and nuclear transporter exportin-1.
Oncotarget, (in press)
55. Nakadera E, Yamashina S, Izumi K, Inami Y, Sato T, Fukushima H, Kon K, Ikejima K, Ueno T, Watanabe S
Inhibition of mTOR improves the impairment of acidification in autophagic vesicles caused by hepatic steatosis.
Biochem Biophys Res Commun. 2016; 469: 1104-1110
56. Yamamoto-Nonaka K, Koike M, Asanuma K, Takagi M, Oliva Trejo JA, Seki T, Hidaka T, Ichimura K, Sakai T, Tada N, Ueno T, Uchiyama Y, Tomino Y.
Cathepsin D in Podocytes Is Important in the Pathogenesis of Proteinuria and CKD.
J Am Soc Nephrol. 2016; 27: 2685-2700
57. Yamada D, Saiki S, Furuya N, Ishikawa K, Imamichi Y, Kambe T, Fujimura T, Ueno T, Koike M, Sumiyoshi K, Hattori N.
Ethambutol neutralizes lysosomes and causes lysosomal zinc accumulation.
Biochem Biophys Res Commun. 2016; 471: 109-116
58. Kazuno S, Furukawa J, Shinohara Y, Murayama K, Fujime M, Ueno T, Fujimura T.
Glycosylation status of serum immunoglobulin G in patients with prostate diseases.
Cancer Med. 2016; 5: 1137-1146
59. Saito T, Ichimura Y, Taguchi K, Suzuki T, Mizushima T, Takagi K, Hirose Y, Nagahashi M, Iso T, Fukutomi T, Ohishi M, Endo K, Uemura T, Nishito Y, Okuda S, Obata M, Kouno T, Imamura R, Tada Y, Obata R, Yasuda D, Takahashi K, Fujimura T, Pi J, Lee MS, Ueno T, Ohe T, Mashino T, Wakai T, Kojima H, Okabe T, Nagano T, Motohashi H, Waguri S, Soga T, Yamamoto M, Tanaka K, Komatsu M.
p62/Sqstm1 promotes malignancy of HCV-positive hepatocellular carcinoma through Nrf2-dependent metabolic reprogramming.
Nat Commun. 2016; 7: 12030
60. Sato S, Koike M, Funayama M, Ezaki J, Fukuda T, Ueno T, Uchiyama Y, Hattori N.
Lysosomal Storage of Subunit c of Mitochondrial ATP Synthase in Brain-Specific Atp13a2-Deficient Mice.
Am J Pathol. 2016; 186: 3074-3082
61. Hirose S., Osada T., Ogawa A., Tanaka M., Wada H., Yoshizawa Y., Imai Y., Machida T., Akahane M., Shirouzu I., and Konishi S.
Lateral-medial dissociation in orbitofrontal cortex-hypothalamus connectivity
Frontiers in Human Neuroscience, 10, 244, 2016
62. Jimura K., Hirose S., Wada H., Yoshizawa Y., Imai Y., Akahane M., Machida T., Shirouzu I., Koike Y., Miyashita Y., Konishi S.
Relatedness-dependent rapid development of brain activity in anterior temporal cortex during pair-association retrieval
Neuroscience Letters, 627, 24-29, 2016.
63. Takazawa Y., Nagayama M, Ikeda H, Kawasaki T, Ishijima M, Saita Y, Kaneko H, Kobayashi Y, Hada S, Kaneko K
Anterior cruciate ligament injuries in elite and high school rugby players: a 11-year review
Phys Sportsmed, 44, 53-8, 2016
64. Sugawara Y, , Ishijima M, Kurosawa H, Shimura Y, Kaneko H, Liu L, Futami I, Iwase Y,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Kaneko K

Pre-operative timed single leg standing time is associated with the post-operative activity of daily living after receiving total knee arthroplasty in aged disabled patients with end-stage knee osteoarthritis
Mod Rheumatol, 27, 326-31, 2017

65. Liu L, Ishijima M, Kaneko H, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Futami I, Yusup A, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K
MRI-evaluated osteophyte size is a risk factor for receiving the total knee arthroplasty in patients with end-stage knee osteoarthritis
Mod Rheumatol, 27, 332-38, 2017
66. Shimoda M, Yoshida H, Mizuno S, Hirozane H, Horiuchi K, Yoshino Y, Hara H, Kanai Y, Inoue S, Ishijima M and Okada Y
HYBID (hyaluronan binding protein involved in hyaluronan depolymerization, KIAA1199) controls endochondral ossification through hyaluronan metabolism
Am J Pathol. 2017 Mar 8. pii: S0002-9440(17)30212-2. doi: 10.1016/j.ajpath.2017.01.005. [Epub ahead of print]
67. Nakayama S, Suda A, Nakanishi A, Motoi Y, Hattori N
Galantamine Response Associates with Agitation and the Prefrontal Cortex in Patients with Alzheimer's Disease
J Alzheimers Dis. 2017;57(1):267-273
68. Matsushima T, Conedera S, Tanaka R, Li Y, Yoshino H, Funayama M, Ikeda A, Hosaka Y, Okuzumi A, Shimada Y, Yamashiro K, Motoi Y, Nishioka K, Hattori N.
Genotype-phenotype correlations of cysteine replacement in CADASIL
Neurobiol Aging. 2017 Feb;50:169.e7-169.e14
69. Nishioka K, Hayashi T, Suzuki M, Li Y, Nakayama S, Matsushima T, Usui T, Sshibata N, Motoi Y, Tanaka R, Nishioka K, Hattori
Fibromyalgia syndrome and cognitive dysfunction in elderly: a case series
International J of Rhermatic Disease 2016 Jan;19(1):21-9
70. Elahi M, Hasan Z, Motoi Y, Matsumoto S, Ishiguro K, Hattori N.
Region-specific vulnerability to oxidative stress, Neuroinflammation, and Tau hyperphosphorylation in experimental diabetes Mellitis mice.
J Alz Dis. 2016 Feb 25;51(4):1209-1224
71. Hara Y, Motoi Y, Hikishima K, Mizum H, Onoe H, Matsumoto SE, Elahi M, Okano H, Aoki S, Hattori N
Involvement of the septo-hippocampal cholinergic pathway in association with septal acetylcholinesterase upregulation in a mouse model of tauopathy.
Curr Alzheimer Res. 2017;14(1):94-103
72. Takeshita Y, Shibata N, Kasanuki K, Nagata T, Shinagaa S, Kobayashi N, Ohnuma T, Suzuki A, Kawai E, Takayama T, Nishioka K, Motoi Y, Hattori N, Nakayama K, Yamada H, Arai H.
Genetic association between RAGE polymorphisms and Alzheimer's disease and Lewy body dementias in a Japanese cohort: a case-control study.
Int J Geriatr Psychiatry 2016 Oct 4. doi: 10.1002/gps.4600
73. Suzuki A1, Shibata N1, Kasanuki K1, Nagata T2, Shinagawa S3, Kobayashi N3, Ohnuma T1, Takeshita Y1, Kawai E1, Takayama T1, Nishioka K4, Motoi Y4, Hattori N4, Nakayama K3, Yamada H5, Arai H1.
Genetic association between presenilin 2 polymorphisms and Alzheimer's disease and dementia of Lewy body type in a Japanese population.
Dement Geriatr Cogn Dis Extra. 2016 Mar 16;6(1):90-7

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

74. Kuroki T, Tanaka R, Shimada Y, Yamashiro K, Ueno Y, Shimura H, Urabe T, Hattori N.
Exendin-4 Inhibits Matrix Metalloproteinase-9 Activation and Reduces Infarct Growth After Focal Cerebral Ischemia in Hyperglycemic Mice
Stroke, 2016;47(5):1328-35
75. Matsushima T, Conedera S, Tanaka R, Li Y, Yoshino H, Funayama M, Ikeda A, Hosaka Y, Okuzumi A, Shimada Y, Yamashiro K, Motoi Y, Nishioka K, Hattori N.
Genotype-phenotype correlations of cysteine replacement in CADASIL.
Neurobiol Aging, 2017;50:169.e7-169.e14
76. Ikeda A, Matsushima T, Daida K, Nakajima S, Conedera S, Li Y, Yoshino H, Oyama G, Funayama M, Nishioka K, Hattori N.
A novel mutation of CHCHD2 p.R8H in a sporadic case of Parkinson's disease
Parkinsonism Relat Disord. 2017; 34:66-68.
77. Takeshige H, Ueno Y, Sasaki F, Namera A, Matsukawa T, Yokoyama K, Hattori N.
Acute hippocampal and chronic diffuse white matter involvement in severe methanol intoxication.
Neurology. 2016;87(22):2382-2383.
78. Daida K, Ishiguro Y, Eguchi H, Machida Y, Hattori N, Miwa H.
Cytomegalovirus-associated encephalomyelitis in an immunocompetent adult: a two-stage attack of direct viral and delayed immune-mediated invasions. case report.
BMC Neurol. 2016; 16(1):223.
79. Hattori N, Kikuchi M, Adachi N, Hewitt D, Huyck S, Saito T.
Adjunctive preladenant: A placebo-controlled, dose-finding study in Japanese patients with Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2016; 32:73-79.
80. Ueno Y, Yamashiro K, Tanaka R, Kuroki T, Hira K, Kurita N, Urabe T, Hattori N.
Emerging Risk Factors for Recurrent Vascular Events in Patients With Embolic Stroke of Undetermined Source.
Stroke. 2016;47(11):2714-2721.
81. Sato S, Koike M, Funayama M, Ezaki J, Fukuda T, Ueno T, Uchiyama Y, Hattori N.
Lysosomal Storage of Subunit c of Mitochondrial ATP Synthase in Brain-Specific Atp13a2-Deficient Mice.
Am J Pathol. 2016;186(12):3074-3082.
82. Yamanaka T, Tosaki A, Miyazaki H, Kurosawa M, Koike M, Uchiyama Y, Maity SN, Misawa H, Takahashi R, Shimogori T, Hattori N, Nukina N.
Differential roles of NF-Y transcription factor in ER chaperone expression and neuronal maintenance in the CNS.
Sci Rep. 2016 Sep 30;6:34575.
83. Kawajiri S, Hoshino Y, Nakamura R, Noda K, Tomizawa Y, Hattori N, Okuma Y.
A Case of Painless Legs and Moving Toes Syndrome in Parkinson's Disease Responsive to Dopaminergic Therapy.
Case Rep Neurol Med. 2016;2016:6829410.
84. Takeshige H, Ueno Y, Kamagata K, Sasaki F, Yamashiro K, Tanaka R, Aoki S, Hattori N.
Pathways Linked to Internuclear Ophthalmoplegia on Diffusion-Tensor Imaging in a Case with Midbrain Infarction.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016;25(11):2575-2579.

85. Sasaki F, Kawajiri S, Nakajima S, Yamaguchi A, Tomizawa Y, Noda K, Hattori N, Okuma Y.
Occipital lobe seizures and subcortical T2 and T2* hypointensity associated with nonketotic hyperglycemia: a case report.
J Med Case Rep. 2016;10(1):228.
86. Noda K, Hattori N, Okuma Y.
Re-emergent tremor in a patient with Parkinson's disease.
BMJ Case Rep. 2016 Aug 5;2016. pii: bcr2016216436.
87. Hoshino Y, Nishioka K, Kanai K, Tanaka R, Nagaoka M, Kuwabara S, Hattori N.
Utility of ultrasonography in evaluating muscle contractions in stiff-person syndrome.
J Neurol Sci. 2016;367:361-2.
88. Cossu D, Yokoyama K, Sechi LA, Otsubo S, Tomizawa Y, Momotani E, Hattori N.
Humoral response against host-mimetic homologous epitopes of Mycobacterium avium subsp. paratuberculosis in Japanese multiple sclerosis patients.
Sci Rep. 2016 Jun 30;6:29227.
89. Yoritaka A, Mori H, Hattori N.
Treatment of Mild Camptocormia with Selegiline in Patients with Parkinson's Disease.
Eur Neurol. 2016;76(1-2):35-9.
90. Fujimaki M, Takanashi M, Kobayashi M, Wada K, Machida Y, Kondo A, Hattori N, Miwa H.
Cerebrospinal fluid dissemination of anaplastic intraventricular meningioma: report of a case presenting with progressive brainstem dysfunction and multiple cranial nerve palsies.
BMC Neurol. 2016;16:82.
91. Ueno Y, Nakamura R, Hattori N.
Reply to CLIPPERS features before, during and after lymphoma.
J Neurol Sci. 2016;366:253-4.
92. Yoritaka A, Abe T, Ohtsuka C, Maeda T, Hirayama M, Watanabe H, Saiki H, Oyama G, Fukae J, Shimo Y, Hatano T, Kawajiri S, Okuma Y, Machida Y, Miwa H, Suzuki C, Kazama A, Tomiyama M, Kihara T, Hirasawa M, Shimura H, Hattori N.
A randomized double-blind multi-center trial of hydrogen water for Parkinson's disease: protocol and baseline characteristics.
BMC Neurol. 2016 May 12;16:66.
93. Takanashi M, Li Y, Hattori N.
Absence of Lewy pathology associated with PINK1 homozygous mutation.
Neurology. 2016 Jun 7;86(23):2212-3.
94. Nakamura R, Ueno Y, Ando J, Matsuda H, Masuda A, Iiduka K, Shingai N, Takanashi M, Yokoyama K, Komatsu N, Hattori N.
Clinical and radiological CLIPPERS features after complete remission of peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified.
J Neurol Sci. 2016;364:6-8.
95. Ochiishi T, Doi M, Yamasaki K, Hirose K, Kitamura A, Urabe T, Hattori N, Kinjo M, Ebihara T, Shimura H.
Development of new fusion proteins for visualizing amyloid- β oligomers in vivo.
Sci Rep. 2016 Mar 16;6:22712.
96. Elahi M, Hasan Z, Motoi Y, Matsumoto SE, Ishiguro K, Hattori N.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Region-Specific Vulnerability to Oxidative Stress, Neuroinflammation, and Tau Hyperphosphorylation in Experimental Diabetes Mellitus Mice.
J Alzheimers Dis. 2016;51(4):1209-24.

97. Conedera S, Apaydin H, Li Y, Yoshino H, Ikeda A, Matsushima T, Funayama M, Nishioka K, Hattori N.
FBXO7 mutations in Parkinson's disease and multiple system atrophy.
Neurobiol Aging. 2016 Apr;40:192.e1-5.

98. Takamura S, Ikeda A, Nishioka K, Furuya H, Tashiro M, Matsushima T, Li Y, Yoshino H, Funayama M, Morinobu S, Hattori N.
Schizophrenia as a prodromal symptom in a patient harboring SNCA duplication.
Parkinsonism Relat Disord. 2016 Apr;25:108-9.

99. Yamada D, Saiki S, Furuya N, Ishikawa K, Imamichi Y, Kambe T, Fujimura T, Ueno T, Koike M, Sumiyoshi K, Hattori N.
Ethambutol neutralizes lysosomes and causes lysosomal zinc accumulation.
Biochem Biophys Res Commun. 2016;471(1):109-16.

100. Tomizawa Y, Nakamura R, Hoshino Y, Sasaki F, Nakajima S, Kawajiri S, Noda K, Takanashi M, Fujita N, Yokoyama K, Hattori N, Takahashi T, Okuma Y.
Tumefactive demyelinating brain lesions with multiple closed-ring enhancement in the course of neuromyelitis optica.
J Neurol Sci. 2016;361:49-51.

101. Yoritaka A, Fukae J, Hatano T, Oda E, Hattori N.
The Direct Cost of Parkinson Disease at Juntendo Medical University Hospital, Japan.
Intern Med. 2016;55(2):113-9.
Intern Med. 2016;55(2):113-9.

102. Matsushima T, Nishioka K, Tanaka R, Yokoyama K, Hattori N.
Anterior opercular syndrome induced by Epstein-Barr virus encephalitis.
Neurocase. 2016;22(1):103-8.

103. Hatano T, Saiki S, Okuzumi A, Mohny RP, Hattori N.
Identification of novel biomarkers for Parkinson's disease by metabolomic technologies.
J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2016;87(3):295-301.

104. Sekimoto S, Oyama G, Izawa N, Ueno S, Jo T, Shimo Y, Nakajima A, Nakajim M, Umemura A, Ara H. Hattori N
Effect of zonisamide on post-traumatic Holmes' tremor
NEUROLOGY AND CLINICAL NEUROSCIENCE, 2016; 4(5):184-185

105. Yasuda H, Hotta N, Kasuga M, Kashiwagi A, Kawamori R, Yamada T, Baba Y, Alev L, Nakajo K.
Efficacy and safety of 40 mg or 60 mg duloxetine in Japanese adults with diabetic neuropathic pain: Results from a randomized, 52-week, open-label study.
J Diabetes Investig. 2016; 7(4): 100-108, 2016.1

106. Foley JE, Bhosekar V, Kawamori R.
Does the treatment of type 2 diabetes mellitus with the DPP -4 inhibitor vildagliptin reduce HbA1c to a greater extent in Japanese patients than in Caucasian patients?
dovepress, 2016; 12: 9-12: 2016.1.21

107. Imamura M, Takahashi A, Yamauchi T, Hara K, Yasuda K, Grarup N, Zhao W, Wang X, Huerta-Chagoya A, Hu C, Moon S, Long J, Kwak S H, Rasheed A, Saxena R, Ma R.C, Okada Y, Iwata M., Hosoe J, Shojima N, Iwasaki M, Fujita H, Suzuki K, Danesh J, Jorgensen T, Jorgensen M E, Witte D R, Brandslund I, Christensen C, Hansen T,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Mercader JM, Flannick J, Moreno-Macias H, Burt NP, Zhang R, Kim YJ, Zheng W, Singh J R, Tam C H, Hirose H, Maegawa H, Ito C, Kaku K, Watada H, Tanaka Y, Tobe K, Kawamori R, Kubo M, Cho Y S, Chan J C, Sanghera D, Frossard P, Park K S, Shu X O, Kim B J, Florez J C, Tusie-Luna T, Jia W, Tai E S, Pedersen O, Saleheen D, Maeda S, Kadowaki T.
Genome-wide association studies in the Japanese population identify seven novel loci for type 2 diabetes.
Nat Commun, 2016; 7: 10531, 2016.1.28
108. Sato J, Kanazawa A, Ikeda F, Shigihara N, Kawaguchi M, Komiya K, Uchida T, Ogihara T, Mita T, Shimizu T, Fujitani Y, Watada H.
Effect of treatment guidance using a retrospective continuous glucose monitoring system on glycaemic control in outpatients with type 2 diabetes mellitus: A randomized controlled trial.
J Int Med Res, 2016; 44(1): 109-121, 2016.2
109. Schnell O, Weng J, Sheu W H, Watada H, Kalra S, Soegondo S, Yamamoto N, Rathod R, Zhang C, Grzeszczak W.
Acarbose reduces body weight irrespective of glycemic control in patients with diabetes: results of a worldwide, non-interventional, observational study data pool.
J Diabetes Complications, 2016; 30(4): 628-37, 2016.2.2
110. Osonoi Y, Mita T, Osonoi T, Saito M, Tamasawa A, Nakayama S., Someya Y, Ishida H, Kanazawa A, Goshō M, Fujitani Y, Watada H.
Relationship between dietary patterns and risk factors for cardiovascular disease in patients with type 2 diabetes mellitus: a cross-sectional study.
Nutr J, 2016; 15: 15, 2016.2.4
111. Kubo F, Miyatsuka T, Sasaki S, Takahara M, Yamamoto Y, Shimo N, Watada H, Kaneto H, Gannon M, Matsuoka T A, Shimomura I.
Sustained expression of GLP-1 receptor differentially modulates β -cell functions in diabetic and nondiabetic mice.
Biochem Biophys Res Commun, 2016; 471(1): 68-74, 2016.2.4
112. Uchida T, Suzuki R, Kasai T, Onose H, Komiya K, Goto H, Takeno K, Ishii S, Sato J, Honda A, Kawano Y, Himuro M, Yamada E, Yamada T, Watada H.
Cutoff value of thyroid uptake of (99m)Tc-pertechnetate to discriminate between Graves' disease and painless thyroiditis: a single center retrospective study.
Endocr J, 2016; 63(2): 143-149, 2016.2.29
113. Mita T, Katakami N, Shiraiwa T, Yoshii H, Onuma T, Kuribayashi N, Osonoi T, Kaneto H, Kosugi K, Umayahara Y, Yamamoto T, Matsumoto K, Yokoyama H, Tsugawa M, Goshō M, Shimomura I, Watada H, Collaborators on the Sitagliptin Preventive Study of Intima-Media Thickness Evaluation, T.
Sitagliptin Attenuates the Progression of Carotid Intima-Media Thickening in Insulin-Treated Patients With Type 2 Diabetes: The Sitagliptin Preventive Study of Intima-Media Thickness Evaluation (SPIKE): A Randomized Controlled Trial.
Diabetes Care, 2016; 39(3): 455-64, 2016.3
114. Uchida T, Himuro M, Komiya K, Goto H, Takeno K, Honda A, Sato J, Kawano Y, Suzuki R, Watada H.
Prevalence of fine-needle aspiration biopsy-related complications in Japanese patients and an unfamiliar hyperechoic lesion.
Journal of Ultrasound in Medicine, 2016; 35(3): 599-604,
115. Uchida T, Himuro M, Komiya K, Goto H, Takeno K, Honda A, Sato J, Kawano Y, Suzuki R, Watada H.
Evanescent Hyperechoic Changes After Fine-Needle Aspiration Biopsy of the Thyroid in a

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Series With a Low Overall Prevalence of Complications.
Journal of Ultrasound in Medicine, 2016; 35(3): 599-604,

116. Ueyama M, Nishida N, Korenaga M, Korenaga K, Kumagai E, Yanai H, Adachi H, Katsuyama H, Moriyama S, Hamasaki H, Sako A, Sugiyama M, Aoki Y, Imamura M, Murata K., Masaki N, Kawaguchi T, Torimura T, Hyogo H, Aikata H, Ito K, Sumida Y, Kanazawa A, Watada H, Okamoto K, Honda K, Kon K, Kanto T, Mizokami M, Watanabe S.
The impact of PNPLA3 and JAZF1 on hepatocellular carcinoma in non-viral hepatitis patients with type 2 diabetes mellitus.
J Gastroenterol, 2016; 51(4): 370-379, 2016.4
117. Tanaka A., Inoue T, Kitakaze M, Oyama J, Sata M, Taguchi I, Shimizu W, Watada H, Tomiyama H, Ako J, Sakata Y, Anzai T, Uematsu M, Suzuki M, Eguchi K, Yamashina A, Saito Y, Sato Y, Ueda S, Murohara T, Node K.
Rationale and design of a randomized trial to test the safety and non-inferiority of canagliflozin in patients with diabetes with chronic heart failure: the CANDLE trial.
Cardiovasc Diabetol, 2016; 15(1): 57, 2016.4.4
118. Matsuba R, Imamura M, Tanaka Y, Iwata M, Hirose H, Kaku K, Maegawa H, Watada H, Tobe K, Kashiwagi A, Kawamori R, Maeda S.
Replication Study in a Japanese Population of Six Susceptibility Loci for Type 2 Diabetes Originally Identified by a Transethnic Meta- Analysis of Genome-Wide Association Studies.
PLoS One, 2016; 11(4): e0154093, 2016.4.26
119. Onose H, Uchida T, Sato J, Ishii S, Yamada E, Yamada T, Watada H.
Monocyte and Basophil Counts as Predictors of Neutrophil Count Recovery in Patients with Thiazolidine-induced Agranulocytosis.
Exp Clin Endocrinol Diabetes, 2016; 2016.5.24
120. Mita T, Katakami N, Shimomura I, Watada H.
Response to Comment on Mita et al. Sitagliptin Attenuates the Progression of Carotid Intima-Media Thickening in Insulin-Treated Patients With Type 2 Diabetes: The Sitagliptin Preventive Study of Intima-Media Thickness Evaluation (SPIKE): A Randomized Controlled Trial. Diabetes Care 2016;39:455-464
Diabetes Care, 2016; 39(7): e104-5, 2016.7
121. Uchida T, Nishimoto K, Fukumura Y, Asahina M, Goto H, Kawano Y, Shimizu F, Tsujimura A, Seki T, Mukai K, Kabe Y, Suematsu M, Gomez-Sanchez C E, Yao T, Horie S, Watada H.
Disorganized Steroidogenesis in Adrenocortical Carcinoma, a Case Study.
Endocr Pathol, 2016; 28(1): 27-35, 2016.7.18
122. Sato J, Kanazawa A, Makita S, Hatae C, Komiya K, Shimizu T, Ikeda F, Tamura Y, Ogihara T, Mita T, Goto H, Uchida T, Miyatsuka T, Takeno K, Shimada S, Ohmura C, Watanabe T, Kobayashi K, Miura Y, Iwaoka M, Hirashima N, Fujitani Y, Watada H.
A randomized controlled trial of 130 g/day low-carbohydrate diet in type 2 diabetes with poor glycemic control.
Clin Nutr, 2016; [Epub ahead of print], 2016.7.18
123. Fujitani Y, Fujimoto S, Takahashi K, Satoh H, Hirose T, Hiyoshi T, Ai M, Okada Y, Goshio M, Mita T, Watada H.
Effects of linagliptin monotherapy compared with voglibose on postprandial blood glucose responses in Japanese patients with type 2 diabetes: Linagliptin Study of Effects on Postprandial blood glucose (L-STEP).
Diabetes Res Clin Pract, 2016; 121: 146-156, 2016.11
124. Sato J, Uchida T, Komiya K, Goto H, Takeno K, Suzuki R, Honda A, Himuro M, Watada H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Comparison of the therapeutic effects of prednisolone and nonsteroidal anti-inflammatory drugs in patients with subacute thyroiditis.
Endocrine, 2017; 55(1): 209-214, 2017.1

125. Watada H, Su Q, Li P, Iwamoto N, Qian L, Yang W.
Comparison of insulin lispro mix 25 with insulin lispro mix 50 as an insulin starter in Asian patients with type 2 diabetes: a phase 4, open-label, randomized trial (CLASSIFY study).
Diabetes Metab Res Rev, 2017; 33(1): 2017.1
126. Odawara M, Kawamori R, Tajima N, Iwamoto Y, Kageyama S, Yodo Y, Ueki F, Hotta N.
Long-term treatment study of global standard dose metformin in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.
Diabetol Int, 2017; [Epub ahead of print], 2017.1.31
127. Kamagata K, Hatano T, Aoki S.
What is NODDI and what is its role in Parkinson's assessment?
Expert Rev Neurother. 2016;16(3):241-3.
128. Hagiwara A, Hori M, Suzuki M, Andica C, Nakazawa M, Tsuruta K, Takano N, Sato S, Hamasaki N, Yoshida M, Kumamaru KK, Ohtomo K, Aoki S.
Contrast-enhanced synthetic MRI for the detection of brain metastases.
Acta Radiol Open. 2016; 5(2):2058460115626757
129. Hagiwara A, Nakazawa M, Andica C, Tsuruta K, Takano N, Hori M, Suzuki H, Sugano H, Arai H, Aoki S.
Dural Enhancement in a Patient with Sturge-Weber Syndrome Revealed by Double Inversion Recovery Contrast Using Synthetic MRI.
Magn Reson Med Sci. 2016 Apr 11;15(2):151-2.
130. Takemura MY, Hori M, Yokoyama K, Hamasaki N, Suzuki M, Kamagata K, Kamiya K, Suzuki Y, Kyogoku S, Masutani Y, Hattori N, Aoki S.
Alterations of the optic pathway between unilateral and bilateral optic nerve damage in multiple sclerosis revealed by the combined use of advanced diffusion kurtosis imaging and visualevoked potentials.
Magn Reson Imaging. 2016 Apr 21;39:24-30.
131. Kumamaru KK, Kogure Y, Suzuki M, Hori M, Nakanishi A, Kamagata K, Hagiwara A, Andica C, Ri K, Houshido N, Aoki S.
A strategy to optimize radiation exposure for non-contrast head CT: comparison with the Japanese diagnostic reference levels.
Jpn J Radiol. 2016 Jun;34(6):451-7.
132. Kamiya K, Amemiya S, Suzuki Y, Kunii N, Kawai K, Mori H, Kunimatsu A, Saito N, Aoki S, Ohtomo K.
Machine Learning of DTI Structural Brain Connectomes for Lateralization of Temporal Lobe Epilepsy.
Magn Reson Med Sci. 2016;15(1):121-9
133. Kamiya K, Kamagata K, Miyajima M, Nakajima M, Hori M, Tsuruta K, Mori H, Kunimatsu A, Arai H, Aoki S, Ohtomo K.
Diffusional Kurtosis Imaging in Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus: Correlation with Severity of Cognitive Impairment.
Magn Reson Med Sci. 2016 Jul 11;15(3):316-23.
134. Taoka T, Fujioka M, Kashiwagi Y, Obata A, Rokugawa T, Hori M, Masutani Y, Aoki S, Naganawa S, Abe K.
Time Course of Diffusion Kurtosis in Cerebral Infarctions of Transient Middle Cerebral

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Artery Occlusion Rat Model.

J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016;25(3):610-7.

135. Suzuki Y, Hori M, Kamiya K, Fukunaga I, Aoki S, VAN Cauteren M.
Estimation of the Mean Axon Diameter and Intra-axonal Space Volume Fraction of the Human Corpus Callosum: Diffusion q-space Imaging with Low q-values.
Magn Reson Med Sci. 2016;15(1):83-93.
136. Kamagata K, Hatano T, Okuzumi A, Motoi Y, Abe O, Shimoji K, Kamiya K, Suzuki M, Hori M, Kumamaru KK, Hattori N, Aoki S.
1. Neurite orientation dispersion and density imaging in the substantia nigra in idiopathic Parkinson disease.
Eur Radiol. 2016 Aug;26(8):2567-77.
137. Tachibana Y, Obata T, Tsuchiya H, Omatsu T, Kishimoto R, Kawaguchi H, Nishikori A, Kamagata K, Hori M, Aoki S, Tsuji H, Inoue T.
Diffusion-tensor-based method for robust and practical estimation of axial and radial diffusional kurtosis.
Eur Radiol. 2016 Aug;26(8):2559-66.
138. Hori M, Kamiya K, Nakanishi A, Fukunaga I, Miyajima M, Nakajima M, Suzuki M, Suzuki Y, Irie R, Kamagata K, Arai H, Aoki S.
Prospective estimation of mean axon diameter and extra-axonal space of the posterior limb of the internal capsule in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus before and after a lumboperitoneal shunt by using q-space diffusion MRI.
Eur Radiol. 2016 Sep;26(9):2992-8.
139. Kamagata K, Kerever A, Yokosawa S, Otake Y, Ochi H, Hori M, Kamiya K, Tsuruta K, Tagawa K, Okazawa H, Aoki S, Arikawa-Hirasawa E.
Quantitative Histological Validation of Diffusion Tensor MRI with Two-Photon Microscopy of Cleared Mouse Brain.
Magn Reson Med Sci. 2016 Oct 11;15(4):416-421.
140. Andica C, Hagiwara A, Nakazawa M, Tsuruta K, Takano N, Hori M, Suzuki H, Sugano H, Arai H, Aoki S.
The Advantage of Synthetic MRI for the Visualization of Early White Matter Change in an Infant with Sturge-Weber Syndrome.
Magn Reson Med Sci 2016;15(4):347-348.
141. Goto M, Suzuki M, Mizukami S, Abe O, Aoki S, Miyati T, Fukuda M, Gomi T, Takeda T.
Repeatability of Brain Volume Measurements Made with the Atlas-based Method from T1-weighted Images Acquired Using a 0.4 Tesla Low Field MR Scanner.
Magn Reson Med Sci. 2016 Oct 11;15(4):365-370.
142. Tsutsumi S, Hori M, Ono H, Tabuchi T, Aoki S, Yasumoto Y.
The Infundibular
Recess Passes through the Entire Pituitary Stalk.
Clin Neuroradiol. 2016 Dec;26(4):465-469.
143. Kamagata K, Nakatsuka T, Sakakibara R, Tsuyusaki Y, Takamura T, Sato K, Suzuki M, Hori M, Kumamaru KK, Inaoka T, Aoki S, Terada H.
Diagnostic imaging of dementia with Lewy bodies by susceptibility-weighted imaging of nigrosomes versus striatal dopamine transporter single-photon emission computed tomography: a retrospective observational study.
Neuroradiology. 2017 Jan;59(1):89-98.
144. Irie R, Tsuruta K, Hori M, Suzuki M, Kamagata K, Nakanishi A, Kamiya K, Nakajima M, Miyajima M, Arai H, Aoki S.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Neurite orientation dispersion and density imaging for evaluation of corticospinal tract in idiopathic normal pressure hydrocephalus.
Jpn J Radiol. 2017 Jan;35(1):25-30.
- 145.Hagiwara A, Hori M, Yokoyama K, Takemura MY, Andica C, Tabata T, Kamagata K, Suzuki M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Takano N, Kawasaki H, Hamasaki N, Kunimatsu A, [Aoki S](#).
Synthetic MRI in the detection of multiple sclerosis plaques.
AJNR Am J Neuroradiol. 2017 Feb;38(2):257-263.
- 146.Hagiwara A, Hori M, Yokoyama K, Takemura MY, Andica C, Kumamaru KK, Nakazawa M, Takano N, Kawasaki H, Sato S, Hamasaki N, Kunimatsu A, [Aoki S](#).
Utility of a multi-parametric quantitative MRI model that assesses myelin and edema for evaluating plaques, periplaque white matter, and normal-appearing white matter in patients with multiple sclerosis: a feasibility study.
AJNR Am J Neuroradiol. 2017 Feb;38(2):237-242.
- 147.Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Teranishi K, Yatomi K, Hamasaki N, Kumamaru KK, Hori M, Oishi H, [Aoki S](#).
Noncontrast-enhanced Silent Scan Magnetic Resonance Angiography of Intracranial Anterior Circulation Aneurysms Treated using a Low-profile Visualized Intraluminal Support Device.
AJNR Am J Neuroradiol. 2017 in press.
- 148.Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Hamasaki N, Kamagata K, Kumamaru KK, Hori M, Oishi H, [Aoki S](#).
Usefulness of Non-contrast Enhanced Magnetic Resonance Angiography using a Silent Scan for Follow-up after Y-Configuration Stent-Assisted Coil Embolization for Basilar Tip Aneurysms.
AJNR Am J Neuroradiol. 2017 Mar;38(3):577-581.
- 149.Hagiwara A, Warntjes M, Hori M, Andica C, Nakazawa M, Kumamaru KK, Abe O, [Aoki S](#).
SyMRI of the Brain: Rapid Quantification of Relaxation Rates and Proton Density, with Synthetic MRI, Automatic Brain Segmentation, and Myelin Measurement.
Invest Radiol. 2017 Mar 3. [Epub ahead of print]
- 150.Hatano T, Okuzumi A, Kamagata K, Daida K, Taniguchi D, Hori M, Yoshino H, [Aoki S](#), [Hattori N](#).
Neuromelanin MRI is useful for monitoring motor complications in Parkinson's and PARK2 disease.
J Neural Transm (Vienna). 2017 Feb 3. [Epub ahead of print]
- 151.Hori M, Irie R, Suzuki M, [Aoki S](#).
Teaching Neuroimages: Obscured cerebral infarction on MRI.
Clin Neuroradiol. 2017 Mar 17. [Epub ahead of print]
- 152.Saito J, Hori M, Nemoto T, Katagiri N, Shimoji K, Ito S, Tsujino N, Yamaguchi T, Shiraga N, [Aoki S](#), Mizuno M.
Longitudinal study examining abnormal white matter integrity using a tract-specific analysis in individuals with a high risk for psychosis.
Psychiatry Clin Neurosci. 2017 Feb 20. [Epub ahead of print]
- 153.Kamiya K, Hori M, Irie R, Miyajima M, Nakajima M, Kamagata K, Tsuruta K, Saito A, Nakazawa M, Suzuki Y, Mori H, Kunimatsu A, Arai H, [Aoki S](#), Abe O.
Diffusion imaging of reversible and irreversible microstructural changes within the corticospinal tract in idiopathic normal pressure hydrocephalus.
Neuroimage Clinical. 2017 in press.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 154.Andica C, Hagiwara A, Nakazawa M, Kumamaru KK, Hori M, Ikeno M, Shimizu T, Aoki S.
Synthetic MR Imaging in the Diagnosis of Bacterial Meningitis.
Magn Reson Med Sci. 2017 Apr 10;16(2):91-92.
- 155.Deng PY, Ichinoseki-Sekine N, Zhou, LF, Naito H.
Changes in physical activity and weight status of Chinese children: A retrospective longitudinal study.
J Phys Fitness Sports Med, 2016 May; 5 (3): 247-256.
- 156.Ozaki H, Kitada T, Nakagata T, Naito H.
Combination of body mass-based resistance training and high-intensity walking can improve both muscle size and V'O₂ peak in untrained older women.
Geriatr Gerontol Int. 2016 May [Epub ahead of print]
- 157.Yoshihara T, Machida S, Kurosaka Y, Kakigi R, Sugiura T, Naito H.
Immobilization induces nuclear accumulation of HDAC4 in rat skeletal muscle.
J Physiol Sci. 2016 Jul; 66(4): 337-43.
- 158.Shibaguchi T, Sugiura T, Fujitsu T, Nomura T, Yoshihara T, Naito H, Yoshioka T, Ogura A, Ohira Y.
Effects of icing or heat stress on the induction of fibrosis and/or regeneration of injured rat soleus muscle.
J Physiol Sci. 2016 Jul; 66(4): 345-57.
- 159.Akin S, Naito H, Ogura Y, Ichinoseki-Sekine N, Kurosaka M, Kakigi R, Demirel HA.
Short-term treadmill exercise in a cold environment does not induce adrenal Hsp72 and Hsp25 expression.
J Physiol Sci. 2016 Jul. [Epub ahead of print]
- 160.Shibaguchi T, Yamaguchi Y, Miyaji N, Yoshihara T, Naito H, Goto K, Ohmori D, Yoshioka T, Sugiura T.
Astaxanthin intake attenuates muscle atrophy caused by immobilization in rats.
Physiol Rep. 2016 Aug; 4(15). pii: e12885.
- 161.Kikuchi N, Miyamoto-Mikami E, Murakami H, Nakamura T, Min SK, Mizuno M, Naito H, Miyachi M, Nakazato K, Fuku N.
ACTN3 R577X genotype and athletic performance in a large cohort of Japanese athletes.
Eur J Sport Sci. 2016 Sep; 16(6): 694-701.
- 162.Fuku N, Diaz-Pena R, Arai Y, Abe Y, Pareja-Galeano H, Sanchis-Gomar F, Santos-Lozano A, Zempo H, Naito H, Murakami H, Miyachi M, Venturini L, Ricevuti G, Hirose N, Emanuele E, Lucia A.
rs2802292 polymorphism in the FOXO3A gene and exceptional longevity in two ethnically distinct cohorts.
Maturitas. 2016 Oct; 92:110-4.
- 163.Yoshihara T, Kobayashi H, Kakigi R, Sugiura T, Naito H.
Heat stress-induced phosphorylation of FoxO3a signalling in rat skeletal muscle.
Acta Physiol (Oxf). 2016 Nov; 218(3): 178-187.
- 164.Fuku N, Alis R, Yvert T, Zempo H, Naito H, Abe Y, Arai Y, Murakami H, Miyachi M, Pareja-Galeano H, Emanuele E, Hirose N, Lucia A.
Muscle-related polymorphisms MSTN rs1805086 and ACTN3 rs1815739 are not associated with exceptional longevity in Japanese centenarians.
PLoS One. 2016 Nov; 11(11): e0166605
- 165.Yoshihara T, Yamamoto Y, Shibaguchi T, Miyaji N, Kakigi R, Naito H, Goto K, Ohmori D, Yoshioka T, Sugiura T.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Dietary astaxanthin supplementation attenuates disuse-induced muscle atrophy and myonuclear apoptosis in the rat soleus muscle.
J Physiol Sci. 2017 Jan; 67(1):181-190.

166. Kusube F, Tominaga M, Kawasaki H, Yamakura F, Naito H, Ogawa H, Tomooka Y, Takamori K.
Electrophysiological properties of brain-natriuretic peptide and gastrin-releasing peptide-responsive dorsal horn neurons in spinal itch transmission.
Neurosci Lett. 2016; 627: 51-60.
167. Nakagata T, Naito H, Katamoto S, Kobayashi H, Sawada SS.
Effects of nicotine patches on energy expenditure measured with a human calorimeter.
Juntendo Medical Journal. 2016; 62(3): 232-239.
168. Chang S-w, Yoshihara T, Machida S, Naito H.
Circadian rhythm of intracellular protein synthesis signaling in rat cardiac and skeletal muscles.
BB Reports. 2017; 9, 153-8.

【和文原著 2014 年】

1. 田村好史, 竹野景海, 笥佐織, 河盛隆造, 綿田裕孝
非肥満者における病態の解明 「細胞内肥満仮説」の検証とその臨床応用
医科学応用研究財団研究報告, 31: 333-335, 2014
2. 宇都宮一典, 川浪大治, 加来浩平, 寺内康夫, 戸邊一之, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 岩本安彦, 菅波秀規, 渡邊大丞
選択的 SGLT2 阻害薬トログリフロジンの腎機能別に見る有効性と安全性の検討～国内治験の併合データを用いたサブグループ解析～
医薬ジャーナル, 50: 36-45, 2014
3. 加来浩平, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 岩本安彦, 宇都宮一典, 寺内康夫, 戸邊一之, 池田勸夫, 菅波秀規, 渡邊大丞, 前田肇
選択的 SGLT2 阻害薬トログリフロジンの臨床第Ⅲ相 4 試験を用いた安全性の検討～国内治験の併合データを用いた部分集団解析～
医薬ジャーナル, 50: 6-13, 2014
4. 岩本安彦, 加来浩平, 宇都宮一典, 寺内康夫, 戸邊一之, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 渡邊大丞, 菅波秀規
選択的 SGLT2 阻害薬トログリフロジンの年齢別に見る有効性と安全性の検討～国内治験の併合データを用いた部分集団解析～
医薬ジャーナル, 50: 14-24, 2014
5. 戸邊一之, 加来浩平, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 岩本安彦, 宇都宮一典, 寺内康夫, 渡邊大丞, 菅波秀規
選択的 SGLT2 阻害薬トログリフロジンの肥満度別に見る有効性と安全性の検討～国内治験の併合データを用いた部分集団解析～
医薬ジャーナル, 50: 25-35, 2014
6. 頼高 朝子, 高梨 雅史, 平山 正昭, 中原 登志樹, 太田 成男, 服部 信孝.
パーキンソン病患者における水素水の無作為化二重盲検試験,
運動障害 24:19-24, 2014
7. 羽田晋之介, 高澤祐治, 斎田良知, 石島旨章, 池田浩, 金子和夫
脛骨粗面剥離骨折に膝蓋腱断裂を合併し膝蓋骨高位を呈した 1 例
日本整形外科スポーツ医学会雑誌, 34, 215-19, 2014
8. 佐藤博伸, 石島旨章, 黒澤尚

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

壮年期に発見された内側円板状半月の1例
 関東整形災害外科学会雑誌, 45, 230-33, 2014

9. 乾哲也, 馬場智規, 小林英生, 本間康弘, 金子和夫, 諸橋達
 新体操選手に比較的軽微な外傷で発症した大腿骨頸基部骨折の1例.
 骨折, 2014, 36:104-106
10. 内野小百合, 馬場智規, 本間康弘, 松本幹生, 坂本優子, 野沢雅彦, 金子和夫
 末端肥大症に伴う変形性股関節症に対する人工股関節全置換術.
 別冊整形外科, 2014, 65: 230-233
11. 大沢 亜紀, 吉田 圭一, 五味 基央, 青木 浩平, 金澤 博明, 丸山 祐一郎, 金子 和夫
 周術期の痛みの管理 人工膝関節置換術における関節周囲多剤カクテル療法の術後疼痛と理
 学療法に対する有用性
 日本人工関節学会誌 44,183-184,2014
12. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 吉田圭一, 金子和夫
 NexGen LPS-Flex 人工膝関節全置換術後の中期成績—客観的&患者立脚型評価での検討
 日本人工関節学会誌 44:369-370, 2014
13. 金栄智, 馬場智規, 金子和夫
 チタン製髓内釘の屈曲変形を生じた大腿骨骨幹部骨折後再骨折.
 東日本整形災害外科, 2014:26:118-121
14. 久保田光昭 大野隆一 羽生亮 酒井健介 菅原悠 越智宏徳 向笠文博 金子和夫
 モートン病に対する鏡視下手術の検討
 日本最小侵襲整形外科学会誌,2014;14: 35-42
15. 久保田光昭 池田浩 高澤祐治 石島旨章 斎田良知 金子晴香 小林洋平 定月亮羽田晋
 之介 金子和夫
 Double osteotomy around the knee
 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌, 2014; 39: 414-415
16. 久保田光昭 池田浩 高澤祐治 石島旨章 斎田良知 金子晴香 小林洋平 定月亮羽田晋
 之介 金子和夫
 膝前十字靱帯損傷後変形性膝関節症に対する Open wedge HTO のコツとピットフォール
 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌,2014;39: 168-169
17. 栗原大聖、馬場智規、本間康弘、松本幹生、湯浅崇仁、小川晴規、金子和夫
 Dual Mobility Cup と Direct anterior Approach による THA 脱臼予防
 人工関節学会誌, 2014, 44 61-62
18. 古賀有希久, 馬場智規, 本間康弘, 小林英生, 湯浅崇仁, 金子和夫
 前方進入法を用いて行った dual mobility 人工股関節全置換術の1例
 整形外科, 2014, 65 : 42-45
19. 小林 英生, 馬場智規, 本間 康弘, 松本 幹生, 湯浅 崇仁, 金子 和夫
 楔状テーパーステムを用いた前方アプローチと後方アプローチでX線学的な差が臨床成績に影響を及ぼすか?
 Hip Joint, 2014, 40:556-558
20. 小林英生、馬場智規、本間康弘、松本幹生、湯浅崇仁、金子和夫
 THA における後方アプローチから前方アプローチに切り替えた後のインプラント設置の検討
 人工関節学会誌, 2014, 44 149-150
21. 小林望、藤原三郎、千野孔三、岩瀬弘明、金子和夫
 大腿骨頸部骨折に対する骨接合例の術後成績
 骨折 36 巻 2 号 P889-891 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

22. 小松 淳, 牟田 智也, 名倉 奈々, 小畑 宏介, 杉山 陽一, 勝部 定信, 金子 和夫
腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡下片側進入両側除圧術と内視鏡下筋肉温存型腰椎椎弓間除圧術との比較・検討 L4/L5 単椎間による比較
整形外科 65, 1117-1121. 2014
23. 五味基央, 最上敦彦, 市原理司, 大林治, 岩瀬秀明, 金子和夫
脛骨遠位端骨折に対する BIOMET 社製 PHOENIX tibial nail の特性と有用性
骨折 36, 1025-1029, 2014
24. 田中将, 奥田貴俊, 馬場智規, 金子和夫
両側大腿骨骨幹部骨折術後に両側骨癒合が遷延した HIV 陽性患者の 1 例.
骨折, 2014, 36:762-764
25. 羽田晋之介 高澤祐治 斉田良知 石島旨章 池田浩 金子和夫
脛骨粗面剝離骨折に膝蓋腱断裂を合併し, 膝蓋骨高位を呈した 1 例
日本整形外科スポーツ医学会誌, 2014;.34(2):215
26. 馬場智規, 金子和夫, 本間康弘, 小林英生, 一青勝雄
人工股関節置換術後の臼蓋コンポーネント周囲骨折
骨折, 2014, 36: 882-885,
27. 馬場智規, 野沢雅彦, 前澤克彦, 一青勝雄, 金子和夫
強直性脊椎炎に対する人工股関節全置換術と再置換術.
別冊整形外科, 2014, 65: 234-237
28. 馬場智規、本間康弘、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫
人工股関節全置換術に対する術中の臼蓋コンポーネント周辺骨折
人工関節学会誌, 2014, 44; 441-442
29. 本間康弘, 馬場智規, 小林英生, 松本幹夫, 末原義之, 湯浅崇仁, 金子和夫, フィリップ エルニグ
人工股関節全置換術後脱臼ハイリスク患者に対する人工関節機種を選択ーデュアルモビリティカップの有用性
別冊整形外科, 2014, 65, 261-266
30. 松本 幹生, 馬場智規, 本間 康弘, 小林 英生, 湯浅 崇仁, 小川 晴規, 金子 和夫, 前澤 克彦
人工股関節全置換術後に臼蓋コンポーネントが骨盤内に migration し外腸骨動脈仮性動脈瘤より大量出血を認めた 1 例
Hip Joint, 2014, 40:1046-1048
31. 松本幹生, 馬場智規, 本間康弘, 小林英生, 金子和夫
Forgotten Joint Score-12(FJS-12)の有用性の検討
整形外科, 2014, 65:957-960
32. 百村 励, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 嶋村 之利, 峰松 和夫, 金子 和夫
思春期特発性側彎症に対する装具治療の成績 胸椎カーブと腰椎カーブの比較
整形外科, 2014, 65,917-921
33. 諸橋 達, 大林 治, 最上 敦彦, 神田 章男, 岩瀬 秀明, 金子 和夫, 馬場智規
後側方侵入法による THA 術後に発症した尿失禁が側方侵入法による反対側 THA 術後に改善した一例
Hip Joint, 2014, 40:1077-1080
34. 諸橋達、最上敦彦、神田章男、内藤聖人、大林治、金子和夫.
大腿骨近位部骨折患者の術前における肺血栓塞栓症・深部静脈血栓塞栓症のスクリーニング
(造影 CT と D-dimer 値の比較) .

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

骨折, 2014; 36: 418-421

35. 湯浅崇仁 前澤克彦 有富健太郎 野沢雅彦 金子和夫
80 歳以上の高齢者に対するセメントレス人工股関節全置換術の臨床成績
日本人工関節学会誌 44 493-494,2014.

【和文原著 2015 年】

1. 石井 清、田部陽子、佐野麻衣、岩崎陽介、清水長子、常名正弘、堀井 隆、佐藤尚武、三井田孝、大坂顯通.
血液検査効率化に資する血液像目視再検基準の設定と評価. ー自動血球分析装置 XE-5000 を用いた場合ー.
日本臨床検査血液学会雑誌, 2015; 16(1): 20-27
2. 佐藤祐造, 曾根博仁, 小林正, 河盛隆造, 渥美義仁, 押田芳治, 田中史朗, 鈴木進, 牧田茂, 大澤功, 田村好史, 渡邊智之
わが国における糖尿病運動療法の実施状況 (第 1 報) ー医師側への質問紙全国調査成績ー
糖尿病, 2015; 58(8): 568-575
3. 佐藤祐造, 曾根博仁, 小林正, 河盛隆造, 渥美義仁, 押田芳治, 田中史朗, 鈴木進, 牧田茂, 大澤功, 田村好史, 渡邊智之
わが国における糖尿病運動療法の実施状況(第 2 報) ー患者側への質問紙全国調査成績ー
糖尿病, 2015; 58 (11): 850-859
4. 荒川聡美, 渡邊智之, 曾根博仁, 小林正, 河盛隆造, 渥美義仁, 押田芳治, 田中史朗, 鈴木進, 牧田茂, 大澤功, 田村好史, 佐藤祐造
糖尿病診療における食事療法・運動療法の現状ー糖尿病患者の全国調査集計成績ー
糖尿病, 2015; 58 (4): 265-278
5. 寺本民生, 河盛隆造, 宮崎滋, 手良向聡, 白山雅之, 奥田恭行
オルメサルタンメドキシミル服用高齢者高血圧患者における有効性・安全性の検討(OMEGA study 年齢サブ解析)
臨床医薬, 2015; 31 (4): 401-410
6. 海野良一, 林靖久, 高木龍一郎, 高野和彦, 河盛隆造
耐糖能障害者における高アミロース米品種「雪の穂」米飯の長期摂取による血糖プロファイルの改善効果
日本病態栄養学会誌, 2015; 18 (3): 375-385
7. 筧 佐織、田村 好史
TBC1D4/AS160 の SNP は骨格筋インスリン抵抗性、2 型糖尿病を規定する
内分泌・糖尿病・代謝内科, 41(1):59-62, 2015
8. 濱崎望、堀正明、鈴木由里子、芳士戸治義、青木茂樹
臨床応用のための Q-Space Imaging MPG 印加軸数の設定
日本診療放射線技師会誌 : Vol.62 No.6 : 537-541 : 2015
9. 横山 和正, 荻野 美恵子, 石垣 泰則, 服部 信孝
【神経難病の終末期医療】 神経難病終末期緩和ケアと在宅医療
BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩、2015, 67(8) :1015-1024
10. 鈴木悠太, 橋詰みどり, 石原美彦, 辻川比呂斗, 内藤久土, 杉山康司.
アルペンスキー技能の違いが GPS 測位軌跡と心拍数応答に及ぼす影響.
スキー研究, 2015; 12(1): 25-33
11. 松本幹生, 馬場智規, 本間康弘, 小林英生, 金子和夫, 中原大志, 山田光高.
大腿骨ステム周囲骨折における遠位固定型ロングステムの位置付け
骨折 2015; 37 : 767-770

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

12. 浅亮輔, 馬場智規, 本間康弘, 松本幹生, 小林英生, 金子和夫.
不安定型大腿骨頸部骨折に対する仰臥位前方進入法により dual mobility cup を用いた人工股関節全置換術の短期成績
骨折 2015; 37 : 693-695
13. 坂本一晃, 斎田良知, 馬場智規, 最上敦彦, 本間康弘, 金子和夫
非定型大腿骨骨折術後の歩行機能は骨癒合期間や薬物治療に影響されるか? -術後3年以上経過例の検討-
骨折 2015; 37 : 496-499
14. 越智宏徳, 馬場智規, 本間康弘, 松本幹生, 小林英生, 金子和夫.
大腿骨頸部骨折に対して前方アプローチによる人工股関節全置換術と人工骨頭置換術の比較
Hip Joint2015; 41:294-297
15. 越智 宏徳, 馬場 智規, 本間 康弘, 松本 幹生, 小林 英生, 湯浅 崇仁, 金子 和夫
Bikini incision を用いた前方アプローチによる人工股関節全置換術の検討
日本人工関節学会誌 2015;45,91-92
16. 本間康弘, 馬場智規, 松本幹生, 小林英生, 湯浅崇仁, 金子和夫.
Dual mobility cup と direct anterior approach による THA 脱臼予防: 術後6か月での臨床成績比較
Hip Joint 2015; 41:559-562
17. 佐野圭, 本間康弘, 松本幹生, 小林英生, 馬場智規, 湯浅崇仁, 金子和夫, 内田宗志.
股関節鏡後に急速に変形性股関節症が進行した人工股関節全置換術の1例
Hip Joint 2015; 41:886-889
18. 有田均, 本間康弘, 越智宏徳, 松本幹生, 小林英生, 馬場智規, 湯浅崇仁, 金子和夫
矢状面アライメント変化が変形性股関節症急速進行に関与したと思われる2例の検討
Hip Joint2015; 41:981-986
19. 石井聖也, 本間康弘, 越智宏徳, 松本幹生, 小林英生, 馬場智規, 湯浅崇仁, 金子和夫.
フリースタイルフットボール競技中に大腿骨小転子裂離骨折をきたした1例
Hip Joint 2015; 41:964-967
20. 馬場 智規, 一青 勝雄, 越智 宏徳, 本間 康弘, 松本 幹生, 小林 英生, 湯浅 崇仁, 金子 和夫
急速破壊型股関節症に対する人工股関節全置換術の臨床成績 KT plate と uncemented cup の比較
日本人工関節学会誌 2015; 45:785-786
21. 湯浅 崇仁, 前澤 克彦, 馬場 智規, 松本 幹生, 本間 康弘, 野沢 雅彦, 金子 和夫
大腿骨骨切り術後に行ったセメントレス人工股関節全置換術の治療成績
日本人工関節学会誌 2015; 45, 779-780
22. 吉川 慶, 鳥越 知明, 大久保 武人, 高木 辰哉, 金子 和夫
血液腫瘍と鑑別を要した原発性副甲状腺機能亢進症に伴う白蓋褐色細胞腫の1例
関東整形災害外科学会雑誌, 2015;46:4:182-186
23. 吉川 慶, 米澤 郁穂, 嶋村 之利, 高野 弘充, 佐藤 達哉, 奥田 貴俊, 金子 和夫
二分脊髄を合併した成人脊柱変形の1例
関東整形災害外科学会雑誌, 2015;46:4:161-164
24. 斎田 良知, 小林 洋平, 長尾 雅史, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
ゲルセパレーターを用いて精製した多血小板血漿中の細胞種および成長因子濃度の検討
日本整形外科スポーツ医学会雑誌(1340-8577)35 巻 1 号 Page32-37(2015.03)
25. 清村幸雄, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, 劉立足, アニュアルジャン・ユスブ, 二見一平, 土屋勝, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

変形性膝関節症の重症化に伴う疼痛影響因子の変化

別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 30-33, 2015

26. 前澤克彦、成嶋靖博、一青勝雄、野沢雅彦、金子和夫
人工股関節全置換術術後の満足度と股関節周囲筋力との関連性.
Hip Joint 41: 503-507, 2015
27. 前澤克彦、成嶋靖博、丸山祐一郎、一青勝雄、金子和夫
人工股関節全置換術術後の活動能力と股関節周囲筋力との関連性.
人工関節学会誌 45 : 395-396, 2015
28. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 糸魚川善昭, 金子和夫
PFC-Sigma 人工膝関節全置換術後の客観的, 立脚的評価の検討— CR, Fixed-PS, Mobile-PS 型での比較 —
日本人工関節学会誌 2015, Vol.45 : 805-806
29. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 吉田圭一, 金子和夫
慢性膝蓋大腿関節症 (PF-OA) に対する Crosse-de-Hockey 法の治療経験
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌 2015, Vol.40 : 422-423
30. 湯浅崇仁 有富健太郎 金子和夫 前澤克彦 野沢雅彦
寛骨臼回転骨切り術後に行った人工股関節全置換術の治療成績
Hip Joint 41 ; 469-471, 2015.
31. 湯浅崇仁 前澤克彦 馬場智規 松本幹生 本間康弘 野沢雅彦 金子和夫
大腿骨骨切り術後に行った人工股関節全置換術の治療成績
日本人工関節学会誌 45 779-780, 2015
32. 越智 宏徳, 馬場 智規, 本間 康弘, 松本 幹生, 小林 英生, 金子 和夫
大腿骨頸部骨折に対して前方アプローチによる人工股関節全置換術と人工骨頭置換術の比較
Hip Joint, 41:294-297, 2015
33. 有田均、本間康弘、越智宏徳、松本幹生、小林英生、馬場智規、湯浅崇仁、金子和夫
矢状面アライメント変化が変形性股関節症の急速進行に関与したと思われる 2 例の検討
Hip Joint, 2015 ; 41 巻 : 981-986
34. 定月亮, 石島旨章, 久保田光昭, 金子晴香, 羽田晋之介, 木下真由子, 劉立足, アニュアルジャン・ユスブ, 二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫
変形性膝関節症の疼痛と進行における MRI の骨髄異常陰影の関連
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 18-22, 2015
35. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 木下真由子, アニュアルジャン・ユスブ, 二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
初期変形性膝関節症の病変進行の部位別差異
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 8-12, 2015
36. 金子 晴香, 石島 旨章, 二見 一平, 劉 立足, 定月 亮, Yusup Anwarjan, 羽田 晋之介, 金子 和夫
変形性膝関節症のバイオマーカー 血清ヒアルロン酸の臨床応用に向けたエビデンス
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 57-60, 2015
37. 本間 由希子, 平澤 祐輔, 石井 智子, 池田 志孝, 赤池 慶裕, 末原 義之, 高木 辰哉, 金子 和夫, 荒川 敦, 斉藤 剛
粘液型脂肪肉腫の 1 例
Skin Cancer 29 巻 3 号 Page285-288(2015.02)

【英文総説 2014 年】

1. Tanida I, Ueno T, Kominami E

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

In vitro assays of lipidation of Mammalian atg8 homologs.
Curr Protoc Cell Biol. 64:11.20.1-11.20.13, 2014

2. Takashi Miida
Update on diagnostic medical imaging
Juntendo Med J Vol. 60 No. 2: 88, 2014
3. Ishijima M, Kaneko H, Kaneko K
The evolving role of biomarkers for osteoarthritis
Ther Adv Musculoskel Dis, 6, 144-53, 2014
4. Ishijima M, Kaneko H, Kubota M, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Yusup A, Futami I, Sakamoto Y, Shimura Y, Naito K, Watari T, Saita Y, Takazawa Y, Kim SG, Ikeda H, Nagaoka I, Arikawa-Hirasawa E, Kurosawa H, Kaneko K,
Osteoarthritis of the knee as one of the major musculoskeletal diseases responsible for locomotive syndrome
The role of synovitis in pain
Juntendo Medical Journal, 60, 300-11, 2014

【英文総説 2015 年】

1. H. Watada, Y. Fujitani.
Minireview: Autophagy in pancreatic β -cells and its implication in diabetes.
Mol Endocrinol. 2015; 29(3): 338-348
2. Kubo S, Hatano T, Hattori N.
Lipid rafts involvement in the pathogenesis of Parkinson's disease.
Front Biosci (Landmark Ed). 2015 Jan 1;20:263-79. Review.
3. Shimada K, Miyauchi K, Daida H.
Azelnidipine and glucose tolerance: possible indications and treatment selection for hypertensive patients with metabolic disorders.
Expert Rev Cardiovasc Ther. 13:23-31;2015
4. Shimada K.
Sudden cardiovascular events and comprehensive cardiac rehabilitation: come back from a bolt out of the blue.
J Cardiol Cases. 11:164-165;2015
5. Ozaki H, Abe T, Mikesky AE, Sakamoto A, Machida S, Naito H.
Physiological stimuli necessary for muscle hypertrophy. The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine.
J Phys Fit Sports Med., 2015; 4(1): 43-51
6. Tomita Y, Kasai T, Kisaka T, Rossiter HB, Kihara Y, Wasserman K, Daida H.
Altered breathing syndrome in heart failure: newer insights and treatment options.
Curr Heart Fail Rep. 2015; 12: 158-165.
7. Naito K, Liverneaux P, Kaneko K.
Telemicrosurgery in brachial plexus: the feasibility of robot-assisted microsurgery.
Juntendo Medical Journal. 61: 15-20, 2015.
8. Saita Y, Ishijima M, Kaneko K
Atypical femoral fractures and bisphosphonate use: Current evidence and clinical implications
Therapeutic Advances in Chronic Disease, 6, 185-193, 2015
9. Itoigawa Y, Kaneko K, An KN.
Biomechanical study using the fresh frozen cadaveric shoulders at Mayo clinic.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Juntendo Med journal. 2015 Oct;61(5):479-83.

【英文総説 2016 年】

1. Naito R, Miyauchi K, Daida H
Racial Differences in the Cholesterol-Lowering Effect of Statin.
J Atheroscler Thromb. 2016 Oct 12
2. Okazaki S, Daida H.
Current Catheter Intervention for Various Cardiovascular Disease
Juntendo Medical Journal 2016 62(3) ,197-208
3. Hassan A, Dohi T, Daida H.
Current Use of Intravascular Ultrasound in Coronary Artery Disease
Clinical Medicine Insights: Therapeutics 2016;8 45–51
4. Koh KK, Sakuma I, Shimada K, Hayashi T, Quon MJ.
Combining potent statin therapy with other drugs to optimize simultaneous cardiovascular and metabolic benefits while minimizing adverse events.
Korean Circ J. 2016 in press
5. Nishizaki Y, Shimada K, Daida H.
The Balance of Omega-3 Polyunsaturated Fatty Acids for Reducing Residual Risks in Patients with Coronary Artery Disease.
Acta Cardiologica. 2016 in press
6. Shimada K, Daida H.
Are there any “ultimate” practices for preventing atherosclerotic diseases?
Juntendo Medical Journal. 62:217-223;2016
7. Daida H, Nishitani-Yokoyama M, Shimada K.
Current Status and Future Directions for Cardiac Rehabilitation in Japan.
Juntendo Medical Journal. 62 (Supple 1):29-37;201
8. Fujimoto S, Daida H
Development in coronary CT angiography
Juntendo Medical Journal. 2016;62:190-196
9. Gerald F Watts, Phillip YA Ding, Peter George, Martin S Hagger, Miao Hu, Jie Lin, Khoo Kah Lin, A David Marais, Takashi Miida, Hapizah M Nawawi, Jing Pang, Jeong Euy Park, Lourdes E Gonzalez-Santos, Ta-Chen Su, Thanh Huong Truong, Raul D Santos, Handrean Soran, Shizuya Yamashita, Brian Tomlinson
Translational research for improving the care of familial hypercholesterolaemia: The “Ten Countries Study” and beyond.
J Atheroscler Thromb. 2016 Aug 1;23(8):891-900.
10. Ueno T, Komatsu M.
Autophagy in the liver: functions in health and disease.
Nat Rev Gastroenterol Hepatol. 2017; 14: 170-184
11. Kaneko.k
Nobuo Murakami, executive chef of the Imperial Hotel and Ambroise pare, surgeon in ordinary to the kings of France
J Orthop Sci, 2016; 21: 255-257
12. Ishijima M, Kaneko H, Hada S, Kinoshita M, Ishibashi M, Sadatsuki R, Liu L, Arita H, Shiozawa J, Yusup A, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Arikawa-Hirasawa E, Okada Y, Kaneko K
Sportology to prevent locomotive syndrome

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Juntendo Med J, 62, Supple 1, 44-49, 2016

13. Watada H.
Etiology of Resistance in Asian Non-Obese Subjects -Juntendo Sportology Center Core Study-.
Juntendo Medical Journal, 2016; 62(1): 38-41, 2016.3
14. Hattori N.
Movement disorders: advances in 2015
Lancet Neurol. 2016;15(1):8-9.
15. Ozaki H, Abe T, Machida S, Naito H.
Progressive training model for muscle hypertrophy and strength gain.
Adv Exer and Sports Physiol. 2016 (in press)
16. Sakamoto A, Sinclair PJ, Naito H.
Strategies for maximizing power and strength gains in isoinertial resistance training: Implications for competitive athletes.
J Phys Fitness Sports Med. 2016; 5(2): 153-166.
17. Yoshihara T, Machida S, Naito H.
Disuse-induced nuclear accumulation of histone deacetylase 4 in rat skeletal muscle.
Musculoskeletal Regeneration. 2016; 2: e1368.
18. Yoshihara T, Machida S, Naito H.
Disuse-induced nuclear accumulation of histone deacetylase 4 in rat skeletal muscle.
Musculoskeletal Regeneration. 2016; 2: e1368.
19. Yoshihara T, Sugiura T, Naito H.
Heat stress-induced protection against skeletal muscle atrophy via suppression of the apoptotic and proteolytic systems.
Musculoskeletal Regeneration. 2016; 2: e1255.
20. Yoshihara T, Sugiura T, Naito H.
Astaxanthin supplementation attenuates disuse muscle atrophy and myonuclear apoptosis in rat skeletal muscle.
Musculoskeletal Regeneration. 2016; 2: e1431.
21. Yoshihara T, Kakigi R, Naito H.
Heat stress induces FoxO3a phosphorylation in rat skeletal muscle.
Musculoskeletal Regeneration. 2017; 3, e1514.

【和文総説 2014 年】

1. 後藤広昌, 綿田裕孝
末梢動脈疾患のコントロールと RAS 阻害の意義
Angiotensin Research, 11: 40-43, 2014
2. 藤谷与士夫, 綿田裕孝
膵β細胞の視点から～インクレチンの可能性～
Bio Clin, 29: 18-22, 2014
3. 宮塚健, 綿田裕孝
Betatrophin
Diabetes Journal: 糖尿病と代謝, 42: 35-36, 2014
4. 綿田裕孝
Lecture note 低血糖の適切な対処
DxM: Diet Exercise Medicine, 3: 2-5, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

5. 三田智也, 綿田裕孝
食後高血糖や血糖変動はどのように心血管疾患に影響するか?
Heart View, 18: 40-46, 2014
6. 河盛隆造
“糖のながれ”からみる食後高血糖の病態
Life Style Medicine, 8: 2-7, 2014
7. 綿田裕孝
食後高血糖と血管合併症の関連を大規模スタディから読み解く
Life Style Medicine, 8: 8-13, 2014
8. 田村好史
糖尿病の運動療法
Medicina, 51: 1393-1399, 2014
9. 綿田裕孝
上市予定の薬剤の臨床試験データ 5)カナグリフロジン
Prog Med, 34: 723-726, 2014
10. 遅野井雄介, 綿田裕孝
糖尿病患者における心血管病の1次予防における科学的提言：米国心臓協会（AHA）/米国糖尿病学会（ADA）
血栓と循環, 22: 194-197, 2014
11. 河盛隆造
肝臓を標的臓器とした糖尿病治療
月刊糖尿病, 6: 18-24, 2014
12. 三田智也, 綿田裕孝
DPP-4 阻害薬の抗動脈硬化作用—現状と展望—
最新医学, 69: 1724-1730, 2014
13. 遅野井雄介, 綿田裕孝
インスリン治療
最新医学, 69: 105-116, 2014
14. 三田智也, 綿田裕孝
インクレチン関連薬の多彩な抗糖尿病作用
細胞, 46: 5-9, 2014
15. 谷本眞澄, 綿田裕孝
【糖尿病治療薬 Q&A—最新の SGLT-2 阻害薬を含め賢く使い分ける—】グリニド薬はどのような患者に適していますか?
治療, 96: 950-952, 2014
16. 綿田裕孝
膵β細胞の生物学
成人病と生活習慣病, 44: 549-555, 2014
17. 田村好史
運動療法を成功させる知識とコツ
東京都医師会雑誌, 67: 54-59, 2014
18. 小宮幸次, 綿田裕孝
欧米のアルゴリズムにおけるビッグアナイドの位置づけ
糖尿病の最新治療, 5: 66-71, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

19. 遅野井雄介, 三田智也, 綿田裕孝
【各薬剤の現状と前向き大規模臨床試験】シタグリプチン—TECOS
糖尿病の最新治療, 6: 16-20, 2014
20. 綿田裕孝
エンバグリフロジン
糖尿病の最新治療, 5: 156-157, 2014
21. 加賀英義, 綿田裕孝
新しい糖尿病経口薬 (インスリンを含む) を肥満解消面から科学する
糖尿病診療マスター, 12: 65-71, 2014
22. 綿田裕孝
糖尿病合併高血圧
内科, 114: 425-431, 2014
23. 田蒔基行, 綿田裕孝, 藤谷与士夫
SLC30A8/ZnT8 の新たな役割
内分泌・糖尿病・代謝内科, 38: 436-444, 2014
24. 藤谷与士夫, 綿田裕孝
【2型糖尿病における膵β細胞機能不全のメカニズム】膵β細胞機能不全とオートファジー
内分泌・糖尿病・代謝内科, 38: 320-326, 2014
25. 藤谷与士夫, 綿田裕孝
Zn2+はインスリン分泌に関与するか?—Lessons from SLC30A8/ZnT8 KO mice
内分泌・糖尿病・代謝内科, 39: 114-121, 2014
26. 福中彩子, 宮塚健, 綿田裕孝
【グルカゴンの分泌調節と作用】膵α細胞の発生・分化と可塑性
内分泌・糖尿病・代謝内科, 38: 389-392, 2014
27. 綿田裕孝
血糖降下薬新薬評価のための臨床研究の進めかた
内分泌・糖尿病・代謝内科, 39: 225-230, 2014
28. 綿田裕孝
膵β細胞の脱分化
内分泌・糖尿病・代謝内科, 39: 181-184, 2014
29. 田村好史, 竹野景海, 笥佐織
糖尿病の治療における脂肪筋と運動の効果〜フットケアを含めて〜
日本フットケア学会雑誌, 12: 57-60, 2014
30. 田村好史, 竹野景海, 笥佐織
運動療法の進歩
日本医師会雑誌, 143: 1679-1682, 2014
31. 三田智也, 綿田裕孝
V. 危険因子 糖尿病 関連分子 GLP-1
日本臨牀 増刊号 5—最新臨床脳卒中学 (上) —, 72: 231-235, 2014
32. 小宮幸次, 綿田裕孝
2型糖尿病における膵β細胞死とオートファジー
別冊・医学のあゆみ 細胞死 Update—基礎から臨床までを俯瞰して: 93-96, 2014
33. 加賀英義, 田村好史

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

重症感染症

別冊ブラクティス 糖尿病コンサルテーションブック: 101-107, 2014

34. 田村好史
肥満症の治療の実際—運動療法
臨牀と研究, 91: 31-36, 2014
35. 上野 隆
哺乳類マクロオートファジーの基礎と病態.
化学と生物 52: 321-327, 2014
36. 島田和典.
急性冠症候群のリスク因子と EPA/AA 比.
循環 PLUS 平成 26 年 Vol 14, No12 7-9.
37. 島田和典.
Bedside Teaching エイコサペンタエン酸/アラキドン酸(EPA/AA)比.
呼吸と循環. 62:583-591;2014.
38. 三井田孝
脂質検査の読み方. パターンで把握する脂質異常症治療—押さえておきたい処方の変異—
ション (Jmedmook 31)
寺本民生編, 日本医事新報社, 東京, 1-6, 2014
39. 三井田孝
non HDL-C
Current Therapy Vol. 32 No. 9: 225-231, 2014
40. 三井田孝
バイオマーカーとしての脂質・リポ蛋白関連検査
Lab Clin Pract Vol. 32 No. 2: 43-47, 2014
41. 三井田孝
採血管を二度遠心してはいけないのはなぜですか?
Medical Technology Vol. 42 No. 12: 1256-1257, 2014
42. 吉田 博, 三井田孝
動脈硬化性疾患の予防および診療における脂質検査の現状と将来
病理 Vol. 62 No. 9: 876-877, 2014
43. 平山哲, 三井田孝
【動脈硬化の未解決の課題を巡る～脂質異常症を中心として】 動脈硬化の新たなバイオマーカーを巡る
Vascular Medicine 10 巻 1 号, 10-15, 2014
44. 三井田孝, 平山哲
HDL 機能と病態・創薬】 HDL 機能 亜分画からみた HDL 機能
The Lipid 25 巻 3 号, 225-231, 2014
45. 金井 数明, 服部 信孝.
病気について知りたい!臨床講座 パーキンソン病,
PharmaTribune 6:23-33, 2014
46. 服部 信孝.
パーキンソン病の動物モデルは有用か?
MDSJ Letters 7:1-3, 2014
47. 西岡 健弥, 服部 信孝.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 【パーキンソン病の病態と治療】 遺伝性パーキンソン病の臨床症状の特徴
Medical Science Digest 40:8-11, 2014
48. 服部 信孝.
【パーキンソン病の病態と治療】 総論 パーキンソン病研究の現状と未来
Medical Science Digest 40:2-3, 2014
49. 西岡 健弥, 服部 信孝.
中枢性疼痛 パーキンソン病と慢性疼痛
Practice of Pain Management 5:82-86, 2014
50. 波田野 琢, 服部 信孝.
【進化するパーキンソン病診療】 進化するパーキンソン病病因解明研究
Progress in Medicine 34:223-229, 2014
51. Eldad Melamed(語り手), 服部信孝 (聞き手).
[対談]パーキンソン病治療薬の神経保護効果をめぐって ～Trial design と PROUD Study が示した知見を中心に～
Froniers in Parkinson Disease 7(3):129-135, 2014
52. 服部 信孝.
【パーキンソン病-非運動症状に対する漢方治療-】 パーキンソン病の精神症状に対する新しい選択肢
漢方医学 38:93-96, 2014
53. 波田野琢、服部信孝.
Continuous dopaminergic stimulation (CDS)実現による運動症状への対応、シンポジウムⅠ：進化する Parkinson 病の治療：症状とその対応ー、新たなステージへー 1
神経治療学 31:162-165, 2014
54. 服部 信孝.
パーキンソン病の病態とその治療
日本内科学会雑誌 103:637-644, 2014
55. 斉木 臣二, 服部 信孝.
【炎症と神経変性】 Parkinson 病と炎症
医学のあゆみ 248:897-900, 2014
56. 久保 紳一郎, 波田野 琢, 服部 信孝.
【内科疾患 最新の治療 明日への指針】 (第7章)神経・筋 早期 Parkinson 病,
内科 113:1391-1394, 2014
57. 金子晴香, 石島旨章, 金子和夫
軟骨合成マーカー CP-II
Keynote R・A, 2, 89-93, 2014
58. 石島旨章, 池田浩, 金子和夫
歩行補助具
変形性膝関節症の運動療法ガイド-保存的治療から術後リハまで, 152-54, 2014, 日本医事新報社, 東京
59. 石島旨章
順天堂大学医学部同窓会学術奨励賞を受賞して
茶崖, 155 号, 28-39, 平成 26 年 7 月号
60. 石島旨章, 金子和夫
変形性膝関節症に対するヒアルロン酸関節内注入の有効性と安全性
リウマチ科, 52, 515-522, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

61. 亀田壮, 熊井司, 田中康仁, 金子和夫
腱の overuse 障害 -アキレス腱症-
臨床スポーツ医学, 2014; 31: 608-613
 62. 高澤祐治、永山正隆、金子和夫
競技特性から見た前十字靱帯損傷-競技復帰に向けたアプローチ-ラグビー選手の ACL 再建術
後リハビリテーションと競技復帰.
臨床スポーツ医学 31: 1078-1081, 2014
 63. 高澤祐治、池田浩、金子和夫
インピンジメント症候群～病態と治療～, 膝関節インピンジメント
Orthopaedics 27:25-31, 2014
 64. 羽田晋之介、高澤祐治、斎田良知、石島旨章、池田浩、金子和夫
脛骨粗面剥離骨折に膝蓋腱断裂を合併し、膝蓋骨高位を呈した 1 例
日本整形外科スポーツ医学会誌 34, 215-219, 2014
 65. 馬場智規, 金子和夫
大腿骨ステム周辺骨折の治療戦略 -locking plate の適応と治療を中心に-
MB Orthopaedics2014, 27: 17-25
- 【和文総説 2015 年】
1. 平山哲, 三井田孝
【これだけは知っておきたい検査のポイント 第9集】 血液性化学検査など 脂質・リポ蛋白
総コレステロール, LDL コレステロール, HDL コレステロール
Medicina 増刊巻 4 月号, 262-264, 2015
 2. 三井田孝、上野 剛.
「アミラーゼ」と「ストレス」の深い関係.
Medical Technology, 2015; 43 (2): 186 -192
 3. 中川央充、三井田孝.
トリグリセライド もと暗し.
Medical Technology, 2015; 43 (4): 390 -397
 4. 上野 剛、三井田孝.
トランスアミナーゼとビタミンパワー.
Medical Technology, 2015; 43 (6): 627 -635
 5. 三井田孝、上野 剛.
悪玉が悪玉にだまされる : LDL-C.
Medical Technology, 2015; 43 (8): 878 -885
 6. 中川央充、三井田孝.
ビリルビンは縁の下の力持ち !
Medical Technology, 2015; 43 (10): 1101-1109
 7. 上野 剛、平山安希子、三井田孝.
ケトン体の 2 つの顔.
Medical Technology, 2015; 43 (12): 1323 -1331
 8. 平山 哲、三井田孝.
総コレステロール、LDL コレステロール、HDL コレステロール.
Medicina, 2015; 52(4); 262-264
 9. 三井田孝.
TG (トリグリセライド)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Medicina, 2015; 52(4); 265-267

10. 三井田孝.
脂質異常症治療薬.
医薬ジャーナル増刊号 (新薬展望 2015) , 2015 ; 51(S-1): 256-261
11. 三井田孝.
HDL-C 増加薬の現状.
血管医学, 2015; 16(1): 29-35
12. 三井田孝、平山安希子.
今日の新しい臨床検査—選び方・使い方—「脂質異常症」.
日本医事新報, 2015; 4772: 38-43
13. 加賀英義, 田村好史, 綿田裕孝
ヒトのインスリン抵抗性を規定している因子
Diabetes Frontier, 2015; 26(3); 302-306
14. 田蒔基行, 藤谷与士夫, 原朱美, 福中彩子, 荻原健, 宮塚健, 黒田暁生, 松本俊夫, 河盛隆造, 松久宗英, 綿田裕孝
糖尿病発症・進展にかかわる新規メカニズムの解明
日本内分泌学会雑誌, 2015; 91(1): 188
15. 船山崇, 田村好史, 竹野景海, 川口美奈子, 渡邊隆宏, 加賀英義, 古川康彦, 鈴木瑠璃子, 山本理紗子, 笥佐織, 藤谷与士夫, 河盛隆造, 綿田裕孝
同一消費熱量運動実施下における運動強度差がインスリン抵抗性と異所性脂肪に及ぼす影響について
糖尿病, 2015; 58(Suppl.1): S-390
16. 古川康彦, 田村好史, 竹野景海, 鈴木瑠璃子, 加賀英義, 船山崇, 渡邊隆宏, 山本理紗子, 藤谷与士夫, 河盛隆造, 綿田裕孝
糖尿病と肝臓の Interaction 非肥満 2 型糖尿病患者における肝内脂肪蓄積及び肝逸脱酵素と臓器特異的インスリン感受性の関連性
糖尿病, 2015; 58(Suppl.1): S-123
17. 河盛隆造
【特集にあたって】糖尿病治療の経口薬 up to date
月刊糖尿病, 2015; 7(2): 5
18. 河盛隆造
特集：スポーツロジの目指すこと。「スポーツロジ」とは」
保健の科学, 2015; 57(1): 4-9
19. 松葉怜, 今村美菜子, 岩田実, 広瀬寛, 綿田裕孝, 前川聡, 戸辺一之, 柏木厚典, 加来浩平, 河盛隆造, 田中逸, 前田土郎
多人種ゲノムワイド関連解析の大規模メタ解析により同定された新規 2 型糖尿病感受性領域 6 領域の日本人集団での検証
糖尿病, 2015; 58(Suppl.1): S-366
20. 高久史磨, 河盛隆造, 門脇孝
わが国の糖尿病医療の現状と今後の展望
Bios, 2015; 2015 年 1 月 20 日号: 2-13
21. 河盛隆造
特集：スポーツロジ
Medical View Point, 2015; 2015 年 2 月 10 日号
22. 河盛隆造

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

【糖尿病治療薬 update-適正な血糖管理を目指して-】 2型糖尿病の自然史は?
日本臨床, 2015; 73 (3): 363-72

23. 河盛隆造
日本人の体質に合った 2 型糖尿病、高血圧、高脂血症治療のあり方に関する、基礎的、臨床的研究
日本体質医学会雑誌, 2015; 77(1): 28
24. 河盛隆造
【2 型糖尿病における multimorbidity】 2 型糖尿病×高血圧×大血管障害
薬局, 2015; 66(7): 2157-62
25. 河盛隆造
【超高齢社会における糖尿病診療】 高齢者糖尿病治療への"スポーツロジ"導入
Diabetes Frontier, 2015; 26(5): 569-72
26. 河盛隆造
【薬物療法の動向 2015】 2 型糖尿病
Medicament News, 2015; 2182: 9-10
27. 後藤広昌, 綿田裕孝
SGLT2 阻害薬の有効性と使用注意点
CLINIC magazine, 2015; 42 (3): 16-20
28. 飯田雅, 荻原健, 綿田裕孝
糖尿病合併高血圧管理と脳卒中予防
分子脳血管病, 2015; 14 (1): 22-25
29. 福中彩子, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
基礎①ヒト IAPP が誘導する膵 β 細胞傷害とオートファジーによる制御
DIABETES UPDATE, 2015; 4 (1): 12-13
30. 遅野井雄介, 三田智也, 綿田裕孝
高血糖と血管障害
尿酸と血糖, 2015; 1 (3): 6-10
31. 荻原健, 綿田裕孝
長期 (たとえば 20 年以上) 血糖コントロール良好例の特徴は何か
糖尿病診療マスター, 2015; 13 (10): 797-801
32. 荻原健, 綿田裕孝
アルコールと糖代謝
医学のあゆみ, 2015; 254 (10): 929-933
33. 古川康彦, 綿田裕孝
SGLT2 阻害薬の作用機序と動脈硬化進展抑制への期待
分子脳血管病, 2015; 14 (2): 36-40
34. 藤谷与士夫, 綿田裕孝
膵 β 細胞におけるオートファジー 1) IAPP とオートファジー
内分泌・糖尿病・代謝内科, 2015; 40 (6): 427-433
35. 佐藤淳子, 綿田裕孝
日本人 2 型糖尿病患者の腸内細菌叢異常と糖ホメオスターシス
糖尿病診療マスター, 2015; 13 (5): 400-406
36. 三浦正樹, 宮塚健, 綿田裕孝
SGLT 2 阻害薬のクラスエフェクト

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

薬局, 2015; 66 (7): 19-22

37. 宮塚健, 綿田裕孝
膵内分泌細胞の可塑性
グルカゴン革命 糖尿病の真の分子病態を追え!, 2015; 33(6): 887-891
38. 池田富貴, 綿田裕孝
SGLT2 阻害薬: 基礎と臨床
最新医学, 2015; 70 (892): 192-199
39. 池田富貴, 綿田裕孝
【臨床効果から見る SGLT2 阻害薬の光と陰: わが国における実地使用を受けて】血糖低下効果: 有効性への期待 VS 低血糖への注意
Mebio, 2015; 32 (3): 16-21
40. 竹野景海, 綿田裕孝
【注目の新薬】イプラグリフロジン (スーグラ)
診断と治療, 2015; 103 (3): 419-422
41. 福中彩子, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
ヒト IAPP が誘導する膵 B 細胞傷害とオートファジーによる制御
Diabetes Strategy, 2015; 5 (1): 28-29
42. 綿田裕孝
最新の糖尿病の実地日常診療
Medical Practice, 2015; 32 (1): 7
43. 萩原健, 綿田裕孝
膵島の容量調節機構とその破綻
医学のあゆみ, 2015; 252 (5): 383-388
44. 田村好史
運動療法の通説とこれから
内科, 2015; 115 (4): 571-575
45. 田村好史
レジスタンス運動の必要性
プラクティス, 2015; 32(2): 145-147
46. 田村好史
最新の知見をふまえた運動療法の治療戦略を探る
Life Style Medicine, 2015; 9(2): 18-21
47. 田村好史
内臓脂肪と異所性脂肪“脂肪筋”から考える運動の役割
オレオサイエンス, 2015; 15(8): 13-18
48. 田村好史
インスリン抵抗性をどう評価し、どう活かすか? - 中枢神経から標的臓器まで -
プラクティス, 2015; 32(4): 399
49. 田村好史
臓器別のインスリン抵抗性の発生メカニズムと臨床的意義
プラクティス, 2015; 32(4): 401-409
50. 田村好史
糖尿病の運動療法
糖尿病と腎疾患, 2015; 78 (増刊号): 185-188

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

51. 田村好史
Ⅱ肥満 2 型糖尿病の分子メカニズム 3.骨格筋
The Lipid, 2015; 26(2): 32-38
52. 田村好史
運動療法はどのように指導するのがよいか？
プラクティス, 2015; 32(1): 26-28
53. 田村好史
生活習慣病における骨格筋とスポーツの役割
保健の科学, 2015; 57(1): 10-14
54. 田村好史
2 型糖尿病の運動療法
医学のあゆみ, 2015; 252 (5): 567-572
55. 青木茂樹、神谷昂平、入江隆介、鈴木通真、高野直、鎌形康司、隈丸加奈子、堀正明
MRI 2015
Rad Fan vol.13 No.4 2015
56. 鎌形康司、青木茂樹
4.疾患別 Q16.パーキンソニズムを呈する疾患を教えてください。
画像診断 Vol.35 No.10 2015
57. 鎌形康司、錦織瞭、堀正明、青木茂樹
【脳の見える化-構造編】 伝導路を見る DTI をはじめとした拡散 MRI による拡散解析とそれを用いた伝導路解析の原理
Clinical Neuroscience Vol.33 No.6 2015
58. 濱崎望、鶴田航平、青木茂樹、中澤美咲
【MRI-新しい活用の潮流とその実力】 MRI の立脚点と将来像を示す 最近の MRI の動向と今後の将来展望
新医療 Vol.42 No.6 2015
59. 高橋(安達)木綿子、青木茂樹
2.解剖・正常変異 Q4.おさえておくべき正常変異、don't touch lesion を教えてください
画像診断 Vol.35 No.10 2015
60. 高橋(安達)木綿子、青木茂樹
4.疾患別 Q13.抗体陽性脳炎など、脳炎や傍腫瘍症候群がたくさんありますが、診断のポイントを教えてください。
画像診断 Vol.35 No.10 2015
61. 鶴田航平、堀正明、青木茂樹
拡散強調像とその応用的技術のグリオーマ診断への応用
臨床画像 Vol.31 No.10 2015
62. 中澤美咲、梶沢宏之、青木茂樹
【Step up MRI 2015-臨床応用のための MRI 技術の現在と未来-】 臨床応用のための撮像技術の現状と課題 Synthetic MRI と MR fingerprinting
INNERVISION Vol.30 No.9 2015
63. 中西淳、玉本文彦、鈴木通真、朝日公一、松波環、小川正一、鈴木賢、桑鶴良平、青木茂樹
【脳神経・頭頸部の診断と治療 update】 外耳道疾患の画像診断
臨床放射線 Vol.60 No.5 2015
64. 船山 学、服部信孝.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

遺伝性パーキンソン病 研究の現状と展望、
Bio Clinica 30:752-756,2015

65. 森 聡生、波田野琢、服部信孝.
パーキンソン病の病因遺伝子、特集 パーキンソン病診療 update、
Pharma Medica、33 : 15-23, 2015
66. 木村 一雄, 浅井 徹, 小川 久雄, 奥村 謙, 木村 剛, 後藤 葉一, 住吉 徹哉, 代田 浩之, 田中 啓治, 長尾 建, 平山 篤志, 水野 杏一, 宮崎 俊一, 山科 章, 横山 斉, 吉野 秀朗, 生田 新一郎, 石井 秀樹, 石原 正治, 石綿 清雄, 大村 寛敏, 木下 武, 小菅 雅美, 坂田 泰彦, 佐藤 俊明, 塩見 紘樹, 島田 和典, 鈴木 誠, 高木 厚, 高瀬 信弥, 高山 忠輝, 高山 守正, 立花 栄三, 寺岡 邦彦, 中尾 浩一, 中川 義久, 樋熊 拓未, 掃本 誠治, 安武 正弘, 安田 聡, 山本 剛, 赤阪 隆史, 安達 秀雄, 一色 高明, 藤原 久義, 堀 正二, 日本循環器学会, 日本冠疾患学会, 日本救急医学会, 日本胸部外科学会, 日本集中治療医学会, 日本心血管インターベンション治療学会, 日本心臓血管外科学会, 日本心臓病学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本心電学会, 日本動脈硬化学会.
循環器病の診断と治療に関するガイドライン(2012 年度合同研究班報告)【ダイジェスト版】
ST 上昇型急性心筋梗塞の診療に関するガイドライン(2013 年改訂版).
日本心臓血管外科学会雑誌 44:1-36;2015
67. 島田和典, Al Shahi H, 塩澤知之.
動脈硬化の免疫学的機序.
J-ISCIP 会誌心血管薬物療法. 3:17-26;2015
68. 島田和典, 門口智泰, Al Shahi, 塩澤知之.
炎症を標的とした介入のあり方.
呼吸と循環. 63:833-839;2015
69. 島田和典, 高橋秀平, 横山美帆.
糖尿病を合併した心臓外科術後患者のリハビリテーション.
Journal of Clinical Rehabilitation. 24:1130-1137;2015
70. 大村寛敏, 代田浩之
【ACC/AHA ガイドラインを読み解く】冠動脈疾患の脂質管理
動脈硬化予防, 2015; 13: 23-29
71. 内藤 亮、代田 浩之
EBM Hot Flash 「IMPROVE-IT」
CARDIAC PRACTICE, 2015; 26: 224-225
72. 内藤 亮、代田 浩之
糖尿病に伴う冠動脈疾患の早期診断と進展予防
日本糖尿病学会誌, 2015
73. 宮内克己 代田浩之
冠危険因子の管理(Optimal Medical Therapy) が PCI と CABG の選択に与えた影響
循環器専門医 日本循環器学会専門医誌, 2015; 22: 23-30
74. 木村 友厚, 加藤 義治, 遠藤 直人, 大鳥 精司, 大西 五三男, 斎藤 充, 須藤 啓広, 高田 潤一, 原田 敦, 楊 鴻生, 萩野 浩, 馬場 智規, 最上 敦彦, 斎田 良知, 野々宮 廣章, 生田 拓也, 正田 悦朗, 白濱 正博, 金子 和夫, 澤口 毅
非定型大腿骨骨折診療マニュアル
日本整形外科学会誌 2015 ; 89:959-973
75. 石島旨章, 内藤聖人, 渡泰士, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, アニュアルジャン・ユスブ, 二見一平, 清村幸雄, 土屋勝, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 長岡功, 黒澤尚, 金子和夫
初期変形性膝関節症におけるバイオマーカーを用いた疼痛と軟骨代謝の連関

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 51-56, 2015

76. 金子 晴香, 石島 旨章, 二見 一平, 定月 亮, 平澤 恵理, 金子 和夫
【変形性膝関節症の診断と治療】 今後期待される新しい治療 細胞療法 変形性膝関節症の骨棘形成 パールカンの滑膜間葉系細胞制御による治療介入の可能性
別冊整形外科、67、218-222、2015
77. 金子晴香, 石島旨章, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
変形性膝関節症に対する鏡視下半月板部分切除術への警鐘
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 126-129, 2015
78. 金子 晴香, 石島 旨章, 金子 和夫
【実地内科医を訪れる他科の疾患の日常診療と対処法-その 1(小児科・精神科・皮膚科・整形外科) して良いことと、してはいけないこと】 実地内科医の診療と専門医との連携の実際と留意点 整形外科疾患 変形性膝関節症
Medical Practice、32 巻 8 号、1359-1363、2015
79. 金子 晴香, 石島 旨章, 金子 和夫
【ロコモティブシンドロームをめぐる最新の動向】 診断と予防・治療 ロコトレ ロコモーショントレーニング
臨床スポーツ医学、32 巻 3 号、251-256、2015
80. 金子晴香, 石島旨章, 金子和夫
ロコトレ
臨床スポーツ医学「ロコモティブシンドロームをめぐる最新の動向」, 32, 3, 256-261, 2015
81. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 木下真由子, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
初期変形性膝関節症の病変進行の部位別差異
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 8-12, 2015
82. 定月亮, 石島旨章, 久保田光昭, 金子晴香, 羽田晋之介, 木下真由子, 劉立足, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫
変形性膝関節症の疼痛と進行における MRI の骨髄異常陰影の関連
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 18-22, 2015
83. 劉立足, 石島旨章, 寧亮, 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫
末期変形性膝関節症における疼痛と滑膜炎そして炎症性サイトカインの発現パターンの関連性
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 23-29, 2015
84. 清村幸雄, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, 劉立足, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 土屋勝, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫
変形性膝関節症の重症化に伴う疼痛影響因子の変化
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 30-33, 2015
85. 金子晴香, 石島旨章, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫
変形性膝関節症のバイオマーカー: 血清ヒアルロン酸の臨床応用に向けたエビデンス
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 57-60, 2015
86. 石島旨章, 中村利孝, 清水克時, 林邦彦, 菊池啓, 宗圓聰, 大森豪, 山下敏彦, 内尾祐司, 千葉純司, 黒澤尚, 金子和夫
変形性膝関節症に対するヒアルロン酸関節内注射の有効性と安全性
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 92-97, 2015
87. 石島旨章, 黒澤尚, 池田浩, 劉立足, 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, アニュワ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

ル・ユスプ, 斎田良知, 高澤祐治, 金子和夫

変形性膝関節症における運動療法の有効性と限界

別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 108-114, 2015

88. 金子晴香, 二見一平, 定月亮, 平澤恵理, 山田吉彦, 金子和夫, 石島旨章

変形性膝関節症の骨棘形成: パールカンの滑膜間葉系細胞制御による治療介入の可能性

別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 218-222, 2015

89. 中潟崇, 町田修一, 内藤久士, 金子和夫, 石島旨章

ロコモーショントレーニング

LocoCure, 1, 42-47, 2015

90. 定月亮, 石島旨章, 金子和夫

こむらがえり

整形外科漢方処方マニュアル, MB Orthop, 28, 83-90, 2015

91. 石島旨章

ロコモ対策<その他の運動①膝痛体操>

安全と健康, 66, 690-91, 2015

92. 金子晴香, 石島旨章, 金子和夫

変形性膝関節症

実地内科医を訪れる他科の疾患の日常診療と対処法-その 1

Medical Practice, 32, 1359-63, 2015

93. 石島旨章, 金子和夫

変形性膝関節症の臨床症状と滑膜炎の連関

クリニシャン, 644, 1217-25, 2015

【和文総説 2016 年】

1. 三井田孝

脂質異常症と動脈硬化.

臨牀と研究 93(1): 31-36, 2016.

2. 三井田孝

TG の測定について.

メディカルビューポイント, 2016; 37: 5

3. 三井田孝

食事時間と検査値について.

ラボ, 2016; 444: 14

4. 三井田孝

脂質検査.

レジデント, 2016; 9: 54-61

5. 三井田孝

アポリポ蛋白 E の検査の仕組みは? [phenotype と genotype の違い].

日本医事新報, 2016; 4807: 61

6. 平山安希子, 三井田孝

検査 Q&A 「高 HDL-C 血症は、どのように考えれば良いのでしょうか？」

臨床検査, 2016; 60: 1600-1604

7. 三井田孝

non HDL-C/レムナント.

動脈硬化予防 15(3): 92-93, 2016.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

8. 三井田孝
食後トリグリセリド値の診断基準は存在するか？
日本医事新報 (4832): 61-62, 2016.
9. 三井田孝.
LDL-C と non-HDL-C の利点と限界.
医学のあゆみ, 2016; 260: 991-992
10. 平山安希子、平山哲
LDL コレステロール測定法の現状と課題
臨床検査, 2016; 60: 1460-1466
11. 上野剛、平山 哲、三井田孝
BCG 法は、 $\alpha 2$ -マクログロブリンとの反応により、ネフローゼ症候群における血清アルブミン濃度を過大評価するが、BCP 改良法ではその影響を受けない.
臨床化学, (2017 年 in press)
12. 渡部俊之、平山 哲、三井田孝、根間敏郎、武城英明
トリグリセライド(TG)の代謝と測定法の問題点.
臨床化学, (2017 年 in press)
13. 三井田孝
心筋梗塞では、いつ脂質を測るの？
レジデントノート, (2017 年 in press)
14. 木下真由子、石島旨章、金子晴香、羽田晋之介、塩澤淳、有田均、金子和夫
ロコモティブシンドロームと骨折予防
Loco Cure, 2, 30-37, 2016
15. 石島旨章
変形性膝関節症
Osteoporosis Japan プラス, 1, 18-19, 2016
16. 金子晴香、石島旨章、金子和夫
変形性膝関節症の運動療法
膝の痛み・訴えにどう対応するか、MB Orthop, 29, 70-78, 2016
17. 石島旨章、池田浩、金勝乾、高澤祐治、黒澤尚、金子和夫
必履修分野の研修方法・スポーツ
新専門医制度に備えた必履修分野の教え方・学び方、関節外科, 35, 158-164, 2016
18. 石島旨章
臨床研究のすすめ
JJOS (The Journal of Japan Osteoporosis Society), 2, 174-6 2016
19. 石島旨章、羽田晋之介、金子晴香、劉立足、木下真由子、有田均、塩澤淳、アニユワルジャン・ユスブ 青木孝子、高澤祐治、池田浩、岡田、金子和夫
Kellgren-Lawrence 分類からみた早期変形性膝関節症研究への期待と課題
Bone Jopint Nerve (BMJ), 6, 533-41, 2016
20. 羽田晋之介、石島旨章、金子晴香、劉立足、木下真由子、有田均、塩澤淳、アニユワルジャン・ユスブ、青木孝子、高澤祐治、池田浩、岡田保典、金子和夫
MRI を用いた早期変形性膝関節症の病態解析
Bone Jopint Nerve (BMJ), 6, 549-55, 2016
21. 石島旨章、金子晴香、高澤祐治、池田浩、岡田保典、金子和夫
ロコモの原因としての変形性膝関節症の病態と対策

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

ロコモティブシンドローム-長寿時代の各科に必要な運動器の最新知識-, カレントセラピー,
34, 957-962, 2016

22. 石島旨章
巻頭言：特集にあたって
The Bone, 30, 117-119, 2016
23. 金子晴香, 石島旨章, 金子和夫
変形性膝関節症の疼痛：病態
The Bone, 30, 253-261, 2016
24. 金子晴香, 石島旨章, 木下真由子, 金子和夫
疲労骨折にかかわる骨構造と骨代謝
疲労骨折の病態と治療, 整形・災害外科, 59, 1387-94, 2016
25. 石島旨章, 吉村祐輔, 金子和夫
医学研究アプリ「ロコモニター」
トピックス, クリニシアン 653号, 1133-37, 2016年11・12月
26. 石島旨章, 金子晴香, 羽田晋之介, 劉立足, アヌワル・ジャン・ユユプ, 清村幸雄, 木下真由子, 有田均, 塩澤淳, 青木孝子, 長尾雅史, 高澤祐治, 池田浩, 岡田保典, 金子和夫
変形性膝関節症の疼痛と関連する病態
リウマチ科, 56, 632-640, 2016
27. 石島旨章
専門医試験をめざす症例問題トレーニング：非定型大腿骨骨折
整形外科, 67, 999-1008, 2016
28. 石島旨章, 吉村祐輔, 金子和夫
ロコモニターの開発：ICTを用いたロコモ評価
糖尿病診療における ICT 革命, 月刊糖尿病, 9, 91-101, 2017年1月号
29. 長尾雅史, 石島旨章, 金子晴香, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
変形性膝関節症に対する運動・スポーツの意義
クリニカルカルシウム, 27, 25-30, 2017
30. 石島旨章
編集企画にあたって
Monthly Book Orthopaedics 「病態・経過でみる変形性関節症 -どこで手術に踏み切るか-」,
30, 前付1, 2017
31. 岸本通彦, 河盛隆造, 三輪真也
明日からの実践に役立つ糖尿病治療(1)発見直後からの的確な治療介入～選択肢が増えた糖尿病治療～
Clinic Magazine, 2016; 43(1): 8-14, 2016.1
32. 河盛隆造
総論：新しい学問、Sportology の目指すこと
MSD (Medical Science Digest) , 2016; 42(1): 21-24, 2016.1.25
33. 田村好史
運動と骨格筋細胞内脂質
MSD (Medical Science Digest)、2016 ; 42 (1) : 21-24, 2016.1.25
34. 田村好史
運動療法の効果的な実践法と注意点
DIABETES UPDATE, 2016; 5(1): 26-30, 2016.1.30

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

35. 河盛隆造
12. 多剤併用の根拠とその実際
レジデント, 2016; 9(2): 94-402, 2016.2.1
36. 田村好史, 竹野景海, 加賀英義
運動療法概論
新時代の臨床糖尿病学 (上) ～より良い血糖管理をめざして～, 2016; 74(1093): 484-489, 2016.2.20
37. 河盛隆造
2型糖尿病治療法概論
新時代の臨床糖尿病学 (上) ～より良い血糖管理をめざして～, 2016; 74(1093): 318-328, 2016.2.20
38. 田村好史
運動療法の基礎-基本的な考え方と注意点
糖尿病治療の現在と未来, 2016; 104(増刊号): 262-266, 2016.3.25
39. 綿田裕孝
2型糖尿病の病態 Update
セラピューティック・リサーチ, 2016; 37(4): 331-333, 2016.4.20
40. 後藤広昌, 綿田裕孝
インスリン療法 Brush UPー患者への正しい主義指導などを含めてー
DIABETES UPDATE, 2016; 5(2): 26-30, 2016.4.30
41. 綿田裕孝 (司会), 神谷英紀, 出口尚寿, 日吉徹
座談会 糖尿病患者の神経障害をどう管理するか
Diabetes Strategy, 2016; 6(2): 5-18, 2016.5.10
42. 福中彩子, 綿田裕孝
膵B細胞は空腹時に初期分泌顆粒の分解とそれに伴うオートファジー抑制によりインスリン分泌を抑制する
Diabetes Strategy, 2016; 6(2): 30-33, 2016.5.10
43. 金澤昭雄, 綿田裕孝
腸内細菌と各種疾患ー糖尿病・肥満
日本医事新報, 2016; (4807): 32-38, 2016.6.11
44. 内田豊義, 綿田裕孝
自己免疫性甲状腺疾患における自己抗体～バセドウ病を中心に～
日本体質医学会雑誌, 2016; 78(2): 87-93, 2016.6.30
45. 田村好史, 竹野景海, 笥佐織
骨格筋における脂肪毒性
The Lipid, 2016; 27(3): 73-78, 2016.8.5
46. 荻原健, 綿田裕孝
アルコールと糖代謝
アルコール医学・医療の最前線 UPDATE, 2016; 75-79, 2016.8.25
47. 鈴木瑠璃子, 田村好史, 綿田裕孝
消化管吸収と血糖
尿酸と血糖, 2016; 2(4): 6-10, 2016.10.1
48. 本田彬, 綿田裕孝
薬物療法アップデート 1.インスリン分泌促進系 スルホニル尿素薬・速効型インスリン分泌促進薬

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

診断と治療の ABC 糖尿病, 2016; 最新医学別冊: 108-115, 2016.10.25

49. 田村好史, 加賀英義, 染谷由希
運動療法の基本と最新の話
診断と治療の ABC 糖尿病, 最新医学別冊: 2016; 100-107, 2016.10.25
50. 小宮幸次, 綿田裕孝
高齢者糖尿病の血糖コントロール目標
DIABETES UPDATE, 2016; 5(4): 22-27, 2016.10.30,
51. 遅野井雄介, 三田智也, 綿田裕孝
2 型糖尿病患者における食事パターンと心血管イベントに関連するパラメーター
DIABETES UPDATE, 2016; 5(4): 18-20, 2016.10.30
52. 小宮幸次, 綿田裕孝
高齢者における糖尿病薬物療法の今後の展望
プラクティス, 2016; 33(6): 681-4, 2016.11.15,
53. 小宮幸次, 綿田裕孝
『重症低血糖』を起こしやすい薬剤がある
エキスパートナース, 2016; 32(15): 21-25, 2016.11.20
54. 登坂祐佳, 綿田裕孝
高齢者糖尿病のインスリン療法
最新医学, 2017; 72(1): 67-72, 2017.1.10
55. 田村好史, 笥佐織, 加賀英義, 竹野景海
骨格筋細胞内脂質の蓄積と体質
日本体質医学会雑誌, 2017; 79(1): 20-24, 2017.2.28
56. Dohi T, Daida H.
JAPAN-ACS (Japan Assessment of Pitavastatin and Atorvastatin in Acute Coronary Syndrome).
Nihon Rinsho. 2016 Jun 20;74 Suppl 4 Pt 1:697-702.
57. 島田和典, 喜多村健一, 代田浩之.
PCSK9 阻害薬の臨床効果.
Progress in Medicine. 36:631-637;2016.
58. 福田健太郎、岩田 洋、代田浩之
急性冠症候群の検査・診断
日本臨床 74 巻増刊号 6(通巻 1104 号) (2016) pp207
59. 島田和典
禁煙外来で調べる一酸化炭素濃度
きょうの健康 2016 年 5 月号 130-131.
60. 島田和典.
脂と油. 飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸.
保健ニュース 健康. 80:4-5;2016.
61. 内藤 亮、代田 浩之
疾病の回復を促進する薬 循環器系に作用する薬(1)
放送大学
62. 島田和典, 西崎祐史, 吉原琢磨, 相川達郎, 大内翔平, 塩澤知之, 門口智泰, 高橋秀平, 住吉克彦, 宮崎哲朗,代田浩之.
心血管疾患予防における多価不飽和脂肪酸の臨床的有用性.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

成人病と生活習慣病. 45:539-544;2016.

63. 萩田学 代田浩之
糖尿病合併症の病態・診断・治療 冠動脈疾患
雑誌[日本臨床] 2016 年 4 月増刊号
64. 萩田学 代田浩之
糖尿病治療薬の心血管アウトカム抑制効果が求められるようになった背景
雑誌[ホルモンと臨床]
2016 Vol.62 p771-774
65. 萩田学 代田浩之
糖尿病患者の冠動脈疾患に対する血行再建の考え方
月刊新聞[Medical View Point]
Vol37, No5 (2016 年 4 月 20 日発行)
66. 萩田学 代田浩之
EMPA-REG アウトカム試験を受けての期待
「月刊糖尿病」 2016 年 10 月号 Vol.8 No.10
67. 入江隆介, 鎌形康司, 堀正明, 國松聡, 青木茂樹.
精神科臨床における MRI ; 拡散 MRI を中心に.
総合病院精神医学 28(3): 219-225, 2016
68. 入江隆介, 鎌形康司, 鶴田航平, 青木茂樹.
解剖学的結合から見た認知症.
BIO Clinica 31(4): 339-343, 2016
69. 入江隆介, 萩原彰文, 神谷昂平, 安達木綿子, 堀正明, 森壘, 青木茂樹, 國松聡.
その他の星細胞系腫瘍, 神経細胞および混合神経細胞・膠細胞系腫瘍.
画像診断 36(13): 1258-1269, 2016
70. 堀 正明, 鈴木 通真, 入江 隆介, 隈丸 加奈子, 中西 淳, 青木 茂樹.
【症例から学ぶ MRI の基礎-臨床に直結する知識-】 脳血管障害.
画像診断 37(1): 10-19, 2016
71. 高橋 木綿子, 堀 正明, 青木 茂樹.
症例から学ぶ 画像診断トレーニング(第 36 回) 症例:30 歳代,男性.
脊椎脊髄ジャーナル 29(5): 585-588, 2016
72. 高橋 木綿子, 堀 正明, 青木 茂樹.
症例から学ぶ 画像診断トレーニング(第 37 回) 症例:2 歳 2 ヶ月,女児.
脊椎脊髄ジャーナル 29(6): 665-667, 2016
73. 鈴木 通真, 入江 隆介, 堀 正明, 鎌形 康司, 隈丸 加奈子, 青木 茂樹.
Ultrashort TE を用いた MRA.
臨床画像 32(4): 423-428, 2016
74. 萩原彰文, 堀正明, 中澤美咲, Christina Andica, 青木茂樹.
Synthetic MRI の臨床応用の実際と今後の展望
INNERVISION 31(9): 13-15, 2016
75. 鎌形 康司, 波田野 琢, 上田 亮, 青木 茂樹.
パーキンソン病とパーキンソン症候群の鑑別のための検査 パーキンソン病およびパーキンソン症候群の MRI(解説/特集).
臨床雑誌内科 118(2): 239-244, 2016
76. 鎌形 康司, 波田野 琢, 青木 茂樹.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

各種疾患 変性疾患 パーキンソン病と MRI(解説).
Annual Review 神経 2016: 180-188, 2016

77. 中澤美咲, 萩原彰文, Andica Christina, 堀正明, 青木茂樹.
Synthetic MRI の臨床と研究
1. 映像情報 Medical 増刊号「ROUTINE CLINICAL MRI 2017 BOOK」 48(14): 60-67, 2016

<図書>

【英文著書 2014 年】

1. Fujitani Y, Tamaki M, Fukunaka A, Watada H ;
Zinc and its role in the pathogenesis of type 2 diabetes
Zinc Signals in Cellular Functions and Disorders, Fukada T, Kambe T, Springer,
Tokyo(Japan), 269-283, 2014

【英文著書 2015】

1. Goto S, Kawakami K, Naito H, Katamoto S, Radak Z
Epigenetic Modulation of Gene Expression by Exercise.
Nutrition, Exercise and Epigenetics, Ageing Interventions Healthy Ageing and Longevity,
Springer, 2015; 2: pp 85-100

【英文著書 2016】

1. Ishijima M, Saita Y, Kaneko H, Kinoshita M, Kaneko K
The geometry of lower extremity and atypical femoral fractures
Osteoporosis in Orthopaedics-Assessments and therapeutic options, Shimada, Yoichi,
Miyakoshi, Naohisa (Eds.), 103-134, Springer 2016

【和文著書 2014】

1. 宮塚健, 綿田裕孝
SGLT2 阻害薬による膵β細胞機能保護への期待を探る
SGLT2 阻害薬のすべて, 稲垣暢也, 先端医学社, 東京都(日本), 75-77, 2014
2. 田村好史
肥満患者: 肥満例でもインスリン療法を導入する場合
インスリン療法最前線 【第3版】 2型糖尿病へのアプローチ, 河盛隆造, 綿田裕孝, 大村千恵,
日本医事新報社, 東京都(日本), 160-164, 2014
3. 田村好史
運動処方をつくり方
ヴィジュアル糖尿病臨床のすべて 糖尿病患者の食事と運動—考え方と進め方—, 荒木栄一,
山田祐一郎, 中山書店, 東京都(日本), 204-210, 2014
4. 綿田裕孝, 高橋徳江
だれでも無理なく続けられる糖尿病の満足ごはん
女子栄養大学出版部, 東京都(日本), 2014
5. 田村好史
骨格筋からみた異所性脂肪と糖尿病
異所性脂肪 メタボリックシンドロームの新常識 【第2版】, 小川佳宏, 日本医事新報社, 東京
都, 45-66, 2014
6. 綿田裕孝, 萩原健
第3章血糖測定と低血糖発作へのブドウ糖投与 1.糖尿病, 低血糖の病態と治療 B.糖尿病の病
態と治療
救急救命士標準テキスト【追補版】ショックへの輸液・ブドウ糖投与, 救急救命士標準テキス
ト追補版編集委員会, へるす出版, 東京都(日本), 43-48, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

7. 河盛隆造(監修)
" (健康図解シリーズ) 今すぐできる! 血糖値を下げる 40 のルール"
【健康図解シリーズ】今すぐできる! 血糖値を下げる 40 のルール, 古川英二, 学研パブリッシング, 東京都(日本), 2014
8. 筒井恵美子, 大村千恵, 綿田裕孝
糖尿病と高血圧の関係について教えてください。病態生理や臓器合併症への影響はどのように関連しているのでしょうか?
高血圧診療 Q&A155 エキスパートからの回答, 北風政史, 中外医学社, 東京都(日本), 252-254, 2014
9. 岡山かへで, 大村千恵, 綿田裕孝
インスリン製剤
重要薬マニュアルーこの薬が選ばれる理由, 伊藤裕, 医学書院, 東京都(日本), 120-121, 2014
10. 玉城晶子, 大村千恵, 綿田裕孝
インスリンアスパルト (遺伝子組換え)
重要薬マニュアルーこの薬が選ばれる理由, 伊藤裕, 医学書院, 東京都(日本), 122-123, 2014
11. 玉城晶子, 大村千恵, 綿田裕孝
インスリングルルギン (遺伝子組換え)
重要薬マニュアルーこの薬が選ばれる理由, 伊藤裕, 医学書院, 東京都(日本), 124-125, 2014
12. 本田彬, 大村千恵, 綿田裕孝
グリメピリド
重要薬マニュアルーこの薬が選ばれる理由, 伊藤裕, 医学書院, 東京都(日本), 126-127, 2014
13. 登坂祐佳, 大村千恵, 綿田裕孝
メトホルミン塩酸塩
重要薬マニュアルーこの薬が選ばれる理由, 伊藤裕, 医学書院, 東京都(日本), 128-129, 2014
14. 登坂祐佳, 大村千恵, 綿田裕孝
ピオグリタゾン塩酸塩
重要薬マニュアルーこの薬が選ばれる理由, 伊藤裕, 医学書院, 東京都(日本), 130-131, 2014
15. 河合文香, 大村千恵, 綿田裕孝
ボグリボース
重要薬マニュアルーこの薬が選ばれる理由, 伊藤裕, 医学書院, 東京都(日本), 132-133, 2014
16. 本田彬, 大村千恵, 綿田裕孝
ナテグリナド
重要薬マニュアルーこの薬が選ばれる理由, 伊藤裕, 医学書院, 東京都(日本), 134-135, 2014
17. 筒井恵美子, 大村千恵, 綿田裕孝
シタグリプチンリン酸塩水和物
重要薬マニュアルーこの薬が選ばれる理由, 伊藤裕, 医学書院, 東京都(日本), 136-137, 2014
18. 筒井恵美子, 大村千恵, 綿田裕孝
ビルダグリプチン
重要薬マニュアルーこの薬が選ばれる理由, 伊藤裕, 医学書院, 東京都(日本), 138-139, 2014
19. 宮塚健, 綿田裕孝
SGLT2 阻害薬の構造と機能
糖尿病の新たな治療選択 SGLT2 阻害薬の適正使用を目指して, 柏木厚典, フジメディカル出版, 東京都(日本), 28-32, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

20. 野見山崇,河盛隆造
第2章糖尿病とは A.糖尿病の疾患概念と病態 4.梅毒症
糖尿病研修ノート【改訂第2版】，門脇孝，加来浩平，花房俊昭，羽田勝計，稲垣暢也，出雲博子，谷澤幸生，診断と治療社，東京都(日本)，89-92，2014
21. 佐藤文彦,田村好史,河盛隆造
第4章治療 C.運動療法 1.運動の理論
糖尿病研修ノート【改訂第2版】，門脇孝，加来浩平，花房俊昭，羽田勝計，稲垣暢也，出雲博子，谷澤幸生，診断と治療社，東京都(日本)，286-288，2014
22. 佐藤文彦,田村好史,河盛隆造
第4章治療 C.運動療法 2.運動療法の指導法
糖尿病研修ノート【改訂第2版】，門脇孝，加来浩平，花房俊昭，羽田勝計，稲垣暢也，出雲博子，谷澤幸生，診断と治療社，東京都(日本)，289-291，2014
23. 渡邊隆宏,綿田裕孝
第4章治療 F.インスリンによる治療 5.入院中のインスリン療法
糖尿病研修ノート【改訂第2版】，門脇孝，加来浩平，花房俊昭，羽田勝計，稲垣暢也，出雲博子，谷澤幸生，診断と治療社，東京都(日本)，348-353，2014
24. 大村千恵,綿田裕孝
糖尿病治療目標と治療総論
糖尿病治療のニューパラダイム【第1巻 ライフスタイルの改善～食事療法、運動療法jを中心に～】，加来浩平，綿田裕孝，松田昌文，池上博司，宇都宮一典，医薬ジャーナル社，東京都(日本)，111-120，2014
25. 田村好史
有酸素運動の目標値と実際
糖尿病治療のニューパラダイム【第1巻 ライフスタイルの改善～食事療法、運動療法jを中心に～】，加来浩平，綿田裕孝，松田昌文，池上博司，宇都宮一典，医薬ジャーナル社，東京都(日本)，200-205，2014
26. 河盛隆造
血糖降下薬による一次予防の治療戦略
糖尿病治療のニューパラダイム【第2巻】薬物療法の実践～血糖降下薬を中心に～，加来浩平，松田昌文，綿田裕孝，池上博司，宇都宮一典，医薬ジャーナル社，東京都(日本)，103-112，2014
27. 弘世貴久,河盛隆造
糖代謝総論
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第4版】，医療情報科学研究所，MEDIC MEDIA，東京都(日本)，4-11，2014
28. 弘世貴久,河盛隆造
糖尿病
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第4版】，医療情報科学研究所，MEDIC MEDIA，東京都(日本)，12-17，2014
29. 弘世貴久,河盛隆造
2型糖尿病
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第4版】，医療情報科学研究所，MEDIC MEDIA，東京都(日本)，22-29，2014
30. 弘世貴久,河盛隆造
糖尿病の診断
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第4版】，医療情報科学研究所，MEDIC MEDIA，東京都(日本)，30-34，2014
31. 弘世貴久,河盛隆造

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

糖尿病のコントロールと治療 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第4版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA, 東京都(日本), 35-42, 2014	
32. 弘世貴久,河盛隆造 経口血糖降下薬 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第4版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA, 東京都(日本), 43-47, 2014	
33. 弘世貴久,河盛隆造 インスリン療法 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第4版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA, 東京都(日本), 53-59, 2014	
34. 弘世貴久,河盛隆造 糖尿病急性合併症 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第4版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA, 東京都(日本), 60-61, 2014	
35. 弘世貴久,河盛隆造 糖尿病昏睡 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第4版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA, 東京都(日本), 62-65, 2014	
36. 弘世貴久,河盛隆造 低血糖症 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第4版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA, 東京都(日本), 66-67, 2014	
37. 弘世貴久,河盛隆造 糖尿病慢性合併症 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第4版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA, 東京都(日本), 68-69, 2014	
38. 服部信孝. 04 抗パーキンソン病薬、治療薬ハンドブック 2014 薬剤選択と処方のポイント（監修：高久 史麿、編集：堀正二、他） 75-79、平成 26 年 1 月 15 日発行、株式会社 じほう、東京	
39. 波田野琢、服部信孝、有村芳子. 嚥下障害、第4章 有病者の栄養管理、スマート栄養学管理術 123 -栄養とスポーツの管理が重 要であるこれだけの理由- 富野康日己 編、医歯薬出版株式会社、222-228、2014 年 1 月 25 日、東京	
40. 富山弘幸、服部信孝 12 番染色体に連鎖する遺伝性パーキンソン病（PARK8）、Ⅲ変性疾患、錐体外路系疾患・パー キンソニズムを主とする疾患、家族性パーキンソン病 優性遺伝性パーキンソン症候群、 別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.27、神経症候群（第2版）（Ⅱ）ーその他の 神経疾患を含めてー、77-81、2014 年 3 月 20 日、日本臨床社、大阪	
41. 西岡健弥、服部信孝 6 番染色体に連鎖する遺伝性パーキンソン病（PARK2）、Ⅲ変性疾患、錐体外路系疾患・パー キンソニズムを主とする疾患、家族性パーキンソン病 優性遺伝性パーキンソン症候群 別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.27、神経症候群（第2版）（Ⅱ）ーその他の 神経疾患を含めてー、88-92、2014 年 3 月 20 日、日本臨床社、大阪	
42. 波田野琢、服部信孝 1 番染色体に連鎖する遺伝性パーキンソン病（PARK6, PARK7, PARK9(Kufor-Rakeb 症候群)）、	

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

PARK10, PARK16)、Ⅲ変性疾患、錐体外路系疾患・パーキンソニズムを主とする疾患、家族性パーキンソン病 優性遺伝性パーキンソン症候群
別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.27、神経症候群（第2版）（Ⅱ）－その他の神経疾患を含めて－、93-98、2014年3月21日、日本臨床社、大阪

43. 船山 学、安藤真矢、服部信孝.
16 番染色体に連鎖する遺伝性パーキンソン病 (PARK17)、Ⅲ変性疾患、錐体外路系疾患・パーキンソニズムを主とする疾患、家族性パーキンソン病 優性遺伝性パーキンソン症候群
別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.27、神経症候群（第2版）（Ⅱ）－その他の神経疾患を含めて－、82-85、2014年3月20日、日本臨床社、大阪
44. 内藤久士、町田修一、吉原利典
Section 5 運動と筋－4 骨格筋の肥大と萎縮
ニュー運動生理学(I). p224-33, 宮村実晴編, 真興交易株式会社医書出版部, 東京, 2014.

【和文著書 2015】

1. 平山哲
第109回医師国家試験 問題解説書
第109回医師国家試験 問題解説書 第1版, 医学評論社, 東京, p74, 75, 91, 92, 369, 370 ; 2015
2. 三井田孝.
LDL-C 測定法の現状と将来の課題.
高 LDL-C 血症 低 HDL-C 血症 (最新医学別冊 診断と治療の ABC 101), 倉林正彦(企画), 大阪, 最新医学社, 2015; 119-125
3. 三井田孝.
総コレステロール (TC)・LDL-コレステロール (LDL-C).
日常診療のための検査値のみかた, 野村文夫、村上正巳、和田隆志、末岡榮三郎(編), 東京, 中外医学社, 2015; 193-195
4. 三井田孝.
HDL-コレステロール.
日常診療のための検査値のみかた, 野村文夫、村上正巳、和田隆志、末岡榮三郎(編), 東京, 中外医学社, 2015; 198-199
5. 宮塚健, 綿田裕孝, 河盛隆造 (編集) 門脇孝, 荒木栄一, 稲垣暢也, 植木浩二郎, 羽田勝計, 綿田裕孝
糖代謝
糖尿病学, 2015; 2-7
6. 河盛隆造 (編集) 荒木栄一, 稲垣暢也
 α -グルコシダーゼ阻害薬 (α -GI) と大血管障害に関するエビデンス
糖尿病治療薬の最前線, 2015; 改訂第2版: 66-72
7. 佐藤淳子, 綿田裕孝 (編集) 寺内康夫
ピオグリタゾンと骨折との関連性について教えてください
いま知っておきたい 経口糖尿病治療薬の疑問 76, 2015; 210-215
8. 佐藤淳子, 綿田裕孝 (編集) 寺内康夫
チアゾリジン薬の注意すべき副作用とその対策は？
いま知っておきたい 経口糖尿病治療薬の疑問 76, 2015; 207-209
9. 荻原健, 綿田裕孝 (編集) 桂田菊嗣, 山本保博, 杉本壽, 堤晴彦, 森村尚登, 山口芳裕, 大橋教良, 尾形純一, 興水健治, 櫻井淳, 瀧野昌也, 玉川進, 中田康城, 畑中哲生, 平出敦, 菩提寺浩, 宮野收
糖尿病とその合併症
救急救命士標準テキスト 下巻, 2015; 改訂第9版: 800-807

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

10. 荻原健, 綿田裕孝 (編集) 荒木栄一, 稲垣暢也
α-グルコシダーゼ阻害薬 (α-GI)
糖尿病治療薬の最前線, 2015; 改訂第2版: 60-65
11. 加賀英義, 田村好史, 綿田裕孝 (編集) 加来浩平, 綿田裕孝, 松田昌文, 池上博司, 宇都宮一典
SGLT2 阻害薬の作用・作用機序と適応・禁忌
SGLT2 阻害薬の使用指針～市販後の実臨床から適性使用を考える～, 2015; 糖尿病治療のニューパラダイム別巻: 8-18
12. 藤谷与士夫, 綿田裕孝 (編集) 門脇孝
IAPP による膵β細胞障害
糖尿病学 2015, 2015; 10-16
13. 金澤昭雄, 綿田裕孝 (編集) 門脇孝
2型糖尿病における腸内フローラの意義ーその臓器としての役割
糖尿病学 2015, 2015; 100-109
14. 金澤昭雄, 綿田裕孝 (編集) 門脇孝, 荒木栄一, 稲垣暢也, 植木浩二郎, 羽田勝計, 綿田裕孝
インスリン
糖尿病学, 2015; 373-384
15. 本田彬, 三田智也, 綿田裕孝 (編集) 西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑪高尿酸血症
内科外来処方 navi, 2015; 145
16. 船山崇, 三田智也, 綿田裕孝 (編集) 西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑩高中性脂肪血症薬
内科外来処方 navi, 2015; 144
17. 飯田雅, 三田智也, 綿田裕孝 (編集) 西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑨家族性高コレステロール血症
内科外来処方 navi, 2015; 143
18. 遅野井雄介, 三田智也, 綿田裕孝 (編集) 西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑧高LDL血症
内科外来処方 navi, 2015; 141-142
19. 中島健一, 三田智也, 綿田裕孝 (編集) 西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑦胃切除後糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 140
20. 加賀英義, 三田智也, 綿田裕孝 (編集) 西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑥ステロイド糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 139
21. 古川康彦, 三田智也, 綿田裕孝 (編集) 西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑤肝疾患合併糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 138
22. 本田彬, 三田智也, 綿田裕孝 (編集) 西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】④膵性糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 137
23. 船山崇, 三田智也, 綿田裕孝 (編集) 西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】③やせ型の2型糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 136
24. 飯田雅, 三田智也, 綿田裕孝 (編集) 西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】②肥満合併2型糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 135
25. 三浦正樹, 三田智也, 綿田裕孝 (編集) 西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】①1型糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 134
26. 宮塚健, 綿田裕孝 (編集) 井村裕夫, 清野進, 石井秀始
膵臓β細胞再生研究の現状
膵島の再生医療—膵β細胞の発生と再生をめぐる新展開—, 2015; 108-112
27. 田村好史 (編集) 田城孝雄, 内藤久士
5.運動とメタボリックシンドローム
健康長寿のためのスポーツロジ, 2015; 70-79
28. 田村好史 (編集) 田城孝雄, 内藤久士
6.運動と糖尿病
健康長寿のためのスポーツロジ, 2015; 80-92
29. 加賀英義, 田村好史 (編集) 門脇孝, 荒木栄一, 稲垣暢也, 植木浩二郎, 羽田勝計, 綿田裕孝
運動療法
糖尿病学, 2015; 339-348
30. 加賀英義, 鈴木瑠璃子, 田村好史 (編集) 清野裕, 門脇孝, 南条輝志男, 大平雅美, 石黒友康, 野村卓生
血糖降下のメカニズムとエビデンス
糖尿病の理学療法, 2015; 82-91
31. 鈴木瑠璃子, 田村好史 (編) 齋藤英胤, 木下茂, 齋藤一郎, 堀江重郎, 南野徹, 山田秀和, 米井嘉一, 葦沢龍人, 新村健
筋・骨格のアンチエイジングと運動の生理学・生化学
アンチエイジング医学の基礎と臨床, 2015
32. 頼高朝子, 服部信孝.
パーキンソン病・アルツハイマー型認知症、
コエンザイム Q10 の基礎と応用、編者：日本コエンザイム Q 協会、発行所：丸善プラネット
株、発売所：丸善出版 (株)、pp 97-104, 2015, 東京
33. 下泰司, 服部信孝
2-①基底核の変性疾患 Parkinson 病、B 変性疾患、
神経内科 研修ノート (シリーズ監修 永井良三)、pp 277-280、診断と治療社、2015 年 1
月 5 日、東京
34. 島田和典
運動と心血管疾患 (1) .健康長寿のためのスポーツロジ
NHK 出版. 東京. 93-109; 2015.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

35. 島田和典
運動と心血管疾患（２）.健康長寿のためのスポーツロジ
NHK 出版. 東京. 110-123; 2015.
 36. 内藤久士（田城孝雄他 9 名と分担執筆）
運動と骨格筋, 子どもの体力・運動能力の現状とその課題
健康長寿のためのスポーツロジ, 田城孝雄, 内藤久士（編）, NHK, 2015; pp.180-196,
pp.243-258.
 37. 石島旨章
運動と運動器疾患(1)-運動と骨粗鬆症-
健康長寿のためのスポーツロジ, 124-147, 放送大学教材, 放送大学教育振興会(発行), 2015
年 3 月(発刊)
 38. 石島旨章
運動と運動器疾患(2)-運動と変形性膝関節症-
健康長寿のためのスポーツロジ, 148-179, 放送大学教材, 放送大学教育振興会(発行), 2015
年 3 月(発刊)
- 【和文著書 2016 年】
1. 三井田孝
脂質検査の採血は空腹時それとも非空腹時？—何を測りどう解釈する？—
そうだったんだ！脂質異常症—メカニズムがわかれば治療が変わる— 伊藤 浩（編）, 東京;
文光堂, 2016; 118-123
 2. 平山哲, 三井田孝
酸化 LDL の計測と問題点.
そうだったんだ！脂質異常症—メカニズムがわかれば治療が変わる— 伊藤 浩（編）, 東京;
文光堂, 2016; 84-86
 3. 平山哲, 三井田孝
small dense LDL, レムナントの存在を血液検査からどう推定する？
そうだったんだ！脂質異常症—メカニズムがわかれば治療が変わる— 伊藤 浩（編）, 東京;
文光堂, 2016; 124-125
 4. 平山哲
第 110 回医師国家試験問題解説書
第 110 回医師国家試験問題解説書 第 1 版. 医師国家試験問題解説書編集委員会編, 東京; 医学
評論社, 2016; 96, 337, 346, 348, 349
 5. 金子和夫（監訳）
X 線読影サバイバルガイド（原著第 3 版）
医歯薬出版株式会社, 第 1 版第 1 刷発行, 2017 年 2 月 20 日
 6. 金子和夫
第 38 章 骨折・脱臼
標準整形外科;2017;第 13 版:759-830;医学書院
 7. 木下真由子, 石島旨章
Q&A デノスマブ中止後も骨粗鬆症治療は継続する必要があるのでしょうか
ファーマナビゲーターシリーズ 抗 RANKL 抗体編, 第 1 版, 408-411, 2016
 8. 伊藤宣, 石島旨章, 岡崎賢
変形性関節症
シリーズ・骨の話④ 変形性関節症, ミネルブア書房, 2017 年 1 月 20 日初版
 9. 藤谷与士夫, 綿田裕孝 （編集）寺内康夫, 伊藤裕, 石橋俊

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

膵島アミロイドと膵β細胞

Annual Review2016 糖尿病・代謝・内分泌, 2016; 5-12, 2016.1

10. 田村好史 (監修) 山口徹, 北原光夫 (総編集) 福井次矢, 高木誠, 小室一成
糖尿病の運動療法
今日の治療指針, 2016; 746-747, 2016.1.1
11. 加賀英義, 田村好史 (編集) 羽田勝計, 門脇孝, 荒木栄一
運動療法の効果と実際、注意点
糖尿病最新の治療 2016-2018, 2016; 101-109, 2016.2.10
12. 登坂祐佳, 綿田裕孝 (編集) 伊藤浩, 綿田裕孝
Q45. α-グルコシダーゼ阻害薬の作用機序と心血管事故予防の臨床エビデンスに関して教えてください。
心血管事故を予防するための糖尿病治療戦略 実践のための Q&A, 2016; 176-178, 2016.3.1
13. 田村好史 (編集) 細井雅之
1. 運動療法をまずはやってみよう！
魔法の糖尿病患者説明シート, 2016; 168-171, 2016.3.5
14. 鈴木路可, 宮塚健, 綿田裕孝 (編集) 寺内康夫, 田島一樹, 近藤義宣
Q41.TZD 薬の作用機序を教えてください
糖尿病治療薬クリニカルクエスト 120 ー多様な薬剤をうまく使いこなすためにー, 診断と治療社, 2016; 87, 2016.5.25
15. 佐藤淳子, 三田智也, 綿田裕孝
血糖降下薬による治療 (インスリンを除く)
糖尿病診療ガイドライン 2016, 日本糖尿病学会, 2016; 83-122, 2016.6
16. 江島弘晃, 田村好史 (編集) 熊谷秋三, 田中茂穂, 藤井宣晴
7-3.脂肪組織および異所性脂肪
身体活動・座位行動の科学～疫学・分子生物学から探る健康～, 2016; 178-184, 2016.9.20
17. 田村好史 (編集) 石黒友康, 田村好史
Q12.脂肪筋・脂肪肝とインスリン抵抗性について教えてください
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第1版: 24-25, 2016.10.25
18. 田村好史 (編集) 石黒友康, 田村好史
Q11.内臓脂肪の増加によりインスリン抵抗性が生じるのはなぜか教えてください
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第1版: 22-23, 2016.10.25
19. 田村好史 (編集) 石黒友康, 田村好史
Q14.「糖のながれ」とは何ですか？
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第1版: 28-29, 2016.10.25
20. 田村好史 (編集) 石黒友康, 田村好史
Q15.糖質代謝における肝臓の役割について教えてください
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第1版: 30-31, 2016.10.25
21. 田村好史 (編集) 石黒友康, 田村好史
Q17.運動による糖取り込み亢進の分子メカニズムを簡単に教えてください
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第1版: 34-35, 2016.10.25

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

22. 田村好史 (編集) 石黒友康, 田村好史
Q20.血糖コントロール目標値はどのように定められたのですか?
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第 1 版:42-43, 2016.10.25
23. 田村好史 (編集) 石黒友康, 田村好史
Q34.ポリオール代謝異常について教えてください
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第 1 版:72-73, 2016.10.25
24. 加賀英義, 田村好史, 河盛隆造 (編集) 柴輝男, 安原洋
第 3 章 運動療法
新体系看護学全書別巻 治療法概説, メヂカルフレンド社, 2016; 別巻: 77-96, 2016.12
25. 奈良橋俊子, 金澤昭雄, 鈴木瑠璃子, 福村由紀, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
血糖コントロール増悪から診断まで約 2 年を要した糖尿病合併自己免疫性膵炎
糖尿病, 2016; 59(12): 798-804, 日本糖尿病学会, 2016.12.30
26. 綿田裕孝 (編集) 綿田裕孝
糖尿病研究の進歩と残された課題
糖尿病～研究の“いま”と治療の“これから”～, 羊土社, 2017; 35(2): 10-14, 2017.2.1
27. 綿田裕孝 (編集) 綿田裕孝
膵β細胞容積調節機構とその破綻—細胞増殖、細胞死、脱分化
糖尿病～研究の“いま”と治療の“これから”～, 羊土社, 2017; 35(2): 29-34, 2017.2.1
28. 宮塚健, 綿田裕孝 (編集) 羽田勝計, 門脇孝, 荒木栄一
膵/膵島再生の最前線
糖尿病最新の治療 2016-2018, 2016; 7-11, 2016.2.10
29. 田村好史 (編集) 河盛隆造, 綿田裕孝
4.治療法 2) 運動療法
インフォームドコンセントのための図説シリーズ 糖尿病 改訂版, 医薬ジャーナル社, 2017; 45-51, 2017.2.20
30. 荻原健, 綿田裕孝 (監修) 檜垣實男 (編集) 綿田裕孝, 大石充
8 章.糖尿病治療薬の循環器疾患関連エビデンス 7.SGLT2 阻害薬
糖尿病と循環器病 一歩進んだ糖尿病循環器学, 医薬ジャーナル社, 2017; 348-354, 2017.3.16
31. 島田和典.
リハビリテーションのエビデンス構築に必要な点.
心不全患者に寄り添う包括的心臓リハビリテーションを極める. 文光堂. 東京. 28-31; 2016.
32. 平野景子, 代田浩之
医療倫理と研究倫理
永井良三 (責任編集), 循環器研修ノート改訂第 2 版. 診断と治療社, 2016 ; 71-72
33. 服部信孝.
7. 大脳変性疾患、II 錐体外路系疾患、1～9、監修 ; 平山恵造、編集 ; 廣瀬源二郎、田代邦雄、葛原茂樹
臨床神経内科学、第 6 版 1 刷、pp409-441、ページ数 36 /ページ総数 968, 2016 年 2 月 15 日、南山堂、東京
34. 佐藤 猛、服部信孝、村田美穂.
パーキンソン病・パーキンソン症候群の在宅ケア -合併症・認知症の対応
看護ケア-、2016 年 5 月 30 日、中央法規出版株式会社、東京
35. マイケル S. オークン 著、大山彦光・服部信孝 訳.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

パーキンソン病とともに生きる・幸福のための10の鍵・（日本語版）、
アルタ出版、2017年1月10日第1版第1刷、東京

36. 今居 譲、柴佳保里、服部信孝.
遺伝子から探るパーキンソン病病態へのミトコンドリアの関与、
ミトコンドリア研究 UPDATE、医学のあゆみ、260: 85-91, 2017

<学会発表>

- (国際学会発表) 11(4)で引用されたものを抜粋
22. *T. Funayama, Y. Tamura, K. Takeno, M. Kawaguchi, T. Watanabe, H. Kaga, Y. Furukawa, R. Suzuki, R. Yamamoto, S. Kakehi, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.
Role of exercise intensity on intramyocellular lipid level after exercise in subjects with moderate insulin resistance.
American Diabetes Association 75th scientific sessions(ADA), Boston(USA), 2015.6.5-9(2015.6.8), ポスター
 23. *Masami Sugihara, Takashi Miida, Ryo Kakigi, Takashi Murayama, Satoshi Hirayama, Sachio Morimoto, Nagomi Kurebayashi
Voluntary exercise prevents heart failure and premature death of DCM model mice
2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo (9/12)
 24. *Y. Furukawa, Y. Tamura, K. Takeno, T. Funayama, R. Suzuki, H. Kaga, T. Watanabe, Y. Someya, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.
Potential usefulness of intrahepatic lipid accumulation and liver function tests to identify insulin resistance phenotype in non-obese type 2 diabetes.
American Diabetes Association 75th scientific sessions(ADA), Boston(USA), 2015.6.5-9(2015.6.8), ポスター
 25. *Kakehi S, Tamura Y, Ikeda S, Kawamori R, Watada H.
Mechanisms of insulin resistance after 24hours physical inactivity in murine soleus muscle
62nd Annual Meeting of American College of Sports Medicine. 26-30 May 2015, San Diego USA.
 26. *Kakehi S, Tamura Y, Kawamori R, Watada H.
Physical inactivity and high fat diet synergistically enhance the accumulation of intramyocellular diacylglycerol and induce insulin resistance in murine soleus muscle
Cell Symposia: Exercise Metabolism. 12-14 July 2015, Amsterdam, Netherlands.
 27. *Osada T., Hirose S., Ogawa A., Wada H., Yoshizawa Y., Imai Y., Machida T., Akahane M., Shirouzu I., Konishi S.
Neuroanatomical basis of orbitofrontal-hypothalamic interaction revealed by areal parcellation
Human Brain Mapping Conference, Geneva, Switzerland, June 30, 2016
 28. *Osada T., Hirose S., Ogawa A., Wada H., Yoshizawa Y., Imai Y., Machida T., Akahane M., Shirouzu I., Konishi S.
Heterogeneity of orbitofrontal cortex with reference to hypothalamus
Resting-State Functional Connectivity Conference, Vienna, Austria, Sep 21, 2016
 29. *Osada T., Ogawa A., Tanaka M., Hori M., Aoki S, Konishi S.
Parcellation of human hypothalamus using high-resolution resting-state fMRI
Society for Neuroscience Meeting, San Diego, USA, Nov 13, 2016
 30. *Eshima H, Tamura Y, Kakehi S, Kawamori R, Watada H. Maintenance of contractile force and increased fatigue resistance in slow-twitch skeletal muscle of long-term high-fat-fed

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

mice.

Experimental biology, W245, Chicago, April 2017. (Poster presentations)

31. *Eshima H, Tamura Y, Kakehi S, Kawamori R, Watada H. A long-term high fat diet causes muscle dysfunction in mouse fast-twitch skeletal muscle.
APS; Intersociety meeting, The integrative biology of exercise VII, 18.1-89, Phoenix, November 2016. (Poster presentations)
32. *Kakehi S, Tamura Y, Kaga N, Kawamori R, Watada H.
Physical Inactivity and High-Fat Diet Additively Induce Diacylglycerol Accumulation and Insulin Resistance in Muscle.
The American Diabetes Association' s 76th Scientific Sessions, New Orleans(USA), 2016.6.10-14, ポスター
33. *Kadoguchi T, Shimada K, Shiozawa T, Takahashi S, Hamad Al Shahi, Aikawa T, Ouchi S, Sugita Y, Miyazaki T, Akita K, Isoda K, Daida H
Inhibition of NAD(P)H Oxidase 4 Ameliorates Angiotensin II-Induced Protein Degradation via Improving Mitochondrial Dysfunction in Skeletal Myocytes.
Circulation. 2016;134:A15468
34. *Kadoguchi T, Shimada K, Shiozawa T, Takahashi S, Al Shahi H, Miyazaki T, Akita K, Isoda K, H. Daida H.
NAD(P)H oxidase 4 plays a key role in angiotensin II-induced protein degradation in skeletal muscle cells.
European Heart Journal 2016, 37 (Abstract Supplement), 1104

(その他の業績)

【学会発表（国際）2014年】

1. Kakehi S, Tamura Y, Ikeda S, Kawamori R, Watada H
Physical inactivity and high fat diet synergistically enhance the accumulation of intramyocell
50th EASD Annual Meeting, Vienna(Austria), ポスター, 2014.09.15-19, 2014
2. Fujitani Y, Watada H
Role of autophagy in pancreatic βcells
2014 Northeastern Asian Symposium on Autophagy, Busan(Korea), ポスター, 2014.12.19-21, 2014
3. Iida H, Ogihara T, Fujitani Y, Watada H
JAK2/STAT5 pathway regulates the expression of tryptophan hydroxylase 1 (TPH1) during pregnancy in Mouse Islets
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), ポスター, 2014.06.13-17, 2014
4. Miura M, Miyatsuka T, Matsuoka T, Fujitani Y, German M, Watada H
Parturition events terminate endocrine neogenesis
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), ポスター, 2014.06.13-17, 2014
5. Sanke H, Mita T, Tamura Y, Ishida K, Komiya K, Hara K, Yokota A, Inagaki N, Yamashiro K, Yoshii H, Onuma T, Watada H
The relationship between olfactory dysfunction and cognitive impairment in elderly patients with type 2 diabetes mellitus
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), ポスター, 2014.06.13-17, 2014
6. Sasaki S, Miyatsuka T, Takahara M, Kubo F, Miyashita K, Yamamoto Y, Yasuda T, Kawaguchi Y, Akiyama H, Kaneto H, Matsuoka T, Watada H, Shimomura I

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Activation of GLP-1 and gastrin signaling induces β -cell neogenesis
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), 口演,
2014.06.13-17, 2014
7. Sato J, Kanazawa A, Ikeda F, Shigihara N, Kawaguchi M, Komiya K, Uchida T, Ogihara T, Shimizu T, Fujitani Y, Watada H
Investigation of usefulness of continuous glucose monitoring system (CGM) in outpatient care of Japanese patients with type 2 diabetes
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), ポスター,
2014.06.13-17, 2014
 8. Schnell O, Weng J, Sheu WH, Watada H, Kalra S, Soegondo S, Yamamoto N, Grzeszczak W
Acarbose reduces body weight irrespective of glycemic control in patients with type 2 diabetes: results from a large pooled database of post-marketing observational and non-interventional studies
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), ポスター,
2014.06.13-17, 2014
 9. Sato J, Kanazawa A, Ikeda F, Yoshihara T, Goto H, Abe H, Komiya K, Kawaguchi M, Shimizu T, Ogihara T, Tamura Y, Sakurai Y, Yamamoto R, Fukuda H, Nomoto K, Takahashi T, Asahara T, Yamashiro Y, Watada H
Detection of "Live Gut Bacteria" in blood of patients with type 2 diabetes
Gut Microbiota, Probiotics and Their Impact Through the Lifespan, Boston(America), ポスター,
2014.09.22, 2014
 10. Jimura K, Hirose S, Wada H, Yoshizawa Y, Imai M, Akahane M, Machida T, Shirouzu I, Koike Y, Miyashita Y, Konishi S.
Fronto-temporal mechanisms involved in rapid formation of pair-association memory.
Soc Neurosci abstr, 2014
 11. Hirose S, Jimura K, Kunitatsu A, Abe O, Ohtomo K, Konishi S.
Cerebro-cerebellar network associated with learning of response inhibition as revealed by functional connectivity analysis.
Soc Neurosci abstr, 2014
 12. Osada T, Jimura K, Hirose S, Kunitatsu A, Ohtomo K, Koike Y, Konishi S.
Temporal changes in brain-behavior correlation during response inhibition.
Soc Neurosci abstr, 2014
 13. Yoko Tabe, Masako Harada, Yuka Miyamae, Hiromichi Matsushita, Kensuke Kojima, Tsutomu Fujimura, Saiko Kazuno, Takashi Ueno, Takashi Miida, Marina Konopleva, Michael Andreeff
The mTOR kinase inhibitor AZD-2014 effectively reverses XPO1/CRM1 antagonist KPT-185-induced glycolysis/gluconeogenesis, enhancing antitumor effects in mantle cell lymphoma
57th ASH Annual Meeting & Exposition, Orlando, FL, U.S.A.(12/5-12/8) Blood Vol. 124 No. 21: 925, 2014
 14. Yoko Tabe, Masako Harada, Yuka Miyamae, Kaoru Mogushi, Saiko Kazuno, Tsutomu Fujimura, Hiromichi Matsushita, Takashi Ueno, Takehiko Yokomizo, Takashi Miida, Ismael Samudio, Michael Andreeff, Marina Konopleva
Bone marrow adipocyte-derived free fatty acids induce gene signature linking transcription with metabolic changes that contribute to survival of acute monocytic leukemia cells
57th ASH Annual Meeting & Exposition, Orlando, FL, U.S.A.(12/5-12/8) Blood Vol. 124 No. 21: 1013, 2014
 15. Yoko Tabe, Masako Harada, Yuka Miyamae, Tsutomu Fujimura, Saiko Kazuno, Takashi Ueno, Takashi Miida, Michael Andreeff, Marina Konopleva

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Selective inhibitor of nuclear export selinexor (KPT-330) and BCL2 inhibitor ABT-199 enhance the anti-lymphoma effect of BTK inhibitor ibrutinib in mantle cell lymphoma
57th ASH Annual Meeting & Exposition, Orlando, FL, U.S.A.(12/5-12/8) Blood Vol. 124 No. 21: 2254, 2014

16. Yoko Tabe, Yasuhito Hatanaka, Peter P. Ruvolo, Takashi Miida, Steven M. Kornblau, Michael Andreeff, Marina Konopleva
Pro-survival effects of TGF- β 1 are associated with molecular signaling changes of ERK, FLI-1, and CD44 in AML cells
57th ASH Annual Meeting & Exposition, Orlando, FL, U.S.A.(12/5-12/8) Blood Vol. 124 No. 21: 2337, 2014

17. H Kaneko, L Liu, H Kurosawa, R Sadatsuki, S Hada, M Kinoshita, A Yusup, Y Shimura, M Tsuchiya, I Futami, K Kaneko, M Ishijima
Urine crosslinked telopeptide of type II collagen predicted osteoarthritis progression
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

18. A Yusup, H Kaneko L Liu, R Sadatsuki, S Hada, M Kinoshita, I Futami, H Kurosawa, Y Shimura, Y Saita, Y Takazawa, H Ikeda, K Kaneko, M Ishijima,
Synovitis Is Associated With Bone Marrow Abnormality In Patient With End-Stage Knee Osteoarthritis
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

19. S Hada, H Kaneko, R Sadatsuki, L Liu, A Yusup, M Kinoshita, I Futami, Y Shimura, M Tsuchiya, Y Saita, Y Takazawa, H Ikeda, K Kaneko, M Ishijima,
Degeneration and destruction for femoral articular cartilage is preceded than those for confronting tibial and patellar articular cartilage in early stage of knee osteoarthritis: a cross-sectional study
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

20. M Kinoshita, H Kaneko, L Liu, R Sadatsuki, S Hata, K Shimura, A Yusup, I Futami, Y Tamura, H Watada, Y Maruyama, K Kaneko,
Association between the lower serum PIIICP level and the joint space narrowing on the asymptomatic knee osteoarthritis in men in early forties
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

21. Y Shimura, H Kurosawa, M Tsuchiya, H Kaneko, L Liu, R Sadatsuki, A Yusup, S Hada, M Kinoshita, Y Makino, M Sawa, Y Iwase, K Kaneko,
Association between synovitis and depression in patients with knee osteoarthritis: A cross-sectional study
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

22. M. Tsuchiya, H. Kurosawa, Y. Shimura, H. Kaneko, L. Liu, R. Sadatsuki, Y. Anwarjan, S. Hada, M. Kinoshita, Y. Makino, M. Sawa, Y. Iwase, K. Kaneko, ,
Depression complicated with knee osteoarthritis
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

23. R. Sadatsuki, H. Kaneko, I. Futami, S. Hada, K. L. Culley, M. Otero, C. Dragomir, M. Kinoshita, M.B. Goldring, Y. Yamada, E. Arikawa-Hirasawa, K. Kaneko,
Role of perlecan in chondrogenic, osteogenic and adipogenic differentiation of synovial mesenchymal cells
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

2014

24. L Liu, H Kaneko, R Sadatsuki, S Hada, A Yusup, M Kinoshita, I Futami, Y Shimura, M Tsuchiya, H Kurosawa, Y Saita, Y Takazawa, H Ikeda, K Kaneko
MRI-detected osteophyte is a predictor for receiving total knee arthroplasty in patients with end-stage knee osteoarthritis
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014
25. Kinoshita M, Ishijima M, Sakamoto Y, Nojiri H, Kaneko H, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Kaneko K
Risk factor for the non-responder of bisphosphonates and active vitamin D analog for the treatment of osteoporosis
36th Annual Meeting of the ASBMR, Houston, Texas, USA, September 12-15, 2014
26. Yoshihara T, Kakigi R, Tsuzuki T, Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Naito H.
Changes in HDAC expressions in response to acute heat stress in rat skeletal muscle.
13th Biennial Advances in Skeletal Muscle Biology in Health & Disease Conference, Gainesville, Florida, USA, 2014 年 3 月
27. Takamine Y, Tsuzuki T, Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Naito H.
The effects of voluntary running during the growing period on bone tissue in Type 2 diabetic rats.
13th Biennial Advances in Skeletal Muscle Biology in Health & Disease Conference, Gainesville, Florida, USA, 2014 年 3 月
28. Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Machida S, Naito H.
Changes in stress protein expression in skeletal muscle before the onset of metabolic abnormalities in type 2 diabetic rats.
The 21th International Congress on Sport Science for Students, Budapest, 2014 年 4 月
29. Ichinoseki-Sekine N, Takamine Y, Tsuzuki T, Yoshihara T, Naito H.
Temporary Termination During Long-term Voluntary Exercise Increases Exercise Volume After Exercise Resumed In Mice.
The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting, Florida, USA, 2014 年 5 月.
Med Sci Sports Exerc. 46: 5 supplement, 356, 2014.
30. Yoshihara T, Kurosaka M, Kakigi R, Takamine Y, Machida S, Sugiura T, Naito H.
Alterations in HDACs expressions in response to endurance training in rat plantaris muscle.
The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting, Florida, USA, 2014 年 5 月.
Med Sci Sports Exerc. 46: 5 supplement, 308-9, 2014.
31. Sakamoto A, Naito H, Chow CM.
Effects of short vs. long hyperventilation on repeated sprint performance and muscle activation.
2014 Australian Conference of Science and Medicine in Sport (ACSMS), Canberra, Australia, 2014 年 10 月
32. Nakamura T, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Sakuma K, Naito H.
The level of ACTN3 protein expression does not influence knee extensor strength.
The 19th Annual Congress of the European College of Sport Science, Amsterdam, Netherlands, 2014 年 7 月
33. Hatano T, Okuzumi A, Shimo Y, Ueno SI, Kandori A, Sano Y, Hattori N.
Quantitative measurement of finger-tapping movements in patients with parkinsonism
4th AOPMC, Pattaya, Thailand, Nov. 28-30, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

34. Nakayama S, Motoi Y, Matsumoto SE, Takanashi M, Mori H, Hattori N.
Brain perfusion SPECT and neuropathology of two patients with autopsy-verified
Corticobasal Syndrome-Alzheimer's Disease
4th AOPMC, Pattaya, Thailand, Nov. 28-30, 2014
35. Nakajima A, Shimo Y, Uka T, Hattori N.
The effect of electrical stimulation of the subthalamic nucleus (STN) or internal part of the
globus pallidus (GPi) to primate striatal interneurons
4th AOPMC, Pattaya, Thailand, Nov. 28-30, 2014
36. Moriya S, Hayata T, Suzuki T, Yamada T, Shirakawa J, Kaneko K, Yamamoto T, Ezura Y,
Noda M
Administration of PTH and Tob deficiency in mice synergistically enhances the levels of
both cancellous and cortical bone mass
ASBMR, Huston, 2014 Oct
37. Mukaiharu K, Kubota D, Suehara Y, Akaike K, Ishii M, Takagi T, Kohsaka S, Kaneko K,
Saito T
Functional analysis of F-actin-capping protein subunit beta in epithelioid sarcomas
CTOS Annual Meeting, Berlin, October 15-18, 2014
38. Mukaiharu K, Kubota D, Suehara Y, Akaike K, Ishii M, Takagi T, Kohsaka S, Kaneko K,
Saito T
Protein expression profiling of giant cell tumors of bone treated with denosumab
CTOS Annual Meeting, Berlin, October 15-18, 2014
39. Naito K, Zemirline A, Sugiyama Y, Igeta Y, Obata H, Obayashi O, Kaneko K, Liverneaux P.
Distal radius fracture fixation through a mini-invasive volar approach.
16 ème Réunion de la Societe Franco-Japonaise d' Orthopedie Fukuoka Sep
40. Obata H, Naito K, Sugiyama Y, Igeta Y, Obayashi O, Kaneko K.
Irreducible dislocation of the thumb interphalangeal joint due to displaced flexor pollicis
longus tendon: case report and new reduction technique.
16 ème Réunion de la Societe Franco-Japonaise d' Orthopedie Fukuoka Sep
41. Ochi H, Kobayashi H, Baba T, Homma Y, Matsumoto M, Yuasa T, Ogawa S, Kaneko K
The examination about component position of THA after changing from posterior approach
to anterior approach
2014年9月6日, 16 ème Réunion de la Societe Franco-Japonaise d' Orthopedie, Fukuoka,
Sep
42. Onda S, Kanayama M, Hashimoto T, Shigenobu K, Oha F, Iwata A, Tanaka M, Kaneko K
Perioperative complications of lumbar spine surgery in patients over 85 years.
41th ISSLS, Seoul, Korea, June 3-7, 2014
43. Sadatsuki R, Kaneko H, Futami I, Hada S, K. L. Culley, M. Otero, C. Dragomir, Kinoshita
M, Liu Litz, Yusp A, Mary B. Goldring, Yamada Y, Arikawa-Hirasawa E, Kaneko K,
Ishijima M
Role of perlecan in chondrogenic, osteogenic and adipogenic differentiation of synovial
mesenchymal cells
OARSI, Paris, France, April, 24-27 2014
44. Saita Y, Kurata K, Sato T, Fukasaku S, Kaneko K, Nemoto M
Bone turnover markers (BMTs) in the synovial fluid in the patients with severe
osteoarthritis correlates with the serum level of BTMs though some patients with
osteoporosis exhibit mismatched increase of bone resorption activity in synovial fluid
OARSI, Paris, France, April, 24-27 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

45. Suehara Y, Kohsaka S, Mukaiharu K, Kubota D, Akaike K, Ishii M, Kazuno S, Mineki R, Fujimura T, Kaneko K, Ladanyi M, Saito T
Proteomic approaches for defining the protein profiles of EWS/FLi1 in patients with Ewing's sarcoma.
Connective Tissue Oncology Society, 2014 Annual Meeting, October 15-18, 2014, Berlin, Germany
46. Sugiyama Y, Naito K, Igeta Y, Obata H, Obayashi O, Kaneko K.
Treatment strategy for distal radius fractures of arteriovenous shunt forearm in maintenance hemodialysis patients.
16 ème Réunion de la Societe Franco-Japonaise d' Orthopedie Fukuoka Sep
47. Tsuchiya M, Kurosawa H, Shimura Y, Kaneko H, Liu L, Sadatsuki R, Yusup A, Hada S, Kinoshita M, Makino Y, Sawa M, Iwase Y, Kaneko K, Ishijima M
Depression complicated with knee osteoarthritis
OARSI (Osteoarthritis Research Society International) Paris, France April 24-27, 2014
48. Yuasa T, Makino Y, Suehara Y, Kaneko K
PRDX2 as a possible pathologic mediator of hip osteoarthritis revealed by proteomics
ESCEO2014 Seville, Spain April 2-5
49. 本間康弘、越智宏徳、馬場智規、小林英生、松本幹生、湯浅崇仁、金子和夫
Prevention for the dislocation using Dual Mobility Cup and Anterior Approach: Pitfall and its solution.
16 ème Réunion de la Societe Franco-Japonaise d' Orthopedie, Fukuoka, Sep、2014 年 9 月
学会発表 (国際) 2015 年
1. Y. Furukawa, Y. Tamura, K. Takeno, T. Funayama, R. Suzuki, H. Kaga, T. Watanabe, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.
Potential usefulness of intrahepatic lipid accumulation and liver function tests to identify insulin resistance phenotype in non-obese type 2 diabetes.
The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, ポスター
2. T. Funayama, Y. Tamura, K. Takeno, M. Kawaguchi, T. Watanabe, H. Kaga, Y. Furukawa, R. Suzuki, R. Yamamoto, S. Kakehi, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.
Role of exercise intensity on intramyocellular lipid level after exercise in subjects with moderate insulin resistance.
The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, ポスター
3. S. Ikeda, Y. Tamura, S. Kakehi, R. Kawamori, H. Watada.
Exercise-induced transient increase in IL-stimulates GLUT4 expression and enhances insulin sensitivity in mouse skeletal muscle.
The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, ポスター
4. S. Kakehi, Y. Tamura, K. Takeno, Y. Sakurai, M. Kawaguchi, T. Watanabe, T. Funayama, F. Sato, S. Ikeda, A. Kanazawa, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.
Intramyocellular lipid accumulation after high-fat diet is associated with the gene expression involved in lipid metabolism in skeletal muscle of non-obese men.
The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, ポスター
5. K. Shimoji, Y. Tamura, T. Uka, M. Hori, K. Kamagata, H. Watada, R. Kawamori, S. Aoki
What we learned from brain MR study from the Sportlogy project.
The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, ポスター
6. H. Watada.
Etiology of insulin resistance in non-obese subjects -Juntendo Sportlogy Center core study-.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, 口演

7. T. Mita, N. Katakami, I. Simomura, H. Watada.
The Study of Preventive Effects of Alogliptin on Diabetic Atherosclerosis (SPEAD-A).
American Diabetes Association 75th scientific sessions(ADA), Boston(USA),
2015.6.5-9(2015.6.8), ポスター
8. A.Hara, Y. Fujitani, T. Ogihara, T. Miyatsuka, H. Watada.
Human IAPP impairs the success of islet transplantation.
51st EASD Annual Meeting, Stockholm (Sweden) , 2015.9.14-18(2015.9.15), ポスター
9. K Kamagata, M Hori, A Nishikori, K Tsuruta, A Okuzumi, T Hatano, K Kamiya, N Hattori, S Aoki
High-resolution Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging in the substantia nigra of de novo Parkinson disease
ISMRM 23rd Annual Meeting & Exhibition: 30 May - 05 June 2015: Toronto, Canada.
10. Akifumi Hagiwara, Christina Andica, Masaaki Hori, Saori Shiota, Mariko Yoshida, Kanako Sato, Yuko Adachi, Kanako Kumamaru, Michimasa Suzuki, Atsushi Nakanishi, Misaki Nakazawa, Kouhei Tsuruta, Shigeki Aoki
Contrast-enhanced Synthetic MRI for the Detection of Brain Metastases
10th AOCNR : 5-7 Nov, 2015 : Fukuoka, Japan
11. Masaaki Hori, Ryuji Nojiri, Katsutoshi Murata, Yuichi Suzuki, Koji Kamagata, Mariko Yoshida, Kouhei Tsuruta, Keiichi Ishigame, Shigeki Aoki
Optimization of Spinal Cord NODDI Protocol with Multi-band EPI for Clinical Use
ISMRM 21nd annual meeting: 30 May-5 Jun 2015: Toronto, Ontario, Canada.
12. K.Tsuruta, R.Irie, M.Hori, I.Fukunaga, Y.Masutani, K.Kamiya, A.Nishikori, M.Yoshida, M.Suzuki, M.Miyajima, M.Namajima, K.Kamagata, H.Arai, A.Nakanishi, S.Aoki, A.Seno
Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging could show the microstructural changes of Cortico-Spinal Tract in patients with Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus
ISMRM 23rd annual meeting: 30 May-5 June 2015: Tronto, Ontario, Canada.
13. Kouhei Kamiya, Yuichi Suzuki, Shiori Amemiya, Naoto Kunii, Kensuke Kawai, Harushi Mori, Akira Kunimatsu, Nobuhito Saito, Shigeki Aoki, Kuni Ohtomo
Machine learning approach for lateralization of temporal lobe epilepsy utilizing DTI structural connectome
ISMRM 23rd annual meeting: 30 May-5 June 2015: Tronto, Ontario, Canada.
14. Kouhei Kamiya, Yuichi Suzuki, Shota Tanaka, Akitake Mukasa, Masaaki Hori, Harushi Mori, Akira Kunimatsu, Nobuhito Saito, Shigeki Aoki, Kuni Ohtomo
Discrimination between tumor-infiltration and vasogenic edema using non-gaussian diffusion MRI techniques: preliminary experience
ISMRM 23rd annual meeting: 30 May-5 June 2015: Tronto, Ontario, Canada.
15. Kanako Sato, Koji Kamagata, Ryuji Sakakibara, Hitoshi Terada, Shigeki Aoki
Neurite orientation dispersion and density imaging in patients with spinocerebellar ataxia type 6
21st Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping: 14-18 June 2015: Honolulu, Hawaii.
16. Christina Andica, Akifumi Hagiwara, Masaaki Hori, Saori Shiota, Mariko Yoshida, Kanako Sato, Yuko Takahashi, Kanako Kumamaru, Michimasa Suzuki, Atsushi Nakanishi, Misaki Nakazawa, Kouhei Tsuruta, Shigeki Aoki
Synthetic MRI: an old concept becomes practical
10th AOCNR : 5-7 Nov, 2015 : Fukuoka, Japan

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

17. A Nishikori, K Tsuruta, K Kamagata, T Hatano, A Okuzumi, M Hori, M Suzuki, S Aoki, A Seno
Detection of Microstructural Changes of Nigra-Striatum Dopaminergic Neurons in Parkinson's Disease using High Resolution DWI
ISMRM 23rd Annual Meeting & Exhibition: 30 May - 05 June 2015: Toronto, Canada.
18. Masaki Katsura, Yuichi Suzuki, Akihiro Kasahara, Harushi Mori, Akira Kunimatsu, Yoshitaka Masutani, Masaaki Hori, Shigeki Aoki, and Kuni Ohtomo
Non-Gaussian diffusion weighted imaging for assessing degenerative changes in intervertebral disc composition
ISMRM 21nd annual meeting: 30 May-5 Jun 2015: Toronto, Ontario, Canada.
19. Hattori N, Funayama M.
Clinicogenetic study of CHCHD2 in patients with autosomal dominant familial Parkinson's disease
Poster, XXII World Congress of Neurology, Casa Piedra, Centro de Eventos, Congresos y Exhibiciones, World Congress of Neurology 2015- Nov. 1, 2015, Santiago, Chili
20. Funayama M, Hattori N.
Symposium "At the Bench": CHCHD2 is novel gene for autosomal dominant Parkinson's disease, "Neurodegenerative disorders in cells to animals",
10th Annual Genetic Epidemiology of Parkinson's Disease Consortium (GEO-PD), Roppongi Academyhills 49, Oct. 2, 2015, Tokyo
21. Sato S, Hattori N.
Symposium "At the Bench": Pathological perspective on autophagy lysosome pathway in Parkinson's disease, "Neurodegenerative disorders in cells to animals",
10th Annual Genetic Epidemiology of Parkinson's Disease Consortium (GEO-PD), Roppongi Academyhills 49, Oct. 2, 2015, Tokyo
22. Takanashi M, Hattori N.
Hot Topic: Neuropathology of PINK1 homozygous mutation: Lewy-independent nigral degeneration resembling parkin mutation,
10th Annual Genetic Epidemiology of Parkinson's Disease Consortium (GEO-PD), Roppongi Academyhills 49, Oct. 2, 2015, Tokyo
23. Yoritaka A, Hattori N.
The Hydrogen Water Parkinson Study Group. Poster Session 2, Randomized double-blind, placebo-controlled multi-center trial for determining efficacy of molecular hydrogen water for Parkinson's disease, baseline characteristics,
XXI World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders, Dec 8, 2015, Milan, Italy
24. Miyamoto N, Tanaka R, Ueno Y, Watanabe M, Tanaka Y, Shimada Y, Kuroki T, Yamashiro K, Hattori N, Urabe T.
Analysis for usefulness of WORSEN score; the predicting score for the deterioration of acute ischemic stroke.
International Stroke conference, 2015. Feb.10-13, 2015, Nashville, Texas, USA
25. Hatano T, Saiki S, Okuzumi A, Hattori N.
Identification of novel biomarkers for Parkinson's disease by metabolomics technologies,
19th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, June 14-18, 2015, San Diego, CA, USA
26. Jo T, Oyama G, Yoshimi K, Sato S, Danjo T, Uemura A, Shimo Y, Hattori N.
Optical neuromodulation of nigrostriatal pathway,
19th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, June 14-18,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

2015, San Diego, CA, USA

27. Fukae J, Yanamoto S, Fujioka S, Hatano T, Mori A, Nomi T, Fukuhara K, Hattori N, Tsuboi Y.
Relationship between serum uric acid concentration and disease progression in multiple system atrophy,
19th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, June 14-18, 2015, San Diego, CA, USA
28. Satake W, Ando Y, Suzuki M, Tomiyama H, Nagai Y, Kashihara K, Murayama S, Mochizuki H, Nakashima K, Hasegawa K, Takeda A, Wada K, Tsuji S, Yamamoto M, Murata M, Hattori N, Toda T.
Exome association study and 2nd SNP-GWAS of Japanese Parkinson's disease
19th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, June 14-18, 2015, San Diego, CA, USA
29. Sai E, Shimada K, Yokoyama T, Sato S, Nishizaki Y, Miyazaki T, Hiki M, Tamura Y, Aoki S, Watada H, Kawamori R, Daida H.
Myocardial Triglyceride Content in Patients with Left Ventricular Hypertrophy: Comparison between Hypertensive Heart and Hypertrophic Cardiomyopathy.
SCMR/Euro CMR Meetings 2015, Nice France, 2015.2.5.
30. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Hayashi H, Tabuchi H, Yamagami S, Suwa S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H.
Is Watching National Team Matches in World Cup Soccer 2014 on TV associated with Increasing Ventricular Arrhythmia?
EuroPREVENT 2015.5.15. Lisbon. Portugal.
31. Tadaki S, Sakata Y, Miyata S, Asakura M, Shimada K, Yamamoto T, Kadokami T, Yasuda S, Miura T, Ando S, Yano M, Kitakaze M, Daida H, Shimokawa H.
Prognostic Impacts of Metabolic Syndrome in Patients with Chronic Heart Failure -A Multicenter Prospective Cohort Study.
American Heart Association Scientific Session 2015. 9 Nov, 2015. Orlando.
32. Takahashi S, Shimada K, Miyauchi K, Sai E, Miyazaki T, Shiozawa T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Low and Exacerbated Levels Of 1,5-anhydroglucitol are Associated with Cardiovascular Events in Patients After First-time Elective Percutaneous Coronary Intervention.
American Heart Association Scientific Session 2015. 9 Nov, 2015. Orlando.
33. Akita K, Isoda K, Sato-Okabayashi Y, Ishii Y, Shimada K, Daida H.
Increased Atherosclerosis in the Lack of IkBNS in LDL Receptor-deficient Mice is Associated with Increased Interleukin-6 Production by Macrophages.
American Heart Association Scientific Session 2015. 8 Nov, 2015. Orlando.
34. Tsuzuki T, Nakamoto H, Kobayashi H, Goto S, Ichinoseki-Sekine N, Naito H.
Elevated oxidative stress in type 2 diabetic OLETF rat liver.
Experimental Biology 2015, Boston, MA. March 28-April 1, 2015
35. Yoshihara T, Machida S, Kurosaka Y, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Takamine Y, Sugiura T, Naito H.
Immobilization-induced rat skeletal muscle atrophy enhances histone modification through HDAC4.
Experimental Biology 2015, Boston, MA. March 28-April 1, 2015
36. Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Tsuzuki T, Machida S, Naito H.
Effect of long-term voluntary running on bone tissue in mice.
Experimental Biology 2015, Boston, MA. March 28-April 1, 2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

37. Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Yoshihara T, Takamine Y, Kobayashi H, Naito H.
Effects of long-termvoluntary exercise on the respiratory muscles in young type 2 diabetic rats.
Experimental Biology 2015, Boston, MA. March 28-April 1, 2015
38. Ozaki H, Natsume T, Abe T, Machida S, Naito H.
Effect of neuromuscular electrical stimulation with blood flow restriction on muscle size and strength.
The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting, San Diego, USA, May 26-30, 2015
39. Kawanishi N, Naito H, Shuichi Machida S.
Role Of Toll-like Receptor 4 In Cast Immobilization-induced Muscle Atrophy.
The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting, San Diego, USA, May 26-30, 2015
40. Kitada T, Kawai S, Nakamura A, Sakuma K, Machida S, Naito H.
Lower Limb and Respiratory Muscle Oxygenation During 800-m Running.
The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting, San Diego, USA, May 26-30, 2015
41. Pengyu D, Naito H.
Longitudinal change in physical activity of children in Hunan, China.
The 20th Annual Congress of European College of Sports Science, Malmo, Sweden, June 24-27, 2015
42. Ishihara Y, Naito H, Sakamoto A, Ozaki H, Yoshimura M.
Relationship between aerobic fitness and match activity profiles of Japanese young soccer referees.
The 20th Annual Congress of European College of Sports Science, Malmo, Sweden, June 24-27, 2015
43. Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H.
The effect of the combination of increased physical activity with walking with blood flow restriction on leg muscle thickness and walking performance in older adults.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
44. Nakagata T, Ozaki H, Machida S, Ishibashi M, Naito H.
The effects of exercise training combined increase physical activity with walking with blood flow re-striction on locomotive syndrome risk test parameters in the elderly adults.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
45. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Effect of exercise intervention on locomotive syndrome in Japanese elderly.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
46. Ishihara Y, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Relationship between locomotive syndrome risk test parameters and physical activities in elderly people.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
47. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H.
Assessment of a University-Based Exercise Program for Locomotive and Metabolic Syndrome in the elder-ly people.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
48. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Acute changes in blood lactate concentration, muscle thickness and strength after walking with blood flow restriction in older adults.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
49. Pengyu D, Ishihara Y, Naito H.
Physical activity of children and adolescents in medium city in China.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
50. Kakigi R, Watanabe M, Naito H, Iesaki T, Okada T.
A bout of acute exercise attenuates cardiac dysfunction after ischemia/ reperfusion in isolated rat heart.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
- Suzuki K, Naito H, Govindasamy BALASEKARAN, Jong Kook SONG, Yiing Mei LIOU, Dajiang LU, Bee Koon POH, Kallaya KIJBOONCHOO, Stanley Sai-chuen HUI.
Japanese adolescents are the most physically fit and active in East and Southeast Asia.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
51. Naito H, Fuku N, Zenpo H, Miyamoto-Mikami E, Kikuchi N, Murakami H, Miyachi M.
Polymorphism in the CNTF receptor gene is associated with elite Japanese endurance athlete status: a case-control study.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
52. Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Takamine Y, Kakigi R, Kobayashi H, Naito H.
Effects of exercise before development of type 2 diabetes on glucose and lipid metabolism remain partly following exercise cessation in OLETF rats.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
53. Sakamoto A, Naito H, Chow CM.
Hyperventilation-induced respiratory alkalosis increases the number of repetitions able to be performed during resistance training.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
54. Takamine Y, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Naito H.
Effects of treadmill running on bone density and strength in young mice.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015
55. Ozaki H, Kitada T, Machida S, Naito H, Katamoto S.
Cycling inhibits age-related decreases in muscle thickness of the lower extremities and maximum oxygen uptake.
2015 ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast, Australia, October 21-24, 2015
56. Suzuki K, Naito H, Stanley Sai-chuen Hui, Govindasamy Balasekaran, Jong Kook Song, Yiing Mei Liou, Dajiang Lu, Bee Koon Poh, Kallaya Kijboonchoo.
School Sports Club Promotion Reduces Physically Unfit and Inactive Adolescents: The Asia-fit Study.
2015ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast, Australia, October 21-24, 2015
57. Sakamoto A, Naito H, Chow CM.
Hyperventilation-induced respiratory alkalosis increases the number of repetitions to be able to per-form during resistance training.
2015ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast, Australia, October 21-24, 2015
58. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Ishihara Y, Yoshihara T, Natsume T, Machida S, Naito H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Effects of 6-month exercise intervention program on locomotive syndrome risk test scores in Japanese elderly.
The 20th Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka, Japan, October 30-31, 2015 (Poster Presentation Award)
59. Ozaki H, Ozaki M, Machida S, Naito H.
The changes of muscle and subcutaneous fat thicknesses in an infant for a year after birth.
The 20th Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka, Japan, October 30-31, 2015 (Poster Presentation Award)
60. 張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士.
不同時間點實施運動對於肌肉萎縮後恢復期的自體吞噬(Autophagy)的影響
2015 年體育運動學術團體聯合年會暨學術研討會, 台灣, December 5-6, 2015
61. Yumiko Motoi, MD, PhD,1,2 Yuko Hara, PhD,1 Keigo Hikishima, PhD,3,4 Hiroshi Mizuma, PhD,5 Hirotaka Onoe, PhD,5 Shin-Ei Matsumoto, PhD,1 Montasir Elahi, PhD, Hideyuki Okano, MD, PhD,3, 6 Shigeki Aoki, MD, PhD,7 Nobutaka Hattori, MD, PhD,1,2
Selective involvement of the Septo-hippocampal fiber tract and upregulation of acetylcholinesterase in tauopathy model mice.
Society for Neuroscience October 17-21 Chicago
62. Takahashi S, Shimada K, Miyauchi K, Sai T, Miyazaki T, Shiozawa T, Tamura S, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Impact of low serum levels of 1,5-anhydroglucitol on cardiovascular events in patients after first-time elective percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2015, London, 29-31/8/2015
63. Ryo Naitoh, Katsumi Miyauchi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Gender difference in 5-year clinical outcomes following percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2015, London, 29-31/8/2015
64. Koji Akita, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Interleukin-1receptor antagonist contributes to the suppression of both angiotensin II-induced hypertension and organ damage.
ESC congress 2015, London, 29-31/8/2015
65. Ryo Naitoh, Katsumi Miyauchi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Temporal trends in clinical features and outcomes in the elderly following percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2015, London, 29-31/8/2015
66. Koji Akita, Kikuo Isoda, Yayoi Sato-Okabayashi, Yuko Ishii, Kazunori Shimada, Hiroyuki Daida
Increased atherosclerosis in the lack of IkBNS in LDL receptor-deficient mice is associated with increased interleukin-6 production by macrophages
AHA Scientific Session 2015, Orlando, USA, 7-11/11/2015
67. Shuhei Takahashi, Kazunori Shimada, Katsumi Miyauchi, Eiryu Sai, Tetsuro Miyazaki, Tomoyuki Shiozawa, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Low and exacerbated levels of 1,5-anhydroglucitol are associated with cardiovascular events in patients after first-time elective percutaneous coronary intervention
AHA Scientific Session 2015, Orlando, USA, 7-11/11/2015
68. Shoichiro Yatsu, Takatoshi Kasai, Shoko Suda, Azusa Murata, Takao Kato, Masaru Hiki,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Hiroyuki Daida
Association between periodic leg movements during sleep and clinical outcomes in hospitalized patients with systolic heart failure following acute decompensation
American College of Cardiology Scientific Session 2015, San Diego, USA; 2015/3/14-16

69. Shoko Suda, Takatoshi Kasai, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Influences of sleep-disordered breathing and its treatment by positive airway pressure on mortality and rehospitalization in patients with systolic heart failure following acute decompensation
American Thoracic Society 2015 International Conference, Denver, USA; 2015-5/16-20

70. Takao Kato, Takatoshi Kasai, Shoko Suda, Masaru Hiki, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Hiroyuki Daida
Association between periodic leg movements during sleep and clinical outcomes in hospitalized patients with systolic heart failure following acute decompensation
American Thoracic Society 2015 International Conference, Denver, USA; 2015-5/16-20

71. Shoko Suda, Takatoshi Kasai, Hiroki Matsumoto, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Impact of sleep-disordered breathing and its treatment on post-discharge outcomes in hospitalized patients with left ventricular systolic dysfunction following acute decompensated heart failure
European Society of Cardiology C 2015, London, UK; 2015-8/29-9/2

72. Ryo Naito, Takatoshi Kasai, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Influence of sleep-disordered breathing and its treatment on post-discharge outcomes in hospitalized patients following acute decompensated heart failure
14th International Symposium on Sleep and Breathing, Recife, Brazil; 2015-10-25-28

73. Takamura: K, Fujimoto S, Kondo T, Kumamaru K, Kawaguchi Y, Suda S, Matsumori R., Kato E, Hiki M, Takase S, Rybicki FJ, Daida H.
Prognostic Value of Coronary CT Angiography and Coronary Artery Calcium Score Performed Before Revascularization.
第 85 回 AHA orland USA 2015.11

74. Takamura: K, Fujimoto S, Kondo T, Kumamaru K, Kawaguchi Y, Suda S, Matsumori R., Kato E, Hiki M, Takase S, Rybicki FJ, Daida H.
Prognostic Value of Coronary CT Angiography and Coronary Artery Calcium Score Performed Before Revascularization.
American Heart Association, 88th Scientific Session, Orland, USA 2015.11

75. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Gender difference in long-term clinical outcomes following percutaneous coronary intervention during 1984 - 2008
American College of Cardiology, San Diego, 2015.03.14-16

76. Naito R, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Gender differences in 5-year clinical outcomes following percutaneous coronary intervention
ESC Congress 2015 London, 2015.08.29-09.02

77. Ryo Naito, Takatoshi Kasai, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Takao Kato, ,Shoko Suda, Masaru Hiki, Tetsuro Miyazaki, Hiroyuki Daida
Impact of sleep-disordered breathing and its treatment on post-discharge outcomes in

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

hospitalized patients with left ventricular systolic dysfunction following acute decompensated heart failure
14th International Symposium on Sleep and Breathing, Brazil, 2015.10.25-28

78. Naito R, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Combined effect of BMI and Renal function on Long-term Clinical Outcomes in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention
AHA 2015 Orland, 2015.11.07-11

79. Le Jiang; Hakuoh Konishi; Hiroyuki Daida
LR11 PLAYS A PIVOTAL ROLE IN PULMONARY AARTERIAL HYPERTENSION
American College of Cardiology 2015.March

80. H. Watada.
Effect of Islet-derived Zinc on Hepatic Insulin Extraction.
American Diabetes Association 75th scientific sessions(ADA), Boston (USA), 2015.06.05-09, 2015.06.05, 口演

81. M. Kamitani, T. Miyatsuka, M. Miura, T. Ogihara, Y. Fujitani, H. Watada.
Heterogeneity Of Autophagy Status In Pancreatic β Cells Under Metabolic Stress.
75th Scientific Sessions American Diabetes Association (ADA), Boston(USA), 2015.6.5-9, 2015.6.8, ポスター

82. Akaike K, Kurisaki-Arakawa A, Hara K, Suehara Y, Takagi T, Kaneko K, Yao T, Saito T.
Distinct Clinicopathologic Features Of Nab2-stat6 Fusion Gene Variants In Solitary Fibrous Tumor With Emphasis On The Acquisition Of Highly Malignant Potential
ORS 2015 Annual Meeting, USA, March 28, 2015

83. Akaike K, Suehara Y, Mukaihara K, Kurisaki-Arakawa A, Kubota D, Okubo T, Ishii M, Mitomi H, Takahashi M, Takagi T, Kaneko K, Yao T, Saito T.
KCTD12 MAY BE NEGATIVELY REGULATED BY KIT IN GASTROINTESTINAL STROMAL CELL TUMORS
2015 CTOS Annual Meeting, USA, November 4, 2015

84. Yohei Kobayashi, Yoshitomo Saita, Masashi Nagao, Hiroshi Ikeda, Kazuo Kaneko
Platelet-rich plasma (PRP) accelerates murine patellar tendon healing through enhancement of angiogenesis and collagen synthesis.
ORS 2015 Annual Meeting, Las Vegas, USA, March 28-31, 2015

85. Yohei Kobayashi, Yoshitomo Saita, Masashi Nagao, Hiroshi Ikeda, Kazuo Kaneko
Platelet-rich plasma (PRP) accelerates murine patellar tendon healing through enhancement of angiogenesis and collagen synthesis
ISAKOS 2015 Congress in Lyon, France, June 7-11, 2015

86. Midori Ishii, Yoshiyuki Suehara, Keisuke Akaike, Kenta Mukaihara, Daisuke Kubota, Taketo Okubo, Tatsuya Takagi, Takashi Yao, Kazuo Kaneko, Tsuyoshi Saito
Clinicopathological impacts of protein phosphatase 2, regulatory subunit A, alpha mutations in gastrointestinal stromal tumors
ASCO, Chicago, USA, May 29-June 2, 2015

87. Midori Ishii, Yoshiyuki Suehara, Keisuke Akaike, Kenta Mukaihara, Daisuke Kubota, Taketo Okubo, Tatsuya Takagi, Takashi Yao, Kazuo Kaneko, Tsuyoshi Saito
CLINICOPATHOLOGICAL IMPACT OF PROTEIN PHOSPHATASE 2, REGULATORY SUBUNIT A, ALPHA MUTATIONS IN GASTROINTESTINAL STROMAL TUMORS
CTOS, Salt Lake City, USA, November 4-7, 2015

88. Midori Ishii, Yoshiyuki Suehara, Keisuke Akaike, Kenta Mukaihara, Daisuke Kubota,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Taketo Okubo, Tatsuya Takagi, Takashi Yao, Kazuo Kaneko, Tsuyoshi Saito
Clinicopathological and functional analyses of protein phosphatase 2, regulatory subunit A, alpha mutations in gastrointestinal stromal tumors
ESMO-ASIA, Singapore, December 18-21, 2015
89. M Kinoshita, H Kaneko, L Liu, R Sadatsuki, S Hada, K Shimura, A Yusup, I Futami, Y Tamura, H Watada, K Kaneko, M Ishijima
THE LOWER CARTILAGE SYNTHESIS, BUT NOT HIGHER CARTILAGE DESTRUCTION, IS ASSOCIATED WITH THE KNEE JOINT SPACE WIDTH IN MEN IN EARLY FORTIES WITHOUT KNEE PAIN
第 25 回 OARSI 2015、Seattle USA、2015 年 5 月 2 日
90. M Kinoshita, M Ishijima, Y Sakamoto, H Nojiri, H Kaneko, L Liu, R Sadatsuki, S Hada, K Kaneko
The serum levels of calcium required for the increase in bone mineral density by the combination therapy of bisphosphonate and active vitamin D3 analog for the treatment of osteoporosis
第 37 回 ASBMR 2015、Seattle USA、2015 年 10 月 11 日
91. Hiromitsu Takano, Ikuho Yonezawa, Takatoshi Okuda, Yukitoshi Shimamura, Kei Yoshikawa, Tatsuya Sato, Kazuo Kaneko
The spontaneous improvement of the cervical kyphosis in eosinophilic granuloma. A case report with long-term follow-up
31st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society, London, May26-28, 2015
92. Kubota D., Kobayashi K., Tanzawa Y., Mukaihara K., Suehara Y., Kaneko K., Kawai A
Functional outcome of total femoral endoprosthesis replacement following excision of bone and soft tissue sarcomas
ISOLS2015, Orland, 2015 Oct 6-10
93. Kubota D., Mukaihara K., Takagi T., Suehara Y., Kaneko K.
DISCOVERY OF TARGETABLE TYROSINE KINASES AND ANTI-TUMOR ACTIVITY OF TYROSINE KINASE INHIBITORS IN ALVEOLAR SOFT PART SARCOMA
CTOS2015, Salt lake city, Utah, 2015 Nov 4-7
94. Kubota D., Suehara Y., Kobayashi K., Kaneko K., Kawai A., Kondo T.
Chemo-responsiveness predictive biomarker discovery for osteosarcoma using microRNA-microarray, ESMO ASIA 2015, Singapore, 2015 Dec.
ESMO ASIA 2015, Singapore, 2015 Dec 18-21
95. Shimura Y, Kurosawa H, Tsuchiya M, Kaneko H, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Yusup A, Kaneko K., Ishijima M
The exercise therapy decreases the serum interleukin-6 levels in patients with knee OA
OARSI2015, 2015 年 4-5 月, Seattle, USA
96. Tsuchiya M, Kurosawa H, Shimura Y, Kaneko H, Liz L, Sadatsuki R, Yusup A, Hada S, Kinoshita M, Makino Y, Sawa M, Iwase Y, Kaneko K., Ishijima M
The influential factors for the depressive state in patients with knee osteoarthritis
OARSI2015, 2015 年 4-5 月, Seattle, USA
97. Kameda S, Tanaka Y, Kumai T, Taniguchi A, Kurokawa H, Ohara K, Tomiwa K, Nozawa M, Kaneko K., Takakura Y
Radiographic features of atraumatic osteochondral lesion of the talus
International congress on cartilage repair of the ankle, Seoul, Korea, April 28-29, 2015
98. Kanazawa H, Maruyama Y, Osawa A, Satou K, Shitoto K, Kaneko K.
Increased risk of Osteoarthritis after Anterior Cruciate Ligament Reconstruction with hamstrings autograft - Long term follow up.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

12th Congres of Association France Japan Orthopadie, San malo, France, June 6, 2015

99. Osawa A, Urayasu, Yuichiro Maruyama, Kazuo Kaneko
AN EXAMINATION OF GROWTH FACTOR LEVELS IN PLATELET-RICH PLASMA AND CORRELATIONS WITH AGE, GENDER, PLATELET COUNT, AND DHEAS
2015 World Congress on Osteoarthritis, being held April 30 - May 3, 2015 at the Washington State Convention Center
100. Osawa A, Urayasu, Yuichiro Maruyama, Kazuo Kaneko
An Examination of Growth Factor Levels in Platelet-rich Plasma and Correlations with Age, Gender, Platelet Count, and DHEAS
10th Biennial ISAKOS Congress • Lyon, France • June 7-11, 2015
101. Yuasa T, Yamakawa J, Maezawa K, Kaneko K
Prospective study on antimicrobial prophylaxis in total hip arthroplasty.
16th EFFORT Prague, Czech. May 27-29.
102. Yuji Takazawa, Hiroshi Ikeda, Yoshitomo Saita, Muneaki Ishijima, Haruka Kaneko, Shinnosuke Hada, Yohei Kobayashi, Ryo Sadatsuki, Kazuo Kaneko
Clinical Results After Revision ACL Reconstruction With Patellar Tendon Autograft
10th ISAKOS Congress, June 7-11, 2015, , Lyon, France
103. Yasuhiro Homma, Tomonori Baba, Hideo Kobayashi, Hironori Ochi, Mikio Matsumoto, Takahito Yuasa, Kazuo Kaneko
Benefit And Risk In The Prevention For Dislocation With Dual Mobility Cup Combined With Anterior Approach For Primary Total Hip Arthroplaty
16th EFFORT Congress, Prague, 2015.5.27
104. Yasuhiro Homma, Tomonori Baba, Hideo Kobayashi, Hironori Ochi, Mikio Matsumoto, Takahito Yuasa, Kazuo Kaneko
The Importance Of Soft Tissue Stabilizer Of The Hip: Learning From 3 Catastrophic Failures Of Rapid Osteoarthritis Development After Hip Arthroscopy.
16th EFFORT Congress, Prague, 2015.5.29
105. Yasuhiro Homma, Tomonori Baba, Hideo Kobayashi, Hironori Ochi, Mikio Matsumoto, Takahito Yuasa, Kazuo KANEKO
Benefit And Risk In The Prevention For Dislocation With Dual Mobility Cup Combined With Anterior Approach For Primary Total Hip Arthroplaty
13th AFJO, France, Saint malo. 2015.6.5
106. Yasuhiro Homma, Tomonori Baba, Hideo Kobayashi, Hironori Ochi, Mikio Matsumoto, Takahito Yuasa, Kazuo Kaneko
The Importance Of Soft Tissue Stabilizer Of The Hip: Learning From 4 Catastrophic Failures Of Rapid Osteoarthritis Development After Hip Arthroscopy.
13th AFJO, France, Saint malo, 2015.6.5
107. Kaneko H, Ishijima M, Ishibashi M, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Liu L, Yusup A, Kobayashi Y, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K
Development of a novel miniaturized motion capture technology to assess gait of outpatients with knee osteoarthritis in the clinical setting
OARSI2015, 2015 年 4-5 月, Seattle, USA
108. Kinoshita M, Kaneko H, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Shimura Y, Tsuchiya M, Yusup A, Futami I, Tamura Y, Watada H, R Kawamori, Kaneko K, Ishijima M
The lower cartilage synthesis, but not higher cartilage destruction, is associated with the knee joint space width in men in earkly forties without knee pain
OARSI2015, 2015 年 4-5 月, Seattle, USA

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

109. Hada S, Kaneko H, Sadatsuki R, Liu L, Yusup A, Kinoshita M, Futami I, Shimura Y, Tsuchiya T, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
The site-specific associations between the meniscus changes and the osteophyte formations in early-stage knee osteoarthritis
OARSI2015, 2015 年 4-5 月, Seattle, USA
110. Yusup A, Kaneko H, Liu L, Ning L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Futami I, Shimura Y, Tsuchiya T, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
Bone marrow lesions are associated with local histological synovitis in patients with end-stage knee osteoarthritis: A cross-sectional study
OARSI2015, 2015 年 4-5 月, Seattle, USA
111. R Sadatsuki, H Kaneko, S Hada, M Kinoshita, L Liu, A Yusup, Y Kobayashi, Y Saito, Y Takazawa, H Ikeda, K Kaneko, M Ishijima
4. Medial cartilage lesions detected by 3.0-Tesla MRI are the risk factor for the progression of early-stage medial knee osteoarthritis
OARSI, 2015, October, Seattle
112. Liu L, Kaneko H, Kurosawa H, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Yusup A, Shimura Y, Tsuchiya T, Futami I, Kobayashi Y, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
Postoperative mechanical alignment of the lower limb corresponding to the successful clinical outcome after total knee arthroplasty (TKA)
OARSI2015, 2015 年 4-5 月, Seattle, USA
113. Kinoshita K, Ishijima M, Kaneko H, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Yusup A, Nojiri H, Sakamoto Y, Kaneko K
Serum calcium levels required for the increase in bone mineral density by the combination therapy of bisphosphonate and active vitamin D3 analog for the treatment of osteoporosis
OARSI2015, 2015 年 4-5 月, Seattle, USA
114. Hironori Ochi, Tomonori Baba, Yasuhiro Homma, Mikio Matsumoto, Kentaro Futamura, Atsuhiko Mogami, Akio Kanda, Itaru Morohashi, Kazuo Kaneko
New Classification Focusing On Implant Designs Useful For Setting Therapeutic Strategy For Periprosthetic Femoral Fractures
16th EFORT Congress, Prague, May, 2015
115. Yoshikawa K, Yonezawa I, Okuda T, Shimamura Y, Takano H, Saito T, Kaneko K
Analysis Of The Optimum Fixed Angle In Occipitocervical Fusion
31 th CSRS-ES, London England, May 26-28, 2015
116. Suehara Y, Ishii M, Akaike K, Mukaiharu K, Kubota D, Okubo T, Takagi T, Yao T, Kaneko K, Saito T.
Clinicopathological and functional analyses of protein phosphatase 2, regulatory subunit A, alpha mutations in gastrointestinal stromal cell tumors.
European Society For Medical Oncology - ASAIA, December 18 – 21, 2015, Singapore.
117. Kim Y, Takagi T, Katagiri H, Suehara Y, Kubota D, Akaike D, Ishii M, Mukaiharu K, Okubo T, Yazawa Y, Murata H, Takahashi M, Kaneko K, Saito T
Skeletal metastasis of unknown primary origin at the initial visit: A retrospective analysis of 286 cases.
18th, International Symposium on Limb Salvage; October 6 - 10, 2015, Orlando, Florida, US
118. Mukaiharu K, Suehara Y, Kubota D, Okubo T, Kohsaka S, Ishii M, Akaike K, Takagi T, Kaneko K, Yazawa Y, Saito T.
Protein Expression Profiling Of Giant Cell Tumors Of Bone Treated With Denosumab.
18th, International Symposium on Limb Salvage; October 6 - 10, 2015, Orlando, Florida,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

US

119. Tanabe Y, Suehara Y, Kim Y, Ishii M, Kawasaki T, Matsuoka J, Akaike K, Mukaihara K, Okubo T, Kubota D, Saito T, Takagi T, Kaneko K
An outpatient-based survey about the recognition of locomotive syndrome in Tokyo: a survey for 3 years.
2nd Annual Meeting International Academy of Sportology September 12, 2015, Tokyo, Japan

120. Suehara Y, Kohsaka S, Mukaihara K, Akaike K, Ishii M, Kubota D, Kazuno S, Mineki R, Fujimura T, Kaneko K, Ladanyi M, Saito T.
Proteomic approaches for defining the protein profiles of EWS/FLi1 in Ewing's sarcomas.
the 61th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society March 28-31 2015, Las Vegas USA

【学会発表（国際）2016年】

1. Takashi Miida, Toshiyuki Watanabe, Terumichi Nakagawa, Mamoru Yokomura, Masaomi Kohno, Taiki Sato, Satoshi Hirayama
Interindividual differences in free glycerol are dependent on adiposity and fasting status: the necessity of glycerol elimination in triglyceride measurement.
The 5th International Symposium on Chylomicrons and Disease, Boston, USA, November 9, 2016
2. Kaneko H, Ishibashi M, Arita H, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Yusup A, Shiozawa S, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
The variations for the recovery processes of the several parameters those monitor the walking ability in patients with end-stage knee osteoarthritis using a novel motion capture devices
OARSI 2016, 2016年3月31日-4月3日, Amsterdam, Netherland
3. Hada S, Ishijima M, Kaneko H, Sadatsuki R, Liz L, Kinoshita M, Arita H, Shiozawa J, Yusup Y, Y. Takazawa, H. Ikeda, K. Kaneko
Association between the degeneration and medial radial displacement of the medial meniscus on T2 mapping at 3T MRI in patients with early-stage knee osteoarthritis
OARSI 2016, 2016年3月31日-4月3日, Amsterdam, Netherland
4. Kinoshita M, Kaneko H, Sadatsuki, aR. Futami I, Hada S, Arita H, Shiozawa J, Hirasawa-Arikawa E, Yamada Y, Kaneko K, Ishijima M
Perlecan regulates chondrogenic differentiation from synovial mesenchymal cells via smad and MAPK signaling pathways
OARSI 2016, 2016年3月31日-4月3日, Amsterdam, Netherland
5. Liu L, Kaneko H, Sadatsuki R, Hada S, Yusup A, Kinoshita M, Arita H, Shiozawa J, Y Saita, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
Higher bone turnover detected by serum levels of tartrate-resistant acid phosphatase 5b (TRACP-5b) is a risk for the radiographic medial knee joint space narrowing in men in early forties without knee pain –the three years prospective observational study
OARSI 2016, 2016年3月31日-4月3日, Amsterdam, Netherland
6. Yusup A, Kaneko H, Liu L Hada S, Kinoshita M, Arita H, Shiozawa J, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
Association between the histological synovitis, subchondral pathologies and synovial TGF-β/Smad signaling in patient with end-stage knee osteoarthritis
OARSI 2016, 2016年3月31日-4月3日, Amsterdam, Netherland
7. Shiozawa J, Miyazaki T, Nagayama M, Kaneko H, Hiki M, Hada S, Kinoshita M, Liu L, Arita H, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Daida H, Kaneko K, Ishijima M
Serum polyunsaturated fatty acid (PUFAs) levels as a risk factor for the post-operative

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- development of venous thromboembolism (VTE) in patients with end-stage knee osteoarthritis who receiving total knee arthroplasty (TKA)
OARSI 2016, 2016 年 3 月 31 日-4 月 3 日, Amsterdam, Netherland
8. Shiozawa J, Miyazaki T, Nagayama M, Kaneko H, Hiki M, Hada S, Kinoshita M, Liu L, Arita H, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Daida H, Kaneko K, Ishijima M
Patient-oriented outcome measure for knee osteoarthritis is associated with gait analysis data obtained from the novel downsized motion capture technology in patients with the end-stage knee osteoarthritis
OARSI 2016, 2016 年 3 月 31 日-4 月 3 日, Amsterdam, Netherland
 9. Arita H, Kaneko H, Ishibashi M, Sadatsuki R, Liu L, Hada S, Kinoshita M, Shiozawa J, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
Pain and symptoms of patients with the medial type of knee OA are exacerbated by the development of varus knee deformation
OARSI 2016, 2016 年 3 月 31 日-4 月 3 日, Amsterdam, Netherland
 10. Hada S, Ishijima M, Kaneko H, Liu L, Kinoshita M, Arita H, Shiozawa J, Anwarjan Y, Takazawa Y, Ikeda H, Okada Y, Kaneko K
Medial meniscal extrusion is associated with medial tibial osteophyte development and the degeneration of medial meniscus in early-stage of knee osteoarthritis
2016IWOAI, 2016 年 6 月 15-18 日, Oulu, Finland
 11. Takeno K, Tamura Y, Kakehi S, Funayama T, Furukawa Y, Kaga H, Suzuki R, Someya Y, Kawamori R, Watada H.
Association between Decreased Insulin Clearance and Initial Changes Predisposing toward Obesity in Apparently Healthy Men.
The American Diabetes Association's 76th Scientific Sessions, New Orleans(USA), 2016.6.10-14, ポスター
 12. Miura M, Miyatsuka T, Matsuoka T, Sasaki S, Fujitani Y, Watada H.
Inhibition of Stat3 Signal Promotes Acinar-to-Beta Reprogramming.
The American Diabetes Association's 76th Scientific Sessions, New Orleans(USA), 2016.6.10-14, ポスター
 13. Sato J, A Kanazawa A, Makita S, Hatae C, Komiya K, Shimizu T, Ikeda F, Tamura Y, Ogiwara T, Mita T, Goto H, Uchida T, Miyatsuka T, Takeno K, Shimada S, Ohmura C, Watanabe T, Kobayashi K, Miura Y, Iwaoka M, Hirashima N, Fujitani Y., Watada H.
The Efficacy and Safety of 130g/day Low-Carbohydrate Diet in Japanese Type 2 Diabetes Patients with Poor Glycemic Control.
The American Diabetes Association's 76th Scientific Sessions, New Orleans(USA), 2016.6.10-14(2016.6.11), ポスター
 14. Shitara J, Ogita M, Miyauchi K, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H
Association between sustained increase of c-reactive protein (CRP) and long-term mortality in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention
European Society of Cardiology 2016・ローマ・2016/8/30
 15. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Tabuchi T, Hayashi H, Al Shahi H, Kadoguchi T, Sugita Y, Ouchi S, Aikawa T, Takahashi S, Miyazaki T, Fujimoto S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H
Atrial Fibrillation Recurrence After Catheter Ablation is Associated With Left Atrial Appendage Volume and Plasma Docosahexaenoic Acid Levels.
Circulation. 2016;134:A13231

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

16. Koji Akita, Kikuo Isoda, Yayoi Okabayashi, Yuko Ishii, Kazunori Shimada, Hiroyuki Daida
An IL-6 receptor antibody suppresses IkBNS deficiency induced atherosclerosis in LDL
receptor-deficient mice
ESC congress 2016・Roma・H28年8月27－31日
17. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Komatsu S, Tabuchi H, Hayashi H, Kawaguchi
Y, Takamura K, Fujimoto S, Kadoguchi T, Takahashi S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H
Are low DHA levels associated with left atrial appendage volume and atrial fibrillation
recurrence after catheter ablation?
European Heart Journal 2016, 37 (Abstract Supplement), 1078-1079
18. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Tabuchi H, Hayashi H, Shahi HA, Kadoguchi
T, Sugita Y, Ouchi S, Aikawa T, Takahashi S, Miyazaki T, Fujimoto S, Sumiyoshi M,
Nakazato Y, Daida H.
Atrial fibrillation recurrence after catheter ablation is associated with left appendage
volume and plasma docosahexaenoic acid levels.
American Heart Association, 89th Scientific Session, New Orleans, USA 2016.11
19. Watanabe N, Sawada SS, Lee IM, Gando Y, Shimada K, Kawakami R, Miyachi M, Momma
H, Hagi Y, Kinugawa C, Okamoto T, Blair SN
Blair SN. Cardiorespiratory fitness and high levels of non-HDL-cholesterol: Cohort study of
Japanese men
Med Sci Sports Exerc. 2016 May;48(5 Suppl 1):225.
20. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kato T, Aikawa T, Suda
S, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Kasai T, Miyauchi K, Daida H.
Decreased Circulating Omega-6 Fatty Acid Levels Are Associated With Total Mortality in
Patients Admitted to Cardiac Intensive Care Unit.
Circulation. 2016;134:A13995
21. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Aikawa T, Kato T, Suda S, Hiki M,
Takahashi S, Kasai T, Miyauchi K, Daida H
Decreased circulating omega-6 fatty acids levels, but not omega-3 fatty acids levels, are
associated with total mortality in patients admitted to cardiac intensive care unit
European Heart Journal 2016, 37 (Abstract Supplement), 110
22. Yuko Kawaguchi, Shinichirou Fujimoto, Kanako Kumamaru, Tomotaka Dohi, Keiken Ri,
Kazuhisa Takamura, Etsuro Kato, Yoshiteru Kato, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki,
Kikuo Isoda and Hiroyuki Daida
Diagnostic Performance of Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and
Fluid Analysis Using 4D-CT Image
AHA Scientific Sessions 2016・Roma・H28年11月12－16日
23. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kumamaru KK, Dohi T, Ri K, Takamura K, Kato Y, Tamura H,
Okazaki S, Isoda K, Kato E, Daida H
Diagnostic Performance of Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and
Fluid Analysis using 4D-CT image.
American Heart Association, 89th Scientific Session, New Orleans, USA 2016.11
24. Kunimoto M, Shimada K, Yokoyama M, Hoshino Y, Takahashi S, Shiozawa T, Yamamoto T,
Amano A, Daida H
Effects of First Session of Phase II Cardiac Rehabilitation on Novel Markers of Arterial
Stiffness in Patients with Cardiovascular Diseases.
EuroPREVENT 2016.
25. H. Wada, K. Miyauchi, M.Ogita, H.Endo, S.Doi, H. Konishi, R. Naito, S. Tsuboi, T. Dohi, T.
Kasai, H. Tamura, S. Okazaki, K. Isoda, S. Suwa, H. Daida
Impact of high-density lipoprotein cholesterol increase on long-term clinical outcomes in

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

patients following percutaneous coronary intervention
European Society of Cardiology2016・ローマ・2016/8/29

26. Jun Shitara, Shuta Tsuboi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Tomotaka Dohi, Hirokazu Konishi, Ryo Naito, Shinichirou Doi, Hideki Wada, Hirohisa Endo, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa and Hiroyuki Daida
Impact of Red Cell Distribution Width on Long-term Mortality in Patients Treated With Statin After Percutaneous Coronary Intervention
AHA Scientific Sessions 2016・Roma・H28年11月12-16日
27. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Takeshi Kondo, Makoto Hiki, Yuko Kawaguchi, Etsuro Kato, Shoko Suda, Shinichi Takase, Hiroyuki Daida.
Incremental Prognostic Value of CCTA High Risk Plaque Characteristics in Asymptomatic Patients.
American College of Cardiology (ACC) 2016 : 65th Annual Scientific Session & Expo
28. Takamura K, Fujimoto S, Kondo T, Hiki M, Matsumori R, Kawaguchi Y, Suda S, Kato E, Kumamaru K, Takase S, Daida H
Incremental prognostic value of coronary computed tomographic angiography high risk plaque characteristics in asymptomatic patients.
The American College of Cardiology 65nd Annual Scientific Session, Chicago, USA 2016.4
29. Tomoyasu Kadoguchi, Kazunori Shimada, Tomoyuki Shiozawa, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Koji Akita, Tetsuro Miyazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Inhibition of NAD(P)H Oxidase 4 Ameliorates Angiotensin II-Induced Protein Degradation via improving Mitochondrial Dysfunction in Skeletal Myocytes
AHA Scientific Sessions 2016・Roma・H28年11月12-16日
30. Hiroki Nishiyama, Hiroshi Iwata, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Low apolipoprotein A1 predicts 10year mortality in patients after PCI, a residual therapeutic target in the statin era
AHA scientific session 2016, New Orleans, 2016/11/13
31. Shinichiro Doi, Hiroshi Iwata, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Low serum triglyceride level (TG) and low body mass index (BMI) associate increased risk of long-term cardiovascular mortality in patients undergoing percutaneous coronary intervention (PCI), 20 years follow-up
AHA scientific session 2016, New Orleans, 2016/11/13
32. Shinichiro Doi, Hiroshi Iwata, Ryo Naito, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Low Serum Triglyceride Level and Low Body Mass Index Associate Increased Risk of Long-term Cardiovascular Mortality in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention, 20 Years Follow-up
American Heart Association's Scientific Sessions 2016・ニューオリンズ・2016/11/13
33. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Hiroki Matsumoto, Takao Kato, Shoko Suda, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Relationship between overnight rostral fluid shift and severity of central sleep apnea in hospitalized heart failure patients following acute decompensation
Cardiosleep, Prague, 2016.5.2
34. R. Naito, K. Miyauchi, J. Shitara, H. Endo, H. Wada, S. Doi, H. Konishi, S. Tsuboi, M. Ogita, T. Dohi, T. Kasai, H. Tamura, S. Okazaki, K. Isoda, H. Daida
Synergistic Effect of BMI and eGFR on All-cause Mortality in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention
European Society of Cardiology2016・ローマ・2016/8/29

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

35. Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Synergistic effect of BMI and eGFR on all-cause mortality in the elderly following percutaneous coronary intervention
ESC congress 2016・Roma・H28年8月27-31日
36. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Takao Kato, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Relationship between Blood Urea Nitrogen-to-Creatinine ratio at Hospital Admission and Long-term Post-discharge Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure
European Society of Cardiology, Rome, 2016.8.29
37. Sato K, Kerever A, Kamagata K, Sakakibara R, Terada H, Aoki S.
Understanding microstructure of the brain with advanced diffusion tensor imaging and comparing with pathological findings.
European Congress of Radiology 2016, Vienna, Austria, Mar 2-6, 2016.
38. Sato K, Kerever A, Kamagata K, Aoki S
Advanced diffusion MR imaging (NODDI): comparison with a transparent mouse brain.
The 22nd Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping, Geneva, Switzerland, June 26-30, 2016
39. Hori M, Nojiri R, Tsurushima Y, Murata K, Kamagata K, Tsuruta K, Kumamaru KK, Ishigame K, Aoki S
Diffusion MR imaging using Multi-band EPI in Brain: Basics and its Clinical Application
European Congress of Radiology 2016, Vienna, Austria, Mar 2-6, 2016.
40. Hori M, Nojiri R, Tsurushima Y, Murata K, Tsuruta K, Kumamaru KK, Ishigame K, Aoki S
High-resolution Diffusional Kurtosis Fractional Anisotropy Mapping for Discrimination between Vasogenic Edema and Tumor-Infiltration
European Congress of Radiology 2016, Vienna, Austria, Mar 2-6, 2016.
41. Kamiya K, Irie R, Kamagata K, Hori M, Suzuki Y, Mori H, Kunimatsu A, Aoki S, Ohtomo K.
Impact of axon undulation on the estimation of dMRI metrics: Monte-Carlo simulation study on conventional diffusion tensor ellipsoids and NODDI
European Congress of Radiology 2016, Vienna, Austria, Mar 2-6, 2016.
42. Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Kumamaru KK, Hori M, Oishi H, Aoki S, Arai H
Usefulness of Non-Contrast Enhanced Magnetic Resonance Angiography Using Silent Scan for Follow-Up after Y Stent-Assisted Coil Embolization for Basilar Tip Aneurysms
European Congress of Radiology 2016, Vienna, Austria, Mar 2-6, 2016.
43. Hori M, Nojiri R, Tsurushima Y, Murata K, Ishigame K, Kamiya K, Suzuki Y, Kamagata K, Aoki S.
Diffusional Kurtosis Tractography of Cervical Spinal Cord White Matter with Multi-band EPI Technique.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016
44. Hori M, Stikov N, Nojiri R, Tsurushima Y, Murata K, Ishigame K, Kamiya K, Suzuki Y, Kamagata K, Aoki S.
Magnetic Resonance Myelin G-Ratio Mapping for the Brain and Cervical Spinal Cord: 10 Minutes Protocol for Clinical Application.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016
45. Kamagata K, Tsuruta K, Hatano T, Shimoji K, Hori M, Okuzumi A, Nakazawa M, Murata

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- S, Ueda R, Aoki S.
Evaluation of Gray Matter Degeneration in Parkinson's Disease by Using Neurite-Orientation Dispersion and Density Imaging: Analysis by Gray Matter-Based Spatial Statistics.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016
46. Nakazawa M, Hagiwara A, Hori M, Andica C, Kamagata K, Kawasaki H, Takano N, Sato S, Hamasaki N, Tsuruta K, Murata S, Ueda R, Aoki S, Senoo A.
Contrast-Enhanced Synthetic MRI for the Detection of Brain Metastases: Comparison Between Synthetic T1-Weighted Inversion-Recovery Image, Synthetic T1-Weighted Image, and Conventional T1-Weighted Inversion-Recovery Fast Spin-Echo Image.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016
47. Andica C, Hagiwara A, Nakazawa M, Hori M, Shiota S, Yoshida M, Sato K, Takahashi Y, Kumamaru K, Suzuki M, Nakanishi A, Tsuruta K, Ueda R, Aoki S.
Synthetic MRI: An Old Concept Becomes Practical.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016
48. Takamura T, Murata S, Kamagata K, Tsuruta K, Hori M, Suzuki M, Aoki S.
Extensive White Matter Damage in Neuromyelitis Optica Assessed by Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging: A Tact-Based Spatial Statistics Study.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016
49. Suzuki M, Irie R, Takano N, Hori M, Kamagata K, Kumamaru K, Yamamoto M, Ohishi H, Aoki S
Basics and Clinical Application of Ultrashort TE MRA Combined with Arterial Spin Labeling Algorithm - Silent MRA -
ASNR 54th Annual Meeting, Washington, D.C., USA, May 23-26, 2016
50. Hagiwara A, Andica C, Hori M, Yoshida M, Kamagata K, Kumamaru K, Suzuki M, Nakazawa M, Tsuruta K, Aoki S.
Synthetic MRI: Basic Principles and Clinical Applications
ASNR 54th Annual Meeting, Washington, D.C., USA, May 23-26, 2016
51. Hagiwara A, Hori M, Andica C, Kumamaru KK, Yoshida M, Suzuki M, Nakazawa M, Aoki S
Utility of multi-parametric quantitative MRI model that assesses myelin and edema for evaluating plaques, periplaque white matter, and normal-appearing white matter in patients with multiple sclerosis.
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016
52. Hagiwara A, Hori M, Andica C, Yoshida M, Kamagata K, Suzuki M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Aoki S
Multiple sclerosis plaques searched by synthetic MRI.
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016
53. Andica C, Hagiwara A, Hori M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Takano N, Kamagata K, Yoshida M, Aoki S
Overview of a Synthetic MRI: Basic, Clinical Applications, and Limitations.
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016
54. Hori M, Nojiri R, Tsurushima Y, Hagiwara A, Kumamaru KK, Kamagata K, Irie R, Suzuki M, Aoki S
Quantitative MR Imaging in Spinal Cord: the Basics and Clinical Applications.
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016
55. Hori M, Nojiri R, Tsurushima Y, Hagiwara A, Kumamaru KK, Kamagata K, Irie R, Suzuki M, Aoki S

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Measurements of Axonal G-ratio in Vivo Using MR Imaging.
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016

56. Kumamaru KK, Sano Y, Suzuki M, Hori M, Kamagata K, Nakanishi A, Irie R, Aoki S
Association between Repeat MR Imaging for Benign Lumbar/Cervical Conditions and Imaging Management Fee: An Analysis of Japanese Health Insurance Claims Database
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016

57. Kumamaru KK, Ri K, Sano Y, Suzuki M, Hori M, Kamagata K, Nakanishi A, Hagiwara A, Irie R, Aoki S
Limited clinical value in closely monitoring suspected/definite infundibular dilatation of cerebral arteries: a review of 432 cases
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016

58. Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Hoshito H, Kumamaru K, Hori M, Oishi H, Aoki S
Visualization of Various Intracranial Stents by Non-Contrast Enhanced MRA Using Ultrashort Echo Time with Arterial Spin Labeling (Silent MRA) and 3D TOF-MRA
European Congress of Radiology 2017, Vienna, Austria, Mar 1-5, 2017

59. Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Hoshito H, Kumamaru K, Hori M, Oishi H, Aoki S
Usefulness of Non-Contrast Enhanced MRA Using Ultrashort Echo Time with Arterial Spin Labeling (Silent MRA) for Intracranial Aneurysms Treated with Flow-Diverter Stents
European Congress of Radiology 2017, Vienna, Austria, Mar 1-5, 2017

60. Misaki Nakazawa, Akifumi Hagiwara, Christina Andica, Masaaki Hori, Ryo Ueda, Nao Takano, Syo Murata, Asami Saito, Aki Hattori, Shuji Sato, Nozomi Hamasaki, Hideo Kawasaki, Haruyoshi Houshito, Shigeki Aoki
Assessment of the accuracy and precision of the gadolinium concentration map using synthetic MRI
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017

61. Christina Andica, Akifumi Hagiwara, Misaki Nakazawa, Asami Saito, Ryo Ueda, Aki Hattori, Sho Murata, Nao Takano, Masaaki Hori, Shigeki Aoki
Sy MRI in Visualizing the Subtle Changes of Myelination and Faint Contrast Enhancement in Pediatric Patients.
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017

62. Christina Andica, Akifumi Hagiwara, Misaki Nakazawa, Aki Hattori, Sho Murata, Nao Takano, Masaaki Hori, Shigeki Aoki
The Advantages of Synthetic MRI in Pediatric Patients
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017

63. Ryo Ueda, Masaaki Hori, Koji Kamagata, Keigo Shimoji, Michimasa Suzuki, Ryusuke Irie, Misaki Nakazawa, Pradeepa Ruwan, Moeko Horita, Yuki Takenaka, Asami Saito, Christina Andica, Aki Hattori, Atsushi Senoo, Shigeki Aoki.
A comparative study of TBSS analysis of NODDI using single-shell and multi-shell DWI data.
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017

64. Asami Saito, Koji Kamagata, Ryo Ueda, Misaki Nakazawa, Christina Andica, Sho Murata, Madoka Nakajima, Masakazu Miyana, Kouhei Kamiya Masaaki Hori, Kanako K Kumamaru, Michimasa Suzuki, Hajime Arai, Shigeki Aoki

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Diffusion tensor imaging and ventricular volumetry in idiopathic normal pressure hydrocephalus: relationships between cognitive deterioration before and after a lumboperitoneal shunt.
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017
65. Hara S, Hori M, Ueda R, Tanaka Y, Maehara T, Ishii K, Nariai T, Aoki S
Correlation of Intravoxel Incoherent Motion and 15O-gas PET in patients with Moyamoya disease
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017
66. Aki Hattori, Shigeki Aoki, Masaaki Hori, Koji Kamagata, Asanu Saito, Ryo Ueda, Misaki Nakazawa, Christina Andica, Sho Murata, Yutaka Ikenouchi
NODDI Analysis in Cognitive Dysfunction of Parkinson's Disease Patients.
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017
67. Christina A, Hagiwara A, Hori M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Takano N, Kamagata K, Yoshida M, Aoki S
Overview of Synthetic MRI: Basic, Clinical Applications, and Limitations (Certificate of Merit)
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016
68. Hara S, Nariai T, Murata S, Tsuruta K, Tanaka Y, Hori M, Maehara T, Aoki S.
Neurite orientation dispersion and density imaging revealed the brain microstructural ischemic damage of moyamoya disease.
Neuroscience 2016, San Diego, U.S.A. Nov 15, 2016.
69. Hira K, Ueno Y, Kuroki T, Shimada Y, Yamashiro K, Urabe T, Hattori N.
Semaphorin3A may regulate axonal regeneration and guidance in ischemic rat brain
International Stroke Conference 2017, Houston, Feb 22-24, 2017
70. 服部信孝
シンポジスト、シンポジウム「神経変性疾患の最前線 2016」
第 46 回日本神経精神薬理学会年会、2016 年 7 月 2-3 日、ソウル、韓国
71. Zempo H, Fuku N, Nishida Y, Higaki Y, Naito H, Hara M, Tanaka K.
Relation between type 2 diabetes and m.1382 A>C polymorphism which occurs amino acid replacement (K14Q) of mitochondria-derived MOTS-c.
Experimental Biology 2016, San Diego, CA, USA. 2016 年 4 月 2-6 日
72. Kakigi R, Yoshihara T, Natsume T, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Machida S, Naito H.
Dose-dependent effects of whey peptide intake on mTOR signaling in human skeletal muscle.
American College of Sports Medicine 63th Annual Meeting, Boston, MA, USA. 2016 年 5 月 31 日 - 6 月 4 日
73. Natsume T, Ozaki H, Watanabe K, Kubota A, Naito H.
Passive muscle movements combined with blood flow restriction can induce muscle hypertrophy.
American College of Sports Medicine 63th Annual Meeting, Boston, MA, USA. 2016 年 5 月 31 日 - 6 月 4 日
74. Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Takamine Y, Kobayashi H, Naito, Ichinoseki-Sekine N, Naito H.
Increased body temperature during exercise enhances glucose metabolism-related signaling transduction in OLETF rat skeletal muscle.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

American College of Sports Medicine 63th Annual Meeting, Boston, MA, USA. 2016 年 5 月 31 日 - 6 月 4 日

75. Yoshihara T, Kakigi R, Tsuzuki T, Shuo-wen C, Natsume T, Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Machida S, Sugiura T, Naito H.
Physical inactivity-induced histone modification in rat soleus muscle.
American College of Sports Medicine 63th Annual Meeting, Boston, MA, USA. 2016 年 5 月 31 日 - 6 月 4 日
76. Sakamoto A, Sinclair PJ, Naito H.
Thrust back: a new strategy for reducing concentric deceleration during power training.
Sports Medicine Australia Conference, Melbourne, Australia. 2016 年 10 月 12-15 日
77. Ohno K, Naito H, Machida S.
Relationship between body composition and menstrual/premenstrual symptoms in Japanese young women.
2016 APS Intersociety Meeting: The Integrative Biology of Exercise VII, Arizona, USA. 2016 年 11 月 2-4 日
78. Ishihara Y, Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Natsume T, Kitada T, Ishibashi M, Kuwata H, Miyazaki Y, Ikuta N, Machida S, Naito H.
Effects of 5-month exercise intervention on the locomotive and cognitive function in elderly with locomotive syndrome.
2nd Asian conference for Frailty and Sarcopenia, Aichi, Japan. 2016 年 11 月 4-5 日
79. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
The characteristics of lower body muscle size and functions in elderly people at the early stage of locomotive syndrome.
2nd Asian conference for Frailty and Sarcopenia, Aichi, Japan. 2016 年 11 月 4-5 日
80. Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Natsume T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Lower body muscle size, strength, and quality in elderly Japanese men and women.
2nd Asian conference for Frailty and Sarcopenia, Aichi, Japan. 2016 年 11 月 4-5 日
81. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Differences between locomotive syndrome classifications by two functional tests and evaluation of the training effects of a progressive walking program in elderly people.
2nd Asian conference for Frailty and Sarcopenia, Aichi, Japan. 2016 年 11 月 4-5 日
82. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Natsume T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Effect of low-load resistance training on muscle and gait function in resistance-untrained elderly individuals.
10th International Conference on Strength Training, Kyoto, Japan. 2016 年 11 月 30 日 - 12 月 2 日
83. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Resistance exercise attenuates locomotive syndrome risk in older adults.
10th International Conference on Strength Training, Kyoto, Japan. 2016 年 11 月 30 日 - 12 月 2 日
84. Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Natsume T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Comparison of the effects of moderate-intensity walking and body mass-based resistance

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

training on lower body muscle size and function in elderly individuals.

10th International Conference on Strength Training, Kyoto, Japan. 2016 年 11 月 30 日-12 月 2 日

85. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.

Effects of long-term strength training on the prevention of locomotive syndrome in elderly people.

10th International Conference on Strength Training, Kyoto, Japan. 2016 年 11 月 30 日-12 月 2 日

86. 鄧鵬宇, 陸大江, 鈴木宏哉, Song Jong Kook, Stanley HUI, 内藤久士.

東アジアにおける青少年の生活習慣と肥満との関連性.

中国全国運動体質及び健康増進学術会議, 上海, 中国. 2016 年 12 月

【学会発表（国内）2014 年】

1. 後藤広昌, 内田豊義, 小宮幸次, 阿部浩子, 竹野景海, 佐藤淳子, 嶋原奈弓, 本田彬, 福村由紀, 横山純吉, 綿田裕孝
原発巣摘出後 28 年目に発症した甲状腺転移性腎癌の一例
第 23 回臨床内分泌代謝 Update, 愛知県(日本), ポスターセッション, 2014.01.24-25, 2014
2. 登坂祐佳, 後藤広昌, 吉原知明, 内田豊義, 金澤昭雄, 福村由紀, 横山純吉, 綿田裕孝
診断と治療に難渋する原発性副甲状腺機能亢進症の 1 例
第 23 回臨床内分泌代謝 Update, 愛知県(日本), ポスターセッション, 2014.01.24-25, 2014
3. 綿田裕孝
【糖尿病の薬物治療の第一選択は何か】 インスリンの立場から
第 23 回臨床内分泌代謝 Update, 愛知県(日本), ディベートセッション, 2014.01.24-25, 2014
4. 福中彩子, 藤谷与士夫, 深田俊幸, 梶村真吾, 綿田裕孝
エーラスタンロス症候群原因遺伝子 Zip13 による脂肪細胞褐色化制御機構の解明
第 26 回分子糖尿病学シンポジウム, 高知県(日本), セッション, 2014.12.06, 2014
5. 原朱美, 藤谷与士夫, 田蔭基行, 宮塚健, 福中彩子, 小宮幸次, 荻原健, 金澤昭雄, 綿田裕孝
持続的高血糖は膵β細胞から PP 細胞への分化転換を誘導する
第 28 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会, 宮崎県(日本), 口演, 2014.02.14-15, 2014
6. 三田智也, 綿田裕孝, 大村寛敏, 代田浩之
2 型糖尿病患者におけるシタグリブチンの安全性と有効性—SPIRIS-J
第 29 回日本糖尿病合併症学会, 東京都(日本), ワークショップ, 2014.10.03-04, 2014
7. 遅野井雄介, 三田智也, 遅野井健, 斎藤三代子, 玉澤敦子, 中山志保, 染谷由希, 石田英則, 金澤昭雄, 五所正彦, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
夜型の生活スタイルは 2 型糖尿病患者の糖代謝に悪影響を与える
第 29 回日本糖尿病合併症学会, 東京都(日本), ワークショップ, 2014.10.03-04, 2014
8. 田村好史
糖尿病運動療法の実状
第 33 回日本臨床運動療学会学術集会, 大阪府(日本), パネルディスカッション, 2014.09.06, 2014
9. 笥佐織, 田村好史, 竹野景海, 櫻井裕子, 川口美奈子, 渡邊隆宏, 船山崇, 佐藤文彦, 池田真一, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 河盛隆造, 綿田裕孝
高脂肪食負荷による骨格筋細胞内脂質蓄積は骨格筋中の脂質代謝関連遺伝子発現と関連する
第 35 回日本肥満学会, 宮崎県(日本), 口演, 2014.10.24-25, 2014
10. 綿田裕孝
膵β細胞の再生とその臨床応用

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 48 回糖尿病学の進歩, 北海道(日本), 口演, 2014.03.07-08, 2014

11. 河野結衣, 吉原知明, 氷室美和, 池田富貴, 金澤昭雄, 清水友章, 綿田裕孝
著明な貧血を契機に APS3 型の診断に至った 1 型糖尿病の一例
第 51 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県(日本), 口演, 2014.01.18, 2014
12. 奈良橋俊子, 鈴木瑠璃子, 吉原知明, 金澤昭雄, 綿田裕孝
糖尿病コントロール増悪の約 1 年 10 ヶ月後に偶発的に発見された自己免疫性膵炎の一例
第 51 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県(日本), 口演, 2014.01.18, 2014
13. 門脇聡, 遅野井雄介, 中島健一, 吉原知明, 池田富貴, 金澤昭雄, 綿田裕孝
インフルエンザ感染を契機に MRSA 肺炎を呈した 1 型糖尿病の 1 例
第 51 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県(日本), 口演, 2014.01.18, 2014
14. 河野結衣, 根本卓也, 鶴澤博嗣, 三浦正樹, 富山めぐみ, 鈴木瑠璃子, 小宮幸次, 草生真規雄,
内田豊義, 関谷文男, 池田富貴, 金澤昭雄, 山路健, 綿田裕孝
抗甲状腺剤で治療困難なバセドウ病に血漿交換療法が奏功した 2 症例
第 57 回日本甲状腺学会学術集会, 大阪府(日本), ポスター, 2014.11.13-15, 2014
15. 佐藤淳子, 土井多香乃, 内田豊義, 後藤広昌, 小宮幸次, 竹野景海, 本田彬, 河野結衣, 鈴木瑠璃子, 氷室美和, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
抗甲状腺剤誘発性無顆粒球症の顆粒球数回復期間に関わる因子の検討
第 57 回日本甲状腺学会学術集会, 大阪府(日本), ポスター, 2014.11.13-15, 2014
16. 氷室美和, 土井多香乃, 内田豊義, 後藤広昌, 小宮幸次, 竹野景海, 佐藤淳子, 本田彬, 河野結衣, 鈴木瑠璃子, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
穿刺吸引細胞診後に甲状腺超音波所見が変化した症例の検討
第 57 回日本甲状腺学会学術集会, 大阪府(日本), 口演, 2014.11.13-15, 2014
17. 本田彬, 土井多香乃, 内田豊義, 後藤広昌, 小宮幸次, 竹野景海, 佐藤淳子, 河野結衣, 鈴木瑠璃子, 氷室美和, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
抗甲状腺剤の代替治療で用いる無機ヨードの治療効果と限界に関する検討
第 57 回日本甲状腺学会学術集会, 大阪府(日本), ポスター, 2014.11.13-15, 2014
18. 鈴木瑠璃子, 土井多香乃, 内田豊義, 後藤広昌, 小宮幸次, 竹野景海, 佐藤淳子, 本田彬, 河野結衣, 氷室美和, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
甲状腺中毒症の鑑別に用いる甲状腺 $^{99m}\text{TcO}_4$ -摂取率閾値と非典型的画像の検討
第 57 回日本甲状腺学会学術集会, 大阪府(日本), ポスター, 2014.11.13-15, 2014
19. 井上直人, 入江陽子, 金藤秀明, 下村伊一郎, Kim YS, 河盛隆造, 山崎義光
抗血小板薬が糖尿病患者の動脈壁組織性状に及ぼす影響の検討 (アジア多施設前向き研究のサブ解析結果から)
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), 口演, 2014.05.22-24, 2014
20. 宇都宮一典, 加来浩平, 寺内康夫, 戸邊一之, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 岩本安彦, 菅波秀規, 渡邊大丞
高選択的 SGLT2 阻害薬トログリフロジンの腎機能別にみる有効性と安全性の検討—国内治験の併合データを用いた部分集団解析—
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), ポスター, 2014.05.22-24, 2014
21. 岩本安彦, 加来浩平, 宇都宮一典, 寺内康夫, 戸邊一之, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 渡邊大丞, 菅波秀規
高選択的 SGLT2 阻害薬トログリフロジンの年齢別にみる有効性と安全性の検討—国内治験の併合データを用いた部分集団解析—
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), ポスター, 2014.05.22-24, 2014
22. 橘優子, 戸島郁子, 照沼則子, 金澤昭雄, 綿田裕孝
インスリン自己注射部位選択理由と自己注射指導内容の関連因子

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), 口演, 2014.05.22-24, 2014

23. 原朱美, 藤谷与士夫, 荻原健, 宮塚健, 綿田裕孝
ヒト型 IAPP は膵島移植の成功率を低下させる
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), ポスター, 2014.05.22-24, 2014
24. 戸邊一之, 加来浩平, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 岩本安彦, 宇都宮一典, 寺内康夫, 渡邊大丞, 菅波秀規
高選択的 SGLT2 阻害薬トログリフロジンの肥満度別にみる有効性と安全性の検討—国内治験の併合データを用いた部分集団解析—
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), ポスター, 2014.05.22-24, 2014
25. 佐々木周伍, 宮塚健, 高原充佳, 久保典代, 宮下和幸, 山本裕一, 安田哲行, 川口義弥, 秋山治彦, 綿田裕孝, 松岡孝昭, 金藤秀明, 下村伊一郎
GLP-1 およびガストリンシグナルの活性化は膵β細胞新生を誘導する
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), YIA 審査講演, 2014.05.22-24, 2014
26. 佐藤喜子, 綿田裕孝
糖尿病と診断されながらも未治療、治療中ながらも HbA1c 高値者の生活改善に有用な指導項目の検討
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), ポスター, 2014.05.22-24, 2014
27. 佐藤淳子, 金澤昭雄, 池田富貴, 嶋原奈弓, 川口美奈子, 小宮幸次, 内田豊義, 荻原健, 清水友章, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
持続血糖測定器 (CGM) の外来での使用が 2 型糖尿病患者の治療に及ぼす影響
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), ポスター, 2014.05.22-24, 2014
28. 三家春菜, 三田智也, 田村好史, 稲垣賀子, 山城慶子, 横田純子, 石田香苗, 染谷由希, 小宮幸次, 原香奈子, 清水友章, 吉井秀徳, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 小沼富男, 綿田裕孝
高齢 2 型糖尿病における嗅覚と認知機能の関連性
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), 口演, 2014.05.22-24, 2014
29. 志原伸幸, 寺内康夫, 荒木栄一, 稲垣暢也, 大杉満, 門脇孝, 清野進, 谷澤幸生, 戸邊一之, 難波光義, 羽田勝計, 矢部大介, 山田祐一郎, 綿田裕孝, 清野裕
高齢者 2 型糖尿病におけるシタグリプチン/グリメピリド比較検討試験 (START-J) 中間解析報告
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), 口演, 2014.05.22-24, 2014
30. 酒井健輔, 今村美菜子, 岩田実, 広瀬寛, 綿田裕孝, 前川聡, 戸邊一之, 柏木厚典, 加来浩平, 河盛隆造, 田中逸, 前田土郎
欧米人集団ゲノムワイド関連解析で同定された 2 型糖尿病感受性遺伝子領域の日本人集団における検証
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), 口演, 2014.05.22-24, 2014
31. 上里忠好, 荻原健, 飯田雅, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
妊娠期の膵β細胞増殖における PBK の役割
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), 口演, 2014.05.22-24, 2014
32. 船山崇, 田村好史, 竹野景海, 渡邊隆宏, 川口美奈子, 山本理紗子, 笥佐織, 藤谷与士夫, 河盛隆造, 綿田裕孝
1 週間のアルコール制限は、肝臓特異的にインスリン抵抗性を改善し、空腹時血糖値を低下させる
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), YIA 審査講演, 2014.05.22-24, 2014
33. 前田肇, 加来浩平, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 岩本安彦, 宇都宮一典, 寺内康夫, 戸邊一之, 池田勸夫, 菅波秀規, 渡邊大丞
高選択的 SGLT2 阻害薬トログリフロジンの臨床第Ⅲ相 4 試験を用いた安全性の検討
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), ポスター, 2014.05.22-24, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

34. 谷澤幸生, 加来浩平, 荒木栄一, 戸邊一之, 寺内康夫, 宇都宮一典, 岩本安彦, 綿田裕孝, 大塚涉, 渡邊大丞
高選択的 SGLT2 阻害薬トログリフロジンの長期投与における安全性と有効性の検討—単独療法および併用療法 52 週間の国内治験成績—
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), 口演, 2014.05.22-24, 2014
35. 中村二郎, 稲垣暢也, 植木浩二郎, 谷澤幸生, 綿田裕孝, 山田祐一郎, 下村伊一郎, 西村理明, 山崎力, 門脇孝
大規模臨床研究 J-BRAND Registry: 中間報告
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), ポスター, 2014.05.22-24, 2014
36. 田蒨基行, 藤谷与士夫, 原朱美, 宮塚健, 松久宗英, 綿田裕孝
肥満 2 型糖尿病モデルマウスの膵 β 細胞は、糖脂肪毒性による膵 β 細胞特異的転写因子の発現低下を介して、PP 細胞へ分化転換する
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), YIA 審査講演, 2014.05.22-24, 2014
37. 渡邊好胤, 平沢良和, 岩崎真宏, 桑原匠司, 山根俊介, 田村好史, 三浦順之助, 佐藤祐造, 清野裕
ブルーエクササイズ運動の糖代謝に及ぼす急性効果に関する検討 (第 1 報)
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), 口演, 2014.05.22-24, 2014
38. 飯田雅, 荻原健, 田蒨基行, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
膵 β 細胞におけるセロトニン合成律速酵素 TPH1 のプロラクチン応答性発現機構の解明
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), 口演, 2014.05.22-24, 2014
39. 本田彬, 金澤昭雄, 吉原知明, 染谷由希, 川口美奈子, 東浩介, 池田富貴, 清水友章, 藤谷与士夫, 弘世貴久, 綿田裕孝
シタグリプチン効果不十分症例に対するリラグルチドへの変更効果
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), ポスター, 2014.05.22-24, 2014
40. 笥佐織, 田村好史, 池田真一, 竹野景海, 船山崇, 河盛隆造, 綿田裕孝
24 時間の脚ギプス固定は、骨格筋細胞内のジアシルグリセロールを増加させ、インスリン抵抗性を惹起する
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪府 (日本), 口演, 2014.05.22-24, 2014
41. 河盛隆造
日本人の体質に合った 2 型糖尿病、高血圧、高脂血症治療のあり方に関する、基礎的、臨床的研究
第 64 回日本体質医学会総会, 大阪府(日本), 学会賞受賞講演, 2014.09.06-07, 2014
42. 福中彩子, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
エーラスタンロス症候群原因遺伝子 Zip13 の脂肪細胞褐色化における役割
第 64 回日本体質医学会総会, 大阪府(日本), 若手研究奨励賞審査講演, 2014.09.06-07, 2014
43. 池田真一, 田村好史, 笥佐織, 河盛隆造, 綿田裕孝
一過性走運動後の筋 GLUT4 発現増加には IL-6 が関与する
第 69 回日本体力医学会大会, 長崎県(日本), ポスター, 2014.09.19-21, 2014
44. 加賀英義, 後藤広昌, 氷室美和, 齊藤大祐, 吉原知明, 金澤昭雄, 清水史孝, 久末伸一, 堀江重郎, 綿田裕孝
123I-MIBG と 131I-MIBG シンチグラムの結果が乖離した悪性パラガングリオーマの 1 例
第 87 回日本内分泌学会学術総会, 福岡県(日本), ポスター, 2014.04.24-26, 2014
45. 中島健一, 後藤広昌, 鈴木瑠璃子, 河野結衣, 吉原知明, 池田富貴, 金澤昭雄, 清水史孝, 久末伸一, 堀江重郎, 綿田裕孝
PPNAD が疑われた若年性両側副腎性クッシング症候群の一例
第 87 回日本内分泌学会学術総会, 福岡県(日本), ポスター, 2014.04.24-26, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

46. 田蒨基行, 藤谷与士夫, 原朱美, 松久宗英, 綿田裕孝
肥満2型糖尿病モデルマウスの膵β細胞は、糖脂肪毒性による膵β細胞特異的転写因子の発現低下を介して、PP細胞へ分化転換する
第87回日本内分泌学会学術総会, 福岡県(日本), 口演, 2014.04.24-26, 2014
47. 田村好史
異所性脂肪の概念と臨床展開 骨格筋における異所性脂肪蓄積とインスリン抵抗性
第87回日本内分泌学会学術総会, 福岡県(日本), 口演, 2014.04.24-26, 2014
48. 片平雄大, 後藤広昌, 増山敦, 池田富貴, 金澤昭雄, 綿田裕孝
成人期に横紋筋融解症を伴う副腎不全を発症した下垂体茎断裂症候群の1例
第87回日本内分泌学会学術総会, 福岡県(日本), ポスター, 2014.04.24-26, 2014
49. 内田豊義, 後藤広昌, 小宮幸次, 竹野景海, 阿部浩子, 中寺奈弓, 佐藤淳子, 本田彬, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
未治療バセドウ病に対する無機ヨードの臨床的効果
第111回日本内科学会総会, 東京都(日本), ポスター, 2014.04.11-13, 2014
50. 内田豊義, 後藤広昌, 小宮幸次, 竹野景海, 阿部浩子, 中寺奈弓, 佐藤淳子, 本田彬, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
未治療バセドウ病に対する無機ヨードの臨床的効果
第111回日本内科学会総会, 東京都(日本), プレナリーセッション, 2014.04.11-13, 2014
51. 小林愛, 本田彬, 大村千恵, 綿田裕孝
化膿性頸椎椎炎を合併した2型糖尿病患者の1例
第604回日本内科学会関東地方会, 東京都(日本), 口演, 2014.03.08, 2014
52. 入江俊一郎, 加賀英義, 早稻田直子, 後藤広昌, 吉原知明, 金澤昭雄, 綿田裕孝, 荒川将之
糖尿病ケトアシドーシスにリフィーディング症候群を合併した1例
第610回日本内科学会関東地方会, 東京都(日本), 口演, 2014.11.08, 2014
53. Suda Y, Kumano H, Uka T
LIP neurons accumulate relevant information depending on task demand.
第36回日本神経科学大会, 2014年9月11-13日, 横浜.
54. 三井田孝
バイオマーカーの進歩. バイオマーカーとしての脂質・リポ蛋白関連検査
第24回日本臨床検査専門医会春季大会, 札幌 (5/31), 第24回日本臨床検査専門医会春季大会抄録集: 5, 2014
55. 三井田孝
明日へのシンポジウム2: 脂質検査の現状及び将来展望. 血清脂質・リポ蛋白検査の正確性について
第46回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 東京 (7/10-7/11), 第46回日本動脈硬化学会総会プログラム・抄録集: 122, 2014
56. 三井田孝
リポ蛋白検査専門委員会報告. CDC リファレンス法によるHDL-Cホモジニアス法の正確性の検討結果
第54回日本臨床化学会年次学術集会, 東京 (9/5-9/7), 臨床化学 Vol. 43 Suppl.1 148, 2014
57. 近藤成美, 中村文子, 三澤成毅, 笹野 央, 大坂顯通, 三井田孝
当院における抗緑膿菌薬の使用量の変化と薬剤感受性の推移
第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡市 (11/22-11/25), 臨床病理 Vol. 62 Suppl.1: 310, 2014
58. 杉原匡美, 小田切史徳, 鈴木 剛, 村山 尚, 櫻井 隆, 代田浩之, 森本幸生, 呉林なごみ, 三井田孝

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

自発的運動測定は拡張型心筋症モデルマウスのうっ血性心不全の判定に有用である 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡市 (11/22-11/25), 臨床病理 Vol. 62 Suppl.1: 254, 2014	
59.	田部陽子, 山田宏美, 堀井 隆, 木村晋也, <u>三井田孝</u>, 大坂顯通 WHO 国際標準準拠 BCR-ABL 補正パネルを用いた施設固有 RQ-PCR 法の変換係数算出と検出感度評価 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡市 (11/22-11/25), 臨床病理 Vol. 62 Suppl.1: 236, 2014
60.	出居真由美, 田部陽子, 三宅一徳, 濱田千江子, <u>三井田孝</u> 腹膜透析排液検査法の開発と腹膜劣化指標としての有用性の検討 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡市 (11/22-11/25), 臨床病理 Vol. 62 Suppl.1: 111, 2014
61.	脇田 満, 山本美由紀, 伊藤聡史, 三澤成毅, 久野 豊, 堀井 隆, 田部陽子, 三宅一徳, <u>三井田孝</u>, 大坂 顯通 直接ビリルビン測定における分析装置の比較検討 日本臨床検査自動化学会第 46 回大会, 横浜市 (10/10-12), 日本臨床検査自動化学会会誌 Vol. 39 No. 4: 545, 2014
62.	<u>平山哲</u>, 宗田聡, 上野剛, 糟谷優, 杉原匡美, <u>三井田孝</u> 2 型糖尿病患者の LPL 濃度に及ぼす肥満および関連因子の影響 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡(11/22-11/25), 臨床病理 第 62 巻補, 302, 2014
63.	上野剛, <u>平山哲</u>, 小野塚麻里, 糟谷優, 杉原匡美, 安部勝美, <u>三井田孝</u> 妊娠時の血中および尿中カルニチン濃度の変動 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡(11/22-11/25), 臨床病理 第 62 巻補, 211, 2014
64.	上野剛, <u>平山哲</u>, 小野塚麻里, 昆美香, 杉原匡美, 糟谷優, 安部勝美, <u>三井田孝</u> 妊娠時の血中微量金属濃度の経時的変化と胎児発育の関連 第 54 回日本臨床化学会年次学術集会, 東京 (9/5-9/7), 臨床化学 第 43 巻 Suppl 1: 260, 2014
65.	杉原匡美, <u>三井田孝</u>, <u>平山哲</u>, 上野剛 non-HDL を使った脂質異常症のスクリーニングにおけるカットオフ値の有用性 第 54 回日本臨床化学会年次学術集会, 東京 (9/5-9/7), 臨床化学 第 43 巻 Suppl 1: 229, 2014
66.	蔡榮龍, <u>島田和典</u>, 宮内克己, 小西宏和, 内藤亮, 荻田学, 坪井秀太, 田村浩, 宮崎哲朗, 岡崎真也, 蔵田健, <u>代田浩之</u>. 冠動脈疾患患者における 1,5-anhydroglucitol 測定の臨床的意義. 第 62 回日本心臓病学会学術集会. 平成 26 年 9 月 27 日 仙台 宮城.
67.	塩谷みき, <u>島田和典</u>, 横山美帆, 蔡榮龍, 竹野景海, <u>田村好史</u>, <u>綿田裕孝</u>, <u>河盛隆造</u>, <u>代田浩之</u>, 河合祥雄. 成人男性におけるメタボリックシンドローム関連因子と運動耐容能との関連. 第 62 回日本心臓病学会学術集会. 平成 26 年 9 月 26 日 仙台 宮城.
68.	<u>島田和典</u>. 市民公開講座 超高齢社会における心臓病の重要性. これなら出来る! 心筋梗塞・狭心症予防のコツ. 第 62 回日本心臓病学会学術集会. 平成 26 年 9 月 28 日 仙台 宮城.
69.	塩谷みき, 横山美帆, <u>島田和典</u>, 正木克由規, 久米淳美, 深尾宏祐, 蔡榮龍, 吉原琢磨, 佐藤裕之, 河合祥雄, <u>代田浩之</u>. 入退院を繰り返していた慢性心不全患者に回復期心臓リハビリテーションの導入が有用であった一症例. 第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 平成 26 年 7 月 20 日 京都市 京都.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

70. 島田和典, 代田浩之, 横山美帆, 安達仁, 及川恵子, 長山雅俊, 齊藤正和, 大宮一人, 後藤葉一, 伊東春樹.
パネルディスカッション 6 心臓リハビリテーションの標準化と患者登録システム: 標準プログラムとレジストレーションの重要性. 日本心臓リハビリテーション学会レジストレーションシステム: 初年度の結果報告と今後の展望.
第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 平成 26 年 7 月 19 日 京都市 京都.
71. 横山美帆, 宮内克己, 島田和典, 蔡榮龍, 荻田学, 久米淳美, 深尾宏祐, 吉原琢磨, 岡崎真也, 塩谷みき, 代田浩之.
急性冠症候群患者の冠動脈プラーク退縮と体重変化との関連.
第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 平成 26 年 7 月 19 日 京都市 京都.
72. 石島旨章, 中村利孝, 清水克時, 林邦彦, 大森豪, 菊池啓, 宗圓聰, 山下敏彦, 内尾祐司, 千葉純司, 金子和夫
軟骨代謝研究会, 変形性膝関節症に対する高分子ヒアルロン酸関節内注射と NSAID 内服の作用機序の差異: 多施設無作為化比較試験
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月, 神戸
73. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 劉立足, Anwarujan Yusup, 小林洋平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
初期変形性膝関節症における関節軟骨の変性及び構造的変化の空間的差異
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月, 神戸
74. 清村幸雄, 黒澤尚, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 劉立足, 土屋勝, 牧野祐司, 澤満美子, 岩瀬嘉志, 金子和夫
変形性膝関節症患者の疾患進行度による抑うつ状態の分析
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月, 神戸
75. 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 久保田光昭, 石島旨章, 金子晴香, 小林洋平, 定月亮, 羽田晋之介, 黒澤尚, 金子和夫
解剖学的一重束前十字靱帯再建術の中期成績
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月 22-25 日, 神戸
76. 斎田良知, 石島旨章, 馬場智規, 湯浅崇仁, 前澤克彦, 谷口有, 若山貴則, 野尻英俊, 金子和夫,
ビスフォスフォネート関連非定型大腿骨骨折患者の骨折部における骨組織形態学的検討
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月, 神戸
77. 高澤祐治, 池田浩, 斎田良知, 石島旨章, 久田 光昭, 金子 晴香, 小林 洋平, 定月 亮, 羽田晋之介, 黒澤尚, 金子和夫
膝前十字靱帯再断裂および再再建術後成績に影響を与える因子の検討
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月 22-25 日, 神戸
78. 坂本優子, 野澤雅彦, 金勝乾, 石島旨章, 平澤恵理, 金子和夫
女性整形外科医のキャリアデザイン 夢の実現に向けて 夢の実現に対する障壁 自身の出産・復帰・継続体験をふまえて
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月, 神戸
79. 石島旨章, 劉立足, 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
MRI による骨棘スコアは変形性膝関節症の手術予測因子である
第 6 回 JOSKAS, 2014 年 7 月, 広島
80. 金子晴香, 石島旨章, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
軟骨分解マーカー(CTX-II)による変形性膝関節症の予後予測
第 6 回 JOSKAS, 2014 年 7 月, 広島

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

81. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 劉立足, Anwarujan Yusup, 小林洋平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
初期変形性膝関節症の大腿骨側関節軟骨の質的变化は脛骨側及び膝蓋骨側よりも先行する
第6回 JOSKAS, 2014年7月, 広島
82. 高澤祐治, 永山正隆, 池田浩, 石島旨章, 斎田良知, 金子晴香, 羽田晋之介, 川崎隆之, 金勝乾, 金子和夫
若年ラグビー選手に対するハムストリングを用いた膝前十字靱帯再建術の問題点 過去10年間の後ろ向き比較検討から
第6回 JOSKAS, 2014年7月, 広島
83. 木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, アニワル・ユスブ, 坂本優子, 野尻英俊, 金子和夫
原発性骨粗鬆症患者における SERM 製剤と Eldecalcitol との併用効果の検討: 中間報告
第16回骨粗鬆症学会, 2014年10月, 東京
84. 劉立足, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, アニワルジャン・ユスブ, 羽田晋之介, 木下真由子, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
末期変形性膝関節症に対する運動療法無効例を予測する関節内構造病変
第42回日本関節病学会, 2014年11月, 東京
85. アニワルジャン・ユスブ, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
末期変形性膝関節症の滑膜炎と関連する関節内構造変化因子
第42回日本関節病学会, 2014年11月, 東京
86. 金子和夫
股関節手術の歴史と今後の展望
第41回日本股関節学会 2014年11月, 東京
87. Hada S, Ishijima M, Kaneko H, Sadatsuki R, Kinoshita M, Lizu L, Yusup A, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K
Destruction of femoral articular cartilage is preceded than that of confronting tibial and patellar articular cartilage in early stage of knee osteoarthritis: a cross-sectional study
日本軟骨代謝学会、京都府医師会館、2月
88. Honma Y, Kaneko K, Hernigou P
Supercharging allografts with mesenchymal stem cells in operating room during hip revision
第87回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014年5月
89. Mukaiharu K, Kubota D, Kobayashi E, Suehara Y, Kaneko K, Kawai A, TKondo
【シンポジウム】胞巣状軟部肉腫細胞株に対するチロシンキナーゼ阻害剤の抗腫瘍効果の検討
第47回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、大阪、014年7月
90. Mukaiharu K, Kubota D, Kobayashi E, Suehara Y, Kaneko K, Kawai A, TKondo
胞巣状軟部肉腫細胞株に対するチロシンキナーゼ阻害剤の抗腫瘍効果の検討
第29回日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014年10月
91. Toda M, Suehara Y, Kim Y, Akaike K, Takagi T, Yao T, Kaneko K, Saito T
Comprehensive treatment strategy has led to a better course of giant-cell tumor of bone arising in the anterior rib: A case report 肋骨前方より発生し包括的な治療戦略により 良好な経過を得た骨巨細胞腫の一例
第47回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、大阪、014年7月
92. 赤池慶祐, 末原義之, 栗崎愛子, 原貴恵子, 大久保武人, 鳥越知明, 八尾隆史, 金子和夫, 高木辰哉, 齋藤 剛
Solitary fibrous tumor における NAB2-STAT6 融合遺伝子のタイプと臨床病理像の検討

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 29 回日本整形外科学会基礎学術集会, 鹿児島, 2014 年 10 月

93. 赤池慶祐, 末原義之, 原貴恵子, 大久保武人, 鳥越知明, 八尾隆史, 金子和夫, 高木辰哉, 齋藤剛
Solitary fibrous tumor における NAB2-STAT6 融合遺伝子のタイプと臨床病理像の検討
第 47 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 大阪, 2014 年 7 月
94. 赤池慶祐, 末原義之, 大久保武人, 鳥越知明, 八尾隆史, 金子和夫, 高木辰哉, 齋藤剛
Denosumab 治療に伴い軟部卵殻状石灰化病変を形成した難治性再発骨巨細胞腫の 1 例
第 47 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 大阪, 2014 年 7 月
95. 赤池慶祐, 末原義之, 金栄智, 片桐浩久, 高橋満, 齋藤剛, 金子和夫, 高木辰哉
原発不明がん骨転移の 臨床学的検討
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014 年 5 月
96. 有富健太郎, 内藤聖人, 金子和夫.
関節リウマチと手とフランス.
第 7 回順天堂リウマチカンファレンス 東京 7 月
97. 池上 隆司, 高橋 健剛, 奥田 貴俊, 金子 和夫
人工骨頭置換術における前側方と後側方からの進入法の比較検討
第 40 回日本骨折治療学会, 熊本, 2014 年 6 月
98. 井下田有芳, 内藤聖人, 杉山陽一, 金子和夫, 大林 治
近位手根列切除後に発生した橈骨遠位端骨折の 1 例.
第 40 回日本骨折治療学会, 熊本, 2014 年 6 月
99. 糸魚川 善昭, 井樋 栄二, 迫間巧将, 山本宣幸, 佐野博高, 金子和夫
AIGHL 関節唇複合体の肩甲骨付着形態に関する解剖学的解析—第 3 報—.
第 41 回日本肩関節学会、佐賀、2014 年 10 月
100. 糸魚川 善昭, 鈴木 治, 佐野 博高, 穴田 貴久, 半田 拓人, 八田 卓久, 桑原 功行, 高橋 敦,
江副 祐史, 金子 和夫, 井樋 栄二
棘下筋腱付着部再生における octacalcium phosphate(OCP)ゼラチン複合体の役割.
第 29 回日本整形外科学会基礎学術集会, 鹿児島, 2014 年 10 月
101. 大久保武人 大久保菜穂子 鈴木美奈子 金子和夫 島内憲夫
若年者へのロコモティブシンドロームに関する調査と予防教育の効果
第 12 回ヘルスプロモーション学術集会, 千葉, 2014 年 11 月
102. 大久保武人 末原義之 川崎隆之 赤池慶祐 戸田翠 窪田大介 向井原健太 金栄智 齋
藤剛 高木辰哉 金子和夫
整形外科患者コホートにおけるロコモティブシンドローム認識度および罹患度調査
第 87 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2014 年 5 月
103. 大久保武人 矢澤康男 今西淳悟 若山貴則 清水道生 末原義之 鳥越知明 高木辰哉
金子和夫
当院における chronic expanding hematoma の 13 例
第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、大阪、2014 年 7 月
104. 大久保武人 齋藤剛 高木辰哉 鳥越知明 末原義之 赤池慶祐 八尾隆史 金子和夫
Desmoplastic fibroma の 2 例
第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、大阪、2014 年 7 月
105. 大沢亜紀, 金澤博明, 吉田圭一, 丸山祐一郎, 金子和夫
人工膝関節置換術における関節周囲多剤の術後疼痛と理学療法に対する有効性: モルヒネとステロイドの比較
JOSKAS, 広島, 2014 年 7 月

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 106.大沢亜紀, 金澤博明, 吉田圭一, 丸山祐一郎, 金子和夫
人工膝関節置換術における関節周囲多剤カクテル療法の術後疼痛と理学療法に対する有用性
日本人工関節学会, 沖縄, 2014 年 2 月
- 107.越智宏徳, 馬場智規, 本間康弘, 松本幹生, 小林英生, 湯浅崇仁, 金子和夫
転位型大腿骨頸部骨折に対して Dual Mobility Cup を用いた人工股関節全置換術
第 41 回 日本股関節学会学術集会, 2014 年 10 月
- 108.小畑宏介, 大林治, 最上敦彦, 神田章男, 金子和夫
小児両側大腿骨骨幹部骨折に対する治療経験 -Kirschner 鋼線を用いた髓内固定法を施行した
2 症例-
第 40 回日本骨折治療学会, 熊本, 2014 年 6 月
- 109.小畑宏介, 内藤聖人, 杉山陽一, 井下田有芳, 金子和夫, 大林 治.
徒手整復不能な母指 IP 関節脱臼: 症例報告と新しい整復方法.
第 56 回静岡手外科・マイクロサージャリー研究会 静岡 7 月
- 110.遠田慎吾 金山雅弘 橋本友幸 重信恵一 大羽文博 岩田 玲 田中 将 金子和夫
超高齢者 (85 歳以上) の腰椎手術における周術期合併症の検討
第 43 回日本脊椎脊髄病学会, 京都, 2014 年 4 月
- 111.金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 吉田圭一, 金子和夫
慢性膝蓋大腿関節症 (isolated PF-OA) に対する脛骨結節骨切り術 (Crosse de hockey 法) の
治療経験
JOSKAS, 広島, 2014 年 7 月
- 112.金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 吉田圭一, 金子和夫
NexGen LPS-Flex 人工膝関節全置換術後の中期成績—客観的&患者立脚型評価での検討
日本人工関節学会, 沖縄, 2014 年 2 月
- 113.亀田 壮, 熊井 司, 田中康仁, 金子和夫
トッパススリートの難治性アキレス腱症に対し超音波ガイド下ヒアルロン酸注射にて加療し
た 1 例
第 6 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 広島, 2014 年 7 月
- 114.亀田 壮, 熊井 司, 田中康仁, 金子和夫
トッパススリートの難治性アキレス腱症に対し超音波ガイド下ヒアルロン酸注射にて加療し
た 1 例
第 26 回日本整形外科超音波学会, 大阪, 2014 年 7 月
- 115.亀田 壮, 田中康仁, 熊井 司, 谷口 晃, 松田剛典, 野口幸志, 富和清訓, Korakot
Maliwankul, 金子和夫
非外傷性距骨滑車骨軟骨損傷の X 線学的形態的特徴の検討
第 87 回日本整形外科学会総会, 神戸, 2014 年 5 月
- 116.川崎隆之, 田中洋, 村上憲治, 奥脇透, 金子和夫
モーションキャプチャ・システムを用いたラグビー選手のタックル動作解析.
第 41 回日本肩関節学会学術集会, 佐賀, 2014 年 10 月
- 117.川崎隆之, 田中洋, 村上憲治, 奥脇透, 金子和夫
モーションキャプチャ・システムを用いたラグビー選手のタックル動作解析.
第 25 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014 年 11 月
- 118.木下 真由子, 石島 旨章, 金子 晴香, 劉 立足, 定月 亮, 羽田晋之介, アニワル・ユスブ, 坂本 優子,
野尻 英俊, 金子 和夫
若手研究者シンポジウム: 原発性骨粗鬆症患者における SERM 製剤と Eldecalcitol との併用効
果の検討: 中間報告 ビタミン D が与える影響について
第 16 回日本骨粗鬆症学会, 東京, 2014 年 10 月

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 119.木下 真由子,石島 旨章,金子 晴香,劉 立足,定月 亮,羽田晋之介,アニワル・ユスブ,坂本 優子,野尻 英俊,金子 和夫
日常臨床におけるビスホスホネート製剤の有用性と注意点
順整会神奈川県支部、新横浜、2014 年 11 月
- 120.木下真由子,鳥越知明,金澤博明,高木辰哉,寺門厚彦,末原義之,大久保武人,赤池慶祐,金子 和夫
関節症状を主訴に整形外科を受診した白血病症例の検討
第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、大阪、2014 年 7 月
- 121.木下真由子、金子晴香、劉立足、定月亮、羽田晋之介、アニワルジャン ユスブ、丸山 祐一郎、金子 和夫、石島旨章
PⅡCP 低値と変形性膝関節症における関節裂隙狭小化の関係性
第 27 回日本軟骨代謝学会、京都、2014 年 2 月
- 122.金 勝乾,長尾雅史,黒澤 尚,池田 浩,高澤祐治,石島旨章,斎田良知,野沢雅彦,金子 和夫,土肥徳秀
前十字靱帯損傷に対する患者立脚型評価法 (ACL25 の開発)
第 87 回日本整形外科学会総会、神戸、2014 年 5 月
- 123.窪田大介,小林英介,金子 和夫,川井章,中馬広一
大腿悪性骨軟部腫瘍に対する大腿骨全置換術の治療成績
第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、大阪、2014 年 7 月
- 124.窪田大介、向井原健太、末原義之、金子 和夫、川井 章、近藤格
プロテオーム解析を用いた骨肉腫の化学療法奏効性予測バイオマーカーの開発①
第 87 回日本整形外科学会学術総会、神戸 (兵庫)、2014 年 5 月
- 125.窪田大介、向井原健太、末原義之、金子 和夫、川井 章、近藤格
プロテオーム解析を用いた骨肉腫の化学療法奏効性予測バイオマーカーの開発
第 29 回日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014 年 10 月
- 126.久保田光昭 大野隆一 羽生亮 酒井健介 菅原悠 越智宏徳 向笠文博 石島旨章 高澤祐治 池田浩 金子 和夫
Open wedge HTO に対する臨床評価と画像評価の相関
第 6 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)、広島、2014 年 7 月
- 127.倉田 憲一 齋田 良知 佐藤 泰介 深作 進 金子 和夫 根本 昌幸
経ポータル法で作成した膝前十字靱帯再建術における骨孔形状の解析
第 6 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、広島、2014 年 7 月
- 128.倉田憲一 齋田良知 定月亮 佐藤泰介 羽生亮 鎌野俊哉 深作進 金子 和夫 根本昌幸
関節液中骨代謝マーカーは変形性膝関節症患者の MRI 軟骨病変と関連する
日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014 年 10 月
- 129.倉田憲一、齊田良和、佐藤泰介、深作進、金子 和夫、根本昌幸
前十字靱帯 (ACL) 解剖学的中心付近へ経ポータル法で作成した一重束再建術における骨孔形状の解析
第 87 回日本整形外科学会学術総会、神戸 5 月
- 130.小池 正人、野尻英俊、小澤裕介、渡辺憲史、村松佑太、金子晴香、森川大智、小林慶司、齋田良知、増田功、佐粧孝久、白澤卓二、横手幸太郎、金子 和夫、清水孝彦
軟骨細胞のミトコンドリア障害は変形性関節症を助長する。
第 29 回日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014 年 10 月
- 131.小池正人、野尻英俊、金子 和夫、清水孝彦
関節軟骨変性と酸化ストレス：シンポジウム「OA 発症メカニズム」

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 29 回日本整形外科基礎学術集会, 鹿児島, 2014 年 10 月

- 132.小池正人、野尻英俊、小澤裕介、渡辺憲史、増田功、村松佑太、金子晴香、森川大智、小林慶司、斎田良知、佐粧孝久、金子和夫、清水孝彦
軟骨細胞における Sod2 欠損は加齢性変形性関節症を加速させる。
第 27 回日本軟骨代謝学会, 京都, 2014 年 2 月
- 133.小池正人、野尻英俊、小澤裕介、渡辺憲史、増田功、村松佑太、金子晴香、森川大智、小林慶司、斎田良知、佐粧孝久、金子和夫、清水孝彦
関節軟骨における Sod2 欠損は加齢性軟骨変性を助長する。
第 32 回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014 年 7 月
- 134.小池正人、野尻英俊、小澤裕介、渡辺憲史、村松佑太、金子晴香、森川大智、小林慶司、斎田良知、増田功、佐粧孝久、白澤卓二、横手幸太郎、金子和夫、清水孝彦
軟骨細胞における Sod2 欠損はメカニカルストレスおよび加齢に伴う変形性関節症を加速させる。
第 14 回抗加齢医学会総会, 大阪, 2014 年 6 月
- 135.小林望、藤原三郎、千野孔三、岩瀬弘明、尾崎友、鈴木雅生、金子和夫
診断から治療までに時間を要した下腿開放骨折後骨髓炎の 1 例
第 40 回日本骨折治療学会、熊本、2014 年 6 月
- 136.齋田 良知, 高澤 祐治, 池田 浩, 久保田 光昭, 石島 旨章, 金子 晴香, 川崎 隆之, 黒澤 尚, 金子 和夫
アスリートの解剖学的一重束前十字靱帯再建術後スポーツ復帰状況の検討
JOSKAS、広島、2014 年 6 月
- 137.齋田 良知, 小林 洋平, 池田 浩, 高澤 祐治, 中島 啓樹, 長尾 雅史, 金子 和夫
多血小板血漿(PRP)中に含有される血小板数と成長因子の相関および個人差の検討
日本整形外科スポーツ医学会、東京、2014 年 9 月
- 138.坂本一晃, 齋田良知, 馬場智規, 最上敦彦, 本間康弘, 金子和夫
非定型大腿骨骨折の骨癒合期間に薬物治療と歩行能力は影響するか?・術後 3 年以上経過例の検討
第 40 回日本骨折治療学会, 熊本, 2014 年 6 月
- 139.坂本優子, 野沢雅彦, 金 勝乾, 石島旨章, 平澤恵理, 金子和夫
夢の実現に対する障壁 ―自身の出産・復帰・継続体験をふまえて― (パネルディスカッション)
第 87 回日本整形外科学会総会, 神戸, 2014 年 5 月
- 140.定月 亮, 石島 旨章, 金子 晴香, 二見 一平, 劉 立足, アニワルジャン ユスブ、羽田 晋之介、木下 真由子, Mary B. Golding, Yoshihiko Yamada, 金子 和夫
パールカンによる滑膜間葉系細胞の維持並びに分化誘導の制御
日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014 年 10 月
- 141.佐藤泰介 齋田良知 倉田憲一 羽生享 深作進 根本昌幸 金木和夫
抗血栓薬内服患者に対する人工膝関節全置換術 (TKA)術後の追加抗凝固療法の有用性と安全性の検討について
第 87 回日本整形外科学会学術総会、神戸 5 月
- 142.佐渡山泰永, 佐藤太一, 前田浩行, 岩瀬秀明, 金子和夫, 小林敦郎, 若尾房美, 前田睦浩
運動器不安定症患者の転倒予防を目的とした「またぎ動作」の解析
日本転倒予防学会第 1 回学術集会, 東京, 2014 年 10 月
- 143.嶋村 之利, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 中原 大志, 百村 励, 吉川 慶, 高野 弘充, 金子 和夫, 尾原 裕康, 原 毅, 清水 敬親.
キアリ 1 型奇型を伴う側彎変形に対する後頭下減圧術の効果の検討

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 43 回日本脊椎脊髄病学会 京都、2014 年 4 月

- 144.嶋村 之利、米澤 郁穂、奥田 貴俊、武藤 治、百村 励、吉川 慶、高野 弘充、金子 和夫、峰松 和夫、寺田 信幸、秋元 俊成.
ハンプ定量測定システムの検者間信頼性の検討.
第 48 回日本側弯症学会、盛岡、2014 年 10 月
- 145.嶋村之利、米澤郁穂、奥田貴俊、百村励、吉川慶、高野弘充、金子和夫、尾原裕康、原毅
"急速に進行した後弯変形に対して上位胸椎レベルで矯正骨切りを行ったキアリー奇形を合併した側弯症の 1 例"
第 13 回日本乳幼児側弯症研究会、盛岡、2014 年 11 月
- 146.陣内祐太、中原大志、小林慶司、高澤祐治、金子和夫
サルモネラ菌が起因となった 腸腰筋膿瘍の 1 例
関東整形災害外科学会月例会、東京、2014 年
- 147.末原義之、高阪真路、Neerav Shukla、窪田大介、金子和夫、Marc Ladanyi、齋藤剛
Ewing' s 肉腫における Nucleophosmin の遺伝子発現ベースの機能解析
第 47 回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会、大阪、2014 年 7 月
- 148.末原義之、高阪真路、Neerav Shukla、窪田大介、峯木礼子、藤村努、金子和夫、Marc Ladanyi、齋藤剛
Ewing' s 肉腫における Nucleophosmin のプロテオミクススペースの機能解析
第 47 回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会、大阪、2014 年 7 月
- 149.末原義之、高阪真路、Neerav Shukla、窪田大介、峯木礼子、藤村努、金子和夫、齋藤剛、Marc Ladanyi
Ewing' s 肉腫における Nucleophosmin のプロテオミクススペースの機能解析
第 87 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2014 年 5 月
- 150.杉山陽一、内藤聖人、金子和夫、大林 治.
透析患者のシャント側に発症した橈骨遠位端骨折の治療経験.
第 57 回日本手外科学会学術集会、那覇、2014 年 4 月
- 151.鈴木雅生、藤原三郎、千野孔三、岩瀬弘明、尾崎友、小林望、金子和夫
大腿骨転子部骨折における血栓評価のプロトコールの検討
第 40 回日本骨折治療学会、熊本、2014 年 6 月
- 152.高木辰哉、末原義之、赤池慶祐、鳥越知明、金子和夫
食道がん骨転移の臨床像
第 47 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 大坂、2014 年 7 月
- 153.高木辰哉、末原義之、赤池慶祐、鳥越知明、矢澤康男、金子和夫
転移性骨腫瘍に対する多職種介入によるマネジメント
第 47 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 大坂、2014 年 7 月
- 154.高野弘充、米澤郁穂、奥田貴俊、嶋村之利、吉川慶、金子和夫
Posterior decompression with instrumented fusion of the operation techniques in OPLL of the thoracic spine
第 21 回日本脊椎脊髄神経手術手技学会、宮崎、2014 年 9 月
- 155.高野弘充、米澤郁穂、奥田貴俊、百村励、嶋村之利、吉川慶、金子和夫
思春期特発性側弯症における矢状面アライメントのカーブタイプ別検討
第 23 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会、浜松、2014 年 8 月
- 156.高野弘充、米澤郁穂、奥田貴俊、百村励、嶋村之利、吉川慶、金子和夫
頚椎後弯が自然に改善した calve 扁平椎の一例
第 48 回日本側弯症学会、盛岡、2014 年 10 月

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 157.高野弘充, 米澤郁穂, 東藤貢, Muhammad Hazli Mazlan, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 金子 和夫
有限要素法を用いた椎体圧迫骨折の力学的評価-続発性椎体圧迫骨折のメカニズムの検討-
第41回日本臨床バイオメカニクス学会, 奈良, 2014年11月
- 158.高野 弘充, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 百村 励, 嶋村 之利, 吉川 慶, 金子 和夫
思春期特発性側彎症における矢状面アライメントのX線学的検討
第87回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014年5月
- 159.高野弘充, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 金子和夫
脊椎手術後の問題症例
第28回脊椎研究会 東京, 2014年6月
- 160.高野弘充, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
背筋による圧迫で麻痺をきたした胸椎後縦靱帯骨化症の一例
第3回文京整形外科カンファレンス, 東京, 2014年7月
- 161.鳥越知明, 丸山祐一郎, 高木辰哉, 末原義之, 赤池慶祐, 金子和夫
ナビゲーションを用いて骨切りし液体窒素処理自家骨移植にて再建した大腿骨遠位傍骨性骨肉腫の1例
第47回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会, 大阪, 2014年7月
- 162.内藤聖人, 杉山陽一, 最上敦彦, 金子和夫, 大林治
橈骨遠位端骨折に対する小皮切手術: プレート設置には何mmの皮切が必要か
第40回日本骨折治療学会, 熊本, 2014年6月
- 163.内藤聖人, 金子和夫, Liverneaux P.
Telemicrosurgery.
第334回順天堂医学会学術集会 東京 2014年9月
- 164.内藤聖人, 杉山陽一, 金子和夫, 大林 治.
上肢動物咬創に対する積極的デブリードマンと一次創閉鎖.
第57回日本手外科学会 沖縄, 2014年4月
- 165.内藤聖人, 杉山陽一, 金子和夫, 大林 治.
健常遠位橈尺関節における橈骨と尺骨頭の位置関係- 前腕回旋による尺骨頭偏位について.
第57回日本手外科学会 沖縄 2014年4月
- 166.内藤聖人, 有富健太郎, 金子和夫.
手外科手術に求められる手術記録.
第15回順天堂手肘研究会 東京 2014年9月
- 167.成嶋靖博・前澤克彦・一青勝雄・金子和夫
人工股関節全置換術後における成績不良因子の検討 (JHEQを基に)
第41回日本股関節学会、東京、H26年10月
- 168.羽田晋之介, 高澤祐治, 定月亮, 小林洋平, 金子晴香, 齊田良知, 久保田光昭, 石島旨章, 池田浩, 金子和夫
opening wedge 高位脛骨骨切り術の術後スポーツ活動への復帰
日本関節病学会、東京虎ノ門ヒルズ, 2014年11月
- 169.羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 劉立足, アニュワル・ユスプ, 小林洋平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
初期変形性膝関節症における関節軟骨の変性及び構造的変化の空間的差異
御茶ノ水膝スポーツ懇話会、順天堂大学センチュリータワー、2014年6月
- 170.馬場 智規, 金子 和夫
骨盤・股関節に対する外科的治療の進歩 人工股関節置換術における前方進入法と後方進入法の比較

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 39 回日本外科系連合学会、東京 2014 年 6 月

- 171.馬場 智規, 最上 敦彦, 二村 謙太郎, 諸橋 達, 神田 章男, 本間 康弘, 松本 幹生, 百村 励, 小林 英生, 金子 和夫
大腿骨ステム周囲骨折に対して治療戦略に有用な客観的分類の提案と検者間誤差の検討
第 40 回日本骨折治療学会,熊本,2014 年 6 月
- 172.馬場 智規, 萩野 浩, 野々宮 廣章, 生田 拓也, 正田 悦朗, 最上 敦彦, 金子 和夫, 澤口 毅
橈骨遠位端骨折後に骨粗鬆症治療は行われているのか? 全国多施設共同研究
第 40 回日本骨折治療学会,熊本,2014 年 6 月
- 173.馬場 智規, 百村 励, 金子 和夫
大腿骨ステム周囲骨折の治療戦略に有用な客観的分類法の提案
第 54 回関東整形災害外科学会, 横浜, 2014 年 3 月
- 174.馬場智規 越智宏徳 本間康弘 松本幹生 小林英生 湯浅崇仁 金子和夫
大腿骨頸部骨折に対して前方アプローチによる人工股関節全置換術と人工骨頭置換術の比較
第 41 回日本股関節学会学術集会、東京、2014 年 10 月
- 175.馬場智規 本間康弘 松本幹生 小林英生 尹善弘 朝倉太郎 金子和夫
大腿骨頸部骨折に対して前方進入法による人工股関節全置換術は有効か?
第 40 回日本骨折治療学会,熊本,2014 年 6 月
- 176.本間康弘 馬場智規 越智宏徳 松本幹生 小林英生 湯浅崇仁 金子和夫
Dual Mobility Cup と Anterior Approach による THA 脱臼予防 一術後 6 ヶ月での臨床成績比較—
第 41 回日本股関節学会学術集会、東京、2014 年 10 月
- 177.本間康弘 馬場智規 小林英生 松本幹生 末原義之 湯浅崇仁 金子和夫
超高齢者の大腿骨頸部骨折に対する人工股関節全置換術脱臼予防は人工関節引き下がり防止がより重要である
第 44 回日本人工関節学会、宜野湾市 2 月
- 178.本間康弘 馬場智規 小林英生 松本幹生 末原義之 湯浅崇仁 金子和夫
Dual Mobility Cup による THA 術後脱臼予防：適応と限界
第 87 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2014 年 5 月
- 179.前澤克彦、成嶋靖博、一青勝雄、野沢雅彦、金子和夫
人工股関節全置換術術後の満足度と股関節周囲筋力との関連性。
日本股関節学会、東京、2014 年 10 月
- 180.前田浩行, 岩瀬秀明, 佐渡山泰永, 佐藤太一, 金子和夫
運動器不安定症患者に対する「またぎ動作」の動的動作解析
第 41 回日本臨床バイオメカニクス学会、奈良、2014 年 11 月
- 181.前田浩行, 大林治, 金子和夫, 佐藤太一, 丸山仁史, 前田睦浩
運動器不安定症患者における動的動作「またぎ動作」の解析
第 51 回日本リハビリテーション医学会学術集会、名古屋、2014 年 6 月
- 182.間宮好美、鳥越知明、原章、前澤克彦、丸山祐一郎、高木辰哉、末原義之、金子和夫
乳癌多発骨転移のゾレドロン酸長期使用後に生じた大腿骨非定型骨折に対し腫瘍用人工骨頭置換術を行った 2 例
関東整形災害外科学会月例会 第 6 7 4 回整形外科集団会、東京、2014 年 9 月
- 183.丸山祐一郎 大沢亜紀 金澤博明 金子和夫
"前十字靱帯二重束再建術での 3DCT による骨孔位置の検討 3 群間 (trans-tibial 法、anteromedial-portal 法、outside-in 法) の比較"
第 87 回日本整形外科学会学術総会 神戸 2014 年 5 月

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 184.丸山祐一郎 大沢亜紀 金澤博明 金子和夫
前十字靱帯二重束再建術での 3DCT による骨孔位置と臨床成績、3 群間 (trans-tibial 法、antero-medial 法、outside-in 法) の比較
第 6 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、広島、2014 年 7 月
- 185.室谷錬太郎、丸山祐一郎、金子和夫
"化膿性脊椎炎保存治療の工夫 - PTH 剤併用 MINO 療法による治療期間短縮 - "
日本脊椎脊髄病学会、京都、2014 年 4 月
- 186.最上敦彦, 大林治, 岩瀬秀明, 金子和夫
髄内釘の適応拡大への挑戦
第 87 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2014 年 5 月
- 187.最上敦彦, 大林治, 岩瀬秀明, 金子和夫, 二村謙太郎
遠位脛腓靱帯結合(syndesmosis)損傷に対する Tightrope fixation による脛腓間固定
第 40 回日本骨折治療学会, 熊本, 2014 年 6 月
- 188.最上敦彦, 大林治, 諸橋達, 神田章男, 岩瀬秀明, 金子和夫
大腿骨頸部骨折に対する骨接合術-その適応と限界-
第 41 回日本股関節学会学術集会, 東京, 2014 年 10 月
- 189.百村 励, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 嶋村 之利, 吉川 慶, 高野 弘充, 金子 和夫
頭部の角度と脊椎矢状面アライメントの関係
第 43 回日本脊椎脊髄病学会 京都、2014 年 4 月
- 190.百村 励、馬場智規、小酒井治、奥田貴俊、吉川慶、金子和夫
骨粗鬆症性椎体骨折に対する初期治療 ―経済的負担に注目して―
第 40 回日本骨折治療学会、熊本、2014 年 6 月
- 191.森川 大智, 糸魚川 善昭, 野尻 英俊, 佐野 博高, 井樋 栄二, 西條 芳文, 金子 和夫, 野沢 雅彦, 清水 孝彦
腱板付着部変性と酸化ストレスの関連性について 抗酸化剤を用いた検討.
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014 年 5 月
- 192.森川 大智, 糸魚川 善昭, 野尻 英俊, 佐野 博高, 井樋 栄二, 西條 芳文, 金子 和夫, 野沢 雅彦, 清水 孝彦
抗酸化酵素 Sod1 欠損マウスにおける棘上筋付着部変性の組織学的解析.
第 6 回日本関節鏡、膝、スポーツ整形外科学会 広島, 2014 年 7 月
- 193.守屋秀一, 早田匡芳, 白川純平, 納富拓也, 江面陽一, 山本雅, 金子和夫, 野田政樹
副甲状腺ホルモン(PTH)による骨量増加作用に対する新規内因性抑制分子 Tob の機能解析
日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014 年 10 月
- 194.守屋秀一, 早田匡芳, 平林恭子, 羽生亮, 納富拓也, 江面陽一, 金子和夫, 野田政樹
骨芽細胞における PTH シグナルと β 2-adrenergic receptor(β 2AR)との相互作用機構の解析
日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014 年 10 月
- 195.諸橋達, 岩瀬秀明, 佐藤太一, 神田章男, 大林治, 金子和夫
人工股関節全置換術におけるステム挿入時に発生する打ち込み音の解析
第 41 回日本臨床バイオメカニクス学会, 奈良, 2014 年 11 月
- 196.諸橋達, 最上敦彦, 神田章男, 大林治, 金子和夫
人工股関節再置換術後に生じた腸腰筋インピンジメントに対して腸腰筋切離を行った 1 例
第 41 回日本股関節学会学術集会, 東京, 2014 年 10 月
- 197.湯浅崇仁, 山川潤, 前澤克彦, 金子和夫
人工股関節全置換術における予防的抗菌薬投与量の検討

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 54 回関東整形災害外科学会、横浜、3 月

- 198.湯浅崇仁, 前澤克彦, 野沢雅彦, 金子和夫
パーキンソン病に合併した大腿骨近位部骨折患者の手術成績
第 87 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2014 年 5 月
 - 199.湯浅崇仁, 前澤克彦, 野沢雅彦, 有富健太郎, 金子和夫
寛骨臼回転骨切り術後に行った人工股関節全置換術の治療成績
第 41 回日本股関節学会学術集会、東京、2014 年 10 月
 - 200.湯浅崇仁, 前澤克彦, 有富健太郎, 馬場智規, 小林英生, 松本幹生, 本間康弘, 野沢雅彦, 金子
和夫
80 歳以上の高齢者に対するセメントレス人工股関節全置換術の臨床成績
第 44 回日本人工関節学会、宜野湾市、2014 年 2 月
 - 201.湯浅崇仁, 牧野祐司, 末原義之, 金子和夫
変形性股関節症の病期進行予測と病態解明を目的としたプロテオーム解析
日本股関節研究振興財団セミナー、東京、2014 年 11 月
 - 202.吉川慶, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 百村励, 嶋村之利, 高野弘充, 糸井陽, 金子和夫, 井野正剛, 清水
敬親
後頭骨-頸椎後方固定術における至適固定角度の検討～術中 X 線画像で何を指標にするのか
第 43 日本脊椎脊髄病学会、京都、2014 年 4 月
 - 203.吉川慶, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 百村励, 嶋村之利, 高野弘充, 糸井陽, 金子和夫, 井野正剛, 清
水敬親
後頭骨-頸椎後方固定術における至適固定角度の検討～術中 X 線画像で何を指標にするのか
第 23 脊椎インストゥルメンション学会、静岡、2014 年 8 月
 - 204.吉川慶, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 嶋村之利, 高野弘充, 佐藤達也, 金子和夫, 中原大志
成人期特発性側弯症における手術例の検討
第 48 回日本側弯症学会、盛岡、2014 年 10 月
 - 205.米澤郁穂, 奥田貴俊, 百村励, 嶋村之利, 高野弘充, 糸井陽, 金子和夫, 井野正剛, 清水敬親.
後頭骨-頸椎後方固定術における至適固定角度の検討 術中 X 線画像で何を指標にするのか.
第 43 回日本脊椎脊髄病学会 京都、2014 年 4 月
 - 206.米澤郁穂, 峰松和夫, 嶋村之利, 吉川慶, 奥田貴俊, 金子和夫
関節リウマチに対する頸椎手術の進歩 RA 後頭骨-胸椎固定術の生命予後と合併症の解析 (シ
ンポジウム)
第 42 回日本関節病学会 東京、2014 年 11 月
 - 207.和田知樹, 最上敦彦, 小畑宏介, 大林治, 金子和夫
鎖骨骨幹部骨折に対する VariAx clavicle plate の使用経験
第 40 回日本骨折治療学会、熊本、2014 年 6 月
- 【学会発表（国内）2015 年】
1. 杉原匡美, 柿木 亮, 村山 尚, 平山 哲, 森本 幸生, 呉林 なごみ, 三井田 孝
自発的運動は拡張型心筋症モデルマウスの心不全を遅延させる
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会、岐阜(11/19-11/22), 臨床病理 63 巻捕冊, p163, 2015
 2. 平山哲, 上野剛, 笹本健太, 長尾侑紀, 田村昌大, 平山安希子, 小野塚麻里, 杉原匡美, 三井田
孝
妊娠時の糖代謝指標に及ぼす貧血および甲状腺機能の影響
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会、岐阜(11/19-11/22), 臨床病理 63 巻捕冊, p183, 2015
 3. 上野剛, 平山哲, 田村昌大, 笹本健太, 長尾侑紀, 小野塚麻里, 杉原匡美, 西岡笑子, 牧野真太郎,
安部勝美, 竹田省, 三井田孝

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 妊娠時の血中 ALP アイソザイム (胎盤由来 ALP 4 型) 活性の変動
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜(11/19-11/22), 臨床病理 63 巻捕冊, p198, 2015
4. 杉田有里那, 杉原匡美, 平山哲, 下泰司, 伊藤誠悟, 大村寛敏, 河合祥雄, 代田浩之, 三井田孝
健康診断を契機に診断したマクロ CK 血症の一例
第 112 回日本内科学会総会・講演会, 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2015, 京都
(4/10-4/12), プログラム・抄録集, p123
 5. 渡部俊之, 横村 守, 石田恵梨, 佐藤耐喜, 河野正臣, 中川央充, 根間敏郎, 村野武義, 武城英明, 三井田 孝
トリグリセライド (TG) 測定法の違いにおける脂肪組織の関与について.
第 55 回日本臨床化学会年次学術集会, 吹田, 2015 年 9 月 6-8 日
 6. 横村 守, 石田恵梨, 渡部俊之, 河野正臣, 佐藤耐喜, 中川央充, 三浦ひとみ, 三井田 孝, 佐藤麻子
絶食時と食後のグリセロール消去法・非消去法の TG 値の比較検討.
第 55 回日本臨床化学会年次学術集会, 吹田, 2015 年 9 月 6-8 日
 7. 宮崎哲朗, 高橋秀平, 島田和典, 上野 剛, 加藤隆生, 須田翔子, 比企 優, 松森理枝, 葛西隆敏, 高木篤俊, 宮内克己, 三井田孝, 代田浩之
急性非代償性心不全患者における血中カルニチン濃度の臨床的意義.
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 2015 年 9 月 18-20 日
 8. 鈴木路可, 後藤広昌, 内田豊義, 池田富貴, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 三井田孝, 藤原典子, 川崎誠治, 綿田裕孝
薬剤過敏症候群に合併しリポ蛋白 X 上昇を伴った脂質異常症の 1 例.
第 88 回日本内分泌学会学術総会, 東京, 2015 年 4 月 23-25 日
 9. 田村昌大, 平山 哲, 上野 剛, 笹本健太, 長尾侑紀, 小野塚麻里, 杉原匡美, 川上智弘, 坂本大記, 廣瀬伸良, 三井田 孝
自発的運動は拡張型心筋症モデルマウスの心不全進行を遅延させる.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日
 10. 杉原匡美, 柿木 亮, 村山 尚, 平山 哲, 森本幸生, 呉林なごみ, 三井田 孝
妊娠時の糖代謝指標に及ぼす貧血および甲状腺機能の影響.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日
 11. 平山 哲, 上野 剛, 笹本健太, 長尾侑紀, 田村昌大, 平山安希子, 小野塚麻里, 杉原匡美, 西岡笑子, 牧野真太郎, 竹田 省, 三井田 孝
妊娠時の血中 ALP アイソザイム (胎盤由来 ALP4 型) 活性の変動.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日
 12. 上野 剛, 平山 哲, 田村昌大, 笹本健太, 長尾侑紀, 小野塚麻里, 杉原匡美, 西岡笑子, 牧野真太郎, 阿部勝美, 竹田 省, 三井田 孝
巨核球の増加と大型血小板を認めた Wiscott-Aldrich 症候群の 1 例.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日
 13. 藍 智彦, 出居真由美, 堀内裕紀, 佐藤尚武, 藤村純也, 東海林宏道, 池野 充, 清水俊明, 笹原洋二, 森尾友宏, 田部陽子, 三井田 孝
血清クレアチニンが著明な偽高値を呈した IgM-MGUS の 1 例.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日
 14. 出居真由美, 三宅一徳, 眞野 訓, 築根 豊, 脇田 満, 川上美由紀, 堀井 隆, 杉原匡美, 田部陽子, 富野康日己, 小松則夫, 大坂顯通, 三井田 孝
トリグリセライド (TG) 測定法の違いにおける検体保存安定性について.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日
 15. 河野正臣, 佐藤耐喜, 渡部俊之, 横村 守, 石田恵梨, 中川央充, 石橋みどり, 三井田 孝

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

急性非代償性心不全患者における血中アシルカルニチン/遊離カルニチン比の臨床的意義.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日

16. 高橋秀平, 宮崎哲朗, 島田和典, 上野 剛, 松森理枝, 葛西隆敏, 高木篤俊, 宮内克己, 三井田孝, 代田浩之
健康診断を契機に診断したマクロ CK 血症の一例
第 112 回日本内科学会総会・講演会, 京都, 2015 年 4 月 10-12 日
17. 船山崇, 田村好史, 竹野景海, 加賀英義, 笈佐織, 河盛隆造, 綿田裕孝
同一消費熱量運動実施下における運動強度差がインスリン抵抗性と異所性脂肪に及ぼす影響について
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.5.21-24(2015.5.23), 口演
18. 古川康彦, 田村好史, 竹野景海, 船山崇, 鈴木瑠璃子, 加賀英義, 渡邊隆宏, 染谷由希, 藤谷与士夫, 河盛隆造, 綿田裕孝
非肥満 2 型糖尿病患者における肝内脂肪蓄積及び肝逸脱酵素と臓器特異的インスリン感受性の関連性
第 2 回肝臓と糖尿病・代謝研究会(第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会と共催), 山口県, 2015.05.23, ワークショップ
19. 笈佐織, 田村好史, 池田真一, 河盛隆造, 綿田裕孝
24 時間の脚ギプス固定は、骨格筋細胞内のジアシルグリセロールを増加させ、インスリン抵抗性を惹起する
第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山県, 2015.09.18-20(2015.09.19), 口演
20. 船山崇, 田村好史, 竹野景海, 加賀英義, 笈佐織, 河盛隆造, 綿田裕孝
同一消費熱量運動における運動強度差がインスリン抵抗性と異所性脂肪に及ぼす効果
第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山県, 2015.09.18-20(2015.09.20), 口演
21. 佐藤淳子, 金澤昭雄, 牧田寿美子, 小宮幸次, 清水友章, 池田富貴, 田村好史, 荻原健, 三田智也, 後藤広昌, 内田豊義, 宮塚健, 竹野景海, 島田聡, 大村千恵, 山本理紗子, 渡邊威仁, 小林喜代恵, 三浦佳子, 岩岡愛美, 飯島香織, 平嶋奈緒, 波多江千恵, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
2 型糖尿病患者における糖質制限食の有効性と安全性
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.5.21-24(2015.5.22), 口演
22. 河野結衣, 池田富貴, 小宮幸次, 内田豊義, 田村好史, 清水友章, 金澤昭雄, 大村千恵, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
当院における 1 型糖尿病合併妊娠の臨床的検討
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.05.21-24(2015.05.23), ポスター
23. 片平雄大, 氷室美和, 金井数明, 児玉悠紀, 内田豊義, 金澤昭雄, 服部信孝, 綿田裕孝
糖尿病性舞踏病を合併したケトン性高血糖症の 1 例
第 52 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県, 2015.01.24, 口演
24. 廣川侑香, 谷本眞澄, 内田豊義, 池田富貴, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
高齢者の後期ダンピング症候群に対してジアゾキサイドが有効であった一例
第 52 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県, 2015.01.24, 口演
25. 河野結衣, 内田豊義, 清水史孝, 朝比奈未紀, 西本紘嗣郎, 向井邦晃, 福村由紀, 辻村晃, 八尾隆史, 堀江重郎, 綿田裕孝
原発性アルドステロン症及びサブクリニカルクッシング症候群を呈する副腎皮質癌の 1 例
第 88 回日本内分泌学会学術総会, 東京都, 2015.4.23-25(2015.4.25), 口演
26. 氷室美和, 土井多香乃, 内田豊義, 後藤広昌, 小宮幸次, 竹野景海, 佐藤淳子, 本田彬, 河野結衣, 鈴木瑠璃子, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
穿刺吸引細胞診後に甲状腺超音波所見が変化した症例の検討
第 88 回日本内分泌学会学術総会, 東京都, 2015.4.23-25(2015.4.25), ポスター

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

27. 中寺奈弓, 金澤昭雄, 佐藤文彦, 齊藤大祐, 佐藤淳子, 内田豊義, 宮塚健, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
 Basal supported Oral Therapy で血糖コントロール不十分な2型糖尿病患者に対する DPP-4 阻害薬追加投与の効果と安全性の検討
 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.5.21-24,(2015.5.22), ポスター
28. 早稲田直子, 佐藤淳子, 児玉悠紀, 持田曜弘, 長澤肇, 木原実穂, 後藤広昌, 金澤昭雄, 綿田裕孝
 乳癌の下垂体転移による汎下垂体機能低下症と考えられ、ホルモン補充療法を行った1例
 第618回日本内科学会関東地方会, 東京都, 2015.10.10, 口演
29. 鈴木瑠璃子, 内田豊義, 小野瀬裕之, 石井新哉, 土井多香乃, 後藤広昌, 小宮幸次, 竹野景海, 山田恵美子, 山田哲, 綿田裕孝
 甲状腺中毒症の鑑別診断に用いる甲状腺 99mTcO₄-摂取率の閾値と摂取率を規定する因子の検討
 第88回日本内分泌学会学術総会, 東京都, 2015.04.23-25(2015.04.24), 口演
30. 常見亜佐子, 金澤昭雄, 羽田恵, 綿田裕孝
 Basal-Bolus 療法施行中の2型糖尿病におけるグラルギンからデグルデクへの切り替えの検討
 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.05.21-24(2015.05.21), ポスター
31. 原朱美, 藤谷与士夫, 荻原健, 宮塚健, 綿田裕孝
 ヒト型 IAPP は膵島移植の成功率を低下させる
 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.05.21-24(2015.05.22), 口演
32. 鶴澤博嗣, 鈴木路可, 後藤広昌, 内田豊義, 池田富貴, 金澤昭雄, 塩澤真司, 野間康夫, 藤谷与士夫, 堀江重郎, 綿田裕孝
 抗アンドロゲン薬と Denosumab 併用後に生じた飢餓骨症候群の一例
 第25回臨床内分泌代謝 Update, 東京都, 2015.11.27-28(2015.11.28), ポスター
33. 西尾理恵, 綿田裕孝, 金澤昭雄, 内田豊義, 伊藤千春, 川崎誠治, 今村宏, 加藤俊介, 八尾隆史, 福村由紀
 mTOR 阻害薬での治療を試みた膵原発インスリンノーマ肝転移の一例
 第25回臨床内分泌代謝 Update, 東京都, 2015.11.27-28(2015.11.27), ポスター
34. 廣川侑香, 鈴木瑠璃子, 谷本眞澄, 伊藤千春, 後藤広昌, 内田豊義, 池田富貴, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
 原発不明のレニン産生腫瘍と考えレニン阻害薬投与を試みた一例
 第25回臨床内分泌代謝 Update, 東京都, 2015.11.27-28(2015.11.28), ポスター
35. 岩下紋子, 小宮幸次, 内田豊義, 鈴木路可, 佐藤元律, 菅野玲, 野澤和久, 仲野総一郎, 築根豊, 小松則夫, 高崎芳成, 綿田裕孝
 診断に苦慮した自己免疫性関節炎合併の高カルシウム血症の一例
 第25回臨床内分泌代謝 Update, 東京都, 2015.11.27-28(2015.11.28), 口演
36. 内田豊義, 綿田裕孝
 バセドウ病に対する無機ヨウ素治療
 第25回臨床内分泌代謝 Update, 東京都, 2015.11.27-28(2015.11.27), 口演
37. 本田彬, 内田豊義, 後藤広昌, 小宮幸次, 竹野景海, 佐藤淳子, 河野結衣, 鈴木瑠璃子, 氷室美和, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
 抗甲状腺剤の代替治療で用いる無機ヨード治療の効果と限界に関する検討
 第88回日本内分泌学会学術総会, 東京都, 2015.4.23-25(2015.4.23), ポスター
38. 鈴木路可, 後藤広昌, 内田豊義, 池田富貴, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 三井田孝, 藤原典子, 川崎誠治, 綿田裕孝
 薬剤過敏症候群に合併しリポ蛋白 X 上昇を伴った脂質異常症の1例
 第25回臨床内分泌代謝, 東京都, 2015.11.27-28(2015.11.28), 口演

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

39. 綿田裕孝
アジア人 2 型糖尿病患者に対するインスリン導入療法としてのインスリンリスプロ混合製剤 25 と 50 の比較
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.5.21-24(2015.5.23), 口演
40. 綿田裕孝
経口血糖降下薬の分類と適応
第 52 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県, 2015.01.24, シンポジウム
41. 綿田裕孝
臨床応用を見据えた膵 β 細胞再生研究アップ
第 49 回日本糖尿病学の進歩, 岡山県, 2015.02.20-21(2015.02.20), シンポジウム
42. 福中彩子, 藤谷与士夫, 深田俊幸, 梶村真吾, 綿田裕孝
エーラス・ダンロス症候群原因遺伝子 Zip13 を介した脂肪細胞の褐色化制御機構
第 29 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会, 京都府, 2015.02.13-14(2015.02.14), シンポジウム
43. 原朱美, 藤谷与士夫, 荻原健, 宮塚健, 綿田裕孝
ヒト型 IAPP は膵島移植の成功率を低下させる
第 88 回日本内分泌学会学術集会, 東京都, 2015.4.23-25(2015.4.23), 若手研究奨励賞 (YIA) 審査講演
44. 綿田裕孝
糖尿病治療をめぐる最近の話題
第 25 回臨床内分泌代謝 Update, 東京都, 2015.11.27-28(2015.11.28), モーニングセミナー
45. 澤田亨, 丸藤祐子, 川上諒子, 田村好史, 津田瞳美, 齋藤光, 宮地元彦
日本人女性における複合運動の実施頻度と糖尿病罹患: 症例対照研究
第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山県, 2015.09.18-20(2015.09.20), 口演
46. 田村好史
健康寿命延伸とスポーツロジック
第 13 回日本フットケア学会年次学術集会, 東京都, 2015.02.14-15(2015.02.14), 口演
47. 田村好史
糖尿病運動療法の指針
第 49 回日本糖尿病学の進歩, 岡山県, 2015.02.20-21(2015.02.20), レクチャー
48. 田村好史
非肥満者の代謝障害発生メカニズム～細胞内肥満から考える新規アプローチ～
第 163 回日本体力医学会関東地方会, 東京都, 2015.02.28, トピックス講演(講演+質疑)
49. 田村好史
チアゾリジン誘導体と異所性脂肪
第 36 回日本肥満学会, 愛知県, 2015.10.2-3(2015.10.2), シンポジウム
50. 田村好史, 笥佐織, 竹野景海, 船山崇
インスリン抵抗性に関わる生活習慣・退室と異所性脂肪
第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山県, 2015.09.18-20(2015.09.20), シンポジウム
51. 田村好史, 笥佐織, 竹野景海, 船山崇, 染谷由希
糖尿病における運動療法の強度の意義と臨床的適応
第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山県, 2015.09.18-20(2015.09.18), シンポジウム
52. 田村好史
内臓脂肪と異所性脂肪 “脂肪筋” から考える運動の役割

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 17 回脂質栄養シンポジウム～内臓脂肪をためない生活習慣～，東京都，2015.02.21，シンポジウム

53. 田村好史

健康寿命延伸に対する運動と骨格筋代謝の役割

第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会，山口県，2015.5.21-24(2015.5.22)，シンポジウム

54. 筧 佐織、田村 好史、池田 真一、加賀 直子、河盛 隆造、綿田 裕孝

高脂肪・不活動による骨格筋インスリン抵抗性惹起メカニズム

分子糖尿病学シンポジウム 平成 27 年 12 月 5 日 東京

55. 入江隆介、鶴田航平、堀正明、鈴木通真、鎌形康司、吉田茉莉子、中西淳、神谷昂平、中島円、宮嶋雅一、青木茂樹

Neurite orientation dispersion and density imaging を用いた特発性正常圧水頭症の皮質脊髄路の評価

第 44 回日本神経放射線学会：2015 年 3 月 6 日～7 日：名古屋

56. 鎌形 康司、榊原 隆次、中塚 智也、堀 正明、鈴木 通真、岸 雅彦、露崎 洋平、館野冬樹、青木 茂樹、寺田 一志

磁化率強調像による Lewy 小体病におけるニグロソームの評価：ドパミントランスポーター SPECT との比較

第 44 回日本神経放射線学会：2015 年 3 月 6 日～7 日：名古屋

57. 鎌形 康司、ケレベール オーレリアン、横沢 俊、大竹 陽介、吉田 茉莉子、鈴木 通真、堀 正明、越智 久晃、青木 茂樹、平澤 恵理

透明脳化技術と MRI による微細構造の対比：自閉症マウスと正常マウスにおける初期検討

第 44 回日本神経放射線学会：2015 年 3 月 6 日～7 日：名古屋

58. 鈴木通真、入江隆介、高野直、鎌形康司、堀正明、吉田茉莉子、濱崎望、佐藤秀二、山本宗孝、大石英則、青木茂樹、

サイレント MRA の基礎的検討と臨床応用

第 44 回日本神経放射線学会：2015 年 3 月 6 日～7 日：名古屋

59. 堀正明、野尻龍二、村田勝俊、鎌形康司、石亀慶一、吉田茉莉子、青木茂樹

頸髄の neurite orientation dispersion and density imaging : motion probing gradient 数に関する検討

第 44 回日本神経放射線学会：2015 年 3 月 6 日～7 日：名古屋

60. 吉田茉莉子、横山和正，錦織瞭，堀正明，鎌形康司，鈴木通真，神谷昂平，下地啓五，京極伸介，青木茂樹，服部信孝

多発性硬化症における潜在性の脳微細構造の変化～NODDI を利用した全脳解析～

2015 年 3 月 6 日～7 日：名古屋

61. 神谷昂平、雨宮史織、鈴木雄一、國井尚人、川合謙介、森壘、國松聡、斉藤延人、青木茂樹、大友邦。

DTI-connectome のグラフ理論解析と機械学習の組み合わせによる、側頭葉てんかん焦点側の識別

第 44 回日本神経放射線学会：2015 年 3 月 6 日～7 日：名古屋

62. 鎌形康司、波田野琢、鶴田航平、奥住文美、堀正明、鈴木通真、下地啓五、濱崎望、佐藤秀二、上田亮、服部信孝、青木茂樹

拡散テンソル構造的ネットワーク解析を用いたパーキンソン病における脳内ネットワーク変容の解明

第 43 回日本磁気共鳴医学会大会：2015 年 9 月 10 日～12 日：東京

63. 隈丸加奈子, Bedayat A, Bhivasankar R, Cai T, George E, Imanzadeh A, Hussain Z, Dunne R, Hunsaker AR, Rybicki FJ

肺塞栓 CT レポート内の診断の曖昧さと患者アウトカムの関連解析

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 74 回 日本医学放射線学会総会：2015 年 4 月 16 日～19 日：横浜

64. 隈丸加奈子, Cai T, Mitsouras D, Imanzadeh A, George E, Schultz K, Grant GT, Liacouras PC, Steigner M, Bueno E, Pomahac B, Rybicki FJ
顔面骨 CT の 3D プリンティングにおける被ばく低減と逐次近似法の検討
第 74 回 日本医学放射線学会総会：2015 年 4 月 16 日～19 日：横浜
65. 隈丸加奈子, Hiraku Kumamaru, Brian T. Bateman, Jun Liu, Laurence D. Higgins, Frank J. Rybicki, Elisabetta Patorn
米国大規模入院データベースを用いた股／膝関節置換術後の肺塞栓 CT 利用のばらつきの解析
第 74 回 日本医学放射線学会総会：2015 年 4 月 16 日～19 日：横浜
66. 隈丸加奈子, Saboo S, Cai T, Gonzalez-Quesada C, George E, Hussain Z, Dunne R, Bedayat A, Aghayev A, Wake N, Imanzadeh A, Bhivasankar R, Hunsaker AR, Rybicki FJ
包括的 CT 所見に基づいたスコアリングによる肺塞栓後の死亡予測
第 74 回 日本医学放射線学会総会：2015 年 4 月 16 日～19 日：横浜
67. 中西淳、玉本文彦、朝日公一、松波環、柘植大輔、桑鶴良平、青木茂樹
甲状腺・副甲状腺疾患の機能・形態画像診断
第 74 回日本医学放射線学会学術集会：2015 年 4 月 16 日～19 日：横浜
68. 川崎英生、熊谷文孝、濱崎望、佐藤秀二、堀正明、青木茂樹
Synthetic MRI 及び従来法での T1 値、T2 値の比較検討
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会：2015 年 9 月 10 日～12 日：東京。
69. 熊谷文孝、鎌形康司、奥住文美、波田野琢、佐藤秀二、濱崎望、川崎英生、鶴田航平、堀正明、服部信孝、青木茂樹
fMRI を用いたパーキンソン病患者における両側協調運動時の脳機能活動の変化
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会：2015 年 9 月 10～12 日：東京
70. 佐藤秀二、高野直、川崎英生、濱崎望、熊谷文孝、鈴木通真、芳士戸治義、堀正明、青木茂樹
静音型 MR angiography における狭窄血管ファントムの描出検討
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会：2015 年 9 月 10 日～12 日：東京
71. 高野直、鈴木通真、佐藤秀二、濱崎望、川崎英生、芳士戸治義、山本宗孝、堀正明、大石英則、青木茂樹
Silent MRA における 2 種類の頭蓋内ステントの信号強度比の変化
Advanced CT・MR：2015 年 6 月 6～7 日：軽井沢
72. 高野直、鈴木通真、佐藤秀二、濱崎望、川崎英生、芳士戸治義、山本宗孝、堀正明、大石英則、青木茂樹
Silent MRA における 2 種類の頭蓋内ステントの描出能の検討
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会：2015 年 9 月 10～12 日：東京
73. 高野直、鈴木通真、山本宗孝、堀正明、大石英則、青木茂樹
Silent MRA におけるセルデザインの異なる頭蓋内ステントの描出能の検討
第 31 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会：2015 年 11 月 19～21 日：岡山
74. 濱崎望、堀正明、佐藤秀二、川崎英生、高野直、鈴木由里子、芳士戸治義、青木茂樹
Reference scan が Multi band に及ぼす影響^[1]_{sep}
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会：2015 年 9 月 10 日～12 日：東京
75. 福永一星、堀正明、増谷佳孝、濱崎望、佐藤秀二、熊谷文孝、鶴田航平、鎌形康司、鈴木由里子、伊藤憲之、小美野高志、堂領和彦、芳士戸治義、青木茂樹
拡散時間が Diffusional kurtosis imaging (DKI) の定量値に与える影響
日本磁気共鳴医学会大会：2015 年 9 月 10～12 日：東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

76. Ryusuke Irie, Michimasa Suzuki, Munetaka Yamamoto, Nao Takano, Yasuo Suga, Masaaki Hori, Koji Kamagata, Mariko Yoshida, Hidenori Oishi, Shigeki Aoki
Magnetic resonance angiography using silent scan after stent-assisted coil embolization for posterior circulation aneurysms
第74回日本医学放射線学会総会：2015年4月16日～19日：横浜.
77. 上田亮、鶴田航平、堀正明、錦織瞭、鎌形康司、神谷昂平、下地啓五、吉田茉莉子、萩原彰文、熊谷文孝、中澤美咲、村田渉、青木茂樹、妹尾淳史
パーキンソン病患者と健常者の拡散テンソルを用いた connectome の比較
Advanced CT・MR 2015：2015年6月6日：軽井沢
78. 神谷昂平、鈴木雄一、田中将太、武笠晃丈、堀正明、森壘、國松聡、青木茂樹、大友邦
腫瘍周囲の T2WI 高信号域における、DKI・NODDI 定量値の初期検討：腫瘍浸潤 vs 血管原性浮腫
第74回日本医学放射線学会総会：2015年4月16日～19日：横浜
79. 高橋(安達)木綿子、池野充、萩原彰文、青木茂樹
Sensenbrenner 症候群の1例
小児神経放射線研究会：2015年11月14日：東京
80. 鶴田航平、鎌形康司、本井ゆみ子、堀正明、鈴木通真、下地啓五、上田亮、中澤美咲、村田渉、佐藤秀二、濱崎望、熊谷文孝、服部信孝、青木茂樹、妹尾淳史
グラフ理論を用いたネットワーク解析による Alzheimer's Disease と Dementia with Lewy Bodies の評価
第43回日本磁気共鳴医学会大会：2015年9月10～12日：東京
81. 鶴田航平、立花泰彦、神谷昂平、入江隆介、鎌形康司、堀正明、鈴木通真、中西淳、佐藤秀二、濱崎望、服部信孝、青木茂樹、妹尾淳史
異方性を考慮した拡散尖度画像を推定する手法(eDKI)の臨床応用に関する検討
第43回日本磁気共鳴医学会大会：2015年9月10～12日：東京
82. 中澤美咲、鶴田航平、堀正明、萩原彰文、高野直、熊谷文孝、濱崎望、佐藤秀二、川崎英生、鎌形康司、吉田茉莉子、村田渉、上田亮、青木茂樹、妹尾淳史
Synthetic MR の使用経験
Advanced CT・MR 2015：2015年6月6日：軽井沢
83. 中澤美咲、萩原彰文、クリスティナアンディカ、堀正明、鶴田航平、高野直、熊谷文孝、濱崎望、佐藤秀二、川崎英生、鎌形康司、吉田茉莉子、村田渉、上田亮、青木茂樹、妹尾淳史
Synthetic MR の使用経験
日本磁気共鳴医学会大会：2015年9月10～12日：東京
84. 村田渉、鎌形康司、波田野琢、奥住文美、堀正明、鈴木通真、下地啓五、濱崎望、佐藤秀二、鶴田航平、中澤美咲、上田亮、服部信孝、青木茂樹、妹尾淳史
NODDI を用いたパーキンソン病における基底核変性の評価：ドパミントランスポーター SPECT との関連
第43回日本磁気共鳴医学会大会：2015年9月10～12日：東京
85. 石川 景一、斉木 臣二、古屋 徳彦、山田 大介、今道 洋子、李 元哲、河尻 澄宏、小池 正人、坪井 義夫、服部 信孝.
p150glued-Associated Disorders Are Caused by Intrinsic Apoptotic Pathway、[Pe-039] ポスター(英語)運動ニューロン疾患病態 分子病態 C、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市
86. 伊澤 奈々、羽鳥 浩三、服部 信孝、長岡 正範.
パーキンソン病の主要症候に対する MDS-UPDRS 評価と Barthel index の関連性の臨床的検討、[P-101] ポスター(日本語)パーキンソン病臨床 気分障害・リハビリテーション、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

87. 石黒 雄太、金井 数明、上野 真一、服部 信孝.
本邦の多系統萎縮症におけるパーキンソニズムと DAT スキャンの左右差について検討、変性疾患 [P-019] ポスター(日本語) 多系統萎縮症 パーキンソニズム、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
88. 井下 強、穂坂 有加、今居 譲、服部 信孝.
Parkinson's disease-associated proteins Vps35 regulate synaptic release、[Pe-057] ポスター(英語)パーキンソン病病態 トラフィッキング、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
89. 上野 真一、金井 数明、石黒 雄太、服部 信孝.
DAT スキャンと頭部 MRI による多系統萎縮症に対する臨床的検討、変性疾患 [P-020] ポスター(日本語)多系統萎縮症 画像、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
90. 江口 博人、今泉 美佳、舩山 学、波田野 琢、斉木 臣二、佐藤 栄人、久保 紳一郎、今居 譲、町田 裕、三輪 英人、永松 信哉、服部 信孝.
Functions of Parkin gene to maintain pancreatic beta cell 、[Pe-056] ポスター(英語)パーキンソン病病態 Parkin など、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
91. 王子 悠、波田野 琢、森 聡生、久保 紳一郎、服部 信孝.
Inhibition of glucocerebrosidase enzyme activity may affect dopamine release、[Pe-056] ポスター(英語) パーキンソン病病態 Parkin など、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
92. 大垣 光太郎、青木 直哉、古賀 俊輔、Lin, Wen-lang、鈴木 衣子、Ross, Owen、服部 信孝、Dickson, Dennis.
Adult-onset cerebello-brainstem dominant form of ALD; a case report and review、変性疾患 [Pe-004] ポスター(英語)小脳失調症 遺伝性、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
93. 小川 崇、西岡 健弥、須田 晃充、林 徹生、森 聡生、中根 俊成、樋口 理、松尾 秀徳、田中 亮太、横山 和正、卜部 貴夫、服部 信孝.
Clinical heterogeneity of autoimmune autonomic ganglionopathy、[P-181] ポスター(日本語)末梢神経障害 感覚・自律神経、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
94. 奥住 文美、波田野 琢、斉木 臣二、舩山 学、服部 信孝.
Serum metabolomics revealed several metabolic markers of Parkinson's disease、[Pe-056] ポスター(英語)パーキンソン病病態 Parkin など、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
95. 金井 数明、李 元哲、中谷 光良、中里 朋子、坪井 智子、松島 隆史、三笠 道太、舩山 学、吉野 浩代、久保 紳一郎、西岡 健弥、服部 信孝.
家族性パーキンソン病における異染性白質ジストロフィー責任遺伝子の寄与の検討、[P-062] ポスター(日本語) パーキンソン病診断 生化学、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
96. 狩野充芳、高梨雅史、頼高朝子、森秀生、服部信孝.
Parkin mutation 症例の変性部位におけるアストロサイトの検討、
第 56 回日本神経病理学会、九州大学医学部百年講堂、2015 年 6 月 4 日、福岡市
97. 栗田 尚英、田中 亮太、山城 一雄、上野 祐司、島田 佳明、黒木 卓馬、平 健一郎、卜部 貴夫、服部 信孝.
発症前糖尿病治療と脳梗塞急性期の予後について、脳卒中 [P-004] ポスター(日本語)脳血管障害 マーカー-2、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

98. 小林 愛美、波田野 琢、中島 明日香、城 崇之、奥住 文美、下 泰司、服部 信孝.
パーキンソン病の自然史、[P-161] ポスター(日本語)パーキンソン病臨床 疫学など、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
99. 島田 佳明、田中 亮太、志村 秀樹、山城 一雄、ト部 貴夫、服部 信孝.
Phosphorylated recombinant HSP27 protects brain of BBB disruptions animal models、脳
卒中 [Pe-020] ポスター(英語)脳血管障害病態 B、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
100. 志村 秀樹、林 明人、相場 彩子、宮元 伸和、渡邊 雅男、服部 信孝、ト部 貴夫.
Effect of rotigotine on 32 patients with Parkinson's disease for 24 weeks、[O-01] 口演
Clinical practice issues relevant to Parkinson's disease and related disorders、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
101. 下 泰司、中島 明日香、城 崇之、大山 彦光、梅村 淳、服部 信孝.
DAT SPECT の SBR 値はパーキンソン病患者におけるレボドパ反応性の指標となり得る、パ
ーキンソン病 [P-011] ポスター(日本語)パーキンソン病診断 DAT-SCAN1、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
102. 城 崇之、大山 彦光、吉見 健二、佐藤 栄人、ドーソン テッド、中島 明日香、梅村 淳、下 泰
司、服部 信孝.
Optogenetic dopaminergic stimulation in mice、[Pe-034] ポスター(英語) 神経科学 動物 B、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
103. 須田 晃充、中山 茶千子、佐々木 芙悠子、森 聡生、中島 明日香、田中 亮太、久保 紳一郎、
本井 ゆみ子、服部 信孝.
アルツハイマー病患者におけるガランタミンの効果と、有効症例の特徴の検討、認知症
[P-100] ポスター(日本語)アルツハイマー病 治療 2、第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、
2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
104. 谷口 大祐、高梨 雅史、森 秀生、服部 信孝.
MSA-P 剖検例における Glial cytoplasmic inclusions の検討、変性疾患 [P-019] ポスター(日
本語)多系統萎縮症 パーキンソニズム、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
105. 中里 朋子、金井 数明、藤巻 基紀、大山 彦光、下 泰司、服部 信孝.
持続性 Na⁺電流は筋萎縮性側索硬化症の予後に関与する：発症から診断までの期間の検討、
[P-166] ポスター(日本語) ALS 電気生理、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
106. 中島 明日香、下 泰司、宇賀 貴紀、服部 信孝.
Different effects of STN and GPi stimulation to primate striatal interneuron、神経生理
[AP-01] 2015 年ポスター部門トピックス 基礎部門、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
107. 中島 翔、田中 亮太、山城 一雄、栗田 尚英、島田 佳明、黒木 卓馬、上野 祐司、服部 信孝.
心房細動合併脳梗塞/TIA 患者における NOAC 登場前後の発症前抗血栓薬の服用状況の推移、
[P-053] ポスター(日本語) 脳血管障害 抗凝固療法 2、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
108. 中村 亮太、中山 茶千子、本井 ゆみ子、服部 信孝.
ドパミントランスポーターシンチグラフィを用いた原発性進行性失語症の臨床解析、[P-153]
ポスター(日本語)認知症 臨床 3、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 109.西岡 健弥、吉野 浩代、李 元哲、松島 隆史、舩山 学、服部 信孝.
The comprehensive study of genetics of Parkinson's disease、変性疾患、[O-13] 口演 神経遺伝学、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市
- 110.波田野 琢、鎌形 康司、奥住 文美、堀 正明、武田 篤、青木 茂樹、服部 信孝.
Hyposmia might be linked to inferior temporal thickness in Parkinson's disease、[O-43] 口演 Non-motor symptoms and biomarkers in patients with parkinsonism、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市
- 111.林田 有紗、中山 茶千子、高梨 雅史、本井 ゆみ子、服部 信孝.
アルツハイマー病理をもつ皮質基底核症候群と診断された 2 症例の脳血流分布と神経病理、
[P-153] ポスター(日本語)認知症 臨床 3、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市
- 112.林田有紗、中山茶千子、高梨雅史、本井ゆみ子、服部信孝.
剖検によりアルツハイマー病理をもつ皮質基底核症候群と診断された 2 症例 (ポスター)、
第56回日本神経病理学会、九州大学医学部百年講堂、2015年6月4日、福岡市
- 113.林 徹生、中山 茶千子、本井 ゆみ子、服部 信孝.
運動障害が目立たない Possible DLB のドパミントランスポーターシンチを用いた臨床解析、
認知症 [P-010] ポスター(日本語)認知症診断 画像、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市
- 114.平澤 恵理、寧 亮、古屋 徳彦、野中 里紗、服部 信孝.
Schwartz-Jampel 症候群の原因遺伝子、パールカンの筋オートファジーへの関与、[P-126] ポスター(日本語) 筋疾患 病態 2、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市
- 115.平 健一郎、上野 祐司、田中 亮太、黒木 卓馬、島田 佳明、山城 一雄、卜部 貴夫、服部 信孝.
The expression of axonal growth inhibitors in the peri-infarct area in rat brain、変性疾患 [Pe-017] ポスター(英語)神経遺伝学・再生・治療、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市
- 116.平野 一興、石川 景一、斉木 臣二、服部 信孝.
The autophagy-related chemical screening using a GFP-LC3 HeLa stable cell line、[Pe-060] ポスター(英語)パーキンソン病病態 その他 B、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市
- 117.深江 治郎、柳本 祥三郎、藤岡 伸助、波田野 琢、森 聡生、濃沼 崇博、福原 康介、服部 信孝、坪井 義夫.
多系統萎縮症の進行度と尿酸値の関連性の検討(続報)、変性疾患 [P-018] ポスター(日本語)多系統萎縮症 サロゲートマーカー、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市
- 118.福嶋 佳保里、荒野 拓、松本 弦、井下 強、吉田 繁、石濱 泰、貫名 信行、服部 信孝.
リン酸化 63K ポリユビキチン鎖は Parkin をミトコンドリアに局在化させる、[O-51] 口演 miscellaneous 2、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市
- 119.藤巻 基紀、金井 数明、中里 朋子、横山 和正、服部 信孝.
多発性硬化症における神経伝導速度検査と軸索興奮特性検査による末梢神経病変の検討、自己免疫疾患 [P-075] ポスター(日本語)多発性硬化症 臨床、
第56回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015年5月20日～23日、新潟市
- 120.舩山 学、服部 信孝.
Analysis of NDUFV2 on a mouse model for Parkinson's disease、[Pe-059] ポスター(英語)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

パーキンソン病病態 その他 A、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

- 121.穂坂 有加、今居 譲、服部 信孝.
Circadian rhythm analysis in a Drosophila model of Parkinson's syndrome、[Pe-056] ポスター(英語) パーキンソン病病態 Parkin など、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 122.星野 泰延、山城 一雄、田中 亮太、波田野 琢、西岡 健弥、服部 信孝.
Cerebral microbleeds in patients with Parkinson's disease、パーキンソン病 [O-33] 口演
Parkinsonism: pathophysiology、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 123.本多 あん奴、石垣 泰則、森川 奈美、中島 明日香、王子 悠、黒木 卓馬、佐藤 栄人、狩野 允芳、服部 信孝.
在宅看取りをされた神経疾患患者の認知機能について、認知症 [P-100] ポスター(日本語)アルツハイマー病 治療 2、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 124.松島 隆史、西岡 健弥、山城 一雄、李 元哲、島田 佳明、吉野 浩代、舩山 学、田中 亮太、本井 ゆみ子、服部 信孝.
Cliniogenetic study of CADASIL pedigrees with notch3 mutation、変性疾患 [Pe-018] ポスター(英語)神経遺伝学 臨床研究 B 白質脳症、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 125.真鍋 彩、西岡 健弥、李 元哲、吉野 浩代、舩山 学、松島 隆史、上野 真一、栗田 尚英、上野 祐司、本井 ゆみ子、服部 信孝.
The analyze of three pedigrees with MAPT N279K mutation accompanying DAT-scan、変性疾患 [AP-02] 2015 年ポスター部門トビックス 臨床部門、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 126.三笠 道太、金井 数明、李 元哲、西岡 健弥、舩山 学、富山 弘幸、服部 信孝.
家族性パーキンソン病における COQ2 変異解析、変性疾患 [P-019] ポスター(日本語)多系統萎縮症 パーキンソニズム、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 127.宮元 伸和、眞木 崇州、早川 和秀、田中 亮太、服部信孝、ロー エング、荒井 健、卜部 貴夫.
Edaravone protects hypoperfused cerebral white matter through oligodendrogenesis、脳卒中 [Pe-020] ポスター(英語)脳血管障害病態 B、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 128.三輪 英人、江口 博人、町田 裕、服部 信孝.
ドパミンアゴニスト離脱症候群 (DAWS) の臨床的検討、[O-46] 口演パーキンソン病: 臨床徴候、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 129.本井 ゆみ子、エラヒ モンタシル、ハッサン ザフラル、松本 信英、服部 信孝.
Neuroinflammation Associated with the Regional Difference of Tau Phosphorylation、[Pe-028] ポスター(英語)認知症病態 FTLT-tau、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 130.本井ゆみ子、エラヒ モンタシル、ハッサン ザフラル、松本英信、石黒幸一、服部信孝.
実験的糖尿病タウオパチーモデルにおける炎症性変化の脳部位別解析、
第 56 回日本神経病理学会、九州大学医学部百年講堂、2015 年 6 月 4 日、福岡市
- 131.森 聡生、王子 悠、奥住 文美、波田野 琢、今居 譲、久保 紳一郎、服部 信孝.
Parkinson's disease-associated mutations of PLA2G6 alters the membrane dynamics、

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

[Pe-057] ポスター(英語)パーキンソン病病態 トラフィッキング、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

- 132.山城 一雄、田中 亮太、上野 祐司、卜部 貴夫、山城 雄一郎、野本 康二、高橋 琢也、辻 浩和、朝原 崇、服部 信孝.
Gut microbiota in patients with ischemic stroke、[O-19] 口演 虚血性脳卒中の基礎と臨床、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 133.山田 大介、斉木 臣二、古屋 徳彦、石川 景一、今道 洋子、神戸 大朋、藤村 務、上野 隆、小池 正人、服部 信孝.
The role of lysosomal Zinc transporter on Ethambutol-induced optic neuropathy、[Pe-075] ポスター(英語) 代謝性疾患 後天性、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 134.吉野 浩代、西岡 健弥、大山 彦光、李 元哲、松島 隆史、竹内 千仙、望月 葉子、森 まどか、村田 美穂、山下 力、中村 憲道、小西 洋平、大井 和起、市川 桂二、寺田 達弘、小尾 智一、舩山 学、斉木 臣二、服部 信孝.
Clinicogenetic study of beta-propeller protein-associated neurodegeneration、変性疾患 [O-13] 口演 神経遺伝学、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 135.頼高 朝子、河尻 澄宏、安藤 真矢、中原 登志樹、山本 順寛、齋藤 由扶子、服部 信孝.
Randomized, controlled trial of reduced coenzyme Q10 for Parkinson's disease、[P-063] ポスター(日本語)パーキンソン病治療 イストラデフィリンなど、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
- 136.佐藤栄人、服部信孝.
オートファジー欠損マウスにおける封入体形成機構の解明、ポスター、文科省科研費補助金「新学術領域研究」 脳内環境：恒常性維持機構とその破綻、
平成 27 年度夏のワークショップ、軽井沢プリンスホテルウエスト、2015 年 9 月 25 日、軽井沢
- 137.代田 浩之、横山 美帆、島田 和典.
冠動脈疾患における心臓リハビリテーションの有用性.
日本医学会総会会誌 29 回学術講演要旨 Page92(2015.04)
- 138.Sai E, Shimada K, Yokoyama T, Hiki M, Miyazak T, Fujimoto S, Daida H.
Myocardial triglyceride content in patients with hypertensive heart disease and hypertrophic cardiomyopathy; assessed by 1H-Magnetic Resonance Spectroscopy.
79th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2015.4.26.
- 139.Takahashi S, Miyazaki T, Shimada K, Yatsu S, Suda S, Shiozawa T, Hiki M, Matsumori R, Takasu H, Hiki M, Kasai T, Miyauchi K, Daida H.
The ratio of acylcarnitine to free carnitine correlates with acute decompensated heart failure in patients admitted to Coronary Care Unit.
79th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2015.4.25.
- 140.Yatsu S, Miyazaki T, Kasai T, Suda S, Hiki M, Matsumori R, Takasu K, Hiki M, Takagi A, Shimada K, Miyauchi K, Daida H.
Low serum vitamin D levels correalte with acute decompensated heart failure in patients admitted to Coronary Care Unit.
79th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2015.4.25.
- 141.Shimada K, Morinaga H, Kiyanagi T, Miyazaki T, Yokoyama M, Okai I, Tamura H, Konishi H, Kurata T, Miyauch K, Daida H.
Safety and efficacy of simultaneous pneumococcal and influenza vaccinations in patients with coronary artery disease: a randomized single-blind placebo-controlled study.
79th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2015.4.25.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

142. 島田和典, 塩澤知之, 門口智泰, Hamad Al Shahi, 宮崎哲朗, 代田浩之.
心血管疾患における慢性炎症とその制御—動脈硬化の発症や進展における免疫応答細胞サブセットの役割.
J-ISCIP 2015. 2015.6.21. 京都
143. 高橋秀平, 宮崎哲朗, 島田和典, 上野剛, 松森理枝, 葛西隆敏, 高木篤俊, 宮内克己, 三井田孝, 代田浩之.
血中アシルカルニチン/遊離カルニチン比の急性非代償性心不全患者における臨床的有用性.
J-ISCIP 2015. 2015.6.21. 京都
144. 吉原琢磨, 島田和典, 深尾宏祐, 蔡榮龍, 佐藤弥生, 松森理枝, 塩澤知之, Hamad Alshahi, 多田昇弘, 宮崎哲朗, 代田浩之.
オメガ3系多価不飽和脂肪酸はマクロファージに関連する炎症制御により大動脈瘤の発症を抑制する.
J-ISCIP 2015. 2015.6.21. 京都
145. Shahi HA, Shimada K, Miyauchi K, Sai E, Yoshihara T, Shiozawa T, Sai E, Aikawa T, Ouchi S, Miyazaki T, Daida H.
Elevated circulating levels of inflammatory markers in patients with acute coronary syndrome.
The 47th Annual Scientific Meeting of the Japan Atherosclerosis Society. Page89 (2015.07.09) Sendai Miyagi.
146. 本沢晶雄, 島田和典, 横山美帆, 松森理枝, 高橋秀平, 久米淳美, 正木克由規, 深尾宏祐, 塩谷みき, 佐藤裕之, 代田浩之.
当院における外来心臓リハビリテーション継続因子の検討.
第21回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 平成27年7月19日 福岡市 福岡.
147. 立石 智彦, 池田 浩, 福岡 重雄, 宮川 俊平, 森川 嗣夫, 島田 和典, 土肥 美智子, 加藤 晴康, 松本 秀男, 福林 徹, 公益財団法人日本サッカー協会医学委員会.
サッカー競技におけるスポーツ傷害 全国高等学校サッカー選手権大会でのメディカルチェック.
日本整形外科スポーツ医学会雑誌 (1340-8577)35 巻 4 号 Page365(2015.08)
148. 宮崎 哲朗, 高橋 秀平, 島田 和典, 上野 剛, 加藤 隆生, 須田 翔子, 比企 優, 松森 理枝, 葛西 隆敏, 高木 篤俊, 宮内 克己, 三井田 孝, 代田 浩之.
急性非代償性心不全患者における血中カルニチン濃度の臨床的意義.
日本心臓病学会学術集会抄録 63 回 Page617(2015.09).
149. 塩澤 知之, 島田 和典, 関田 学, 林 英守, 田淵 晴名, 小松 さやか, 宮内 克己, 設楽 準, 塩崎 正幸, 山上 伸一郎, 諏訪 哲, 藤原 康昌, 住吉 正孝, 中里 祐二, 代田 浩之.
ワールドカップサッカーのテレビ観戦と心室性不整脈との関連.
日本心臓病学会学術集会抄録 63 回 Page873(2015.09).
150. 島田 和典, 森永 弘章, 鬼柳 尚, 宮崎 哲朗, 横山 美帆, 岡井 巖, 田村 浩, 小西 博広, 蔵田 健, 宮内 克己, 代田 浩之.
冠動脈疾患患者における肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチン同時接種の安全性と有用性.
日本心臓病学会学術集会抄録 63 回 Page1168(2015.09)
151. 駒野 悠太, 三浦 裕, 藤原 大介, 内藤 久土, 中潟 崇, 島田 和典, 代田 浩之.
ウイルス感染防御機能を制御するプラズマサイトイド樹状細胞に及ぼす運動の影響.
日本臨床スポーツ医学会誌 (1346-4159)23 巻 4 号 PageS167(2015.10)
152. 島田 和典, 塩澤 知之, 塩崎 正幸, 福島 理文, 深尾 宏祐, 代田 浩之.
サッカー・ワールドカップのテレビ観戦と心室性不整脈との関連.
日本臨床スポーツ医学会誌 (1346-4159)23 巻 4 号 PageS190(2015.10).

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

153. 深尾 宏祐, 島田 和典, 福島 理文, 塩澤 知之, 塩崎 正幸, 代田 浩之.
大学生アスリートにおける持久的運動と循環代謝マーカーの特徴.
日本臨床スポーツ医学会誌 (1346-4159)23 巻 4 号 PageS191(2015.10).
154. 立石 智彦, 池田 浩, 福岡 重雄, 宮川 俊平, 森川 嗣夫, 松本 秀男, 谷 諭, 島田 和典, 土肥 美智子, 加藤 晴康, 福林 徹, (公財)日本サッカー協会医学委員会.
全国高等学校サッカー選手権大会での外傷・障害調査報告.
日本臨床スポーツ医学会誌 (1346-4159)23 巻 4 号 PageS240(2015.10)
155. 中潟崇, 町田 修一, 濱田千江子, 石島旨章, 平澤恵理, 石橋雅義, 内藤久土.
日本人勤労者を対象としたロコモティブシンドロームの実態調査.
第 22 回日本健康体力栄養学会, 千葉, 2015 年 3 月 14, 15 日 (優秀賞受賞)
156. 吉原利典, 柿木亮, 関根紀子, 都築孝允, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久土.
発育期の運動がラット骨格筋の HDAC 発現量に及ぼす影響.
第 22 回日本健康体力栄養学会, 千葉, 2015 年 3 月 14, 15 日 (奨励賞受賞)
157. 尾崎隼朗, 亀岡舞, 町田修一, 内藤久土.
月経周期に伴う卵巣ホルモンの変動が筋厚および筋力に与える影響.
第 22 回日本健康体力栄養学会大会, 千葉, 2015 年 3 月 14, 15 日
158. 石原美彦, 内藤久土, 井口祐貴, 島寄佑, 吉村雅文.
GPS を用いたサッカー教室中の身体活動量の測定に関する研究.
第 13 回日本発育発達学会大会, 東京, 2015 年 3 月 14, 15 日
159. 鄧鵬宇, 柳谷登志雄, 内藤久土.
日本と中国の中規都市における児童の身体活動に関する研究.
第 13 回日本発育発達学会大会, 東京, 2015 年 3 月 14, 15 日
160. 尾崎隼朗, 棗寿喜, 柿木亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久土.
サイクリング運動の強度の違いが細胞内シグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響.
第 23 回日本運動生理学会大会, 東京, 2015 年 7 月 25, 26 日
161. 柿木亮, 吉原利典, 尾崎隼朗, 関根紀子, 内藤久土.
筋収縮様式がヒト骨格筋のタンパク質合成関連シグナル伝達に及ぼす影響.
第 23 回日本運動生理学会大会, 東京, 2015 年 7 月 25, 26 日
162. 張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久土.
概日リズムによるラット骨格筋における細胞内シグナル伝達の変化.
第 23 回日本運動生理学会大会, 東京, 2015 年 7 月 25, 26 日
163. 野崎理沙, 川西範明, 吉原利典, 内藤久土, 町田修一.
繰り返し温熱負荷による骨格筋萎縮抑制効果には筋線維特異性が認められる.
第 23 回日本運動生理学会大会, 東京, 2015 年 7 月 25, 26 日
164. 吉原利典, 柿木亮, 関根紀子, 高嶺由梨, 棗寿喜, 張碩文, 杉浦崇夫, 町田修一, 内藤久土.
若年期の運動経験はマウス腓腹筋におけるアセチル化ヒストン H3 発現を亢進させる.
第 23 回日本運動生理学会大会, 東京, 2015 年 7 月 25, 26 日
165. 棗寿喜, 尾崎隼朗, 吉原利典, 柿木亮, 町田修一, 内藤久土.
ヒト骨格筋に対する筋電気刺激が筋肥大に関わる細胞内シグナル伝達経路に及ぼす影響.
第 23 回日本運動生理学会大会, 東京, 2015 年 7 月 25, 26 日
166. 亀岡舞, 尾崎隼朗, 内藤久土, 町田修一.
月経周期の違いがレジスタンス運動後のコルチゾール分泌応答に及ぼす影響.
第 23 回日本運動生理学会大会, 東京, 2015 年 7 月 25, 26 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 167.古市真也, 北田友治, 町田修一, 内藤久土.
酸素摂取動態がスプリントエコノミーに及ぼす影響.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 168.野崎理沙, 高木香奈, 内藤久土, 町田修一.
生薬の黄耆が廃用性筋萎縮に及ぼす影響.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 169.川西範明, 野崎理沙, 内藤久土, 町田修一.
ギプス固定誘導性の筋萎縮におけるTLR4の役割.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 170.中潟崇, 町田修一, 濱田千江子, 石島旨章, 平澤恵理, 石橋雅義, 内藤久土.
日本人勤労者のロコモ予備軍の実態調査-新基準に基づいて.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 171.北田友治, 町田修一, 内藤久土.
筋線維組成が最大走運動中の筋酸素化に及ぼす影響.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 172.トウホウウ, 石原美彦, 柳谷登志雄, 内藤久土.
日本と中国の中規模都市における児童の身体活動実態に関する研究.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 173.石原美彦, トウホウウ, 井口祐貴, 島寄佑, 吉村雅文, 内藤久土.
運動教室に参加する児童の身体活動量.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 174.坂本彰宏, 内藤久土.
ハイパーベンチレーションはレジスタンス運動の最大レップ数増加に有効.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 175.石田真大, 内藤守, 内藤久土, 杉山康司.
アンチクッション付きボールがノルディックウォーキング時の運動強度に与える影響.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 176.亀岡舞, 尾崎隼朗, 内藤久土, 町田修一.
月経周期および卵巣ホルモン濃度がレジスタンス運動後の骨格筋タンパク質分解に及ぼす影響.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 177.尾崎隼朗, 棗喜寿, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久土.
サイクリング運動の強度の違いがレジスタンス運動後のシグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 178.都築孝允, 吉原利典, 関根紀子, 柿木亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久土.
運動時の体温上昇の有無が2型糖尿病ラットの骨格筋における糖代謝シグナル伝達系に与える影響.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 179.張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久土.
筋萎縮からの回復期における運動実施のタイミングの違いが細胞内シグナル伝達に及ぼす影響.
第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月18-20日
- 180.大野佳南子, 尾崎隼朗, 亀岡舞, 今井由佳, 内藤久土, 町田修一.
月経周期の違いが膝伸展運動時の仕事量と筋持久力に及ぼす影響.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

181. 棗寿喜, 尾崎隼朗, 吉原利典, 柿木亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久土.
筋電気刺激がヒト骨格筋におけるオートファジーに及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日
182. 吉原利典, 柿木亮, 都築孝允, 張碩文, 棗寿喜, 杉浦崇夫, 内藤久土.
若年期の運動習慣がラットヒラメ筋におけるヒストン修飾に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日
183. 中村智洋, 柿木亮, 関根紀子, 小林裕幸, 佐久間和彦, 内藤久土.
男性短距離走者の骨格筋における ACTN3 タンパク質発現量.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日
184. 高嶺由梨, 吉原利典, 都築孝允, 関根紀子, 内藤久土.
強制運動または高脂肪食摂取が成長期マウスの発育状態に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日
185. 柿木亮, 吉原利典, 棗寿喜, 関根紀子, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久土.
タンパク質摂取がヒト骨格筋 mTOR シグナル伝達に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日
186. 杉山康司, 白井友加里, 祝原豊, 朝倉徹, 富田寿人, 辻川比呂斗, 内藤久土.
スポーツ活動種目別にみた小、中学生の体力水準の現状と課題.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日
187. 芝口翼, 杉浦崇夫, 吉原利典, 内藤久土, 後藤勝正, 大平充宣, 吉岡利忠.
筋損傷後の異なる温度刺激の組み合わせが再生過程における筋衛星細胞の動態に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日
188. 杉浦崇夫, 芝口翼, 吉原利典, 内藤久土, 後藤勝正, 吉岡利忠.
筋損傷後のアイシングと温熱刺激の組み合わせが回復過程におけるミオシン重鎖分子種に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日
189. 宇田宗弘, 川崎広明, 飯泉恭一, 重永綾子, 馬場猛, 内藤久土, 吉岡利忠, 山倉文幸.
骨格筋で新たに見出された分子量の異なる α -アクチンの細胞内局在の検討.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日
190. 駒野悠太, 三浦裕, 藤原大介, 内藤久土, 中潟崇, 島田和典, 代田浩之.
ウイルス感染防御機能を制御するプラズマサイトイド樹状細胞に及ぼす運動の影響.
第 26 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015 年 11 月 7, 8 日
191. 膳法浩史, 福典之, 西田裕一郎, 桧垣靖樹, 内藤久土, 原めぐみ, 田中恵太郎.
ミトコンドリア由来ペプチド MOTS-c アミノ酸置換 (K14Q) を生じさせる m.1382A>C 多型と 2 型糖尿病との関連.
第 15 回日本ミトコンドリア学会年会, 福井, 2015 年 11 月 19, 20 日
192. 尾崎隼朗, 北田友治, 棗寿喜, 安部孝, 内藤久土, 形本静夫.
サイクリング運動は加齢による筋サイズと最大酸素摂取量の低下を抑制する.
第 28 回日本トレーニング科学会大会, 鹿児島, 2015 年 11 月 14, 15 日
193. 尾崎隼朗, 亀岡舞, 大野佳南子, 今井由佳, 町田修一, 内藤久土.
若年女性におけるスクワットジャンプ中の動作スピード及びジャンプ高に月経周期のフェーズの違いが与える影響.
NSCA ジャパンカンファレンス 2015, 東京, 2015 年 12 月 5, 6 日
194. 林徹生, 中山茶千子, 本井ゆみ子, 服部信孝

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

運動障害が目立たない Possible DLB のドパミントランスポーターシンチを用いた臨床解析 第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター	
195.	中村亮太, 中山茶千子, <u>本井ゆみ子</u> , <u>服部信孝</u> ドパミントランスポーターシンチグラフィを用いた原発性進行性失語症の臨床解析 第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター
196.	須田晃充, 中山茶千子, 佐々木芙悠子, 森聡生, 中島明日香, 田中亮太, 久保紳一郎, <u>本井ゆみ子</u> , <u>服部信孝</u> アルツハイマー病患者におけるガランタミンの効果と、有効症例の特徴の検討 第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター
197.	林田有紗, 中山茶千子, 高梨雅史, <u>本井ゆみ子</u> , <u>服部信孝</u> アルツハイマー病理をもつ皮質基底核症候群と診断された 2 症例の脳血流分布と神経病理 第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター
198.	松島隆史, 西岡健弥, 山城一雄, 李元哲, 島田佳明, 吉野浩代, 舩山学, 田中亮太, <u>本井ゆみ子</u> , <u>服部信孝</u> Cliniogenetic study of CADASIL pedigrees with notch3 mutation 第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター
199.	<u>本井ゆみ子</u> , エラヒモンタシル, ハッサンザフル, 松本信英, <u>服部信孝</u> Neuroinflammation Associated with the Regional Difference of Tau Phosphorylation 第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター
200.	Aya Ikeda, Kenya Nishioka, Li Yuanzhe, Hiroyo Yoshino, Manabu Funayama, Shinichi Ueno, Naohide Kurita, Yuji Ueno, Yumiko <u>Motoi</u> , Nobutaka Hattori The three pedigrees with MAPT N279K accompanying the analyze of DAT-scan 第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター
201.	<u>本井ゆみ子</u> , Hassan Zafrul, Monastir Elahi, 松本信英, 石黒幸一, <u>服部信孝</u> 実験的糖尿病タウオパチーモデルマウスにおける炎症性変化の脳部位別解析 第 56 回日本神経病理学会総会学術研究会 2015 年 6 月 3 日～5 日 九州大学医学部百年講堂
202.	林田有紗, 中山茶千子, 高梨雅史, <u>本井ゆみ子</u> , <u>服部信孝</u> アルツハイマー病理をもつ皮質基底核症候群と診断された 2 症例の脳血流分布と神経病理 第 56 回日本神経病理学会総会学術研究会 2015 年 6 月 3 日～5 日 九州大学医学部百年講堂
203.	<u>本井ゆみ子</u> , 須田晃充, 林徹生, 中山茶千子 アルツハイマー病におけるガランタミンの効果の解析 第 33 回 日本神経治療学会総会 名古屋国際会議場 2015 年 11 月 26 日～28 日
204.	谷もも, <u>本井ゆみ子</u> , <u>服部信孝</u> 長期療養型病院におけるメマンチン単独療法の使用状況の検討 第 34 回日本認知症学会 2015 年 10 月 2 日～4 日 リンクステーション青森
205.	Montasir Elahi, Yumiko <u>Motoi</u> , Shin-Ei Matsumoto, Zafrul Hassan, Koichi Ishiguro, Nobutaka Hattori. Short-term treadmill exercises increased tau insolubility in tauopathy model mice. 第 34 回日本認知症学会 2015 年 10 月 2 日～4 日 リンクステーション青森
206.	Montasir Elahi, Yumiko <u>Motoi</u> , Shin-Ei Matsumoto, Zafrul Hassan, Koichi Ishiguro, Nobutaka Hattori. Region-specific Vulnerability to Oxidative Stress, Neuroinflammation, and Tau hyperphosphorylation in experimental Diabetes Mellitis mice. 第 34 回日本認知症学会 2015 年 10 月 2 日～4 日 リンクステーション青森
207.	松本信英, <u>本井ゆみ子</u> , 石黒幸一, 田平武, 亀谷冬樹, 長谷川成人, <u>服部信孝</u>

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

タウオパチーモデルマウスの加齢に伴い増加する新規切断タウの伝播と機能解析
第34回日本認知症学会 2015年10月2日～4日 リンクステーション青森

- 208.原 裕子、松本 信英、モンタシル・エラヒ、本井 ゆみ子、服部 信孝
タウ蛋白過剰がコリン作動性神経障害を引き起こす
第34回日本認知症学会 2015年10月2日～4日 リンクステーション青森
- 209.林 徹生、本井 ゆみ子、松本信英、中村真一郎、服部信孝
アルツハイマー病と軽度認知機能障害患者における遂行機能と介護負担との関連について
第34回日本認知症学会 2015年10月2日～4日 リンクステーション青森
- 210.Koji Akita, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
The Role of Interleukin-1 Receptor Antagonist in the Suppression of Aortic Inflammation and Aneurysm after Angiotensin II Infusion
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 24-26/4/2015
- 211.Hiroki Nishiyama, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Hypertension and Elderly Associated with Cardiovascular and Bleeding Events in Patients Undergoing PCI with Oral Anticoagulation and Dual Antiplatelet Therapy
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 24-26/4/2015
- 212.Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Temporal Trends in Long-term Clinical Outcomes following Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Renal Insufficiency
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 24-26/4/2015
- 213.Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Appropriate Value of Low-density Lipoprotein Cholesterol for Secondary Prevention of Coronary Artery Disease
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 24-26/4/2015
- 214.Hiroshi Tamura, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Hiroki Nishiyama, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Glycosylated Hemoglobin A1c was not Associated with Long-Term Clinical Outcomes of Diabetic Patients
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 24-26/4/2015
- 215.秋田耕嗣、磯田菊生、代田浩之
インターロイキン1受容体アンタゴニストはアンジオテンシンII投与によって誘導された動脈の炎症及び瘤形成を抑制する
第47回日本動脈硬化学会, 仙台, 9-10/7/2015
- 216.Taketo Sonoda, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Etsuro Karoh, Hiroki Nishiyama, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Predicting Normal Coronary Arteries at Coronary Angiography in Patients Admitted in Diagnosis of Ischemic Heart Disease
CVIT 2015, 福岡, 30-31/7/2015
- 217.Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hiroki Nishiyama, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Tomotaka Dohi, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Comparison of long-term outcomes between second-generation stents and first-generation stents in coronary long lesions.
CVIT 2015, 福岡, 30-31/7/2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

218. Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hiroki Nishiyama, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Tomotaka Dohi, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Impact of a Burr Artery Diameter Ratio on Target Vessel Revascularization in Patients Performed Rotational Atherectomy.
CVIT 2015, 福岡, 30-31/7/2015
219. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Ryo Naitoh, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Lipoprotein(a) Predicts Cardiovascular Events in Diabetes Patients with Multi-vessel Disease after PCI
CVIT 2015, 福岡, 30-31/7/2015
220. Ryo Naitoh, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Hirokazu Konishi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Glycosylated Hemoglobin A1c as a Predictor of Coronary Artery Disease
CVIT 2015, 福岡, 30-31/7/2015
221. 清水孝史、宮内克己、西崎祐史、園田健人、内藤亮、小西宏和、加藤悦郎、西山大樹、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
女性の冠動脈疾患に対する危険因子としての高尿酸血症の重要性
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015
222. 内藤亮、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、坪井秀太、荻田学、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、山本平、磯田菊生、天野篤、代田浩之
Comparison between CABG and PCI with Drug-eluting Stents in Mortality of Elderly with Diabetes and Multivessel Coronary Disease
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015
223. 遠藤裕久、坪井秀太、宮内克己、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、設楽準、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之
The Association between high sensitive CRP and Coronary Artery Disease in non-Elderly Patients
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015
224. 土肥智貴、宮内克己、坪井秀太、荻田学、葛西隆敏、内藤亮、小西宏和、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
Pre-procedural hs-CRP Predicts Long-term Outcomes in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015
225. 設楽準、宮内克己、坪井秀太、荻田学、葛西隆敏、土肥智貴、内藤亮、小西宏和、土井信一郎、和田英樹、遠藤裕久、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之
待機的冠動脈造影時の患者背景、内服状況に関する検討：冠動脈疾患の有無による比較
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015
226. 土井信一郎、宮内克己、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、磯田菊生、岡崎真也、代田浩之
糖尿病を有する第 2 世代薬剤溶出性ステント留置患者において慢性腎臓病は予後規定因子になり得るか
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015
227. 圓山雅己、加藤倫子、森本良子、宮崎彩記子、大門雅夫、大村寛敏、天野篤、代田浩之
大動脈弁狭窄症患者における弁置換・冠動脈バイパス術同時施行例における術後心房細動発症に関わる因子の検討
第 26 回日本心エコー図学会 北九州 2015 年 3 月 28 日
228. 須田翔子、葛西隆敏、小松さやか、田淵春名、林英盛、関田学、中里祐二、代田浩之

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

ApneaScan アルゴリズムによる睡眠呼吸障害の重症度と簡易睡眠検査および睡眠ポリグラフ検査による重症度と比較しえた一例
日本不整脈学会 第7回植え込みデバイス関連冬季大会,東京,2015/2/19-21

- 229.Sharma Kattel, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Azusa Murata, Takao Kato, Shoko Suda, Masaru Hiki, Kiyoshi Takasu, Tetsuro Miyazaki, Atsutoshi Takagi, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Relationship between long-term mortality and elevated blood glucose level on admission in patients with acute decompensated heart failure
第79回日本循環器学会学術集会,大阪,2015-4-24-26
- 230.Shoko Suda, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Azusa Murata, Takao Kato, Masaru Hiki, Tetsuro Miyazaki, Atsutoshi Takagi, Hiroyuki Daida
Relationship between overnight rostral fluid shift and severity of sleep disordered breathing.
第79回日本循環器学会学術集会,大阪,2015-4-24-26
- 231.Shoko Suda, Takatoshi Kasai, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Relationship between sleep-disordered breathing and clinical outcomes in hospitalized patients with left ventricular systolic dysfunction following acute decompensated heart failure
第79回日本循環器学会学術集会,大阪,2015-4-24-26
- 232.加藤隆生、葛西隆敏、谷津翔一郎、村田梓、須田翔子、比企優、宮崎哲朗、高木篤俊、代田浩之
夜間の下肢からの体液移動と睡眠呼吸障害の重症度の関係性
第63回日本心臓病学会学術集会,横浜,2015-9-17-19
- 233.谷津翔一郎、葛西隆敏、内藤亮、須田翔子、村田梓、加藤隆生、比企優、小西博広、代田浩之
日本人の冠動脈疾患患者における レストレスレッグス症候群の臨床的意義
第63回日本心臓病学会学術集会,横浜,2015-9-17-19
- 234.加藤隆生、葛西隆敏、村田梓、谷津翔一郎、須田翔子、比企優、宮崎哲朗、代田浩之
急性心不全で入院中の左室収縮機能不全患者における睡眠呼吸障害の合併と死亡・再入院との関係
第63回日本心臓病学会学術集会,横浜,2015-9-17-19
- 235.Shoichiro Yatsu, Takatoshi Kasai, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Azusa Murata, Takao Kato, Masaru Hiki, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Impact of periodic leg movements during sleep on prognosis in hospitalized patients following acute decompensated heart failure
第19回日本心不全学会学術集会,大阪,2015-10/22-24
- 236.Hiroki Matsumoto, Takatoshi Kasai, Sharma Kattel, Shoichiro Yatsu, Azusa Murata, Takao Kato, Shoko Suda, Masaru Hiki, Kiyoshi Takasu, Tetsuro Miyazaki, Atsutoshi Takagi, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Long-term outcome of patients with acute decompensated heart failure and elevated blood glucose level on admission
第19回日本心不全学会学術集会,大阪,2015-10/22-24
- 237.松森理枝、藤本進一郎、Rani Bhivasankar、Kanakano K.Kumamaru、高村和久、比企誠、松永江律子、宮内克己、Frank J Rybicki、Dimitrios Mitsouras、代田浩之
冠血流予備量比(Fractional flow reserve:FFR)で検出された冠動脈有意狭窄病変に対する64列冠動脈CTを用いたTransluminar attenuation gradient(TAG)の有用性
第25回日本心血管画像動態学会,東京 2015.1
- 238.Takamura K, Fujimoto S, Kondo T, Hiki M, Matsumori R, Kawaguchi Y, Suda S, Sai E,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Yoshihara T, Aikawa T, Yamagami S, Takase S, Daida H
Prognostic value of CCTA- verified high risk plaque in asymptomatic patients.
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka 2015.4
- 239.Sai E, Shimada K, Yokoyama T, Hiki M, Miyazaki T, Fujimoto S, Daida H
Myocardial Triglyceride Content in Patients with Hypertensive Heart Disease and Hypertrophic Cardiomyopathy; Assessed by 1H-Magnetic Resonance Spectroscopy.
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka 2015.4
- 240.Fujimoto S, Matsumori R, Takamura K, Hiki M, Matsunaga E, Miyauchi K, Daida H
Significance of Coronary CT Angiography for Strategies to Prevent Atherosclerosis
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka 2015.4
- 241.加藤悦郎、藤本進一郎、松森理枝、Rani Bhivasankar、Kanao K.Kumamaru、川口裕子、高村和久、Frank J Rybicki、Dimitrios Mitsouras、宮内克己、代田浩之
Evaluation of 64-Multidetector Row CT Angiography Transluminal Attenuation Gradient for the Detection of Significant Coronary Artery Disease Determined by Fractional Flow Reserve
第 24 回日本心血管インターベンション学会, 福岡 2015.7
- 242.高村和久、藤本進一郎、比企 誠、松森 理枝、川口 裕子、須田 翔子、加藤 悦郎、代田浩之
高度石灰化、冠動脈ステント留置症例における、低電圧 Subtraction Coronary CTA の初期検討
第 63 回日本心臓病学会, 横浜 2015.9
- 243.藤本進一郎、川口裕子、松森理枝、高村和久、比企誠、宮内克己、隈丸加奈子、近藤武、代田浩之
安定狭心症診断戦略における冠動脈 CT の新しい位置づけ
第 63 回日本心臓病学会, 横浜 2015.9
- 244.Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Ryo Naito, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Hiroyuki Daida
Impact of Lipoprotein (a) as Residual Risk on Long-term Outcomes in Patients with Diabetes after Percutaneous Coronary Intervention
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪,2015/4/24-26
- 245.Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Ryo Naito, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Hiroyuki Daida
Plasma Lipoprotein (a) Predicts Future Major Cardiovascular Events in Patients with Chronic Kidney Disease after Percutaneous Coronary Intervention
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪,2015/4/24-26
- 246.Hiroshi Tamura, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Hiroki Nishiyama, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Glycosylated Hemoglobin A1c was not associated with Long-Term Clinical Outcomes of Diabetic Patients
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪,2015/4/24-26
- 247.Hiroki Nishiyama, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Hypertension and Elderis Associated with Cardiovascular and Bleeding Events in Patients Undergoing PCI with Oral Anticoagulation and Dual Antiplatelet Therapy
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪,2015/4/24-26

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

248. Katsumi Miyauchi , Hiroyuki Daida
Morphologic Findings of Coronary Atherosclerotic Plaques in Diabetic Patients
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪,2015/4/24-26
249. Hideki Wada, Katsumi Miyauchi, Shuta Tsuboi, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Yoshiteru Katoh, Manabu Ogita, Iwao Okai , Takatoshi Kasai , Hiroshi Tamura , Shinya Okazaki , Satoru Suwa , Hiroyuki Daida
First Medical Contact Time and Mortality among Patients with ST Elevation Acute Myocardial Infarction Having Primary Percutaneous Coronary Intervention
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪,2015/4/24-26
250. Shoichiro Yatsu, Tetsuro Miyazaki , Takatoshi Kasai , Shoko Suda , Masaru Hiki , Rie Matsumori , Kiyoshi Takasu , Makoto Hiki , Atsutoshi Takagi , Kazunori Shimada , Katsumi Miyauchi , Hiroyuki Daida
Low Serum Vitamin D Levels Correlate with Acute Decompensated Heart Failure in Patients Admitted to Coronary Care Unit
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪,2015/4/24-26
251. Hirohisa Endo, Katsumi Miyauchi , Shuta Tsuboi , Manabu Ogita , Tomotaka Dohi , Takatoshi Kasai , Ryo Naito , Hirokazu Konishi , Hiroshi Tamura , Shinya Okazaki , Satoru Suwa , Hiroyuki Daida
Impact of Baseline Blood Pressure on Stroke after Percutaneous Coronary Intervention
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪,2015/4/24-26
252. Taketo Sonoda, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Etsuro Katoh, Hiroki Nishiyama, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Predicting Normal Coronary Arteries at Coronary Angiography in Patients Admitted in Diagnosis of Ischemic Heart Disease
第 24 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会 福岡, 2015/7/31-8/1
253. Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hiroki Nishiyama, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Tomotaka Dohi, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Comparison of long-term outcomes between second-generation stents and first-generation stents in Coronary Long lesions.
第 24 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会 福岡, 2015/7/31-8/1
254. Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hiroki Nishiyama, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Tomotaka Dohi, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Impact of a Burr Artery Diameter Ratio on Target Vessel Revascularization in Patients Performed Rotational Atherectomy.
第 24 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会 福岡, 2015/7/31-8/1
255. Etsuro Kato, Shinichiro Fujimoto, Rie Matsumori, Yuko Kawaguchi, Kazuhisa Takamura, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida, Bhivasankar Rani, Kanako Kumamaru, Rvibicki Frank J , Mitsouras Dimitrios
Evaluation of 64-Multidetector Row CTA Transluminal Attenuation Gradient for the Detection of CAD Determined by FFR
第 24 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会 福岡, 2015/7/31-8/1
256. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Ryo Naito, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Lipoprotein(a) Predicts Cardiovascular Events in Diabetes Patients With Multi-vessel Disease After PCI
第 24 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会 福岡, 2015/7/31-8/1
257. Hideki Wada, Shuta Tsuboi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Yoshiteru Kato, Hirokazu Konishi, Ryo Naito , Hiroshi Tamura , Takatoshi Kasai , Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi , Hiroyuki Daida

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

HbA1c levels and clinical outcomes in patients with ST elevation myocardial infarction undergoing primary PCI

第24回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 福岡, 2015/7/31-8/1

258. 遠藤裕久, 宮内克己, 田村浩, 土肥智貴, 内藤亮, 小西宏和, 岡崎真也, 磯田菊生, 代田浩之
 ロタブレータ後のイベントは第2世代薬剤溶出ステントは第1世代と比較して低下しない
 日本冠疾患学会 札幌, 2015/11/20-21
259. 谷津翔一郎, 宮内克己, 園田健人, 西崎祐史, 内藤亮, 小西 宏和, 田村浩, 岡崎真也, 磯田菊生, 代田浩之
 虚血性心疾患疑いで入院した患者における冠動脈造影上の有意狭窄病変の予測因子は何か
 日本冠疾患学会 札幌, 2015/11/20-21
260. 岩田洋, 内藤亮, 宮内克己, 代田浩之
 冠動脈疾患における動脈硬化リスクコントロールと予後 -冠動脈治療は時代とともにどう変化したか-
 日本冠疾患学会 札幌, 2015/11/20-21
261. Le Jiang; Hakuoh Konishi; Hiroyuki Daida
 LR11 Gene Deficiency Prevents Hypoxia-induced Pulmonary Arterial Hypertension
 第79回日本循環器学会 2015年4月4日-26日 大阪
262. 二見一平, 石島旨章, 金子晴香, 眞鍋亘, 加藤壘, 雅楽十一
 一般病院受診者における橈骨、腰椎、大腿骨の骨密度の検討
 第33回日本骨代謝学会, 2015年7月23日-25日, 東京
263. 田蒨基行, 藤谷与士夫, 原朱美, 福中彩子, 荻原健, 宮塚健, 黒田暁生, 松本俊夫, 河盛隆造, 松久宗英, 綿田裕孝
 糖尿病発症・進展にかかわる新規メカニズムの解明
 第88回日本内分泌学会学術集会, 東京都, 2015.4.23-25, 2015.4.24, シンポジウム
264. 福中彩子, 藤谷与士夫, 深田俊幸, 梶村真吾, 綿田裕孝
 エーラス・ダンロス症候群原因遺伝子 Zip13 による脂肪細胞褐色化制御機構の解明
 第16回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 千葉県, 2015.09.25-26, 2015.9.26, インストラクションコース
265. Fukunaka, Y. Fujitani, T. Fukada, S. Kajimura, H. Watada.
 Zinc transporter ZIP13 regulates the adipocyte browning.
 BMB2015 (第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会), 兵庫県, 2015.12.1-4, 2015.12.1, ワークショップ
266. 森理枝, 藤本進一郎, Rani Bhivasankar, Kanako K. Kumamaru, 高村和久, 比企誠, 松永江律子, 宮内克己, Frank J Rybicki, Dimitrios Mitsouras, 代田浩之
 冠血流予備量比 (Fractional flow reserve: FFR) で検出された冠動脈有意狭窄病変に対する64列冠動脈CTを用いた Transluminal attenuation gradient (TAG) の有用性
 第25回日本心血管画像動態学会 東京 2015.1.23-24
267. Takamura K, Fujimoto S, Kondo T, Hiki M, Matsumori R, Kawaguchi Y, Suda S, Sai E, Yoshihara T, Aikawa T, Yamagami S, Takase S, Daida H
 Prognostic value of CCTA-verified high risk plaque in asymptomatic patients.
 The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society osaka 2015.424-26
268. Fujimoto S, Matsumori R, Takamura K, Hiki M, Matsunaga E, Miyauchi K, Daida H
 Significance of Coronary CT Angiography for Strategies to Prevent Atherosclerosis
 The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society osaka 2015.424-26

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 269.Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Temporal trends in Long-term Clinical Outcomes following Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Renal Insufficiency
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪, 2015.04.24-26
- 270.Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Appropriate value of LDL-C for secondary prevention of Coronary Artery Disease
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪, 2015.04.24-26
- 271.Naito R, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Glycated hemoglobin A1c as a Predictor of Coronary Artery Disease
第 24 回日本心血管インターベンション治療学会 学術集会, 福岡, 2015.7.31-8.01
- 272.内藤亮、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、宮内克己、代田浩之
経皮的冠動脈形成術後患者の臨床成績の時代的変遷
六甲カルディアックセミナー 神戸, 2015.08.08
- 273.Naito R, Miyauchi K, Sonoda T, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Comparison of prognosis between PCI and CABG in Elderly patients with diabetes and multivessel coronary disease
日本心臓病学会総会 横浜, 2015.09.18-20
- 274.Yamanaka T, Tosaka A, Miyazaki H, Kurosawa M, Koike M, Uchiyama Y, Sankar MN, Misawa H, Hattori N, Nukina N.
Cell type-specific neuropathologies in NF-Y mutant mice, Oral Session,
第 38 回日本神経科学大会、神戸コンベンションセンター、2015 年 7 月 28 日～31 日、神戸
- 275.Inoshita T, Hosaka Y, Imai Y, Hattori N.
Parkinson's disease-associated proteins Vps35 and LRRK2 regulate synaptic vesicle dynamics, Oral Session,
第 38 回日本神経科学大会、神戸コンベンションセンター、2015 年 7 月 28 日～31 日、神戸
- 276.Miyazaki H, Oyama F, Inoue R, Kiyonari H, Kino Y, Kurosawa M, Ogiwara I, Yamakawa K, Shimogori T, Hattori N, Miura M, Nukina N.
Singular localization of sodium channel $\beta 4$ subunit in unmyelinated fibres in the striatum, Poster,
第 38 回日本神経科学大会、神戸コンベンションセンター、2015 年 7 月 28 日～31 日、神戸
- 277.Suda Y, Kuzumaki N, Iwasawa C, Narita M, Ikegami D, Suematsu M, Hattori N, Okano H, Narita M.
Analysis of cell vulnerability associated with changes of metabolites in neurons derived from Parkinson's disease specific-iPS cells,
第 38 回日本神経科学大会、神戸コンベンションセンター、2015 年 7 月 28 日～31 日、神戸
- 278.木下 真由子, 石島 旨章, 坂本 優子, 山中 誠, 野尻 英俊, 金子 晴香, 定月 亮, 羽田 晋之介, 金子 和夫
ビスフォスフォネートと活性型ビタミン D 製剤併用による効果不良因子
第 88 回日整会 神戸 2015・5・21
- 279.羽田 晋之介, 高澤 祐治, 定月 亮, 小林 洋平, 金子 晴香, 斎田 良知, 久保田 光昭, 石島 旨章, 池田 浩, 金子 和夫
Opening wedge 高位脛骨骨切り術後における強度の高いスポーツ活動への復帰
第 7 回 JOSKAS 札幌 2015/6/18

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 280.高澤 祐治, 池田 浩, 齋田 良知, 石島 旨章, 永山 正隆, 金子 晴香, 小林 洋平, 羽田 晋之介, 定月 亮, 金子 和夫
膝蓋腱を用いた膝前十字靱帯再再建術の検討
第7回 JOSKAS 札幌 2015/6/18
- 281.羽田 晋之介, 石島 旨章, 金子 晴香, 劉 立足, 定月 亮, アニュワルジャン・ユスプ, 木下 真由子, 齋田 良知, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
初期変形性膝関節症の半月板逸脱と軟骨摩耗および骨棘形成の関連
第7回 JOSKAS 札幌 2015/6/19
- 282.金子 晴香, 石島 旨章, 定月 亮, 劉 立足, 羽田 晋之介, 木下 真由子, 小林 洋平, 齋田 良知, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
末期変形性膝関節症の内側近位脛骨角とビタミン D 充足状態との関連
第7回 JOSKAS 札幌 2015/6/19
- 283.金子 晴香, 石島 旨章, 石橋 雅義, 定月 亮, 羽田 晋之介, 劉 立足, 木下 真由子, Anwarjan Yusup, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
変形性膝関節症術前後の歩行解析を可能とした新規小型歩行解析装置の開発
第88回日整会 神戸 2015・5・24
- 284.羽田 晋之介, 石島 旨章, 金子 晴香, 劉 立足, 定月 亮, 木下 真由子, Anwarjan Yusup, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
初期変形性膝関節症の内側半月板病変と骨棘形成は関連し病変により関連部位が異なる
第88回日整会 神戸 2015・5・21
- 285.定月 亮, 石島 旨章, 金子 晴香, 劉 立足, 羽田 晋之介, 木下 真由子, Anwarjan Yusup, 齋田 良知, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
MRI による軟骨病変は初期膝 OA の進行関連因子である
第88回日整会 神戸 2015・5・24
- 286.羽田 晋之介, 石島 旨章, 金子 晴香, 劉 立足, 定月 亮, 木下 真由子, Yusup Anwarjan, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
初期内側型変形性膝関節症の半月板逸脱と骨棘形成との関連
第30回日整会基礎 2015・10・22 富山
- 287.木下 真由子, 石島 旨章, 金子 晴香, 劉 立足, 定月 亮, 羽田 晋之介, Yusup Anwarjan, 高澤 祐治, 池田 浩, 田村 好史, 綿田 裕孝, 河盛 隆三, 金子 和夫
壮年期の初期変形性膝関節症性変化と軟骨代謝状態の関連
第30回日整会基礎 2015・10・22 富山
- 288.木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, アニワル・ユスプ, 山中誠, 坂本優子, 野尻英俊, 金子和夫
ビスフォスフォネートと活性型ビタミン D 製剤併用による効果不良因子
第33回日本骨代謝学会、東京、2015年7月23日
- 289.木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, アニワル・ユスプ, 山中誠, 坂本優子, 野尻英俊, 金子和夫
症例報告：大腿骨非定型骨折と顎骨壊死の双方を発症した骨粗鬆症の1例
第17回日本骨粗鬆症学会, 2015年9月17～19日, 広島
- 290.木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, アニワル・ユスプ, 山中誠, 坂本優子, 野尻英俊, 金子和夫
ビスフォスフォネートと活性型ビタミン D 製剤併用療法の骨密度上昇関連因子としての血清カルシウム値
第17回日本骨粗鬆症学会, 2015年9月17～19日, 広島
- 291.定月 亮, 石島 旨章, 金子 晴香, 羽田 晋之介, 木下 真由子, 金子 和夫, 平澤 恵理
パールカンは SOX9 遺伝子発現制御を介して滑膜間葉系細胞の軟骨分化誘導を制御する

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 47 回日本結合組織学会学術大会 2015 5/16 東京

- 292.本間康弘、馬場智規、越智宏徳、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫"
Direct Anterior Approach による Dual Mobility Cup を使用した THA の短期成績
第 45 回人工関節学会、福岡、2015 年 2 月 27 日
- 293.本間康弘, Laura Coquelin, Angelique Lebouvier, Julie Leotot, 金子和夫, Philippe Hernigou, Helene Rouard, Nathalie Chevallier
培養骨髓細胞への新鮮濃縮骨髓液添加の影響
第 14 回再生医療学会、横浜、2015 年 3 月 19 日～21 日
- 294.本間康弘、馬場智規、越智宏徳、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫
Direct Anterior Approach による Dual Mobility Cup を使用した THA の短期成績
第 88 回日本整形外科学会、神戸、2015 年 5 月 21 日～24 日
- 295.本間康弘、渡泰士、馬場智規、越智宏徳、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫
土砂災害は高い致死率・重症胸部骨盤外傷を呈し、事前避難が極めて重要である：離島での大規模土砂災害の外傷患者分析より
第 88 回日本整形外科学会、神戸、2015 年 5 月 21 日～24 日
- 296.本間康弘、馬場智規、越智宏徳、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫"
The beginner of the anterior approach in total hip arthroplasty should pay attention to the shape of tip of greater trochanter.
第 88 回日本整形外科学会、神戸、2015 年 5 月 21 日～24 日
- 297.本間康弘、馬場智規、越智宏徳、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫
Direct Anterior Approach による Dual Mobility Cup を使用した THA の短期成績
第 42 回日本股関節学会、大阪、2015 年 10 月 30 日～31 日
- 298.馬場 智規, 一青 勝雄, 越智 宏徳, 本間 康弘, 松本 幹生, 小林 英生, 湯浅 崇仁, 金子 和夫
急速破壊型股関節症に対する人工股関節全置換術の臨床成績 KT plate と uncemented cup の比較
第 45 回日本人工関節学会(福岡) 2 月 27 日
- 299.馬場 智規, 本間 康弘, 百村 励, 松本 幹生, 小林 英生, 二村 謙太郎, 神田 章男, 諸橋 達, 最上 敦彦, 金子 和夫
大腿骨ステム周囲骨折に対して治療戦略に有用なインプラントデザインに注目した新分類
第 88 回日本整形外科学会、神戸、2015 年 5 月 21 日～24 日
- 300.馬場智規、越智宏徳、本間康弘、松本幹生、金子和夫
大腿骨ステム周囲骨折の治療戦略に有用なインプラントデザインに注目した新分類－Vancouver 分類との比較－
第 41 回日本骨折治療学会(奈良) 6 月 26 日～27 日
- 301.馬場智規 越智宏徳 尾崎友 本間康弘 松本幹生 小林英生 有富健太郎 湯浅崇仁 金子和夫
大腿骨ステム周囲骨折に対する condylar locking plate を反転させて使用した内固定は有効か？
第 42 回日本股関節学会、大阪、2015 年 10 月 30 日～31 日
- 302.馬場智規 本間康弘 越智宏徳 尾崎友 松本幹生 小林英生 金子和夫
前方アプローチによる人工股関節全置換術のピットホール
第 21 回日本最小侵襲整形外科学会(東京)11 月 13 日～14 日
- 303.赤池慶祐, 末原義之, 向井原健太, 石井翠, 高阪真路, 峯木礼子, 藤村努, 数野彩子, 金子和夫, Marc Ladanyi, 齋藤剛
胞巣型横紋筋肉腫における PAX3-FOXO1 融合遺伝子発現のプロテオーム解析
第 88 回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015 年 5 月 21 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 304.赤池慶祐, 末原義之, 戸島郁子, 岡本明美, 金子和夫, 高木辰哉
 当院におけるがん骨転移看護レベルの調査
 第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 香川, 2015年7月9日
- 305.赤池慶祐, 末原義之, 向井原健太, 石井翠, 高阪真路, 高木辰哉, 金子和夫, Marc Ladanyi, 齋藤剛
 PAX3-FOXO1 融合遺伝子が横紋筋肉腫に及ぼす影響とプロテオミクス解析
 第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 香川, 2015年7月9日
- 306.赤池慶祐, 末原義之, 石井翠, 栗崎-荒川愛子, 窪田大介, 大久保武人, 金子和夫, 八尾隆史, 齋藤剛
 Gastrointestinal stromal tumor における KCTD12 発現調節機構の解明と KIT との相互作用に基づいた機能解析
 第74回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2015年10月8日
- 307.赤池慶祐, 末原義之, 石井翠, 向井原健太, 高橋路子, 三谷恵子, 高木辰哉, 金子和夫, 八尾隆史, 齋藤剛
 Gastrointestinal stromal tumor におけるテロメア異常
 第30回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 2015年10月22日
- 308.赤池慶祐, 末原義之, 石井翠, 向井原健太, 栗崎-荒川愛子, 窪田大介, 大久保武人, 三富博之, 高橋路子, 高木辰, 金子和夫, 八尾隆史, 齋藤剛
 Gastrointestinal stromal tumor における KCTD12 発現調節機構の解明
 第30回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 2015年10月22日
- 309.赤池慶祐, 末原義之, 石井翠, 高橋路子, 三谷恵子, 大久保武人, 高木辰哉, 金子和夫, 八尾隆史, 齋藤剛
 Gastrointestinal stromal tumor における Telomerase 活性の臨床病理学的検討
 第104回日本病理学会総会, 名古屋, 2015年4月30日
- 310.杉山陽一、内藤聖人、木下真由子、有富健太郎、金子和夫.
 橈骨遠位端骨折術後に尺骨頭掌側脱臼を生じた1例.
 第16回順天堂大学整形外科手肘外科研究会 東京 7月11日 2015.
- 311.杉山陽一、内藤聖人、有富健太郎、木下真由子、金子和夫.
 橈骨遠位端骨折に合併した豆状骨亜脱臼.
 第17回順天堂大学整形外科手肘外科研究会 東京 11月28日 2015.
- 312.杉山陽一、木下真由子、内藤聖人、有富健太郎、金子和夫.
 小児橈骨遠位部骨折変形治癒後の治療.
 第52回東京手・肘の外科研究会 東京 11月17日 2015.
- 313.杉山陽一、内藤聖人、有富健太郎、金子和夫、大林 治.
 橈骨遠位端骨折に対する手術治療の工夫-関節内掌側転位骨片の整復操作.
 第58回日本手外科学会 東京 4月16日~17日 2015.
- 314.内藤聖人、宮本英明、金子和夫、Liverneaux P.
 腕神経叢損傷における手術用ロボットシステムを用いた神経移行術の経験.
 第26回日本末梢神経学会 松本 9月18日~19日 2015.
- 315.内藤聖人、杉山陽一、小畑宏介、井下田有芳、最上敦彦、大林 治、金子和夫.
 橈骨遠位端骨折に合併する尺骨遠位端骨折の治療経験：内固定の適応に対する考察.
 第41回日本骨折治療学会(奈良) 6月26日~27日
- 316.内藤聖人、杉山陽一、小畑宏介、有富健太郎、井下田有芳、大林 治、金子和夫.
 健常遠位橈尺関節における前腕回内位での尺骨頭背側偏位の評価.
 第88回日本整形外科学術総会, 神戸, 2015年5月21-24日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

317. 井下田有芳、内藤聖人、金子和夫、梶原 一.
中手骨頸部・骨幹部骨折に対する治療成績と問題点.
第 58 回日本手外科学会 東京 4 月 16 日～17 日 2015.
318. 有富健太郎、岩瀬嘉志、内藤聖人、楠瀬浩一、金子和夫.
若年者における肘部管症候群の治療成績.
第 58 回日本手外科学会 東京 4 月 16 日～17 日 2015.
319. 有富健太郎、内藤聖人、岩瀬嘉志、富田善雅、楠瀬浩一、金子和夫.
狭窄性腱鞘炎治療中に生じた化膿性腱鞘炎-2 例報告.
第 29 回東日本手外科研究会 仙台 3 月 7 日 2015.
320. 小林洋平 齋田良知 長尾雅史 池田 浩 金子和夫
マウス膝蓋腱損傷モデルにおける多血小板血漿(Platelet-rich plasma ; PRP)による組織修復促進効果の検討
第 88 回日本整形外科学術総会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日
321. 小林洋平 齋田良知 中島啓樹 長尾雅史 小林慶司 池田 浩 金子和夫
なでしこリーグ女子サッカー選手における 5 年間の外傷・障害発生状況調査
第 7 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 札幌, 2015 年 6 月 18-20 日
322. 小林洋平 齋田良知 長尾雅史 池田浩 金子和夫
多血小板血漿 (Platelet-rich plasma : PRP) 中の白血球濃度および分画の違いが成長因子濃度に及ぼす影響の検討
第 41 回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 京都, 2015 年 9 月 11-12 日
323. 小林洋平 齋田良知 長尾雅史 池田浩 金子和夫
多血小板血漿 (Platelet-rich plasma : PRP) 中の白血球濃度および分画の違いが成長因子濃度に及ぼす影響の検討
第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 2015 年 10 月 22-23 日
324. 小林洋平 齋田良知 中島啓樹 長尾雅史 小林慶司 河瀬麻希 池田浩 金子和夫
サッカー選手の外傷後膝関節炎に対する ω3 脂肪酸摂取の効果
第 26 回 日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015 年 11 月 7-8 日
325. 石井翠、末原義之、赤池慶祐、高橋路子、三谷恵子、大久保武人、高木辰哉、金子和夫、八尾隆史、齋藤剛
Gastrointestinal stromal tumor における protein phosphatase 2A の変異の臨床病理学的検討
日本病理学会総会、名古屋、4 月 30 日・5 月 2 日 2015
326. 石井翠、赤池慶祐、栗崎愛子、荒川敦、末原義之、高木辰哉、金子和夫、八尾隆史、齋藤剛
EGFR 変異と TP53 変異を伴う肉腫様に形態変化した肺腺癌による転移性骨腫瘍の一例
日本病理学会総会、名古屋、4 月 30 日・5 月 2 日 2015
327. 石井翠、末原義之、向井原健太、赤池慶祐、高阪真路、峯木礼子、藤村努、數野彩子、金子和夫、Marc Ladanyi、齋藤剛
滑膜肉腫細胞株、ヒト間葉系幹細胞株における SYT/SSX 融合遺伝子発現調節による網羅的タンパク質発現解析
日本整形外科学会学術総会、神戸、5 月 21 日・24 日 2015
328. 石井翠、末原義之、赤池慶祐、向井原健太、窪田大介、大久保武人、高木辰哉、八尾隆史、金子和夫、齋藤剛
Gastrointestinal stromal tumor における protein phosphatase 2, regulatory subunit A, alpha 変異の検討
日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、高松、7 月 9 日・10 日 2015
329. 石井翠、赤池慶祐、向井原健太、末原義之、高木辰哉、八尾隆史、金子和夫、齋藤剛

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

EGFR 変異と TP53 変異を伴う肉腫様に形態変化した肺腺癌による転移性骨腫瘍の一例
日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、高松、7月9日-10日 2015

330. Midori Ishii, Yoshiyuki Suehara, Keisuke Akaike, Daisuke Kubota, Taketo Okubo, Takashi Yao, Kazuo Kaneko, Tsuyoshi Saito
Clinicopathological impact of protein phosphatase 2A mutations in gastrointestinal stromal tumors
日本癌学会学術総会、名古屋、10月8日-10日 2015
331. 石井翠、末原義之、向井原健太、赤池慶祐、高阪真路、峯木礼子、藤村努、數野彩子、金子和夫、Marc Ladanyi、齋藤剛
滑膜肉腫細胞株、ヒト間葉系幹細胞株における SYT/SSX 融合遺伝子発現調節による網羅的タンパク質発現解析
日本整形外科学会基礎学術集会、富山、10月22日-23日 2015
332. 木下真由子、石島旨章、金子晴香、劉立足、定月亮、羽田晋之介、アニワル・ユスブ、山中誠、坂本優子、野尻英俊、金子和夫
ビスフォスフォネートと活性型ビタミン D 製剤併用療法の骨密度上昇関連因子としての血清カルシウム値
第17回日本骨粗鬆症学会、広島、2015年9月19日、優秀演題賞
333. 高木辰哉、金子和夫
転移性骨腫瘍に対するチーム医療とリハビリテーション
第88回日本整形外科学会術集総会 シンポジウム13 転移性骨腫瘍に対する治療戦略 神戸
5月21日～24日, 2015.
334. 高木辰哉、末原義之、鳥越知明、矢澤康男、金子和夫
転移性脊椎腫瘍に対する保存的治療-多職種介入によるマネジメント-
第48回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 高松 7月9日～10日, 2015.
335. 高野弘充、青木茂樹、米澤郁穂、堀正明、桂正樹、増谷佳孝、錦織瞭、奥田貴俊、嶋村之利、吉川慶、佐藤達哉、金子和夫
腰痛症における椎間板変性の Diffusional Kurotosis Imaging 解析
第44回日本脊椎脊髄病学会、福岡、2015年4月16日
336. 高野弘充、米澤郁穂、東藤貢、Muhammad Hazli Mazlan、奥田貴俊、嶋村之利、吉川慶、佐藤達哉、金子和夫
有限要素法を用いた椎体圧迫骨折の力学的評価
第44回日本脊椎脊髄病学会、福岡、2015年4月16日
337. 高野弘充、青木茂樹、米澤郁穂、堀正明、桂正樹、増谷佳孝、錦織瞭、奥田貴俊、嶋村之利、吉川慶、佐藤達哉、金子和夫
腰痛症における椎間板変性の Diffusional Kurotosis Imaging 解析
第88回日本整形外科学会学術総会、神戸、2015年5月23日
338. 高野弘充、米澤郁穂、東藤貢、Muhammad Hazli Mazlan、奥田貴俊、嶋村之利、吉川慶、佐藤達哉、金子和夫
有限要素法を用いた椎体圧迫骨折の力学的評価
第88回日本整形外科学会学術総会、神戸、2015年5月23日
339. 高野弘充、青木茂樹、米澤郁穂、堀正明、桂正樹、増谷佳孝、錦織瞭、奥田貴俊、嶋村之利、吉川慶、佐藤達哉、金子和夫
腰痛症における椎間板変性の Diffusional Kurotosis Imaging 解析
第30回日本整形外科学会基礎学術総会、富山、2015年10月22日
340. 高野弘充、米澤郁穂、東藤貢、Muhammad Hazli Mazlan、奥田貴俊、嶋村之利、吉川慶、佐藤達哉、金子和夫
有限要素法を用いた経皮的椎体形成術の力学的評価

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 24 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 新潟, 2015 年 11 月 7 日

- 341.高野弘充, 米澤郁穂, 東藤貢, Muhammad Hazli Mazlan, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
有限要素法を用いた経皮的椎体形成術の力学的評価
第 42 回日本臨床バイオメカニクス学会, 東京, 2015 年 11 月 13 日
- 342.高野弘充, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
関節リウマチと腰椎疾患
第 8 回順天堂リウマチカンファレンス, 東京, 2015 年 1 月 21 日
- 343.高野弘充, 米澤郁穂, 東藤貢, Muhammad Hazli Mazlan, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
有限要素法を用いた椎体圧迫骨折の力学的評価
第 10 回お茶の水脊椎セミナー, 東京, 2015 年 2 月 28 日
- 344.高野弘充, 米澤郁穂, 東藤貢, Muhammad Hazli Mazlan, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
有限要素法を用いた経皮的椎体形成術の力学的評価
第 6 回 MECHANICAL FINDER ユーザー研究会, 東京, 2015 年 7 月 18 日
- 345.吉川 慶, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 嶋村 之利, 高野 弘, 佐藤 達哉, 金子和夫
成人期特発性側弯症における手術例の検討
第 44 回日本脊椎脊髄病学会, 福岡, 2015 年 4 月 16 日
- 346.吉川 慶, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 嶋村 之利, 高野 弘, 佐藤 達哉, 金子和夫
成人期特発性側弯症における手術例の検討
第 88 回日本整形外科学会, 神戸, 2015 年 5 月 23 日
- 347.吉川 慶, 米澤 郁穂, 遠田 慎吾, 金子和夫
強直性脊椎炎に伴う椎体圧潰の治療経験～偽関節と矯正損失を生じた 1 例～
第 48 回脊椎外科同好会, 舞浜, 2015 年 8 月 2 日
- 348.窪田大介, 小林英介, 丹沢義一, 薛宇孝, 中谷文彦, 末原義之, 金子和夫, 川井章, 中馬広一
超高齢者に発生した骨軟部腫瘍の手術成績の検討,
第 88 回日本整形外科学術総会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日
- 349.窪田大介, 小林英介, 丹沢義一, 薛宇孝, 三浪友輔, 末原義之, 高木辰哉, 金子和夫, 川井章, 中馬広一
四肢末梢血管発生の平滑筋肉腫の 3 例
第 48 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 高松 7 月 9 日～10 日, 2015.
- 350.窪田大介, 小林英介, 丹沢義一, 薛宇孝, 三浪友輔, 末原義之, 高木辰哉, 金子和夫, 川井章, 中馬広一
骨軟部肉腫における脳転移の発症と治療方針についての検討
第 48 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 高松 7 月 9 日～10 日, 2015.
- 351.齋田 良知, 神田 章男, 牧野 祐司, 坂本 優子, 森川 大智, 野尻 英俊, 伊坂 陽, 金子和夫
非定型大腿骨骨折不全骨折の予後規定因子の検討
第 33 回日本骨代謝学会学術集会 33 回、 東京、7 月 23 日～25 日
- 352.齋田 良知, 池田 浩, 高澤 祐治, 雪下 岳彦, 中島 啓樹, 長尾 雅史, 小林 洋平, 小林 慶司, 金子和夫
スポーツ選手における ω 3 脂肪酸の摂取が脂質代謝に与える影響の検討
第 26 回日本臨床スポーツ医学会、神戸、11 月 7 日～8 日
- 353.齋田 良知, 池田 浩, 中島 啓樹, 長尾 雅史, 小林 慶司, 小林 洋平, 金子和夫
筋肉腱損傷を伴うハムストリング肉離れに対する多血小板血漿(PRP)療法の経験

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 26 回日本臨床スポーツ医学会、神戸、11 月 7 日～8 日

- 354.齋田 良知, 池田 浩, 中島 啓樹, 長尾 雅史, 小林 洋平, 小林 慶司, 西尾 啓史, 金子 和夫
サッカーにおける傷害の治療の進歩 J-リーグ 20 年の経験から 発生予防と再発予防戦略
第 26 回日本臨床スポーツ医学会、神戸、11 月 7 日～8 日
- 355.齋田 良知, 馬場 智規, 神田 章男, 牧野 祐司, 松本 幹生, 有富 健太郎, 坂本 優子, 森川 大智, 谷口 有, 伊坂 陽, 野尻 英俊, 金子 和夫
非定型大腿骨骨折不全骨折の予後規定因子の検討
第 125 回中部日本整形外科災害外科学会、名古屋、10 月 2 日～3 日
- 356.齋田 良知, 高澤 祐治, 川崎 隆之, 久保田 光昭, 石島 旨章, 金子 晴香, 黒澤 尚, 金子 和夫
遺残靭帯温存解剖学的 1 束前十字靭帯再建術の臨床成績
第 85 回日本整形外科学会、神戸、5 月 17 日～20 日
- 357.齋田 良知(順天堂大学 医学部整形外科学講座), 長尾 雅史, 川崎 隆之, 中島 啓樹, 小林 洋平, 小林 慶司, 金子 和夫, 池田 浩
男子プロサッカー選手における第 5 中足骨疲労骨折の新規リスク因子の発見
第 85 回日本整形外科学会、神戸、5 月 17 日～20 日
- 358.齋田 良知, 池田 浩, 中島 啓樹, 長尾 雅史, 小林 洋平, 小林 慶司, 金子 和夫
プロサッカー選手における第 5 中足骨疲労骨折(Jones 骨折)の発生状況調査
第 7 回 JOSKAS、6 月 19 日、札幌
- 359.齋田 良知, 小林 洋平, 池田 浩, 高澤 祐治, 金子 和夫
サッカー選手の膝関節外傷後関節炎に対する多血小板血漿(PRP)関節内投与の経験
第 7 回 JOSKAS、6 月 19 日、札幌
- 360.齋田 良知, 馬場 智規, 神田 章男, 最上 敦彦, 松本 幹生, 野尻 英俊, 森川 大智, 谷口 有, 伊坂 陽, 金子 和夫
非定型大腿骨不完全骨折の治療 いつ、どんな患者に予防的髄内釘固定を行うべきか?
第 41 回日本骨折治療学会(奈良) 6 月 26 日～27 日
- 361.前田浩行、岩瀬秀明、佐渡山泰永、佐藤太一、金子和夫：
運動器不安定症患者に対する「またぎ動作」の動的動作分析：
第 52 回日本リハビリテーション医学会学術集会、新潟、2015.3 月 28 日・30 日
- 362.最上敦彦、金子和夫：
大腿骨遠位部骨折の基礎と臨床
第 41 回日本骨折治療学会、奈良、2015.6 月 26 日・27 日プログラム抄録集:S13
- 363.最上敦彦、大林治、二村健太郎、岩瀬秀明、金子和夫：
不安定型骨盤輪骨折に対する仙骨・腸骨間ロッド固定に対する仙骨・腸骨間ロッド固定 (SIRE:Sacro-Iliac Rod Fixation)
第 41 回日本骨折治療学会、奈良、2015.6 月 26 日・27 日プログラム抄録集:S31
- 364.小畑宏介、二村健太郎、最上敦彦、大林治、金子和夫：
月状骨関節窩における掌尺側小骨片の整復固定に難渋した等橈骨遠位端骨折の 2 例
第 41 回日本骨折治療学会、奈良、2015.6 月 26 日・27 日プログラム抄録集:S77
- 365.神田章男、諸橋達、最上敦彦、大林治、金子和夫：
寛骨臼骨折術後に対する人工股関節全置換術の治療成績-術後坐骨神経麻痺を生じた 1 例の検討-
第 41 回日本骨折治療学会、奈良、2015.6 月 26 日・27 日プログラム抄録集 S82
- 366.内藤聖人、杉山陽一、小畑宏介、井下田由芳、最上敦彦、大林治、金子和夫：
橈骨遠位端骨折の合併する尺骨遠位端骨折の治療経験-内固定の適応に対する考案-
第 41 回日本骨折治療学会、奈良、2015.6 月 26 日・27 日プログラム抄録集 S112

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

367. 斎田良知、馬場智規、神田章男、最上敦彦、松本幹生、野尻英俊、森川太智、谷口有、伊坂陽、金子和夫：
非定型大腿骨不完全骨折の治療-いつ、どんな患者に予防的髄内釘固定を行うべきか?-
第41回日本骨折治療学会、奈良、2015.6月26日-27日プログラム抄録集 S127
368. 和田知樹、最上敦彦、大林治、金子和夫
上腕骨近位端骨折N e e r 分類 3-4Part に対する髄内釘治療の中期成績
第41回日本骨折治療学会、June、奈良、2015.6月26日-27日プログラム抄録集 S139
369. 三宅喬人、最上敦彦、二村謙太郎、大林治、金子和夫
肘頭骨折に対するマルチプルテンションバンド固定による治療経験
第41回日本骨折治療学会 26-27、2015、奈良、プログラム抄録集 S204
370. 二村謙太郎、最上敦彦、大林治、佐藤和生、松井祐希、上田泰久、倉田佳明、斎藤丈太、辻英樹、金子和夫
足関節部骨折の合併する遠位脛腓骨靱帯結合損傷の整復位評価
第41回日本骨折治療学会、奈良、2015.6月26日-27日プログラム抄録集 S251
371. 武田純、最上敦彦、和田知樹、大林治、金子和夫
SCORPIONR NEO を用いた鎖骨遠位端骨折に対する治療経験
第41回日本骨折治療学会、奈良、2015.6月26-27日プログラム抄録集 S260
372. 前田浩行、岩瀬秀明、金子和夫、前田睦浩、武井裕輔、柿沼裕貴、三井和幸
ターニケット駆血後の運動量から見た運動器合併症の検討
第31回ライフサポート学会大会、福岡、2015.9月7日
373. 神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、金子和夫
多発性骨軟骨腫症に対する人工股関節全置換術
第42回日本股関節学会学術集会、大阪、2015.10月30-31日、プログラム・抄録集 448
374. 諸橋達、神田章男、最上敦彦、金子和夫
臀部痛に対する股関節注射による診断と治療
第42回日本股関節学会学術集会、大阪、2015.10月30日-31日、プログラム・抄録集 480
375. 諸橋達、神田章男、最上敦彦、金子和夫
ショートステム Opthimys の術中骨折症例から考える固定様式と応力集中部位の検討
第42回日本股関節学会学術集会、大阪、2015.10月30日-31日、プログラム・抄録集 524
376. 前田浩行、岩瀬秀明、金子和夫、前田睦浩、柿沼裕貴、武井裕輔、三井和幸
ターニケットによる駆血後の合併症の検討-運動量及び生化学的評価-
第42回日本臨床バイオメカニクス学会、東京、2015.11月13日-14日、プログラム・抄録集:160
377. 佐藤 達哉、米澤 郁穂、奥田 貴俊、嶋村 之利、吉川 慶、高野 弘充、金子 和夫
Dropped Head Syndrome における Isolated Neck Extensor Myopathy の病態と臨床的検討
第44回 日本脊椎脊髄病学会、2015年4月16日、福岡
378. 佐藤 達哉、米澤 郁穂、奥田 貴俊、嶋村 之利、吉川 慶、高野 弘充、金子 和夫
FEM を用いた PLIF におけるインプラント設置位置の生体力学的検討
第30回日本整形外科学会基礎学術集会、2015年10月22日~25日、富山
379. 佐藤 達哉、米澤 郁穂、奥田 貴俊、嶋村 之利、吉川 慶、高野 弘充、金子 和夫
FEM を用いた PLIF におけるインプラント材質の生体力学的検討
日本インストゥルメンテーション学会、新潟 2015、11月6日~7日
380. 佐藤 達哉、米澤 郁穂、奥田 貴俊、嶋村 之利、吉川 慶、高野 弘充、金子 和夫
20歳以下の側彎症手術合併症
日本側弯症学会、新潟 2015、11月5日~6日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 381.金 勝乾, 長尾雅史, 黒澤 尚, 池田 浩, 高澤祐治, 石島旨章, 斎田良知, 野沢雅彦, 金子和夫, 土肥徳秀
前十字靱帯再建術後評価における力学的変量解析を用いた患者立脚型評価法 (JACL-25) の有用性の検討
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日
- 382.野沢雅彦, 前田公一, 坂本優子, 金子和夫
思春期の広範囲大腿骨頭壊死に対する寛骨臼回転骨切り術
第 42 回日本股関節学会学術集会, 大阪, 2015 年 10 月 30-31 日
- 383.坂本優子, 野沢雅彦, 松田圭二, 前田公一, 金勝乾, 鎌田孝一, 馬場智規, 湯浅崇仁, 前澤克彦, 金子和夫
DDH の整復治療の既往が CE 角 0 度以下で施行した RAO に及ぼす影響
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日
- 384.坂本優子, 石島旨章, 金勝乾, 鎌田孝一, 前田公一, 森川大智, 野沢雅彦, 金子和夫
生理的 O 脚とビタミン D 欠乏性くる病は単純レントゲン所見だけで鑑別できるか?
第 33 回日本骨代謝学会, 東京, 2015 年 7 月 25 日
- 385.森川大智, 鎌田孝一, 桑原宏朋, 金子和夫, 野澤雅彦
MRI T2 マッピングを用いた腱板修復術後の腱の質的評価
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日
- 386.森川大智, 糸魚川善昭, 野尻英俊, 佐野博高, 井樋栄二, 西條芳文, 金子和夫, 野沢雅彦
腱板骨付着部変性における酸化ストレスの寄与 (スマホ参加型パネルディスカッション)
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日
- 387.森川大智, 鎌田孝一, 桑原宏朋, 金子和夫
MRIT2 マッピングを用いた修復術後腱板の質的評価
第 42 回日本肩関節学会, 仙台, 2015 年 10 月 9-10 日
- 388.亀田 壮, 金 勝乾, 野沢雅彦, 池田 浩, 斎田良知, 小林洋平, 金子和夫
両側第 5 中足骨骨折に対する超音波ガイド下麻酔による手術療法の有用性
第 41 回日本整形外科学会スポーツ医学会, 京都, 2015 年 9 月 11-12 日
- 389.亀田 壮, 坂本優子, 野沢雅彦, 金子和夫
幼児化膿性足関節および周囲骨髓炎に対して足関節鏡・骨髓鏡にて加療した 1 例
第 40 回日本足の外科学会・学術集会, 千葉, 2015 年 10 月 29-30 日
- 390.清村 幸雄, 黒澤 尚, 石島 旨章, 土屋 勝, 金子 晴香, 定月 亮, 劉 立足, 牧野 祐司, 澤 満美子, 岩瀬 嘉志, 金子和夫
変形性膝関節症の抑うつ状態は滑膜炎と関連する: 横断研究
日本整形外科学会学術総会 2015 年 5 月 21 日 兵庫県神戸市
- 391.小池正人, 野尻英俊, 渡辺憲史, 金子和夫, 清水孝彦
機械的負荷はミトコンドリアスーパーオキシドを介して軟骨変性を誘導する
第 15 回抗加齢医学会総会, 福岡, 2015 年 5 月 29 日~31 日
- 392.野尻英俊, 金子和夫, 清水孝彦
ロコモティブシンドロームと酸化ストレス 基礎的実験から臨床応用への展望. (シンポジウム)
日本整形外科学会合同シンポジウム ロコモティブシンドロームと運動療法. 福岡, 5 月 29 日, 2015
- 393.前澤克彦, 成嶋靖博, 丸山祐一郎, 一青勝雄, 金子和夫
人工股関節全置換術術後の活動能力と股関節周囲筋力との関連性.
第 45 回日本人工関節学会, 福岡, 2015 年 2 月 27 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 394.前澤克彦、湯浅崇仁、酒井健介、野沢雅彦、金子和夫
人工股関節全置換術術後の“メンタル”と股関節周囲筋力。
第42回日本股関節学会学術集会、大阪、2015年10月30-31日
- 395.金澤博明、丸山祐一郎、大沢亜紀、糸魚川善昭、金子和夫
PFC-Sigma人工膝関節全置換術の客観的、立脚的評価の検討—CR, Fixed-PS, Mobile-PS型での比較—
第45回日本人工関節学会、福岡、2015年2月27日
- 396.金澤博明、丸山祐一郎、大沢亜紀、吉田圭一、金子和夫
ACL再建術後の変形性関節症変化—自覚、他覚的評価を踏まえた長期臨床成績とX線学的分析
JOSKAS,札幌、2015年6月19日
- 397.丸山祐一郎、大沢亜紀、金澤博明、吉田圭一、金子和夫
人工膝関節置換術のナビゲーション使用と従来型《2機種》の下肢アライメントの3群比較—
重度内反変形症例の検討—
JOSKAS,札幌、2015年6月19日
- 398.大沢亜紀、金澤博明、吉田圭一、糸魚川義昭、丸山祐一郎、金子和夫
人工膝関節置換術における関節周囲多剤の薬剤による比較
JOSKAS,札幌、2015年6月19日
- 399.湯浅崇仁 前澤克彦 馬場智規 松本幹生 本間康弘 野沢雅彦 金子和夫
大腿骨骨切り術後に行ったセメントレスTHAの臨床成績
日本人人工関節学会 福岡 2015年2月27,28日
- 400.湯浅崇仁 前澤克彦 馬場智規 松本幹生 本間康弘 金子和夫 野沢雅彦
白蓋回転骨切り術後15年以上の長期臨床成績
日本股関節学会 大阪 2015年10月30-31日
- 401.室谷鍊太郎、丸山祐一郎、金子和夫
化膿性脊椎炎待機的前後合併固定術の治療経験 - 骨欠損が及ぼす治療期間への影響 -
第55回関東整形災害外科学会、ラフレ埼玉、浦和市、2015年3月28日
- 402.室谷鍊太郎、丸山祐一郎、金子和夫
慢性期難治性化膿性脊椎炎に対するPTH併用椎体骨置換手術の治療経験 - ステロイド骨粗鬆症症例に対する周術期PTH併用の工夫
第24回日本脊椎インストゥルメンテーション学会、新潟市民芸術文化会館、新潟市、2015年11月7日
- 403.室谷鍊太郎、丸山祐一郎、金子和夫
閉経後骨粗鬆症に対する骨吸収抑制剤の効果判定の検討 - 活性型ビタミンD（エルデカルシトール）の薬剤効果 -
第23回日本腰痛学会、JPタワーホール&カンファレンス、千代田区、2015年11月14日
- 404.糸魚川善昭、Sperling John、Steinmann Scott、Chen Qingshan、Song Pengfei、Chen Shigao、井樋栄二、金子和夫、An Kai-Nan
腱板構成筋の弾性率(硬さ)に対する超音波エラストグラフィーでの評価方法
第7回日本関節鏡、膝、スポーツ整形外科学会 北海道、6/18-20, 2015.
- 405.糸魚川善昭、山本宣幸、金子和夫、井樋栄二
Latarjet手術でのintra articular bone graftは安定性を損なわずに外旋可動域を増加させる
第42回日本肩関節学会 仙台、10/9-10, 2015.
- 406.糸魚川善昭、井樋栄二、金子和夫
超音波剪断波エラストグラフィーを用いた腱板構成筋の弾性率の計測方法

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 42 回日本肩関節学会 仙台, 10/9-10, 2015.

- 407.西嶋智子, 糸魚川善昭, 丸山祐一郎 金子和夫
Corona mortis の走行と骨盤との関係についての解剖学的検討
骨折治療学会、奈良、2015 年 6 月 26-27 日
- 408.青木浩平 工藤俊哉 丸山祐一郎 前澤克彦 金子和夫
足舟状骨体部粉碎骨折に対し一時架橋プレートにて治療した一例
第 4 1 回骨折治療学会 奈良 2015 年 6 月 26, 27 日
- 409.吉田圭一, 糸魚川善昭, 丸山祐一郎, 齋田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
超音波エラストグラフィを用いた腓腹筋内側頭筋腱移行部の弾性率(硬さ)の計測
第 7 回日本関節鏡、膝、スポーツ整形外科学会 北海道, 6/18-20, 2015.
- 410.吉田圭一, 工藤俊哉, 武内紗矢佳, 五味基央, 青木浩平, 山本康弘, 西嶋智子, 金子和夫
大腿骨遠位部骨折の内顆剪断骨片に対して VariAx Elbow Plate を用いた治療経験
第 4 1 回骨折治療学会 奈良 2015 年 6 月 26, 27 日
- 411.吉田圭一, 鳥越知明, 原章, 前澤克彦, 丸山祐一郎, 金子和夫
手掌に発生した superficial acral fibromyxoma の 1 例
第 48 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 高松, 2015 年 7 月 9 日~10 日
- 412.市原理司、Liverneaux Philippe、三上容司、越智健介、原章、楠瀬浩一、金子和夫
手術支援ロボット・da Vinci を使用した絞扼性神経障害に対する神経外剥離術の課題と展望
第 26 回日本末梢神経学会学術総会, 松本, 2015 年 9 月 18-19 日)
- 413.市原理司、原章、工藤俊哉、丸山祐一郎、楠瀬浩一、金子和夫、フィリップ リベルノ、ギロ
ウム プルネリ、宮本英明
フランス・ストラスブールにおけるコンニャクを用いたマイクロサージャリーのトレーニング
方法の紹介
第 42 回日本マイクロサージャリー学会学術集会 埼玉, 2015 年 11 月 26-27 日
- 414.大久保武人、栗原大聖、今西淳悟、若山貴則、矢澤康男、鈴木智成、西川亮、高木辰哉、末原
義之、鳥越知明、金子和夫
骨破壊像を呈し悪性腫瘍と鑑別になった脊髄神経鞘腫の 4 例
第 48 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 高松, 2015 年 7 月 9 日
- 415.越智宏徳、馬場智規、本間康弘、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫
Bikini incision を用いた前方アプローチによる人工股関節全置換術の検討
第 45 回日本人工関節学会, 福岡, 2015 年 2 月 27 日
- 416.越智宏徳 馬場智規 尾崎友 本間康弘 松本幹生 小林英生 野尻英俊 湯浅崇仁 金子
和夫
股関節疾患を有する患者において姿勢変化が骨盤傾斜変化に与える因子の検討
第 42 回日本股関節学会学術集会, 大阪, 2015 年 10 月 30-31 日
- 417.越智 宏徳, 馬場 智規, 本間 康弘, 松本 幹生, 湯浅 崇仁, 野尻 英俊, 金子 和夫
人工股関節全置換術前患者における立位から坐位の骨盤傾斜変化に影響を与える脊椎骨盤因
子の検討
第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 10/22-23, 2015.
- 418.金栄智, 小林英介, 窪田大介, 末原義之, 高木辰哉, 金子和夫, 川井章, 中馬広一, 北野滋久
メタボリックエラーを利用したドキシソルビン耐性肉腫に対する新規治療開発.
第 30 回 日本整形外科学会基礎学術集会
- 419.金栄智, 小林英介, 窪田大介, 末原義之, 高木辰哉, 金子和夫, 川井章, 中馬広一, 北野滋久
メタボリックエラーを利用したドキシソルビン耐性肉腫に対する新規治療開発.
第 48 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 高松, 2015 年 7 月 9 日~10 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 420.金 栄智, 末原 義之, 川崎 隆之, 石井 翠, 松岡 淨, 赤池 慶裕, 向原 健太, 大久保武人, 齋藤 剛, 高木 辰哉, 金子 和夫
IRTに基づくロコモティブシンドローム診断ツールの解析
第88回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015年5月21-24日
- 421.有田均, 中原大志, 岩崎英二, 小林慶司, 高澤祐治, 金子和夫
アキレス腱付着部断裂に対して人工靱帯を用いて再建した1例
第64回東日本整形災害外科学会, 福島, 2015年9月11日
- 422.金子晴香, 石島旨章, 定月亮, 劉立足, 羽田晋之介, 木下真由子, AnwarjanYusup, 小林洋平, 齋田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
末期変形性膝関節症の膝周囲骨変形とビタミンD充足状態との関連
第45回日本人工関節学会, 福岡, 2015年2月27日
- 423.金子晴香, 石島旨章, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, アニワルジャン ユスブ, 二見一平, 金子和夫
軟骨分解マーカー・CTX-IIによる変形性膝関節症の重症度別進行予測
第45回日本人工関節学会, 福岡, 2015年2月27日
- 424.石島旨章, 中潟崇, 町田修一, 内藤久士, 濱田千江子, 石橋雅義, 平澤恵理, 金子晴香, 金子和夫
ロコモ予備軍の日常生活活動度指標におけるリスク因子
第88回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015年5月21-24日
- 425.清村幸雄, 黒澤尚, 石島旨章, 土屋勝, 金子晴香, 定月亮, 劉立足, 牧野祐司, 澤満美子, 岩瀬嘉志, 金子和夫
変形性膝関節症患者の抑うつは滑膜炎と関連する: 横断研究
第88回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015年5月21-24日
- 426.土屋勝, 黒澤尚, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 清村幸雄, 牧野祐司, 澤満美子, 野尻英俊, 岩瀬嘉志, 金子和夫
変形性膝関節症患者における抑うつ状態の影響因子
第88回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015年5月21-24日
- 427.齋田良知, 高澤祐治, 川崎隆之, 久保田光昭, 石島旨章, 金子晴香, 黒澤尚, 金子和夫, 池田浩
遺残靱帯温存解剖学的1束前十字靱帯再建術の臨床成績
第88回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015年5月21-24日
- 428.金乾勝, 長尾雅史, 黒澤尚, 池田浩, 高澤祐治, 石島旨章, 齋田良知, 野沢雅彦, 金子和夫, 土肥徳秀
前十字靱帯再建術後評価における力学的変量解析を用いた患者立脚型質問票(JACL-25)の有用性の検討
第88回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015年5月21-24日
- 429.池上隆司, 高橋健剛, 奥田貴俊, 金子和夫
仰臥位前側方進入法による人工骨頭置換術の有用性
第41回骨折治療学会 奈良 2015年6月26, 27日
- 430.田代 薫, 金山 雅弘, 大羽 文博, 岩田 玲, 遠田 慎吾, 渡辺 堯仁, 橋本 友幸, 金子和夫
腰椎固定術後の遺残腰痛と脊椎骨盤アライメントの関連性
第10回 御茶ノ水脊椎セミナー, 2015年2月, 東京
- 431.田代 薫, 金山 雅弘, 大羽 文博, 岩田 玲, 遠田 慎吾, 渡辺 堯仁, 橋本 友幸, 金子和夫
腰椎固定術後の遺残腰痛と脊椎骨盤アライメントの関連性
第44回 日本脊椎脊髓病学会, 2015年4月16日, 福岡

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 432.田代 薫、金山 雅弘、大羽 文博、岩田 玲、遠田 慎吾、渡辺 堯仁、橋本 友幸、金子 和夫
腰椎固定術後の遺残腰痛と脊椎骨盤アライメントの関連性
第 68 回 道南医学会,2015 年 11 月 21 日,函館
- 433.鈴木雅生、藤原三郎、千野孔三、岩瀬弘明、松尾智次、金子 和夫
膝関節軽度屈曲位での関節外アプローチを用いた脛骨骨幹部骨折に対する髄内釘固定術の治療経験
第 4 1 回骨折治療学会 奈良 2015 年 6 月 26, 27 日
- 434.高持 一矢、末原 義之、茂櫛 薫、高阪 真路、間野 博行、竹内 賢吾、齋藤 剛、鈴木 健司、高橋 和久、高橋 史行
ライバー遺伝子変異検査法の現状と課題 肺腺癌における NanoString を用いたドライバー融合遺伝子の新規スクリーニング法の開発
第 56 回日本肺癌学会学術集会、横浜、2015 年 11 月 26 日-28 日
- 435.向井原 健太、末原 義之、窪田 大介、石井 翠、赤池 慶祐、金子 和夫、齋藤 剛
骨巨細胞腫におけるデノスマブ治療後の網羅的タンパク質発現解析
第 53 回日本癌治療学会学術集会、京都、2015 年 10 月 29 日-31 日
- 436.末原 義之、高阪 真路、向井原 健太、赤池 慶祐、石井 翠、峯木 礼子、藤村 努、數野 彩子、金子 和夫、Ladanyi Marc、齋藤 剛
Ewing 肉腫 EWS/FLI1 融合遺伝子発現に関わる網羅的タンパク質発現解析
第 88 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2015 年 5 月 21 - 24 日
- 437.向井原 健太、末原 義之、高阪 真路、窪田 大介、赤池 慶祐、石井 翠、高木 辰哉、金子 和夫、齋藤 剛
デノスマブ治療後の骨巨細胞腫における網羅的タンパク質発現解析
第 48 回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会、高松、2015 年 7 月 9-10 日
- 438.栗原 大聖、大久保 武人、今西 淳悟、矢澤 康男、藤野 節、中村 勝、瀬山 敦、清水 道生、鳥越 知明、末原 義之、高木 辰哉、金子 和夫
Ollier 病に発生した二次性軟骨肉腫における染色体異常
第 48 回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会、高松、2015 年 7 月 9-19 日
- 439.末原 義之、向井原 健太、赤池 慶祐、石井 翠、高阪 真路、藤村 努、高木 辰哉、金子 和夫、Ladanyi Marc、齋藤 剛
Ewing 肉腫 EWS/FLI1 融合遺伝子発現のプロテオミクス解析
第 48 回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会、高松、2015 年 7 月 9-22 日
- 【学会発表 2016 年】
1. 大和進、中川沙織、不破史子、木村晋也、平山哲、三井田孝
LC-MS/MS を用いた血漿中ファルネシルピロリン酸の高感度定量.
第 26 回生物試料分析科学会年次学術集会、宜野湾、2016 年 2 月 20-21 日
 2. 出居真由美、田部陽子、阿部雅明、濱田千江子、三宅一徳、樋野興夫、三井田孝
腹膜透析患者における N-ERC/mesothelin および C-ERC/mesothelin の検討.
第 63 回日本臨床検査医学会学術集会、神戸、2016 年 9 月 1-4 日
 3. 藍智彦、三井田孝、マッテオ・バッタ
QT 延長と心筋症を合併した症例で発見された Syntrophin と RBM20 の遺伝子異常.
第 63 回日本臨床検査医学会学術集会、神戸、2016 年 9 月 1-4 日
 4. 長尾侑紀、平山哲、笹本健太、平山安希子、一色美和、宮崎修、三井田孝
喫煙がコレステロール代謝における HDL 成熟に及ぼす影響.
第 63 回日本臨床検査医学会学術集会、神戸、2016 年 9 月 1-4 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

5. 笹本健太, 平山哲, 上野剛, 長尾侑紀, 杉原匡美, 三井田孝
脂質異常血清における検体保存時の HDL-C 測定値とアポ E の関係.
第 63 回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016 年 9 月 1-4 日
6. 平山哲, 宗田聡, 中川沙織, 不破史子, 上野剛, 笹本健太, 長尾侑紀, 田村昌大, 平山安希子, 杉原匡美, 大和進, 三井田孝
2 型糖尿病における血清脂質とコレステロール合成および吸収の関連.
第 63 回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016 年 9 月 1-4 日
7. 中川沙織, 不破史子, 荒金尚子, 佐藤明美, 木村晋也, 平山哲, 三井田孝, 大和進
LC-MS/MS を用いた血漿中ファルネシルピロリン酸の定量とガン患者検体への応用.
日本薬学会第 136 年会, 横浜, 2016 年 3 月 26-29 日
8. Ogawa A., Osada T., Hirose S., Tanaka M., Wada H., Yoshizawa Y., Imai Y., Machida T., Akahane M., Shirouzu I., Konishi S.
Orbitofrontal-hypothalamic functional interaction revealed by high-resolution resting-state fMRI
日本神経科学学会、横浜、2016 年 7 月 20 日
9. 木下真由子, 金子晴香, 石島旨章, 定月亮, 二見一平, 羽田晋之介, 有田均, 塩澤淳, 平澤恵理, 山田吉彦, 金子和夫
滑膜間葉系細胞の軟骨分化におけるパールカンの作用機序
第 29 回日本軟骨代謝学会, 広島, 2016 年 2 月 19-20 日
10. 塩澤淳, 金子晴香, 永山正隆, 宮崎哲朗, 比企優, 石島旨章, 羽田晋之介, 木下真由子, 劉立足, 代田浩之, 金子和夫
人工膝関節置換術後の深部静脈血栓症発生リスクとしての血清多価不飽和脂肪酸
第 46 回日本人工関節学会, 大阪, 2016 年 2 月 26-27 日
11. 劉立足, 石島旨章, 金子晴香, 羽田晋之介, 木下真由子, アニワルジャン・ユスブ, 塩澤淳, 有田均, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
人工膝関節置換術後 1 年の臨床症状の関連因子としての術後下肢アライメント指標
第 46 回日本人工関節学会, 大阪, 2016 年 2 月 26-27 日
12. 木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 有田均, 塩澤淳, 坂本優子, 山中誠, 野尻英俊, 金子和夫
血清カルシウム基準範囲下位 3 分位ではビスフォスホネートと活性型ビタミン D 製剤併用療法による骨密度増加効果が不十分である
第 89 回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016 年 5 月 12-15 日
13. 坂本優子, 石島旨章, 鈴木光幸, 金勝乾, 鎌田孝一, 前田公一, 林健太郎, 桑原宏朋, 櫻本浩司, 森川大智, 時田章史, 清水俊明, 野沢雅彦
O 脚の幼児が血液検査上の診断基準を満たすビタミン D 欠乏性くる病か否かは単純 X 線と問診だけでは区別がつかない場合がある
第 89 回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016 年 5 月 12-15 日
14. 金子晴香 1, 石島旨章 1,2, 石橋雅義 3, 有田均 1,2, 劉立足 1,2, 定月亮 1,2, 羽田晋之介 1, 木下真由子 1, 高澤祐治 1, 池田浩 1, 金子和夫
小型歩行解析装置による変形性膝関節症に対する術前後の歩行解析
第 89 回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016 年 5 月 12-15 日
15. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, アニワルジャンユスブ, 木下真由子, 有田均, 塩澤淳, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
初期内側型変形膝関節症における内側半月板側方偏位と内側半月板変性との関連
第 89 回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016 年 5 月 12-15 日
16. 清村幸雄, 黒澤尚, 石島旨章, 劉立足, 金子晴香, 土屋勝, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, 岩瀬嘉志, 金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

内側型変形性膝関節症の臨床症状は膝内反化にて増強する
第 89 回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016 年 5 月 12-15 日

17. 塩澤淳, 金子晴香, 永山正隆, 宮崎哲朗, 比企優, 石島旨章, 羽田晋之介, 木下真由子, 劉立足, 代田浩之, 金子和夫
TKA 術後深部静脈血栓症発生患者では血清アラキドン酸 (AA) 高値及び EPA/AA 比低値である
第 89 回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2016 年 5 月 12-15 日
18. 木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 二見一平, 平澤恵理, Goldring MB, Yamada Y, 金子和夫
パールカンによる滑膜間葉系細胞からの軟骨分化制御
日本結合組織学会, 2016 年 6 月 24-25 日, 長崎
19. 塩澤淳, 高澤祐治, 羽田晋之介, 小林洋平, 金子晴香, 斎田良知, 石島旨章, 池田浩, 金子和夫
Fabella 骨折・膝複合靱帯損傷に伴う腓骨神経麻痺に対して 1 次修復術を行った 1 例
第 8 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS), 2016 年 7 月 28 日～30 日, 福岡
20. 有田均, 金子晴香, 塩澤淳, 羽田晋之介, 石橋雅義, 定月亮, 石島旨章, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
患者立脚型機能評価は末期変形性膝関節症患者の歩行動態を反映する
第 8 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS), 2016 年 7 月 28 日～30 日, 福岡
21. 劉立足, 石島旨章, 金子晴香, 羽田晋之介, 木下真由子, アニワルユスプ, 塩澤淳, 有田均, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
人工膝関節置換術後の疼痛及び臨床症状に影響を与える術後下肢アライメント指標のカットオフ値
第 34 回日本骨代謝学会, 大阪, 2016 年 7 月 20 日～23 日
22. Yusup A, Ishijima M, Kaneko H, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita S, Arita H, Shiozawa J, Futami I, Shimura Y, Kamagata K, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda Y, Kaneko K
末期変形性膝関節症の滑膜炎と軟骨下骨病変は関連する
第 34 回日本骨代謝学会, 大阪, 2016 年 7 月 20 日～23 日
23. 木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, アニワルユスプ, 有田均, 塩澤淳, 山中誠, 坂本優子, 野尻英俊, 金子和夫
ビスホスホネートと活性型ビタミン D 併用療法に対する骨密度増加効果の最適条件の部位的差異
第 34 回日本骨代謝学会, 大阪, 2016 年 7 月 20 日～23 日
24. 木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 有田均, 塩澤淳, 坂本優子, 山中誠, 野尻英俊, 金子和夫
ビスホスホネートと活性型ビタミン D 製剤併用療法による骨密度増加のための最適条件の検討
第 18 回日本骨粗鬆症学会, 仙台, 2015 年 10 月 6 日～8 日
25. 有田均, 石島旨章, 金子晴香, 石橋雅義, 羽田晋之介, 木下真由子, 定月亮, 劉立足, 塩澤淳, アニワルジャン・ユスプ, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
末期変形性膝関節症患者の臨床症状と歩行動態は患側の歩行時中心足底圧と関連する
第 31 回日本整形外科学会基礎学術集会, 福岡, 2015 年 10 月 13-14 日
26. 木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, アニワルジャン ユスプ, 塩澤淳, 有田均, 田村好史, 綿田裕孝, 河盛隆三, 金子和夫
壮年期変形性膝関節症発症前膝関節裂隙狭小化と軟骨代謝動態との関連-3 年間の縦断研究
第 31 回日本整形外科学会基礎学術集会, 福岡, 2015 年 10 月 13-14 日
27. 木下真由子, 金子晴香, 石島旨章, 定月亮, 二見一平, 羽田晋之介, 有田均, 塩澤淳, 平澤恵理, 山田吉彦, 金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

パールカンによる滑膜間葉系細胞からの軟骨分化制御

第 31 回日本整形外科学会基礎学術集会, 福岡, 2015 年 10 月 13-14 日

28. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 木下真由子, 有田均, 塩澤淳, Anwarjan Yusup, 高澤祐治, 池田浩, 岡田保典, 金子和夫
変形性膝関節症の初期変化としての骨棘は内軟骨性骨化に類似した過程を経て形成され
MRI・T2 マッピング法にて正確に評価可能となる
第 31 回日本整形外科学会基礎学術集会, 福岡, 2015 年 10 月 13-14 日
29. 有田均, 金子晴香, 石島旨章, 石橋雅義, 劉立足, 羽田晋之介, 木下真由子, 塩澤淳, 長尾雅史, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
装着型小型歩行解析装置を用いた人工関節置換術を必要とする末期変形性関節症患者の階段下降時の歩行動態
第 47 回日本人工関節学会, 2017 年 2 月 24-25 日, 沖縄
30. 金子晴香 1, 石島旨章 1,2, 木下真由子 1, 有田均 1, 塩澤淳 1, 長尾雅史 1, 高澤祐治 1, 池田浩 1, 金子和夫
末期変形性膝関節症のビタミン D 充足状態と下肢アライメント
第 57 回関東整形災害外科学会, 2017 年 3 月 17-18 日, 東京
31. 本井ゆみ子, 松本信英, 亀谷富由樹, 石黒幸一, 長谷川成人, 服部信孝
The twenty-four kDa C-terminal tau fragment associates with propagation and calpain digestion
第 57 回日本神経学会総会 2016 年 5 月 18 日～21 日
32. 竹重遥香, 林徹生, 中山 茶千子, 西岡健弥, 波田野琢, 本井ゆみ子, 服部信孝
ドパーミントランスポーターシンチグラフィにて顕著な結合低下を示した N279K タウ変異をもつ前頭側頭葉変性症の 5 症例
第 57 回日本神経学会総会 2016 年 5 月 18 日～21 日
33. 谷 もも, 高野喜久雄, 本井ゆみ子, 服部信孝
超高齢進行期認知症症例の中核症状に対する認知症治療薬の反応についての検討
2016 年 12 月 1 日～3 日 第 35 回日本認知症学会学術集会 東京
34. 田中亮太, 志村秀樹, 島田佳明, 寺本紳一郎, 新井一, 卜部貴夫, 服部信孝
Small Heat Shock Protein HSP27 を用いた急性期脳梗塞の新たな治療戦略
第 41 回脳卒中学会総会、札幌、2016 年 4 月 14 日
35. 栗田尚英, 山城一雄, 黒木卓馬, 上野祐司, 田中亮太, 山城雄一郎, 野本康二, 高橋琢也, 辻浩和, 朝原崇, 服部信孝
急性期脳梗塞における腸内細菌の関与
第 41 回脳卒中学会総会、札幌、2016 年 4 月 16 日
36. 栗田尚英, 山城一雄, 黒木卓馬, 上野祐司, 田中亮太, 山城雄一郎, 野本康二, 高橋琢也, 辻浩和, 朝原崇, 服部信孝
糖尿病マウスを用いた急性期脳梗塞巣の組織障害における腸内細菌の関与
第 57 回日本神経学会学術大会、神戸、2016 年 5 月 20 日
37. 栗田尚英, 山城一雄, 黒木卓馬, 上野祐司, 田中亮太, 山城雄一郎, 野本康二, 高橋琢也, 辻浩和, 朝原崇, 卜部貴夫, 服部信孝
急性期脳梗塞における腸内細菌の関与
第 59 回日本脳循環代謝学会学術大会、徳島、2016 年 11 月 12 日
38. 中島翔, 平健一郎, 田中亮太, 栗田尚英, 宮元伸和, 上野祐司, 山城一雄, 服部信孝
2 型糖尿病マウスにおける発症前運動習慣と脳保護効果
第 59 回日本脳循環代謝学会学術大会、徳島、2016 年 11 月 11 日
39. 平健一郎, 上野祐司, 黒木卓馬, 島田佳明, 宮元伸和, 山城一雄, 田中亮太, 卜部貴夫, 服部

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

信孝

脳虚血後の軸索再生と Semaphorin3A の発現に関する検討
第 59 回日本脳循環代謝学会学術大会、徳島、2016 年 11 月 11 日

40. 宮元伸和、眞木崇州、Ji Hae Seo, 田中亮太、Irwin H Gelman, Eng H. Lo, 荒井健、卜部貴夫、服部信孝
オリゴデンドロサイト新生に対する AKAP12 の重要性
第 59 回日本脳循環代謝学会学術大会、徳島、2016 年 11 月 11 日
41. 栗田尚英、山城一雄、黒木卓馬、上野祐司、田中亮太、山城雄一郎、野本康二、高橋琢也、辻浩和、朝原崇、服部信孝
糖尿病マウスにおける腸内細菌叢の異常と急性期脳梗塞巣の組織障害
第 42 回日本脳卒中学会学術集会、大阪、2017 年 3 月 16 日、大阪
42. 中島翔、平健一郎、田中亮太、栗田尚英、宮元伸和、上野祐司、山城一雄、服部信孝
2 型糖尿病マウスにおける発症前運動習慣と脳保護効果
第 42 回日本脳卒中学会学術集会、大阪、2017 年 3 月 16 日、大阪
43. 平健一郎、上野祐司、黒木卓馬、島田佳明、宮元伸和、山城一雄、田中亮太、卜部貴夫、服部信孝
脳虚血後の軸索再生と Semaphorin3A の発現に関する検討
第 42 回日本脳卒中学会学術集会、大阪、2017 年 3 月 16 日、大阪
44. 宮元伸和、眞木崇州、Ji Hae Seo, 田中亮太、Irwin H Gelman, Eng H. Lo, 荒井健、卜部貴夫、服部信孝
オリゴデンドロサイト新生に対する AKAP12 の重要性
第 42 回日本脳卒中学会学術集会、大阪、2017 年 3 月 16 日、大阪
45. 服部信孝
オートファジー促進によるミトコンドリアクリアランス上昇薬理作用とする新たなパーキンソン病治療薬開発 (岡野拠点)
AMED 疾患特異的 iPS 細胞を活用した難病研究事業の成果報告会、TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター、2017 年 2 月 24 日、東京
46. 栗田実佳、若林侑香、飯村祐子、後藤広昌、内田豊義、池田富貴、金澤昭雄、藤谷与士夫、綿田裕孝
ポリコナゾール投与直後にインスリン投与量が著減したステロイド糖尿病の 1 例
第 53 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会、神奈川県 (日本)、2016.1.23-24(2016.1.23)、口演
47. 若林侑香、佐藤淳子、後藤広昌、内田豊義、池田富貴、金澤昭雄、金井数明、藤谷与士夫、高梨雅史、服部信孝、綿田裕孝
糖尿病診断を契機に確定診断に至ったミトコンドリア病中年男性の一例
第 53 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会、神奈川県 (日本)、2016.1.23-24(2016.1.23)、口演
48. 佐藤淳子、金澤昭雄、牧田寿美子、波多江千恵、小宮幸次、清水友章、池田富貴、渡邊威仁、藤谷与士夫、綿田裕孝
2 型糖尿病患者における糖質制限食 (130 g/日) の有用性と安全性
第 113 回日本内科学会総会、東京都 (日本)、2016.4.15-17、ポスター
49. 福中彩子、藤谷与士夫、深田俊幸、梶村真吾、綿田裕孝
亜鉛トランスポーター ZIP13 による脂肪細胞褐色化制御機構の解明
第 89 回日本内分泌学会学術総会、京都府 (日本)、2016.4.21-23(2016.4.21)、若手研究奨励賞 (YIA) 審査講演
50. 古川康彦、田村好史、竹野景海、船山崇、鈴木瑠璃子、加賀英義、渡邊隆宏、染谷由希、藤谷与士夫、河盛隆造、綿田裕孝
日本人非肥満 2 型糖尿病患者における肝内脂肪蓄積及び肝逸脱酵素と臓器特異的インスリン感受性の関連性

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 89 回日本内分泌学会学術総会, 京都府 (日本), 2016.4.21-23(2016.4.22), 口演

51. 若杉理美, 早稲田直子, 児玉悠紀, 佐藤淳子, 伊藤千春, 後藤広昌, 内田豊義, 池田富貴, 金澤昭雄, 加藤悦郎, 宮崎哲朗, 藤田修英, 丹下祐一, 石井尚登, 藤谷与士夫, 代田浩之, 新井一, 綿田裕孝
急性腎障害を合併し尿量管理に難渋した頭蓋咽頭腫術後中枢性尿崩症の 1 例
第 89 回日本内分泌学会学術総会, 京都府 (日本), 2016.4.21-23(2016.4.22), ポスター
52. 木村菜摘, 鈴木路可, 増山敦, 後藤広昌, 内田豊義, 池田富貴, 金澤昭雄, 牧野真太郎, 藤谷与士夫, 板倉敦夫, 竹田省, 綿田裕孝
妊娠糖尿病の治療経過中に診断し得た褐色細胞腫合併妊婦の 1 例
第 89 回日本内分泌学会学術総会, 京都府 (日本), 2016.4.21-23(2016.4.22), ポスター
53. 中島朋, 若林侑香, 飯村祐子, 後藤広昌, 内田豊義, 池田富貴, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
摂食障害の既往を持つ菜食主義者に生じたビタミン D 欠乏性骨軟化症の一例
第 89 回日本内分泌学会学術総会, 京都府 (日本), 2016.4.21-23(2016.4.23), ポスター
54. 氷室美和, 池田富貴, 後藤広昌, 小宮幸次, 荻原健, 金澤昭雄, 大村千恵, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
当院における妊娠糖尿病患者の出産後耐糖能の検討
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府 (日本), 2016.5.19-21(2016.5.19), ポスター
55. 中島健一, 池田富貴, 早稲田直子, 若林侑香, 登坂祐佳, 竹野景海, 後藤広昌, 清水友章, 荻原健, 綿田裕孝
インスリン頻回注射から Sensor Augmented Pump (SAP) 療法導入による有効性の検討
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府 (日本), 2016.5.19-21(2016.5.19), ポスター
56. 佐々木周伍, 宮塚健, 松岡孝昭, 藤谷与士夫, 綿田裕孝, 下村伊一郎
 β 細胞新生には 2 つの異なる分化様式が存在する
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府 (日本), 2016.5.19-21(2016.5.19), 若手研究奨励賞(YIA)審査口演
57. 三浦正樹, 宮塚健, 松岡孝昭, 佐々木周伍, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
Stat3 シグナルの抑制は膵腺房細胞から β 細胞へのリプログラミングを亢進させる
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府 (日本), 2016.5.19-21(2016.5.19), 若手研究奨励賞(YIA)審査口演
58. 吉田千紗, 池田富貴, 堀綾, 佐藤淳子, 田村好史, 宮塚健, 清水友章, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
従来の CSII から Sensor Augmented Pump (SAP) への切り替え症例の検討
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府 (日本), 2016.5.19-21(2016.5.19), ポスター
59. 熊代尚記, 古川康彦, 船山崇, 竹野景海, 白神伸之, 佐野泰清, 田村好史, 河盛隆造, 綿田裕孝, 弘世貴久
日本人 NAFLD 患者の肝インスリン感受性保持因子として、アディポネクチンとミトコンドリアクエン酸回路が関与する
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府 (日本), 2016.5.19-21(2016.5.20), ポスター
60. 片上直人, 二宮浩世, 高原充佳, 河盛段, 松岡孝昭, 遅野井健, 清水一紀, 大野敬三, 石橋不可止, 今村憲市, 川井紘一, 柏木厚典, 河盛隆造, 下村伊一郎, 山崎義光
炎症に関連する遺伝子多型の集積は心血管疾患に関連する
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府 (日本), 2016.5.19-21(2016.5.20), 口演
61. 橋上聖, 三田智也, 片上直人, 綿田裕孝, 下村伊一郎
J-DISCOVER: 日本の実臨床下における 2 型糖尿病患者の治療実態調査 ベースライン報告(前向きコホート研究)
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府 (日本), 2016.5.19-21(2016.5.20), ポスター

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

62. 中村二郎, 植木浩二郎, 谷澤幸生, 綿田裕孝, 山田祐一郎, 下村伊一郎, 西村理明, 山崎力, 門脇孝
大規模臨床研究 J-BRAND Registry : 第3回中間報告
第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府(日本), 2016.5.19-21(2016.5.20), ポスター
63. 藤谷与士夫, 藤本新平, 高橋清仁, 佐藤博亮, 弘世貴久, 日吉徹, 藍真澄, 岡田洋右, 五所正彦, 三田智也, 綿田裕孝
リナグリプチンの食後血糖に及ぼす効果の検討: Linagliptin Study of Effects on Postprandial blood glucose (L-STEP) 研究
第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府(日本), 2016.5.19-21(2016.5.20), 口演
64. 本田彬, 小宮幸次, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
p62 欠損が膵β細胞機能に与える影響
第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府(日本), 2016.5.19-21(2016.5.20), ポスター
65. 鈴木路可, 宮塚健, 西尾理恵, 内田豊義, 後藤広昌, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
Everolimusによるインスリン分泌抑制機序の検討ー症例検討およびin vitro 実験を通じてー
第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府(日本), 2016.5.19-21(2016.5.20), 口演
66. 古川康彦, 田村好史, 竹野景海, 船山崇, 鈴木瑠璃子, 加賀英義, 渡邊隆宏, 寛佐織, 藤谷与士夫, 河盛隆造, 綿田裕孝
日本人非肥満2型糖尿病患者における肝内脂肪蓄積及び肝逸脱酵素と臓器特異的インスリン感受性の関連性
第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府(日本), 2016.5.19-21(2016.5.21), 口演
67. 竹野景海, 田村好史, 寛佐織, 船山崇, 古川康彦, 加賀英義, 鈴木瑠璃子, 染谷由希, 河盛隆造, 綿田裕孝
インスリンクリアランスとインスリン抵抗性、空腹時インスリン値の生理学的関連性
第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府(日本), 2016.5.19-21(2016.5.21), 口演
68. 山本裕一, 宮塚健, 佐々木周伍, 久保典代, 宮下和幸, 安田哲行, 綿田裕孝, 金藤秀明, 松岡孝昭, 下村伊一郎
転写因子 Pdx1 は Akita マウスのβ細胞不全を改善する
第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府(日本), 2016.5.19-21(2016.5.21), 口演
69. 荒木栄一, 山下静也, 荒井秀典, 横手幸太郎, 佐藤譲, 井口登與志, 中村二郎, 前川聡, 吉岡成人, 谷澤幸生, 綿田裕孝, 菅波秀規, 石橋俊
選択的 PPARα モジュレーター (SPPARMa)・K-877 による脂質異常症合併2型糖尿病患者の糖脂質代謝への影響 (国内二重盲検)
第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府(日本), 2016.5.19-21(2016.5.21), 口演
70. 佐藤淳子, 金澤昭雄, 牧田寿美子, 波多江千恵, 小宮幸次, 清水友章, 池田富貴, 田村好史, 荻原健, 三田智也, 後藤広昌, 内田豊義, 宮塚健, 竹野景海, 島田聡, 大村千恵, 渡邊威仁, 小林喜代恵, 三浦佳子, 岩岡愛美, 飯島香織, 平嶋奈緒, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
2型糖尿病患者における糖質制限食研究 (130g/日)・終了後1年の経過報告
第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府(日本), 2016.5.19-21(2016.5.21), 口演
71. 加藤晴香, 廣居伸蔵, 宇田晃仁, 土屋志織, 寺島玄, 田村好史
2型糖尿病患者におけるメトホルミンと DPP-4 阻害薬の使用実態
第54回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県(日本), 2017.1.21-22(2017.1.21), 口演
72. 飯田真由, 金澤昭雄, 西尾理恵, 児玉悠紀, 増山敦, 中島健一, 片平雄大, 氷室美和, 若林侑香, 池田富貴, 後藤広昌, 内田豊義, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
ステロイド使用中の2型糖尿病患者における超速効性インスリンと速効性インスリンの食後高血糖に対する効果の比較検討
第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府(日本), 2016.5.19-21(2016.5.21), 口演

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

73. 綿田裕孝
アジア人 2 型糖尿病患者に対するインスリン導入療法としてのインスリンリスプロ混合剤 25 と 50 の比較試験－日本人部分集団解析結果
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府 (日本), 2016.5.19-21(2016.5.21), 口演
74. 竹野景海, 田村好史, 笈佐織, 船山崇, 古川康彦, 加賀英義, 鈴木瑠璃子, 染谷由希, 河盛隆造, 綿田裕孝
健常者におけるインスリンクリアランスと肥満との関連性
第 37 回日本肥満学会, 東京都 (日本), 2016.10.7-8(2016.10.7), ポスター
75. 江島弘晃, 笈佐織, 田村好史, 河盛隆造, 綿田裕孝.
長期間の高脂肪食摂取は筋線維タイプを変化させ発揮筋力の低下を引き起こす.
第 168 回日本体力医学会関東地方会、首都大学東京、荒川キャンパス、2016 年 12 月
76. 江島弘晃, 笈佐織, 田村好史, 河盛隆造, 綿田裕孝.
12 週間の高脂肪食摂取は骨格筋の疲労耐性を亢進させる. 第 71 回日本体力医学会大会、アイーナ、マリオス、岩手、2016 年 9 月
77. 江島弘晃, 田村好史, 中村京子, 笈佐織, 呉林なごみ, 村山尚, 柿木亮, 河盛隆造, 綿田裕孝.
2 型糖尿病は細胞内 Ca^{2+} 恒常性の障害に伴い筋機能の低下を惹起する.
第 2 回筋学会. 国立精神・神経研究医療研究センター、東京、2016 年 8 月
78. 笈佐織, 田村好史, 加賀直子, 池田真一, 河盛隆造, 綿田裕孝
不活動・高脂肪食によるインスリン抵抗性惹起について
第 37 回日本肥満学会, 東京都 (日本), 2016.10.7-8(2016.10.7), ポスター
79. 齊藤実穂, 平井千裕, 竹田純, 上里忠好, 牧野真太郎, 板倉敦夫, 竹田省, 池田富貴, 綿田裕孝
当院における 50gGCT 導入前後の GDM 合併妊婦の検討 (1 年間)
第 32 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 岡山県 (日本), 2016.11.18-19(2016.11.18), 口演
80. 上里忠好, 荻原健, 板倉敦夫, 竹田省, 綿田裕孝
妊娠期の膵 β 細胞における PBK の役割
第 32 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 岡山県 (日本), 2016.11.18-19(2016.11.19), ポスター
81. 持田曜弘, 遅野井雄介, 篠原舞, 玉城晶子, 後藤広昌, 金澤昭雄, 綿田裕孝
潰瘍性大腸炎でステロイド使用中に発症した劇症 1 型糖尿病の 1 例
第 54 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県 (日本), 2017.1.21-22(2017.1.21), 口演
82. 飯田真由, 後藤広昌, 鶴澤博嗣, 早稲田直子, 岩下紋子, 金澤昭雄, 綿田裕孝
混合性酸塩基平衡障害の為アルカレミアを呈した糖尿病性ケトアシドーシスの 1 例
第 54 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県 (日本), 2017.1.21-22(2017.1.21), 口演
83. 氷室美和, 宮塚健, 鈴木路可, 小池正人, George, K. G., 藤谷与士夫, 綿田裕孝
膵 α 細胞のオートファジー不全は膵島の形態異常をきたす
第 31 回日本糖尿病・肥満動物学会, 神奈川県 (日本), 2017.2.10-11(2017.2.10), 口演 (若手研究奨励賞審査)
84. 三浦正樹, 宮塚健, 松岡孝昭, 佐々木周伍, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
Stat3 シグナルの抑制は膵腺房細胞から β 細胞へのリプログラミングを亢進させる
第 31 回日本糖尿病・肥満動物学会, 神奈川県 (日本), 2017.2.10-11(2017.2.10), 口演
85. 鈴木路可, 宮塚健, 氷室美和, 神谷麻衣, 三浦正樹, 藤谷与士夫, 西田友哉, 綿田裕孝
膵 β 細胞における時間特異的 Atg7 欠損マウスの作製と機能解析
第 31 回日本糖尿病・肥満動物学会, 神奈川県 (日本), 2017.2.10-11(2017.2.10), 口演 (若手研究奨励賞審査)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

86. 藤本進一郎、高村和久、川口裕子、加藤悦郎、比企誠、土肥智貴、隈丸加奈子、代田浩之
Development of comprehensive plaque evaluation by coronary CT angiography.
第 48 回日本動脈硬化学会学術集会, 東京, 2016.7 (シンポジウム)
87. 加藤悦郎、藤本進一郎、高村和久、川口裕子、青島千紘、比企誠、隈丸加奈子、代田浩之：
320 列冠動脈 CT による 1 回転撮影像から解析した Transluminal attenuation gradient (TAG)
の意義。
第 64 回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016. 9
88. Shinichiro Doi, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada,
Takashi Shimizu, Hiroki Nishiyama, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Tomotaka Dohi, Hiroshi
Iwata, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
A Case of successful PCI in LAD-CTO with large severe calcified aneurysm in young adult
with history of Kawasaki disease
Complex Cardiovascular Therapeutics 2016・神戸・2016/10/21
89. Toshihito Onda, Kenji Inoue, Satoru Suwa, Takatoshi Kasai, Yuichi Chikata,
Masayuki Shiozaki, Tatsuro Aikawa, Yuki Kimura, Kentaro Fukuda, Iwao Okai,
Akihisa Nishino, Yoshiyuki Masaki, Yasumasa Fujiwara, Masataka Sumiyoshi,
Hiroyuki Daida
A Comparison of Biomarkers and Risk Scores on Risk Stratification for Patients with Acute
Coronary Syndrome
第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
90. Tomoyasu Kadoguchi, Kazunori Shimada, Tomoyuki Shiozawa, Shuuhei Takahashi,
Hamad Al Shahi, Koji Akita, Tetsuro Miyazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Angiotensin II-induced NAD(P)H Oxidase 4 Activation is Involved in Protein Degradation
in Skeletal Muscle Cells
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3
月 18－20 日
91. Kazunori Shimada, Takuma Yoshihara, Miho Nishitani-Yokoyama, Tomoyasu Kadoguchi,
Eiryu Sai, Tomoyuki Shiozawa, Koji Akita, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Tetsuro
Miyazaki, Kikuo Isoda, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Anti-inflammatory Strategies for Preventing Cardiovascular Events
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3
月 18－20 日
92. 設楽準、荻田学、宮内克己、和田英樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛
西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之
Association between Sustained Increase of C-reactive Protein (CRP) and Long-term
Mortality in Patients with Coronary Artery Disease Treated with PCI
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3
月 18－20 日
93. 土井信一郎、岡崎真也、圓山雅己、藤本進一郎、掛水真帆、土肥静之、桑木賢次、稲田英一、
天野篤、代田浩之
BAV による Bridge therapy により TA ハイリスク症例を TF TAVI に移行できた CKD 患者の
一例
第 7 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会・大阪・2016/8/11
94. 田村浩、岡崎真也、遠藤裕久、和田英樹、清水孝史、西山大樹、内藤亮、華藤芳輝、土井智貴、
岡井巖、磯田菊生、宮内克己、代田浩之
BMS にて冠動脈瘤を治療した 5 症例に対する検討
第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8
95. 清水孝史、宮内克己、土肥智貴、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、華藤芳輝、荻田学、葛西隆敏、
田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- Body Mass Index and Long-term Clinical Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention: Results from the Juntendo PCI Registry
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
96. Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Clinical Features and Outcomes in the Elderly Following Percutaneous Coronary Intervention between 1985 and 2010
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
97. Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Yoshiteru Kato, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Comparison of Benefits between Second-Generation Drug-Eluting Stents Versus Bare Metal Stents in Hemodialysis Patients
第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8
98. Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Takatoshi Kasai, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
FRS: Prognostic Utility of Lipid Parameters or hs-CRP on Long-term Outcomes in Patients Undergoing PCI Treated with/without Statin Therapy
第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
99. 和田英樹、荻田 学、宮内克己、設楽 準、遠藤裕久、土井信一郎、内藤 亮、小西宏和、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之
Gender difference in patients with statin therapy following percutaneous coronary intervention.
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
100. 園田健人、荻田 学、宮内克己、小西宏和、坪井秀太、内藤 亮、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之
Gender difference of lipoprotein (a) and long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease after percutaneous coronary intervention
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24
101. Hideki Wada, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Hiroshi Tamura, Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Gender Differences in Mid-term Outcomes among Patients with Acute Coronary Syndrome Treated by Percutaneous Coronary Intervention 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
102. 和田英樹、荻田学、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之
Gender Differences in Patients with Statin Therapy Following Percutaneous Coronary Intervention
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/25
103. 高野明日香、岩田洋、大澤翔太、田村浩、磯田菊生、岡崎真也、宮内克己、天野篤、代田浩之
Higher Heart Rate Increases the Risk of Thrombocytopenia in Patients with Intra-Aortic Balloon Pump (IABP) counterpulsation
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
104. 和田英樹、土肥智貴、宮内克己、代田浩之

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Impact of Albumin on prognosis in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention

第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/11

105. 西山大樹、宮内克己、内藤亮、小西宏和、華藤芳輝、土肥智貴、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之

Impact of Glycemic Control on the Long-term Outcome in Patients after Percutaneous Coronary Intervention

The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日

106. 園田健人、荻田学、宮内克己、小西宏和、和田英樹、内藤亮、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之

Impact of Lipoprotein (a) as Residual Risk on Clinical Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statin after PCI

The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日

107. Shinichiro Doi, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Yoshiteru Kato,

Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida

Impact of Seasonal Variation on Long-term Outcomes in Acute Coronary Syndrome who Underwent Percutaneous Coronary Intervention

第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/23

108. 秋田耕嗣、磯田菊生、島田和典、代田浩之

I κ BNS 欠損は LDL 受容体欠損マウスにおいてマクロファージの IL-6 産生増加を誘導し、動脈硬化を促進する

第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14-15 日

109. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Ryo Naitoh, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida

Lipoprotein (a) Predicts Long-term Cardiovascular Events in Patients after Percutaneous Coronary Intervention

第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19

110. Hirohisa Endo, Yuji Nishizaki, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida

Prognostic Implication of Atrial Fibrillation in Acute Coronary Syndrome; Sub-analysis from PACIFIC Registry

第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/18

111. Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Takatoshi Kasai, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida

Prognostic Utility of Lipid Parameters or hs-CRP on Long-term Outcomes in Patients Undergoing PCI Treated with/without Statin Therapy

The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日

112. Shinichiro Doi, Morimasa Takayama, Shinya Okazaki, Hiroyuki Daida

PTSMA により心室性不整脈の改善が得られた閉塞性肥大型心筋症の 1 例

東京 HOCM フォーラム 2016・東京・2016/10/29

113. Hideki Wada, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hirokazu Konishi, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida

Relation between Oral Beta-Blocker Therapy and Outcome in Patients with Acute

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Coronary Syndrome Preserved Left Ventricular Ejection Fraction

第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/18

114. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Takao Kato, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Relationship between Blood Urea Nitrogen-to-Creatinine ratio at Hospital Admission and Long-term Post-discharge Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure
日本心臓病学会、東京、2016.9.25
115. Etsuro kato, Shinichiro Fujimoto, Rie Matsumori, Rani Bhivasankar, Kanako Kumamaru, yuko Kawaguchi, Kazuhisa Takamura, Frank J Rybicki、Dimitrios Mitsouras, katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida.
Retrospective Evaluation of CT angiography Transluminal Attenuation Gradient for the Detection of Compromised Fractional Flow Reserve
80Th JCS. Sendai. 2016. 03.
116. Yuko kawaguchi, Shinichiro fujimoto, Kazuhisa Takamura, Syoko Suda, Etsuro Kato, Rie Matsumori, Makoto Hiki, Kanako K. Kumamaru, Hiroyuki Daida.
Submillisievert Imaging Protocol Using Full Reconstruction and Advanced patient motion Correction in 320-row Area Detector CT angiography.
80Th JCS. Sendai. 2016. 03.
117. 内藤亮、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
Synergistic effect of BMI and eGFR on all-cause mortality in the elderly following percutaneous coronary intervention
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日
118. Koji Akita, Kikuo Isoda, Yayoi Okabayashi, Yuko Ishii, Kazunori Shimada, Hiroyuki Daida
The Lack of IkBNS Accelerates Atherosclerosis in LDL Receptor-deficient Mice via Increased Interleukin-6 Production by Macrophages
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18－20 日
119. 高村和久、藤本進一郎、川口裕子、比企 誠、須田翔子、加藤悦郎、石浦純子、隈丸加奈子、代田浩之.
The usefulness of low radiation dose subtraction coronary CT angiography for coronary segments with calcification and stent using 320-row Area Detector CT
80Th JCS. Sendai. 2016. 03.
120. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Makoto Hiki, Rie Matshmori, Yuuko Kawaguchi, Shoko Suda, Etsuro Kato, Kanako Kumamaru, Hiroyuki Daida:
The Usefulness of Low Radiation Dose Subtraction Coronary CT Angiography for Coronary Segments with Calcification and Stent.
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, Japan 2016. 3
121. 高村和久、藤本進一郎、比企 誠、川口裕子、加藤悦郎、青島千紘、隈丸加奈子、代田浩之
The usefulness of low radiation dose subtraction coronary CT angiography for patients with calcification using 320 ADCT
第 64 回日本心臓病学会学術集会、東京、2016. 9
122. 門口智泰、島田和典、塩澤知之、高橋秀平、Hamad Al Shahi、大内翔平、相川達郎、秋田耕嗣、磯田菊生、宮崎哲朗、代田浩之
アンジオテンシン II に依存した酸化ストレスは骨格筋タンパク分解を引き起こす
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日
123. 和田英樹、荻田 学、宮内克己、設楽 準、遠藤裕久、土井信一郎、小西宏和、内藤 亮、坪井

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之
 インスリン抵抗性と PCI 後の脳血管イベントの関連についての検討
 第 25 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/7/9

- 124.秋田耕嗣、磯田菊生、代田浩之
 インターロイキン1受容体アンタゴニストはアンジオテンシンII投与で喚起される動脈の炎症
 及び瘤形成を抑制する
 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
- 125.高橋徳仁、磯田菊生、岩田 洋、秋田耕嗣、遠藤裕久、和田英樹、大内翔平、西山大樹、土井
 信一郎、華藤芳輝、土肥智貴、田村 浩、岡崎真也、諏訪 哲、宮内克己、代田浩之
 ペアメタルステント留置 13 年後に生じた超遅発性ステント血栓症の 1 例
 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
- 126.Maruyama M, Katou T, Morimoto R, Miyazaki S, M, Daimon M, Ohmura H, Amano A,
Daida H.
 腰部神経線維腫で経過観察中に、左室心尖部腫瘍を 指摘された一例
 日本心エコー図学会第 27 回学術集会 大阪 2016 年 4 月 22 日
- 127.設楽 準、坪井秀太、宮内克己、荻田 学、葛西隆敏、土肥智貴、小西宏和、内藤 亮、岡崎
 真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之
 冠動脈形成術後のスタチン内服患者における赤血球容積粒度分布幅(RDW)の有用性
 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
- 128.西山大樹、土肥智貴、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井
 秀太、荻田学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田、菊生、代田浩之
 冠動脈疾患患者の長期予後における hs-CRP 値の性差について
 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24
- 129.遠藤裕久、土肥智貴、宮内克己、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、荻田
 学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田、菊生、代田浩之
 急性冠症候群患者の長期予後における BMI と性差の関連
 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/23
- 130.土井信一郎、土肥智貴、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田
 学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
 急性冠症候群発症の季節性と長期予後について
 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
- 131.心筋梗塞患者における来院時間と院内死亡率の検討～Japanese Registry of Acute Myocardial
 Infarction Diagnosed by Universal Definition (J-MINUET)
 急性心筋梗塞患者における来院時間と院内死亡率の検討～Japanese Registry of Acute
 Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition (J-MINUET)
 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/23
- 132.土井信一郎、岡崎真也、遠藤裕久、川口裕子、圓山雅己、華藤芳輝、宮崎彩記子、藤本進一
 郎、掛水真帆、土肥静之、桑木賢次、稲田英一、宮内克己、天野 篤、代田浩之
 急性心不全を発症した重症冠動脈病変、大動脈弁狭窄症、高度腎機能低下を伴う低左 心機能、
 超高齢患者の一例
 第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/10
- 133.高橋徳仁、磯田菊生、比企 優、藤本進一郎、田村 浩、岡崎真也、宮内克己、代田浩之
 巨大深部静脈血栓を伴う妊婦に対し、一時的下大静脈フィルター留置 で良好な経過が得られ
 た 1 例
 第 25 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/7/8
- 134.喜多村健一、島田和典、高橋秀平、宮内克己、蔡 榮龍、宮崎哲朗、塩澤知之、大内翔平、相
 川達郎、ハマド サーリム、門口智泰、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

経皮的冠動脈形成術施行患者における血清 1,5-anhydroglucitol 低下と心血管イベントとの関連
第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14－15 日

135.高橋秀平、島田和典、宮内克己、蔡 榮龍、宮崎哲朗、塩澤知之、大内翔平、相川達郎、Hamad Al Shahi、門口智泰、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
経皮的冠動脈形成術施行患者における血清 1,5-anhydroglucitol 測定の意義
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

136.磯 隆史、小西宏和、宮内克己、設楽準、和田英樹、内藤亮、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之
経皮的冠動脈形成術施行患者の予後と出血事象における ORBIT スコアの意義
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

137.和田英樹、荻田学、諏訪哲、代田浩之
劇症型肺炎球菌感染症に合併した劇症型心筋炎の一例
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24

138.川口裕子、藤本進一郎、高村和久、比企 誠、須田翔子、加藤悦郎、石浦純子、隈丸加奈子、代田浩之
高度石灰化症例における低被ばく Subtraction Coronary CTA の有効性の検討
第 26 回日本心血管画像動態学会、東京、2016. 1

139.川口裕子、藤本進一郎、高村和久、比企 誠、須田翔子、加藤悦郎、石浦純子、隈丸加奈子、代田浩之
高度石灰化症例における低被ばく subtraction CTA の有効性の検討.
第 26 回心血管画像動態学会. 2016.1.

140.門口智泰、島田和典、塩澤知之、高橋秀平、Hamad Al Shahi、大内翔平、相川達郎、秋田耕嗣、宮崎哲朗、磯田菊生、代田浩之
骨格筋タンパク合成および分解調節における NAD (P) H oxidase 4 の役割の検討
第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14－15 日

141.和田英樹、荻田 学、宮内克己、坪井秀太、小西宏和、設楽 準、國本充洋、園田健人、磯 隆史、海老名秀城、青木絵里子、喜多村健一、田村 浩、諏訪 哲、代田浩之
左主幹動脈に対して PCI を施行した ASC 患者の背景比較と入院中死亡の因子についての検討
第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/9

142.内藤 亮、宮内克己、代田浩之
心血管イベント高危険群における経皮的冠動脈形成術後臨床成績の時代的変遷について
第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/11

143.Maruyama M, Katou T, Morimoto R, Miyazaki S, M, Daimon M, Ohmura H, Amano A, Daida H.
大動脈弁狭窄症患者における弁置換術施行例における術後心房細動発症に関わる因子の検討
第 64 回日本心臓病学会学術集会 東京 2016 年 9 月 23 日

144.高橋徳仁、加藤倫子、三浦誠司、土肥智貴、田村 浩、磯田菊生、岡崎真也、宮内克己、天野 代田浩之
当院での心臓移植後の移植心冠動脈病変(CAV)を含めた遠隔期管理について
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

145.土井信一郎、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、西山大樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
透析患者における第 2 世代薬剤溶出性ステントとベアメタルステントの出血イベントを含めた予後の比較
CVIT2016・東京・平成 28 年 7 月 7－9 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 146.遠藤裕久、宮内 克己、和田 英樹、土井 信一郎、小西 宏和、内藤 亮、坪井 秀太、荻田 学、土肥 智貴、梶本 完、葛西 隆敏、田村 浩、岡崎 真也、磯田 菊生、天野 篤、代田 浩之
慢性腎臓病を有する糖尿病患者における第一世代の薬剤溶出性ステントと冠動脈バイパス手術の予後比較
第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8
- 147.遠藤裕久、宮内克己、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、梶本完、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、天野篤、代田浩之
慢性腎臓病を有する糖尿病患者における第一世代の薬剤溶出性ステントと冠動脈バイパス手術の予後比較
CVIT2016・東京・平成 28 年 7 月 7-9 日
- 148.李慶賢、藤本進一郎、隈丸加奈子、山田想、川口裕子、土肥智貴、高村和久、加藤悦郎、木暮陽介、青木茂樹、代田浩之
流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討
第 10 回 SCCT 研究会、2016 年 9 月、東京（口頭発表）
- 149.中西淳、玉本文彦、金井数明、鈴木通真、鎌形康司、堀正明、青木茂樹
MSA-P における 123I-FP-CIT SPECT と MR 所見
第 75 回日本医学放射線学会総会、神奈川、2016 年 4 月 15-17 日
- 150.萩原彰文、堀正明、中澤美咲、アンディカクリスティナ、吉田茉莉子、鎌形康司、鈴木通真、高野直、川崎英生、濱崎望、佐藤秀二、青木茂樹
Synthetic MRI による MS プラークの検出能の評価
SAMI 2016, 東京、2016 年 7 月 30・31 日
- 151.李慶賢、隈丸加奈子、藤本進一郎、高村和久、川口裕子、木暮陽介、代田浩之、青木茂樹
流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討
SAMI 2016, 東京、2016 年 7 月 30・31 日
- 152.李慶賢、藤本進一郎、隈丸加奈子、山田想、川口裕子、土肥智貴、高村和久、加藤悦郎、木暮陽介、代田浩之、青木茂樹
流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討
第 10 回 SCCT 研究会、東京、2016 年 9 月 3 日
- 153.斎藤麻美、鎌形康司、上田亮、中澤美咲、アンディカクリスティナ、村田渉、中島円、宮嶋雅一、神谷昂平、堀正明、隈丸加奈子、鈴木通真、新井一、青木茂樹
LP シェント術前後の iNPH の脳室体積測定と拡散テンソルトラクトグラフィ解析
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会、大宮、2016 年 9 月 9-11 日
- 154.萩原彰文、堀正明、中澤美咲、アンディカクリスティナ、吉田茉莉子、鈴木通真、高野直、濱崎望、佐藤秀二、青木茂樹
髄鞘と浮腫の状態を評価するマルチパラメトリック定量 MRI による多発性硬化症患者における白質障害の評価
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会、大宮、2016 年 9 月 9-11 日
- 155.アンディカクリスティナ、萩原彰文、中澤美咲、服部亜紀、村田渉、高野直、堀正明、青木茂樹
The Advantages of Synthetic MRI in Pediatric Patients
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会、大宮、2016 年 9 月 9-11 日
- 156.入江隆介、鎌形康司、Aurelien Kerever、横沢俊、大竹陽介、越智久晃、田川一彦、岡澤均、高橋康介、佐藤香菜子、堀正明、平澤恵理、青木茂樹
透明脳マウスにおける次世代拡散 MRI(DKI)と共焦点顕微鏡による神経線維密度の関係
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会、大宮、2016 年 9 月 9-11 日
- 157.高野直、鈴木通真、入江隆介、山本宗孝、佐藤秀二、濱崎望、室井僚哉、濱川詩織、芳

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 士戸治義、大石英則、青木茂樹
Usefulness of silent MRA for follow-up of intracranial aneurysms treated with pipeline embolization device
第44回日本磁気共鳴医学会大会，大宮，2016年9月9～11日
158. 福永一星、堀正明、濱崎望、佐藤秀二、上田亮、川崎英生、高野直、村田渉、鶴田航平、芳士戸治義、村田勝俊、青木茂樹
Simultaneous Multi-Slice RESOLVE DWI: comparison of single shot technique by diffusion tensor and kurtosis tractography
第44回日本磁気共鳴医学会大会，大宮，2016年9月9～11日
159. 中澤美咲、アンディカクリスティナ、鎌形康司、上田亮、波田野琢、奥住文美、阿部修、鈴木通真、堀正明、隈丸加奈子、服部信孝、青木茂樹
パーキンソン病の黒質線条体神経線維の神経突起イメージングによる評価
第44回日本磁気共鳴医学会大会，大宮，2016年9月9～11日
160. 中澤美咲、萩原彰文、アンディカクリスティナ、堀正明、上田亮、高野直、村田渉、佐藤秀二、濱崎望、川崎英生、芳士戸治義、青木茂樹、妹尾淳史
Synthetic MRIを用いたガドリニウム濃度マップの確度と精度についての評価
第44回日本磁気共鳴医学会大会，大宮，2016年9月9～11日
161. 村田渉、鎌形康司、村田勝俊、中澤美咲、堀正明、隈丸加奈子、鈴木通真、福永一星、齋藤麻美、アンディカクリスティナ、佐藤秀二、濱崎望、上田亮、鶴田航平、芳士戸治義、青木茂樹
Simultaneous Multi-Slice Turbo Spin Echoを利用したNeuromelanin Imagingの撮像パラメータの検討
第44回日本磁気共鳴医学会大会，大宮，2016年9月9～11日
162. 佐野由起子、隈丸加奈子、鈴木通真、堀正明、入江隆介、中西淳、青木茂樹
若年・壮年患者の良性腰椎疾患に対する「早期」MRI検査頻度と病院因子：大規模レセプトデータベース解析
第44回日本磁気共鳴医学会大会，大宮，2016年9月9～11日
163. 高野直、鈴木通真、山本宗孝、堀正明、大石英則、青木茂樹、新井一
Y stent assisted coil embolization後のフォローアップにおけるSilent MRAの有用性
第39回日本脳神経CI学会総会，東京，2016年1月29・30日
164. 鶴田航平、鎌形康司、本井ゆみ子、下地啓五、神谷昂平、堀正明、鈴木通真、村田渉、青木茂樹、妹尾淳史
脳白質の拡散テンソル構造的ネットワーク解析によるAlzheimer's DiseaseとDementia with Lewy Bodiesの評価
第39回日本脳神経CI学会総会，東京，2016年1月29・30日
165. 中澤美咲、川崎英生、佐藤秀二、濱崎望、高野直、熊谷文孝、萩原彰文、堀正明、青木茂樹、妹尾敦史
Synthetic MRIによる定量血の基礎的検討と転移性脳腫瘍への応用
第39回日本脳神経CI学会総会，東京，2016年1月29・30日
166. 村田渉、鎌形康司、波田野琢、奥住文美、堀正明、鈴木通真、鶴田航平、服部信孝、青木茂樹、妹尾淳史
パーキンソン病における神経変性の評価：NODDI定量値とDAT-SPECTとの関連
第39回日本脳神経CI学会総会，東京，2016年1月29・30日
167. Hagiwara A, Yusup A, Kamagata K, Ishijima M, Kaneko H, Liu L, Ning L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Futami I, Kaneko K, Aoki S
Bone marrow lesions, subchondral bone cysts and subchondral bone attrition are associated with histological synovitis in patients with end-stage knee osteoarthritis: a cross-sectional study
第27回日本骨軟部放射線研究会，東京，2016年1月29・30日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 168.鎌形康司, 波田野琢, 奥住文美, 阿部修, 下地啓五, 鈴木通真, 堀正明, 隈丸加奈子, 鶴田航平, 服部信孝, 青木茂樹
神経突起イメージングを用いたパーキンソン病における灰白質変性の検討
第45回日本神経放射線学会, 山形, 2016年2月18日~20日
- 169.鈴木通真, 高野直, 入江隆介, 堀正明, 隈丸加奈子, 鎌形康司, 山本宗孝, 大石英則, 青木茂樹
Ystent
第45回日本神経放射線学会, 山形, 2016年2月18日~20日
- 170.萩原彰文, 堀正明, 中澤美咲, クリスティナ アンディカ, 鶴田航平, 高野直, 川崎英生, 濱崎望, 佐藤秀二, 青木茂樹
造影後 Synthetic MRI による転移性脳腫瘍の検出能の評価
第45回日本神経放射線学会, 山形, 2016年2月18日~20日
- 171.堀正明, 神谷昂平, 鈴木雄一, 野尻龍二, 鶴島康晃, 村田勝俊, 鎌形康司, 石亀慶一, 青木茂樹
MRI を用いた生体内における脳脊髄 g-ratio の測定
第45回日本神経放射線学会, 山形, 2016年2月18日~20日
- 172.神谷昂平, 鈴木雄一, 堀正明, 森壘, 國松聡, 青木茂樹, 大友邦.
Kurtosis Tractography の初期経験: 前頭葉の交差線維の描出への影響
第45回日本神経放射線学会, 山形, 2016年2月18日~20日
- 173.原祥子, 田中洋二, 稲次基希, 石井賢二, 前原健寿, 堀正明, 青木茂樹, 成相直
pCASL と NODDI を用いた もやもや病の脳血流および微細構造の評価
第45回日本神経放射線学会, 山形, 2016年2月18日~20日
- 174.高村朋宏, 村田渉, 鎌形康司, 鶴田航平, 堀正明, 鈴木通真, 青木茂樹
Neurite orientation dispersion and density imaging in evaluation of brain damage and disease severity
第45回日本神経放射線学会, 山形, 2016年2月18日~20日
- 175.鎌形康司, Aurelien Kerever, 横沢俊, 堀正明, 鶴田航平, 田川一彦, 岡澤均, 平澤恵理, 青木茂樹
Quantitative Histological Validation of Diffusion Tensor MRI by Two-Photon Microscopy of Cleared Mouse Brain
第18回日本ヒト脳機能マッピング学会, 京都, 2016年3月7・8日
- 176.萩原彰文, 中澤美咲, 堀正明, アンディカクリスティナ, 鶴田航平, 高野直, 川崎英生, 濱崎望, 佐藤秀二, 吉田茉莉子, 隈丸加奈子, 青木茂樹
多発性硬化症における Synthetic MRI を用いた myelin map
日本分子イメージング学会(第11回総会・学術集会), 兵庫, 5月28・29日
- 177.隈丸加奈子, 佐野由起子, 李慶賢, 鈴木通真, 堀正明, 入江隆介, 中西淳, 青木茂樹
米国 ACR Appropriateness Criteria の最新動向と, 日本への適用可能性について(ポスター)
第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 東京, 2016年9月16~18日
- 178.奥住 文美, 波田野 琢, 鎌形 康司, 堀 正明, 青木 茂樹, 服部 信孝
Neuromelanin MRI を用いたパーキンソン病の運動症状の予測因子の検討と 123I-FP-CIT-SPECT との関連性
第10回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 京都: 2016年10月6日~10日
- 179.波田野 琢, 鎌形 康司, 奥住 文美, 代田 健祐, 谷口 大祐, 堀 正明, 吉野 浩代, 青木 茂樹, 服部 信孝
Neuromelanin-imaging を用いたパーキンソン病と PARK2 の解析
第10回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 京都: 2016年10月6日~11日
- 180.安達木絹子, 入江隆介, 鈴木通真, 堀正明, 青木茂樹

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

画像から遺伝性小血管病を疑い COL4A1 遺伝子変異を認めた 1 例
第 11 回小児神経放射線研究会, 大阪, 2016 年 10 月 29 日

181. Christina Andica, 萩原彰文, 堀正明, 安達木綿子, 青木茂樹
The Utility of Synthetic MRI in Pediatric Patients
第 11 回小児神経放射線研究会, 大阪, 2016 年 10 月 29 日
182. 波田野 琢, 鎌形 康司, 奥住 文美, 吉野 浩代, 堀 正明, 青木 茂樹, 服部 信孝
ニューロメラニンイメージングを用いた孤発性パーキンソン病および PARK2 の臨床症状に関する解析
第 34 回日本神経治療学会, 米子: 2016 年 11 月 3 日～5 日
183. 中西淳, 玉本文彦, 本井ゆみ子, 鈴木通真, 鎌形康司, 堀正明, 青木茂樹
非典型パーキンソン症候群における 123I-FP-CIT SPECT の検討
第 56 回日本核医学総会, 名古屋, 2016 年 11 月 3～5 日
184. 萩原彰文, 堀正明, 越野沙織, 中澤美咲, 堀田萌子, 上田亮, クリスティナアンディカ, 武中祐樹, 高野直, 濱崎望, 青木茂樹
軸索量とミエリン量を in vivo に評価する新しい MRI 手法による多発性硬化症患者の白質障害の評価
第 46 回日本神経放射線学会, 東京, 2017 年 2 月 17～19 日
185. 入江隆介, 上田亮, 神谷昂平, 齊藤麻美, 堀正明, 鎌形康司, 中島円, 宮嶋雅一, 新井一, 青木茂樹
Per-axon diffusion coefficient を用いた特発性正常圧水頭症の脳微細構造の評価; TBSS による検討
第 46 回日本神経放射線学会, 東京, 2017 年 2 月 17～19 日
186. 齊藤麻美, 鎌形康司, 上田亮, アンディカクリスティナ, 入江隆介, 神谷昂平, 鈴木通真, 隈丸加奈子, 堀正明, 青木茂樹
特発性正常圧水頭症における錐体路の tract profile
第 46 回日本神経放射線学会, 東京, 2017 年 2 月 17～19 日
187. 神谷昂平, 入江隆介, 堀正明, 宮嶋雅一, 中島円, 森壘, 國松聡, 新井一, 青木茂樹, 阿部修
特発性正常圧水頭症における錐体路微細構造のシャント術前後での変化
第 46 回日本神経放射線学会, 東京, 2017 年 2 月 17～19 日
188. 原祥子, 成相直, 堀正明, 村田渉, 上田亮, 中澤美咲, 田中洋次, 前原健寿, 青木茂樹
新規拡散 MRI・NODDI 法によるもやもや病の脳微細構造の検討
第 46 回日本神経放射線学会, 東京, 2017 年 2 月 17～19 日
189. 高野直, 鈴木通真, 入江隆介, 山本宗孝, 越野沙織, 隈丸加奈子, 堀正明, 大石英則, 青木茂樹
LVIS Jr. stent による Y-configuratoon stent-assisted coiling のフォローアップにおける Silent MRA の有用性
第 46 回日本神経放射線学会, 東京, 2017 年 2 月 17～19 日
190. 高野直, 鈴木通真, 入江隆介, 山本宗孝, 越野沙織, 隈丸加奈子, 堀正明, 大石英則, 青木茂樹
Silent MRA によるフローダイバータースtent留置後のフォローアップの可能性
第 46 回日本神経放射線学会, 東京, 2017 年 2 月 17～19 日
191. 越野沙織, Andica Christina, 萩原彰文, 中澤美咲, 堀正明, 青木茂樹
Automated Brain Segmentation Based on Tissue Relaxometry with Lower In-plane Resolutions
ISMRM JPC 第 1 回学術集会, 大阪, 2017 年 2 月 23・24 日
192. 堀正明, 青木茂樹
Diffusion MR imaging: basics to clinical application in neuroimaging.
ISMRM JPC 第 1 回学術集会, 大阪, 2017 年 2 月 23・24 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 193.原祥子, 成相直, 堀正明, 村田渉, 上田亮, 中澤美咲, 田中洋次, 前原健寿, 青木茂樹
新規拡散 MRI・NODDI 法によるもやもや病の脳微細構造の検討.
第 40 回日本脳神経 CI 学会総会, 鹿児島, 2017 年 3 月 3・4 日
- 194.原祥子, 成相直, 堀正明, 村田渉, 上田亮, 中澤美咲, 田中洋次, 前原健寿, 青木茂樹
新規拡散 MRI・NODDI 法によるもやもや病の脳微細構造の検討.
第 42 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017 年 3 月 16 日
- 195.高野直, 鈴木通真, 山本宗孝, 堀正明, 大石英則, 青木茂樹, 新井一
Y stent assisted coil embolization 後のフォローアップにおける Silent MRA の有用性(ポスター賞)
第 39 回日本脳神経 CI 学会総会, 東京, 2016 年 1 月 29・30 日
- 196.鎌形康司, Aurelien Kerever, 横沢俊, 堀正明, 鶴田航平, 田川一彦, 岡澤均, 平澤恵理, 青木茂樹
Quantitative Histological Validation of Diffusion Tensor MRI by Two-Photon Microscopy of Cleared Mouse Brain (若手奨励賞)
第 18 回日本ヒト脳機能マッピング学会, 京都, 2016 年 3 月 7・8 日
- 197.鈴木健一, 川谷響, 尾崎隼朗, 内藤久土, 町田修一.
大学男子ハンドボール選手における無酸素パワーと間欠的運動能力の競技レベル別の検討.
日本ハンドボール学会第 4 回大会, 東京, 2016 年 2 月 27-28 日
- 198.尾崎隼朗, 尾崎美那貴, 町田修一, 内藤久土.
出生後 1 年間に於ける全身各部位の筋厚及び皮脂厚の縦断的变化.
第 14 回日本発育発達学会大会, 兵庫, 2016 年 3 月 14-15 日
- 199.尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 北田友治, 石原美彦, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久土.
漸進的なウォーキングプログラムは中高齢者の下肢筋厚及び筋力を増加させる.
第 23 回日本健康体力栄養学会, 兵庫, 2016 年 3 月 5 日
- 200.吉原利典, 尾崎隼朗, 中潟崇, 棗寿喜, 北田友治, 石原美彦, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久土.
ウォーキングプログラムがロコモティブ・シンドロームの改善に及ぼす効果.
第 23 回日本健康体力栄養学会, 兵庫, 2016 年 3 月 5 日
- 201.北田友治, 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 石原美彦, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久土.
脈拍計装着の有無が高齢者におけるウォーキング中の脈拍数管理に及ぼす影響.
第 23 回日本健康体力栄養学会, 兵庫, 2016 年 3 月 5 日
- 202.吉原利典, 都築孝允, 柿木亮, 町田修一, 内藤久土.
サルコペニアに関わるヒストン修飾の加齢変化.
第 39 回日本基礎老化学会, 神奈川, 2016 年 5 月 27-28 日
- 203.都築孝允, 吉原利典, 後藤佐多良, 内藤久土.
一過性の持久的運動は 2 型糖尿病ラットの骨格筋における核内の Nrf2 量を増加させる.
第 39 回日本基礎老化学会, 神奈川, 2016 年 5 月 27-28 日
- 204.中村智洋, 内藤久土.
高校生自転車競技選手の 1kmTT を推定する体力テストの検討.
第 67 回日本体育学会大会, 大阪, 2016 年 8 月 24-26 日
- 205.尾崎隼朗, 北田友治, 棗寿喜, 町田修一, 内藤久土, 形本静夫.
中高齢サイクリストの最大酸素摂取量と大腿部前面筋厚はトレーニング頻度に依存する.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 206.神庭睦実, 坂本彰宏, 内藤久土, 形本静夫.
自転車競技におけるクリティカルパワーと 4km 個人追い抜きのパフォーマンスとの関係.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 207.坂本彰宏, 内藤久土.
スラストバックによるパワートレーニング効果の増大化.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 208.野崎理沙, 中野大輝, 高木香奈, 川西範明, 内藤久土, 町田修一.
生薬の黄耆がギプス固定による筋萎縮に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 209.鄧鵬宇, 周亮福, 伍文権, 陸大江, 鈴木宏哉, 町田修一, 内藤久土.
中国の大都市および中都市における青少年の生活習慣と肥満との関連性.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 210.大野佳南子, 町田修一, 内藤久土.
月経周期のフェーズが快適自己ペース走に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 211.千葉汐里, 大野佳南子, 中野大輝, 尾崎隼朗, 内藤久土, 町田修一.
大学生アスリートの月経周期と瞬発力との関係.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 212.駒野悠太, 三浦裕, 藤井敏雄, 藤原大介, 内藤久土, 中潟崇, 深尾宏祐, 島田和典, 代田浩之.
樹状細胞の活性に対する高負荷運動の影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 213.棗寿喜, 尾崎隼朗, 柿木亮, 小林裕幸, 内藤久土.
筋電気刺激のトレーニング強度の違いが筋肥大および筋力増加に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 214.中潟崇, 内藤久土, 形本静夫.
ニコチンパッチが運動時の呼吸循環応答に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 215.柿木亮, 関根紀子, 吉原利典, 棗寿喜, 北田友治, 町田修一, 小林裕幸, 内藤久土.
レジスタンス運動後のホエイペプチド摂取によるヒト骨格筋 mTOR シグナルに及ぼす性差の影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 216.張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 内藤久土.
一過性の伸張性運動を行うタイミングの違いが mTOR シグナル伝達に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 217.吉原利典, 都築孝允, 張碩文, 柿木亮, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久土.
若年期の運動不足はラットヒラメ筋における廃用性筋萎縮の進行を加速させる.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 218.吉原育実, 吉原利典, 内藤久土, 町田修一.
廃用性筋萎縮前の一過性の運動がラットヒラメ筋における細胞内シグナル伝達系の経時的変化に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 219.都築孝允, 篠崎昇平, 吉原利典, 後藤佐多良, 金木正夫, 小林裕幸, 内藤久土.
運動および運動中止が 2 型糖尿病ラットの骨格筋における S-ニトロソ化 Akt に与える影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日
- 220.高嶺由梨, 吉原利典, 都築孝允, 張碩文, 関根紀子, 町田修一, 内藤久土.
高脂肪食およびトレッドミル走が発育期マウスの骨組織に与える影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

- 221.石原美彦, 石崎聡之, 石崎順子, 浜野学, 根岸輝彦, 町田修一, 内藤久土.
6ヶ月間の運動教室が高齢者の身体機能に及ぼす影響.
第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23-25日
- 222.北田友治, 河合祥雄, 佐久間和彦, 越川一紀, 仲村明, 内藤久土.
呼吸筋トレーニングが高強度自転車運動中の筋酸素動態に及ぼす影響.
第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23-25日
- 223.中村智洋, 柿木亮, 関根紀子, 小林裕幸, 佐久間和彦, 内藤久土.
ACTN3 タンパク質発現量に及ぼす筋線維組成の影響.
第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23-25日
- 224.鈴木悠太, 石原美彦, 辻川比呂斗, 内藤久土, 杉山康司.
携帯型心拍数記憶装置内蔵 GPS を用いたレジャースキーにおける滑走軌跡、速度変化および心拍数変動.
第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23-25日
- 225.芝口翼, 池崎和海, 森廣壮馬, 吉原利典, 内藤久土, 後藤勝正, 吉岡利忠, 杉浦崇夫.
異なる温度刺激の併用が筋再生過程における線維化と筋衛星細胞の動態に及ぼす影響.
第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23-25日
- 226.森廣壮馬, 杉浦崇夫, 宮田浩文, 池崎和海, 芝口翼, 内藤久土, 吉原利典, 後藤勝正, 吉岡利忠.
ラット速筋損傷後の回復過程における筋成長因子に及ぼす異なる温度刺激の影響.
第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23-25日
- 227.杉浦崇夫, 森廣壮馬, 池崎和海, 芝口翼, 吉原利典, 内藤久土, 後藤勝正, 吉岡利忠.
筋損傷後の回復過程における筋タンパク質分解系の変化.
第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23-25日
- 228.池崎和海, 森廣壮馬, 芝口翼, 杉浦崇夫, 内藤久土, 後藤勝正, 吉原利典, 吉岡利忠, 宮田浩文.
ラット速筋損傷後の回復過程における筋線維組成に及ぼす異なる温度刺激の影響.
第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23-25日
- 229.尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 北田友治, 石原美彦, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久土.
膝伸展筋群の筋サイズ及び筋力の加齢変化とロコモ度別評価.
第3回サルコペニア・フレイル研究会研究発表会, 愛知, 2016年11月6日
- 230.大澤拓也, 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 石原美彦, 北田友治, 鄧鵬宇, 町田修一, 内藤久土.
BMI および体脂肪率で分類された中高齢男女におけるロコモ度・体力的特性.
日本体育測定評価学会第16回大会, 大分, 2017年3月5日
- 231.中潟崇, 尾崎隼朗, 吉原利典, 大澤拓也, 棗寿喜, 石原美彦, 北田友治, 町田修一, 内藤久土.
自体重レジスタンス運動と郵送型支援システムを用いた運動プログラムが中高齢者のロコモ度に及ぼす影響.
健康支援学会, 東京, 2017年3月9-10日
- 232.尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 北田友治, 棗寿喜, 石原美彦, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久土.
ウォーキングおよび階段昇降運動が下肢の筋厚・筋力と身体機能に与える影響.
健康支援学会, 東京, 2017年3月9-10日
- 233.大澤拓也, 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 石原美彦, 北田友治, 鄧鵬宇, 町田修一, 内藤久土.
ロコモティブシンドロームの予防・改善を目的とした18か月間の運動教室の介入効果.
健康支援学会, 東京, 2017年3月9-10日
- 234.中潟崇, 尾崎隼朗, 吉原利典, 大澤拓也, 棗寿喜, 石原美彦, 北田友治, 町田修一, 内藤久土.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

ウォーキングまたは自体重レジスタンス運動が中高齢者の身体組成および血液マーカーに及ぼす影響.

第24回日本健康体力栄養学会, 東京, 2017年3月11日

235.尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 石原美彦, 北田友治, 鄧鵬宇, 大澤拓也, 町田修一, 内藤久土.

中高齢者の全身各部位の筋厚及び最大筋力の加齢変化とその部位差.

第24回日本健康体力栄養学会, 東京, 2017年3月11日

236.石原美彦, 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 北田友治, 大澤拓也, 鄧鵬宇, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久土.

中高齢者における日常身体活動とロコモティブシンドロームの関連性.

第24回日本健康体力栄養学会, 東京, 2017年3月11日

237.棗寿喜, 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 大澤拓, 石原美彦, 北田友治, 鄧鵬宇, 町田修一, 内藤久土.

自体重レジスタンス運動と郵送支援形システムを用いた運動プログラムは中高高年齢者の筋厚と身体機能を改善する.

第24回日本健康体力栄養学会, 東京, 2017年3月11日

238.吉原利典, 尾崎隼朗, 中潟崇, 棗寿喜, 北田友治, 石原美彦, 大澤拓也, 町田修一, 内藤久土.

ロコモティブ・シンドロームに関連する血液パラメータの探索.

第24回日本健康体力栄養学会, 東京, 2017年3月11日

最優秀賞受賞

239.大澤拓也, 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 石原美彦, 北田友治, 鄧鵬宇, 町田修一, 内藤久土.

ロコモ度により自体重レジスタンス運動の効果は異なる.

第24回日本健康体力栄養学会, 東京, 2017年3月11日

240.北田友治, 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 石原美彦, 大澤拓也, 鄧鵬宇, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久土.

体重支持指数と身体機能テストの関係.

第24回日本健康体力栄養学会, 東京, 2017年3月11日

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。

<既に実施しているもの>

第2回国際スポーツロジ学会学術集会

日時: 2015年9月12日(土)

会場: 順天堂大学本郷キャンパス 有山登記念館講堂

会長: 河盛隆造

ウェブサイト: http://www.international-academy-of-sportology.jp/japanese_html/general_ja.html

Lecture 1 “Does the sports gene affect lifestyle-related diseases?”

Chair: Shiro Maeda (Prof. Dept of Advanced Genomic and Laboratory Medicine, Graduate School of Medicine, University of the Ryukyus, & Visiting Prof. Sportology Center, Juntendo Univ. Graduate Sch of Medicine)

Lecturer: Noriyuki Fuku (Assoc Prof. Juntendo Univ. Graduate Sch of Health and Sports Science)

Lecture 2 “Current state and future directions of cardiac rehabilitation in Japan”

Chair: Takashi Miida (Prof. Dept of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecturer: Hiroyuki Daida (Prof. Dept of Cardiovascular Medicine, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Lecture 3“Etiology of insulin resistance in non-obese subjects.

-Juntendo Sportology Center core study- ”

Chair: Minoru Kubota (Director, Health care center & clinic, & Prof. Sch of Sociology, Kwansei Gakuin, Univ)

Lecturer: Hirotaka Watada (Prof. Dept of Metabolism & Endocrinology, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecture 4“Sportology to prevent locomotive syndrome ”

Chair: Hisashi Naito (Prof. Dep. of Exercise Physiology, Juntendo Univ Graduate Sch of Health and Sports Science)

Lecturer: Muneaki Ishijima (Assoc Prof. Dept of Medicine for Orthopaedics and Motor Organ, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecture 5 Mechanical Regulation and Maintenance of Homeostasis

–Scientific Basis for the Health Promotion by Physical Motility and Exercise.

Chair: Kazuo Kaneko (Prof. Dept of Medicine for Orthopaedics and Motor Organ, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecturer: Yasuhiro Sawada (Director, Dept of Rehabilitation for the Movement Functions, Research Institute, National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities)

Lecture 6“Development of a small-molecule AdipoR agonist AdipoRon as exercise mimetics.”

Chair: Hirotaka Watada (Prof. Dept of Metabolism & Endocrinology, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecturer: Toshimasa Yamauchi (Assoc.Prof, Dept.of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate Sch of Medicine, The University of Tokyo. &Visiting Prof, Sportology Center, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecture 7 “Autophagy in central nervous system neurons. -The LC3 conjugation system is involved in lipid droplet formation- ”

Chair: Takashi Ueno (Affiliate Prof, Research Support Center, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecturer: Yasuo Uchiyama (Prof. Dept of Cellular and Molecular Neuropathology, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecture 8 “Human brain mapping of autonomic functions. ”

Chair: Takeshi Iwatsubo (Dept of Neuropathology Graduate School of Medicine University of Tokyo)

Lecturer: Seiki Konishi (Prof. Dept of Neurophysiology, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecture 9 “Physical exercise and dementia. ”

Chair: Chair:Takeshi Iwatsubo (Dept of Neuropathology Graduate School of Medicine University of Tokyo)

Lecturer: Yumiko Motoi (Assoc Prof. Dept of Diagnosis, Prevention & Treatment of Dementia, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecture 10 “MR imaging for sportology; non-invasive visualization of the brain and muscles. ”

Chair: Takeshi Iwatsubo (Dept of Neuropathology Graduate School of Medicine University of Tokyo)

Lecturer: Shigeki Aoki (Prof, Dept of Radiology, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Special Lecture 1 “.Cutting edge of brain science nasd sportology.”

Chair: Eiki Kominami, (President, Juntendo Univ)

Lecturer: Yasushi Miyashita, Prof. Juntendo Univ & The Univ of Tokyo:

Special Lecture 2 “Advances in Pediatric Sports Medicine Practice in USA.”

Chair: Yuichiro Yamashiro (Prof. Probiotics Research Laboratory, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecturer: Dilip R Patel (Western Michigan University Homer Stryker MD School of Medicine)

Special Lecture 3 “ Expectation for Sportology to the success of Tokyo Olympic and Paralympics 2020”

Chair: Ryuzo Kawamori (Director & Prof. Sportology Center, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine)

Lecturer: Masato Mizuno (Expert member, IOC Sport and Environment Commission, Honorary member of Japanese Olympic Committee)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

スポーツロジック・カンファレンス

日時: 2016年12月26日(月) 18:30~20:00

場所: 順天堂大学 D棟 8階会議室

座長: 順天堂大学大学院 代謝内分泌内科学 准教授 田村 好史

“Therapeutic impact of the gut-brain axis.”

Dr. Tony K.T Lam

Professor & J.K.McIvor (1915-1942) Endowed Chair in Diabetes Research.

<これから実施する予定のもの>

第3回国際スポーツロジック学会学術集会

日時: 2017年10月14日(土)

会場: 順天堂大学本郷キャンパス

会長: 代田 浩之

ウェブサイト: <http://www.c-linkage.co.jp/3ias/index.html>

<スポーツロジックセンター ウェブサイト>

<http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labo/sportology/>

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

【主要メディアでの放送】

1. 河盛隆造「今からできる血糖値を下げるルール」2014.3.3-8 AM5:20-AM5:25
2. 河盛隆造「長野祐也の医療界キーパーソンに聞く」ラジオ日本, 2014.5.5&5.12
3. 西村理明, 田村好史, 伊藤裕, 河盛隆造「血糖値スパイク」が危ない～糖尿病・心筋梗塞の新対策～」NHK スペシャル, NHK, 2016.10.8
4. 西村理明, 田村好史, 伊藤裕, 河盛隆造「血糖値スパイク」が危ない～糖尿病・心筋梗塞の新対策～」NHK, 2016; 2016.10.8
5. 代田浩之. テレビ東京 話題の医学(動脈硬化の薬物治療) 2016年8月7日
6. 代田浩之. ラジオ NIKKEI 第1 循環器の立場からみた心腎連関 2016年8月22日
7. 代田浩之. 読売新聞社 未来貢献プロジェクト スポーツ健康科学と医学・医療 ～スポーツロジックを考える～ 2016年11月22日
8. 島田和典. TBS ラジオ「明日も元気」脂質異常症 2016年7月4日～7月8日
9. 島田和典. NHK 出版 今日の健康 禁煙外来 2016年5月
10. 島田和典. 放送大学 健康長寿のためのスポーツロジック 運動と心血管疾患(1) 運動と心血管疾患(1) 2015年度 2016年度
11. 船山学, 服部信孝. プレスリリース、遺伝性パーキンソン病の原因遺伝子を新たに発見～ミトコンドリア発の新しいパーキンソン病発症メカニズムを提唱～、文部科学省、2015年1月28日、東京
12. 今居 譲, 服部信孝. プレスリリース、晩発性パーキンソン病で神経変性がゆっくり進行するメカニズムを解明、～細胞内輸送における LRRK2 の役割～、順天堂大学、2015年9月11日、東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

13. 服部信孝、岡野栄之、赤松和土. プレスリリース、NHK テレビニュース、順天堂大パーキンソン病治療で iPS 細胞バンク設立へ、午前 4 時 29 分、2016 年 2 月 19 日、NHK ニュース
 14. 服部信孝. オンラインニュース掲載、順天堂大 パーキンソン病治療で iPS 細胞バンク設立へ、NHK, 日経等、平成 28 年 2 月 19 日
 15. 臨床研究スマホが変える(順天堂大学) 日本経済新聞 2016 年 7 月 24 日朝刊
- 【新聞掲載】
1. 綿田裕孝「名医の診察室」2014 年 8 月 14 日号:17, 東京スポーツ新聞, 東京スポーツ新聞社, 2014. 8. 14
 2. 綿田裕孝「【解説】若年肥満の糖尿病患者に適している可能性がある」MMJ, 2014; 10(3): 143, 2014. 08. 15, 毎日新聞社
 3. 綿田裕孝「【解説】注目の SGLT2 阻害薬に関し現在示しうる最大限の情報」MMJ, 2014; 10(4): 191, 2014. 10. 15, 毎日新聞社
 4. *田村好史「やせメタボ 筋肉に特徴」夕刊 読売新聞, 読売新聞社, 2016; 14, 2016. 8. 3
 5. *田村好史「太っていなくても生活習慣病になる」科学新聞, 科学新聞社, 2016; 3595):4, 2016. 8. 12
 6. *田村好史「(1 分で知る) 運動 4: 効率的に糖を筋肉に」朝日新聞, 朝日新聞社, 2016; 2016 年 9 月 7 日号):33, 2016. 9. 7
 7. *田村好史「隠れメタボ、インスリン効きカギ」朝日新聞, 朝日新聞社, 2016; 2016 年 9 月 16 日号(2016. 9. 16
 8. *田村好史「隠れメタボ、糖の取り込み弱い」朝日新聞, 朝日新聞社, 2016; 2016 年 9 月 17 日号(2016. 9. 17
 9. *田村好史「「隠れメタボ」、筋肉に血糖取り込む力が低かった」朝日新聞, 朝日新聞社, 2016; 2016 年 9 月 16 日号(2016. 9. 16
 10. *田村好史「意外に多い「やせメタボ」」日本経済新聞, 2016; 7, 2016. 10. 13
 11. *田村好史「糖尿病を防ぐ運動などを学ぶ」中日新聞, 中日新聞東海本社, 2016; 2016 年 11 月 13 日号(2016. 11. 13
 12. *田村好史「隠れメタボ 原因は筋肉」山形新聞, 山形新聞社, 2016; 47143):19, 2016. 10. 5
 13. *田村好史「筋肉に脂肪「隠れメタボ」に」信濃毎日新聞, 信濃毎日新聞社, 2016; 2016 年 10 月 31 日号):9, 2016. 10. 31
 14. *田村好史「隠れメタボ 原因は筋肉」四国新聞, 四国新聞社, 2016; 2016 年 10 月 7 日号):15, 2016. 10. 7
 15. *田村好史「「隠れメタボ」原因は筋肉」沖縄タイムス, 沖縄タイムス社, 2016; 2016 年 10 月 2 日号):19, 2016. 10. 2
 16. *田村好史「隠れメタボ 筋肉の質低下原因」静岡新聞, 静岡新聞社, 2016; 2016 年 10 月 3 日号):23, 2016. 10. 3
 17. *田村好史「隠れメタボ 筋肉に脂肪」河北新報, 河北新報社, 2016; 2016 年 9 月 24 日号):11, 2016. 9. 24
 18. *田村好史「脂肪、筋肉に蓄積 隠れメタボ」岐阜新聞, 岐阜新聞社, 2016; 2016 年 10 月 6 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

号):3, 2016.10.6

19. *田村好史「隠れメタボの原因は筋肉」中部経済新聞, 中部経済新聞社, 2016; 2016 年 10 月 25 日号):13, 2016.10.25
20. *田村好史「隠れメタボ 原因は筋肉」山陰中央新報, 山陰中央新報, 2016; 2016 年 9 月 27 日号):8, 2016.9.27
21. *田村好史「隠れメタボ 原因は筋肉」埼玉新聞, 埼玉新聞社, 2016; 2016 年 12 月 7 日号):19, 2016.12.7
22. *田村好史「隠れメタボ 原因は筋肉」大分合同新聞, 大分合同新聞社, 2016; 2016 年 10 月 10 日号):5, 2016.10.10
23. *田村好史「隠れメタボ 筋肉に脂肪」中国新聞, 中国新聞社, 2016; 2016 年 9 月 18 日号):11, 2016.9.18
24. 服部信孝. 新聞掲載、「パーキンソン病 水素水で抑制、活性酸素減らし細胞守る、順天堂大、人でも効果」日経産業新聞、 2015 年 1 月 16 日
25. 服部信孝. 新聞掲載、「遺伝性パーキンソン病、順大、原因遺伝子を発見」、日経産業新聞、2015 年 7 月 4 日
26. 服部信孝. 認知症心臓の画像検査に注目、2 割占める「レビー小体型」、医療、生活、朝日新聞 2016 年 3 月 22 日朝刊 p35
27. 服部信孝. 新聞掲載、「認知機能 アロマで刺激、脳の病気リスクを減らす試み、匂いの信号は直接脳へ 多彩な香り・いつも身近に」日本経済新聞 (夕刊) pp9. 「くらし」面、2016 年 6 月 30 日 (木曜日) 夕刊
28. 服部信孝. 新聞掲載、「パーキンソン病の手術療法「前編」、薬物療法の限界で脳深部刺激療法に注目」、東京スポーツ、p17、2016 年 10 月 18 日
29. 服部信孝. 新聞掲載、パーキンソン病の手術療法「前編」、薬物療法の限界で脳深部刺激療法に注目、東京スポーツ、p17、2016 年 10 月 18 日
30. 服部信孝. 新聞掲載、パーキンソン病の手術療法「後編」、状態が大きく改善する脳深部刺激療法 適応する人は…、東京スポーツ、p17、2016 年 10 月 25 日
31. 服部信孝. 新聞掲載、パーキンソン病治療薬「デュオドーパ」、DBS よりも広く適応できウェアリングオフを減少、一治療薬最前線一、p8、The Doctor 秋季特集、2016 年 10 月 31 日
32. 服部信孝. 新聞掲載、パーキンソン病治療薬「デュオドーパ」、DBS よりも広く適応できウェアリングオフを減少、薬事ニュース、p4、2016 年 12 月 9 日

【企業との連携実績】

1. 循環器内科学 キリン株式会社との共同研究
2. 脳神経内科学寄付講座・パーキンソン病病態解明研究講座：大塚製薬(株)
3. 脳神経内科学寄付講座・運動障害疾患病態研究・治療講座：日本メドトロニック (株)、日本ベーリンガーインゲルハイム (株)、ボストンサイエンティフィック脳神経内科学寄付講座ジャパン (株)、キッセイ薬品工業(株)、協和発酵キリン (株)
4. 脳神経内科学寄付講座・神経再生医療講座 (平成 28 年 9 月で終了)：(株) 財宝
5. 脳神経内科学寄付講座・多発性硬化症および神経難病治療・研究講座：田辺三菱製薬(株)、水

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

素健康医学ラボ (株)、(株)アビスト、メロディアン (株)、(株)健康家族、大和 (株)、バイオジェン・アイデック・ジャパン (株)、バイエル薬品 (株)、日本製薬 (株)、旭化成メディカル (株)、一般社団法人 日本血液製剤機構、MiZ 株式会社、小野薬品工業 (株)

6. 脳神経内科学寄付講座・神経変性疾患病態治療探索講座：大日本住友製薬(株)
7. 脳神経内科学寄付講座・認知症・予防・治療学講座：日本メジフィジックス(株)、エーザイ株式会社

【学会賞受賞】

1. 第 64 回日本体質医学会総会，大阪府(日本)，2014 年 9 月 6 日
河盛隆造：日本人の体質に合った 2 型糖尿病、高血圧、高脂血症治療のあり方に関する、基礎的、臨床的研究（平成 26 年度日本体質医学会賞）
2. 第 39 回日本脳神経 CI 学会総会，東京，2016 年 1 月 29・30 日
高野直，鈴木通真，山本宗孝，堀正明，大石英則，青木茂樹，新井一：Y stent assisted coil embolization 後のフォローアップにおける Silent MRA の有用性（ポスター賞）
3. 第 39 回日本脳神経 CI 学会総会，東京，2016 年 1 月 29・30 日
中澤美咲，川崎英生，佐藤秀二，濱崎望，高野直，熊谷文孝，萩原彰文，堀正明，青木茂樹，妹尾敦史：Synthetic MRI による定量値の基礎的検討と転移性脳腫瘍への応用（ポスター賞）
4. 第 18 回日本ヒト脳機能マッピング学会，京都，2016 年 3 月 7・8 日
鎌形康司，Aurelien Kerever，横沢俊，堀正明，鶴田航平，田川一彦，岡澤均，平澤恵理，青木茂樹：Quantitative Histological Validation of Diffusion Tensor MRI by Two-Photon Microscopy of Cleared Mouse Brain（若手奨励賞）
5. Society of Advanced Medical Imaging 2016，東京，2016 年 7 月 30・31 日
萩原彰文，堀正明，中澤美咲，アンディカクリスティナ，吉田茉莉子，鎌形康司，鈴木通真，高野直，川崎英生，濱崎望，佐藤秀二，青木茂樹：Synthetic MRI による MS プラークの検出能の評価（ポスター優秀賞）
6. 第 44 回日本磁気共鳴医学会大会，大宮，2016 年 9 月 9～11 日
アンディカクリスティナ，萩原彰文，中澤美咲，服部亜紀，村田渉，高野直，堀正明，青木茂樹：The Advantages of Synthetic MRI in Pediatric Patients（大会長賞優秀賞）
7. 第 44 回日本磁気共鳴医学会大会，大宮，2016 年 9 月 9～11 日
入江隆介，鎌形康司，Aurelien Kerever，横沢俊，大竹陽介，越智久晃，田川一彦，岡澤均，高橋康介，佐藤香菜子，堀正明，平澤恵理，青木茂樹：透明脳マウスにおける次世代拡散 MRI (DKI) と共焦点顕微鏡による神経線維密度の関係（大会長賞優秀賞）
8. RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016
Christina A, Hagiwara A, Hori M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Takano N, Kamagata K, Yoshida M, Aoki S : Overview of Synthetic MRI: Basic, Clinical Applications, and Limitations (Certificate of Merit)
Hagiwara A, Hori M, Andica C, Yoshida M, Kamagata K, Suzuki M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Aoki S: Multiple sclerosis plaques searched by synthetic MRI. (Student Travel Award)
9. 第 46 回日本神経放射線学会，東京，2017 年 2 月 17～19 日
神谷昂平，入江隆介，堀正明，宮嶋雅一，中島円，森墾，國松聡，新井一，青木茂樹，阿部修：特発性正常圧水頭症における錐体路微細構造のシャント術前後での変化（会長賞）
10. 第 46 回神経放射線学会，東京，2017 年 2 月 18 日
Hori M, Kamiya K, Nakanishi A, Fukunaga I, Miyajima M, Nakajima M, Suzuki M, Suzuki Y, Irie R, Kamagata K, Arai H, Aoki S.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Prospective estimation of mean axon diameter and extra-axonal space of the posterior limb of the internal capsule in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus before and after a lumboperitoneal shunt by using q-space diffusion MRI. Eur Radiol.

(平成 28 年度加藤賞)

【特許】

1. 出願番号 2016-017794 ; パーキンソン病診断指標 ; 服部信孝、斉木臣二、波田野琢、山城一雄、石川景一、王子 悠、森 聡生、奥住文美、2016 年 2 月 2 日出願
2. 出願番号 2013-091903 ; 化合物又はその塩、及びパーキンソン病治療薬又は予防薬 ; 井本正哉、井岡秀二、服部信孝、斉木臣二、吉川（笹澤）有紀子、2016 年 7 月 30 日出願
3. 出願番号 2016-210465 ; パーキンソン病の重症度判定方法 ; 服部信孝、斉木臣二、波田野琢、吉川（笹澤）有紀子、青木茂樹、鎌形康司、三浦芳樹、高ひかり、加賀直子、戸田達史、佐竹渉、2016 年 10 月 27 日出願
4. 出願番号 2014-228827 ; パーキンソン病診断法 ; 2014 年 11 月 11 日出願

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

＜「選定時」に付された留意事項＞

＜「選定時」に付された留意事項への対応＞

該当しない。

(様式1)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分		支出額	内 訳						備 考
			法 人 担 負	私 学 助 成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成26年度	施設	0	0	0	0	0	0		
	装置	75,004	37,502	37,502	0	0	0		
	設備	77,263	31,963	45,300	0	0	0		
	研究費	51,762	26,990	24,772	0	0	0		うち一般補助3,403千円
平成27年度	施設	0	0	0	0	0	0		
	装置	89,640	44,820	44,820	0	0	0		
	設備	0	0	0	0	0	0		
	研究費	69,075	37,467	31,608	0	0	0		うち一般補助8,038千円
平成28年度	施設	0	0	0	0	0	0		
	装置	0	0	0	0	0	0		
	設備	0	0	0	0	0	0		
	研究費	73,687	42,656	31,031	0	0	0		うち一般補助6,609千円
総 額	施設	0	0	0	0	0	0		
	装置	164,644	82,322	82,322	0	0	0		
	設備	77,263	31,963	45,300	0	0	0		
	研究費	194,524	107,113	87,411	0	0	0		
総 計		436,431	221,398	215,033	0	0	0	0	

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
順天堂大学湯島別館1階	H26	140.32	6室	10名			
順天堂大学湯島別館2階	H27	175.56	6室	10名			
順天堂大学9号館	S44	379.69	13室	105名			
順天堂大学B棟	H25	479.85	8室	18名			
順天堂大学1号館	H4	9.8	1室	20名			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

(様式1)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
四肢用MRIシステム	H26	AIRIS Vento	1	2240 h	75,999	37,502	
ヒューマンカロリーメーターチャンバーシステム	H27	FHC-20S	1	320 h	89,640	44,820	
				h			
				h			
(研究設備)							
経頭蓋磁気刺激装置	H26	アグスキム200スクエア	1	150 h	26,389	16,282	
リアルタイムPCRシステム	H26	QuantStudio 7	1	422 h	11,963	7,380	
二重エネルギーX線吸収測定装置	H26	DiscoveryA型X線骨密度測定装置	1	1120 h	24,840	12,957	
多用途筋機能評価運動装置	H26	BDX-4	1	1080 h	14,070	8,681	
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 26 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	28,218	試薬・実験資材		Anti-Semaphorin 3A・C57BL/6N(IGS)マウス オス10W
光 熱 水 費	0			
通信運搬費	0			
印刷製本費	191	論文掲載費		論文印刷代・別刷り印刷代
旅費交通費	397	学会出張旅費		第61回日本臨床検査医学航空代・宿泊代11/24-25
報酬・委託料	3,305	委託検査料・英文校正		メタボローム解析料金・リポタンパク質解析受託サービス
(会議会合費)	102	学会参加費		第61回日本臨床検査医学会参加費・第33回日本認知症学会学術集会
(用品費)	58	研究機器		MD-MINI dry bath1.5ml用Miniブロック12wellウェル底
(修繕費)	92			ギルソンベットマン P-20修理検定・ギルソンベットマンP-10修理検定
計	32,363			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	13,269			オートテンスプロリハビリユニットⅡ一式等
図 書	0			
計	13,269			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	1,099			学内1人(7月～)
ポスト・ドクター	4,818			学内2人(7月～)
研究支援推進経費	213			学内1人(7月～)
計	6,130			学内4人

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

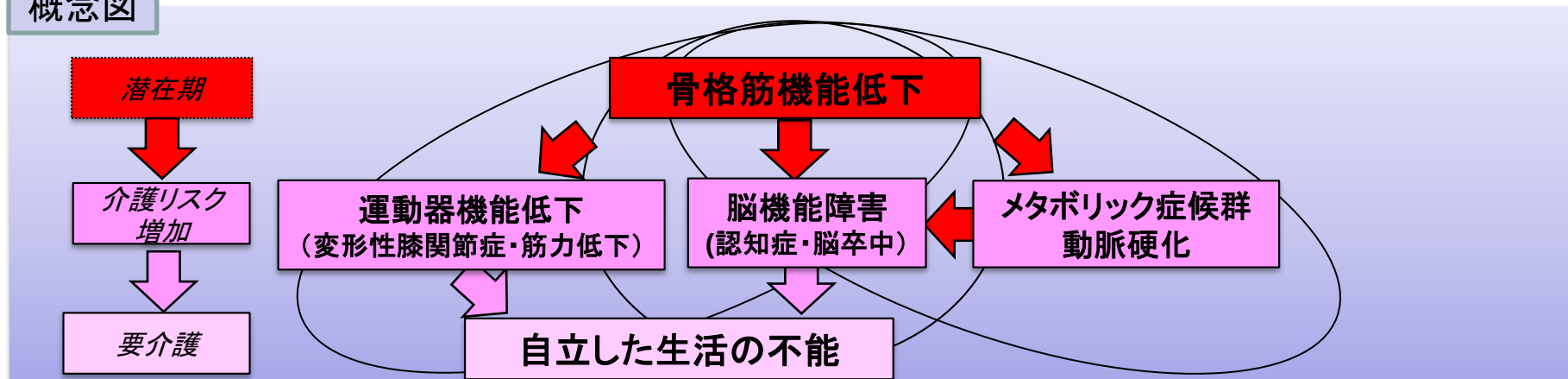
年 度	平成 27 年度	積 算 内 訳		
小 科 目	支 出 額	主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	32,601	試薬・実験器具他		70mmダブルBIコイル・エッペンドルフピペット2-20ul
光 熱 水 費	0			
通信運搬費	322	運搬・郵送(被験者へ治験資料等)		被験者資料送付・被験者返信料金
印刷製本費	0			
旅費交通費	121	研究発表・調査旅費		第56回日本神経学会交通費・宿泊費5/20-22新潟他
報酬・委託料	7,511	被験者謝礼・検体検査委託		心理学実験の被験者・BDHQ栄養調査費用
(賃貸料)	280	検査機器使用料		f-MRI検査機器使用料(12/18,12/19)
(会議会合費)	21	学会参加費		第56回日本神経学会参加費・ミッドウィンターセミナー参加費
(修繕費)	475	機器修理		フローサイトメーター点検・修理他・日本フリーザー社 CLN-500修理
計	41,331			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	8,246			ツアイス 顕微鏡用電動ステージセット一式等
図 書	0			
計	8,246			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	19,498			学内6人
研究支援推進経費	0			
計	19,498			学内6人

H27年度採用のポスト・ドクターの1名を、H28年4月1日より特任助教として採用

年 度	平成 28 年度	積 算 内 訳		
小 科 目	支 出 額	主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	24,854	試薬・実験器具他		尿中酸化ストレスマーカー測定カード・特注飼料
光 熱 水 費	0			
通信運搬費	6	運搬・郵送(検体郵送等)		マウス血液送付宅急便代
印刷製本費	53	論文等印刷		「Bone Joint Nerve」別刷作成代100冊・ポスター印刷代
旅費交通費	101	研究発表・調査旅費		学会発表 旅費等
報酬・委託料	29,718	被験者謝礼・検体検査委託		DNAシーケンス解析・脂質網羅解析委託
(賃貸料)	259	機器レンタル		MRI読影端末レンタル料2016年度分
(会議会合費)	28	学会参加費		学会発表 学会参加費 ほか
(修繕費)	29	実験器具修理		ギルソンピペットマンP-200修理・マルチピペット
計	55,048			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	2,000	20000		オリンパス生物顕微鏡一式等
図 書	0			
計	2,000			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	16,639			学内5人
研究支援推進経費	0			
計	16,639			学内5人

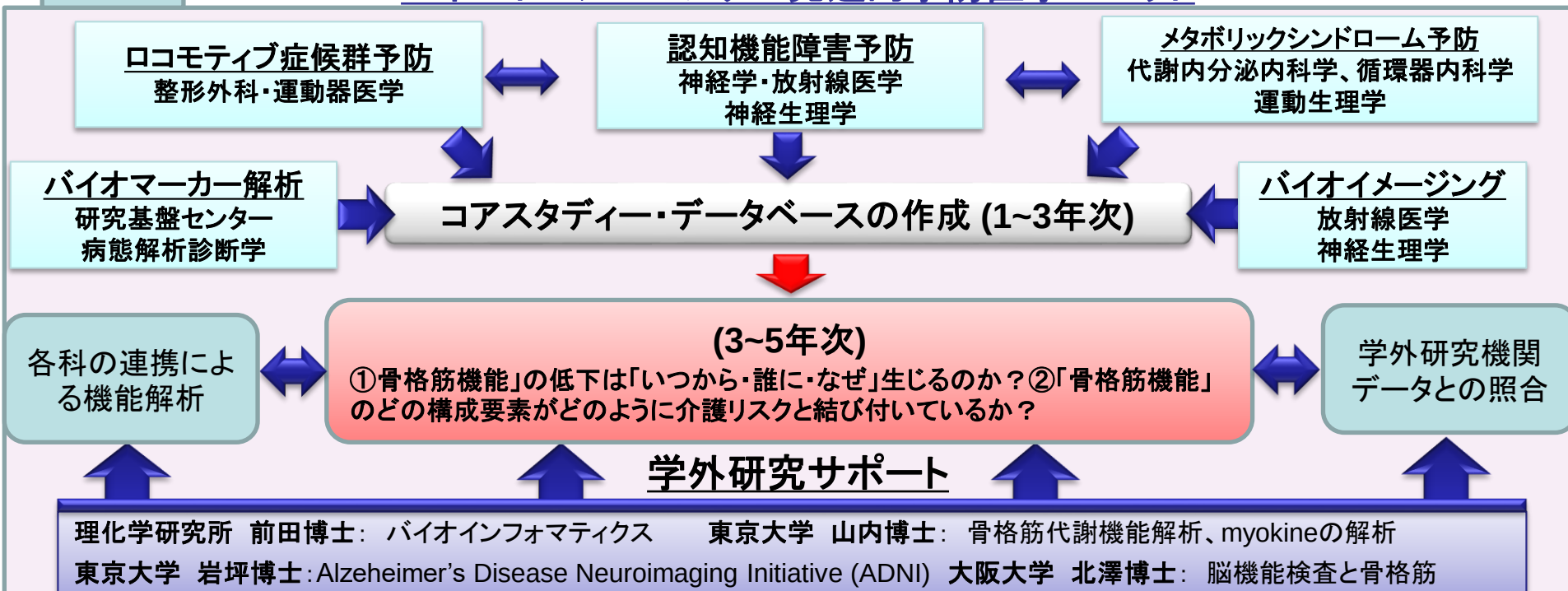
骨格筋機能低下を中心とした臓器障害ネットワーク機構の解明 —要介護者削減を目指して—

概念図



組織図

スポーツロジセンター先進的予防医学ユニット



平成26年度選定・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「骨格筋機能に着目した統合的な介護予防法開発プロジェクト」 外部評価表

評価委員名

東京大学大学院医学系研究科 放射線医学講座
阿部 修 先生

本研究の主眼の一つである、運動器の一部としてのみとして捉えられがちな骨格筋機能を血管・脳・関節不全による介護リスクを高める臓器ネットワーク障害の一部であるという仮説の検証については、筋インスリン抵抗性と、筋力と運動、食事内容、炎症、血清脂質、異所性脂肪との関連性を明らかにするばかりでなく、ヒトや動物、細胞モデルを用いた介入研究を含むメカニズム解析を進めることによりある程度確認されてきていると考えられる。ただし最初の trigger が真に「骨格筋機能」低下であるのか、それとも他の因子が存在するのかについては分子生物学的検討を含めた研究の余地が残ると推察される。また、壮年期からの骨格筋機能保持による集約的な介護予防の方法論を提示し、日本人の健康寿命の延長に役立てるという最終目的に到達するには介入を含めた前向きな検討が必要である。骨格筋機能低下が高齢者における要介護リスクに繋がっていくかどうかは、提案された「高齢者のコホート研究」により実証されることが期待され、さらに骨格筋機能低下を防止する介入試験が健康寿命の延長に役立つという仮説を検証する研究についても今後の研究方針に組み入れられており、その解析結果に期待がかかる。

氏名

阿部 修



平成26年度選定・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「骨格筋機能に着目した統合的な介護予防法開発プロジェクト」 外部評価表

評価委員名

大阪大学大学院 医学系研究科 健康スポーツ科学 (スポーツ医学) 教授
中田 研 先生

本研究グループは、医学と運動の融合研究基盤であるスポーツロジセンター先進的予防医学ユニットにて「骨格筋機能低下」という、従来、運動器の一症候と捉えられてきた機能障害を、メタボリックシンドローム、脳機能障害、変形性関節症を含む運動器機能低下との関連の多角的な視点でとらえ、「臓器障害ネットワーク」という新たな観点からエビデンスの蓄積と概念の構築をおこない、要介護者削減にむけた活動として捉えている。

65歳以上人口が26%と21%を超える超高齢社会(Super Aged-Society)に世界でも最も早いスピードで到達した国の一つとして、要介護者の削減を目指した包括的な高い学術エビデンスを得る研究を推進し、成果を上げている事業として非常に高い価値があり、有意義と考える。

現時点での本研究成果で、様々な有用な知見が得られているが、それらのなかでも特に以下の点が特筆すべき成果として挙げられる。

＜特筆すべき成果＞

1. インスリン抵抗性、筋力を評価した既存のデータベースをもとの、BMI 23-25 kg/m²でリスク要因を1つでも持つと骨格筋インスリン抵抗性を認めるとの新たな知見
2. 非肥満者の骨格筋インスリン抵抗性が動脈硬化症のリスク要因と強い関連がある。
3. 骨格筋量、筋力の維持における運動、高脂肪食、糖尿病、オートファジー、酸化ストレスの役割、関連性
4. 変形性関節症の進行の指標である関節裂隙の狭小化に、関節軟骨と軟骨下骨の骨代謝が関与する可能性
5. 変形性関節症の関節軟骨変性をMRI T2 マッピングで評価
6. 早期OAにて筋力低下と膝関節変化、身体活動能力低下との関連
7. ヒト視床下部の高解像度fMRIによる解析

今後、さらにこれらの研究チーム成果の相互関連や、バイオインフォマティクスなどを用いた「骨格筋機能」を「血管・脳・関節」の介護リスクを高める「臓器障害ネットワーク」の中心としての高次化した解析を進めることにより、本研究プロジェクトは介護予防法の開発にさらに高い成果が見込まれるものと期待される。

氏名 中田 研



平成26年度選定・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「骨格筋機能に着目した統合的な介護予防法開発プロジェクト」 外部評価表

評価委員名

首都大学東京 人間健康科学研究科 ヘルスプロモーションサイエンス学域
藤井 宣晴 先生

介護の原因疾患に対する1次予防が強く望まれている中、骨格筋機能（インスリン抵抗性・筋力）に着目し、「医学」と「スポーツ・運動」の両側面から統合的にその方策を確立する試みは画期的であり、医学部とスポーツ科学部を合わせ持つ順天堂大学の個性が発揮されるプロジェクトである。「骨格筋機能を、血管・脳・関節不全による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心」と位置付けた仮説は極めてユニークであるが、注目すべきはその仮説を裏付ける成果が、①メタボリックシンドローム予防、②ロコモティブシンドローム予防、③脳機能障害予防、のいずれの領域でもあげられていることである。代表的成果を挙げると、非肥満者であっても心血管代謝リスク因子を1つでも持つ者は骨格筋のインスリン抵抗性を有する（①）、高齢者コホートにより初期膝変形性関節症でも筋力低下と膝関節の変形が関連する（②）、骨格筋のインスリン抵抗性および筋力低下が脳白質変性に関連する（③）、ことをそれぞれ明らかにした。これらの成果は、骨格筋機能を維持することが介護リスクの抑制につながる可能性を示しており、高く評価される。今後は、継続して基礎データを蓄積し、仮説の検証を強化するとともに、臨床応用の具体的方策を確立することが期待される。

氏名 藤井 宣晴 